



取扱説明書

ビジネスプロジェクター

EB-L25000U

マニュアル中の表示の意味

・安全に関する表示

取扱説明書および製品には、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。 内容をよくご理解いただいた上で本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

・一般情報に関する表示

 注意	本機の故障や損傷の原因になるおそれがある内容を記載しています。
	関連する情報や知っておくと便利な情報を記載しています。
	関連事項や、より詳しい説明を記載しているページを示しています。
	マークの前のアンダーラインの引かれた用語は、用語解説で説明しています。「付録 用語解説」をご覧ください。  「用語解説」 p.224
【表記名】	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：【戻る】ボタン
[メニュー名]	環境設定メニューの項目を示しています。 例： [画質]から[明るさ]を選びます。 [画質] - [明るさ]

お使いになる前に必ず以下をお読みください。

『安全にお使いいただくために』

設置に関する警告・注意

⚠ 警告

- 屋外や風呂、シャワー室など、水や雨のかかるおそれのある場所、湿度の高い場所で使用・設置しないでください。火災・感電の原因となります。
- 天井への取り付け(天吊り設置)や高所への設置を行うときは、次の点を守ってください。正しく設置されないと、落下・転倒によりけがや事故の原因となります。
 - 天吊り設置や天吊り設置用の金具の作成には特別な技術が必要となるため、必ず専門業者に依頼する。
 - 金具は、本機の上面または底面にあるハンドル固定部(各6箇所)を使ってボルトで固定する。
 - 本機の落下防止のため、十分強度のあるワイヤーロープ等を、天吊り設置用の金具に通して天井に固定する。
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。吸気口・排気口に関する設置条件は、同梱の『運搬・設置ハンドブック』をご確認ください。
- 燃えやすいものをプロジェクターのレンズの前に置かないでください。スケジュール機能により、プロジェクターの電源がオンになり、火災の原因となることがあります。
- 電源コードとその他の接続ケーブルを束ねないでください。火災の原因となります。
- 表示されている電源電圧以外は使用しないでください。指定外の電源電圧を使うと、火災・感電の原因となります。

⚠ 警告

- 電源プラグの取り扱いには注意してください。取り扱いを誤ると、火災・感電の原因となります。取り扱いの際には、次の点を守ってください。
 - たこ足配線はしない。
 - 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - 電源プラグは根元まで確実に差し込む。
 - 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない。
 - 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。必ず、プラグ本体を持って抜く。
- 破損した電源コードは、使用しないでください。火災・感電の原因となります。取り扱いの際は、次の点を守ってください。
 - 電源コードを加工しない。
 - 電源コードの上に重いものを載せない。
 - 無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
 - 電熱器の近くに配線しない。

⚠ 注意

ぐらついた台の上・傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。本機の転倒、落下を防ぐため、適切で不備のない設置を行ってください。

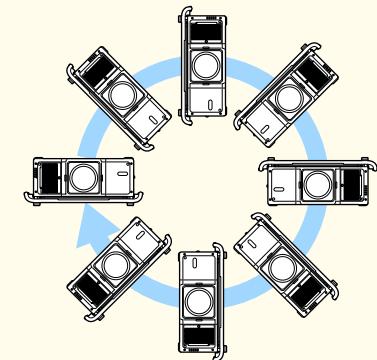
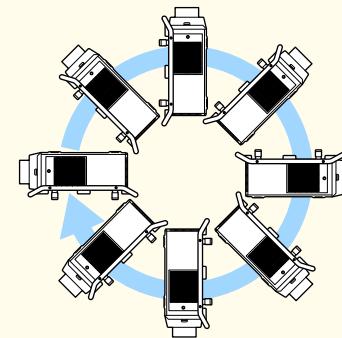
転倒、落下によるけがの原因となることがあります。

注意

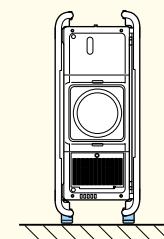
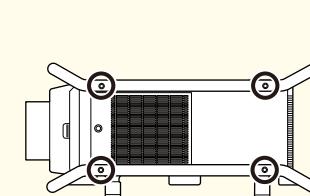
- 振動や衝撃が伝わる場所には設置しないでください。
- 高圧電線や磁気を発生するものの近くには設置しないでください。正しく動作しない場合があります。
- 温度が高すぎるところや、低すぎるところでは使用・保管しないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
本機の動作温度範囲、保管温度範囲を守って使用・保管してください。
☞「本機仕様」 p.220
- 直射日光が当たる場所には設置しないでください。
本機に直射日光が当たると内部が高温になり、投写レンズ面や内蔵カメラなどの部品が劣化することがあります。
- 高出力のレーザー光を使用する環境に本機を設置するときは、レーザー光が投写レンズ面に入らない位置に設置してください。
- 標高1,500mを超える場所でお使いのときは、[高地モード]を[オン]にしてください。
☞「拡張設定」 - 「動作設定」 - 「高地モード」 p.123
- 本機を傾けて設置するには専用の金具が必要になる場合があります。金具は専門業者にご依頼のうえ、お客様でご用意ください。
 - 金具は倒れないように設計してください。
 - 金具には、本機を支えるために十分な強度を持たせてください。
 - 本機に金具を取り付けるときは、本機の上面または底面にあるハンドル固定部(各6箇所)を使ってボルトで固定してください。
- 本機を直接重ねて設置するときは、次の点を守ってください。
 - 3台以上重ねないこと
 - 上面の四隅にあるくぼみにフットを合わせて設置すること
 - 下側に設置するプロジェクターの上面にはハンドルを取り付けないこと
- 本機の上に本機以外の機材を置かないでください。



- 360°あらゆる角度で設置が可能です。垂直、水平方向ともに設置角度の制限はありません。



- プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。フォーカス/ズーム/レンズシフトの設定は、映像を投写し始めてから20分以上たってから行ってください。
- エアフィルターを天井側に向けた状態でお使いの場合は、エアフィルターが目詰まりする頻度が高くなります。定期的にエアフィルターの清掃を行ってください。
☞「エアフィルターの掃除」 p.176
- オプションのハンドルを本機の上面に取り付けると、本機を縦に設置してポートレート投写できます。ポートレート投写をする際は、本機底面のフットをハンドルの横穴に付け替え、フットが接地面に接するように設置してください。



使用に関する警告・注意

⚠ 警告

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 投写中はレンズをのぞかないでください。強い光が視力障害などの原因となります。小さなお子様のいるご家庭では特に注意してください。本機から離れた場所からリモコンで電源を入れる場合は、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に、レンズカバー(着脱するもの)や本などで投写光をさえぎらないでください。

投写光をさえぎると投写光の当たる部分が高温になって溶けたり、やけどの原因となります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機の故障の原因になることがあります。投写を中断する場合はシャッターモードを使うか、本機の電源を切ってください。

- 本機のケースを開けないでください。また、本機の分解・改造は、絶対にしないでください。内部に電圧の高い部分があり、火災・感電・事故の原因となります。
- 本機に異常が発生した場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。そのまま使用を続けると、感電や火災の原因だけでなく、視力障害の原因にもなります。

👉『お問い合わせ先』

⚠ 注意

投写中は、排気口の付近に、熱で変形したり、悪影響を受けるものを置いたり、手や顔を近づけたりしないでください。

注意

- お買い上げ直後は、レンズユニット装着部に保護キャップが取り付けてあります。本機を使用しないときは保護キャップを取り付けてください。本機内部にホコリやゴミが入りこむと投写品質の劣化や故障の原因となります。
- 高出力のレーザー光が投写レンズ面または内蔵カメラに入ると、故障の原因となります。レーザー光が本機の投写レンズ面または内蔵カメラに入る可能性があるときは、レーザー光を遮断できるもの(透過性・可燃性のないアルミや鉄などの金属板等)で投写レンズ面または内蔵カメラを覆ってください。
- レンズ部分に手や指が触れないように作業してください。レンズ面に指紋や皮脂が付くと投写品質が劣化します。
- 本機は必ず保護キャップを装着した状態で保管してください。保護キャップを外した状態で保管すると、本機内部にホコリやゴミが入り投写品質の劣化や故障の原因となります。
- 保管の際には電池をリモコンから取り出しておいてください。長期間電池を入れたままにしておくと、液もれなどを起こす原因になります。
- イベント等の演出により、スモークの中で本機を使用したときは、24時間以内にエアフィルターを交換してください。

👉「エアフィルターの交換」[p.180](#)



• 液晶パネルについて

- 液晶パネルは、画素の欠けや、常時点灯する画素が発生する場合があります。これらの現象は故障ではありません。
- 高出力のレーザー光が投写レンズ面に入ると、液晶パネルの故障の原因となります。レーザー光が本機の投写レンズ面に入る可能性があるときは、レーザー光を遮断できるもの(透過性・可燃性のないアルミや鉄などの金属板等)で投写レンズ面を覆ってください。

• 光源について

本機の光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のような特性があります。

- 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は「明るさ設定」で変更できます。

● 「明るさレベルと使用時間の関係」[p.68](#)

• 光源キャリブレーションについて

- 使用時間が100時間を経過する度に、電源オフと同時に自動で光源キャリブレーションを開始します。ただし、以下の場合は光源キャリブレーションは自動で開始されません。
 - 電源を入れてから20分以内
 - シャッター機能を使用している場合
 - シャッター機能を解除してから20分以内
 - 24時間以上連続して使用する場合
 - ダイレクトシャットダウンを使用する場合
- 光源キャリブレーションを実行すると、光源のホワイトバランスや明るさレベルのずれが補正されます。

レーザーに関する警告・注意



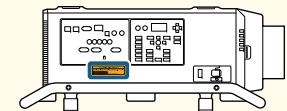
警告

- 本機にはレーザー警告ラベルが貼られています。

内部



側面



- 本機のケースを開けないでください。内部に高出力レーザー製品が組み込まれています。
- 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。
- 本機はクラスA情報技術装置です。住宅環境で使用する場合は、電波障害を発生させる恐れがあります。利用者は、製品使用時に適切な手段を講じなくてはならないことがあります。

⚠ 注意

- 本機はIEC60825-1に適合したクラス1レーザー製品です。
- 本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の法令や条例に従って廃棄してください。

運搬・輸送に関する注意

本機内部にはガラス部品や精密部品が数多く使われています。運搬・輸送の際には、衝撃による故障防止のため、次のように取り扱ってください。

運搬・輸送の前に、同梱の『運搬・設置ハンドブック』を必ずお読みください。

⚠ 注意

本機は重いので、1人で運ばないでください。開梱や移動の際は4人以上で運んでください。

注意

本機を運ぶ際は、以下の準備が必要です。詳しくは『運搬・設置ハンドブック』をご確認ください。

- 本機の電源を切り、すべての配線を外す。
- 梱包せずに近くへ移動する場合は、レンズユニットにレンズキャップを取り付ける。
- 梱包して輸送する場合はレンズユニットを取り外し、レンズユニット取り付け部に保護キャップを取り付ける。

マニュアル中の表示の意味 2

はじめに

各部の名称と働き 13

前面/上面	13
背面/側面	14
インターフェイス	15
操作パネル	16
リモコン	18
便利なリモコン操作	20
リモコンの電池交換	20
リモコンの操作可能範囲	22
リモコンにケーブルを接続して使用する	22

準備

設置する 24

投写レンズユニットの取り付けと取り外し	24
取り付け方	24
レンズキャリブレーション	25
取り外し方	26
設置設定	26
映像の向き（設置モード）を切り替える	26
スクリーン設定	27
画面内の映像の位置を調整する	28
テストパターンを表示する	28
投写映像の位置調整（レンズシフト）	29
映像のサイズを調整する	32
ピントのズレを補正する	33
ディストーション（映像のひずみ）を補正する	33
レンズの調整値を登録して呼び出す	34
IDの設定	36
プロジェクターIDを設定する	36
プロジェクターIDの確認方法	37

リモコンIDを設定する	37
時刻の設定	37
その他の設定	39
基本動作に関する設定	39
表示に関する設定	39

接続する 41

コンピューターの接続	41
映像機器の接続	42
外部モニターの接続	43
LANケーブルの接続	45
HDBaseTトランスミッターの接続	46
無線LANユニットの取り付け	47

基本的な使い方

プロジェクターの電源を入れる 49

プロジェクターの電源を切る 51

投写する 52

入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）	52
目的の映像に切り替える	53

投写映像を調整する 54

映像のゆがみを補正する	54
タテヨコ補正	55
Quick Corner	56
曲面投写補正	57
コーナー投写補正	61
ポイント補正	64
映り具合を選ぶ（カラーモードの選択）	66
明るさを設定する	66
残り時間目安の見方	68
明るさレベルと使用時間の関係	68
投写映像の光量を設定する	69
投写映像のアスペクト比を切り替える	70

切り替え方法	70
画質を調整する	72
色相・彩度・明度の調整	72
ガンマの調整	73
フレーム補間	75
映像の解像感を調整する（イメージ強調）	76
4Kエンハンスメント	76
イメージ強調プリセット	77
ノイズリダクション	78
MPEGノイズリダクション	78
超解像	78
ディテール強調	79

便利な機能

マルチプロジェクション機能	81
調整手順	81
オンラインで自動で調整する	81
オフラインで手動で調整する	82
タイミング	82
タイミングを自動で構成する	83
タイミングを手動で構成する	84
エッジブレンディング	85
黒レベル調整	87
エリア補正	89
スクリーンマッチング	90
自動調整機能の動作条件	91
複数のプロジェクターの明るさや色合いを自動で補正する	91
カラーマッチング	92
映像を切り出して表示する	93
投写機能	96
2種類の映像を同時に投写する（2画面）	96
2画面で投写できる入力ソース	96
操作方法	96
2画面で投写中の制限事項	99
映像を一時的に消す（シャッター）	99

映像を停止させる（静止）	100
ユーザー口ゴの登録	100
メモリー機能	102
メモリーの登録／呼び出し／削除／初期化	102
スケジュール機能	104
イベントを登録する	104
イベントを設定する	104
イベントを確認する	105
イベントを編集する	106
セキュリティー機能	108
利用者を管理する（パスワードプロテクト）	108
パスワードプロテクトの種類	108
パスワードプロテクトの設定方法	108
パスワードの認証	109
操作を制限する	110
操作ボタンロック	110
レンズロック	111
リモコンボタンロック	111
盗難防止用ロック	112
ワイヤーロックの取り付け方	112

環境設定メニュー

環境設定メニューの操作	115
機能一覧	116
環境設定メニュー一覧	116
ネットワークメニュー	117
画質メニュー	118
映像メニュー	120
設定メニュー	122
拡張設定メニュー	123
ネットワークメニュー	127
ネットワークメニュー操作上のご注意	128

ソフトキーボードの操作	129
基本設定メニュー	129
無線LANメニュー	130
有線LANメニュー	133
通知メニュー	133
その他メニュー	135
初期化メニュー	135
情報メニュー（表示のみ）	136
初期化メニュー	137
一括設定機能	138
USBメモリーを使って設定する	138
設定値をUSBメモリーに保存する	138
保存した設定値を他のプロジェクターに反映する	140
コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する	142
設定値をコンピューターに保存する	142
保存した設定値を他のプロジェクターに反映する	143
設定がうまくいかないときは	145
困ったときに	
ヘルプの見方	147
インジケーターの見方	148
ステータスマニターの見方	154
ステータスの確認手順	154
画面の見方	155
画面表示（液晶ディスプレイ）の設定	156
表示内容の説明	157
故障かなと思ったら	163
映像に関するトラブル	164
映像が表示されない	164
動画が表示されない	164
自動的に投写が消える	165
この信号は本プロジェクターでは受けられません。と表示される	165
映像信号が入力されていません。と表示される	165
ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ	166
ノイズが入る、乱れる	166
映像が切れる（大きい）、小さい、アスペクトが合っていない、反転している	167
色合いが違う	168
暗い	168
自動補正がうまくできない	169
投写開始時のトラブル	169
電源が入らない	169
その他のトラブル	170
リモコンで操作できない	170
Art-Netでの制御がうまくできない	171
外部モニターに表示されない	172
メッセージやメニューの言語を変更したい	172
プロジェクターに異常が起きててもメール通知されない	172
時刻を保持する電池残量が低下しています。と表示される	173
Event IDについて	174
メンテナンス	
各部の掃除	176
本機の掃除	176
レンズの掃除	176
エアフィルターの掃除	176
エアフィルターの清掃方法	177
消耗品の交換方法	180
エアフィルターの交換	180
エアフィルターの交換時期	180
エアフィルターの交換方法	180
映像のメンテナンス	183
カラーキャリブレーション	183
液晶アライメント	184
ユニフォーミティ	185

付録

監視と制御	189
EasyMP Monitorについて	189
Message Broadcastingについて	189
Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）	189
Epson Web Control画面を表示する	189
ベーシックコントロール画面	190
OSDコントロールパッド画面	191
レンズコントロール画面	191
ステータス情報画面	193
メール通知機能で異常を通知する	194
異常通知メールの見方	194
SNMPを使って管理する	195
ESC/VP21コマンド	195
コマンドリスト	195
ケーブル配線	196
PJLinkについて	197
Crestron RoomView®について	197
コンピューターの画面上でプロジェクターを操作する	198
Art-Netについて	202
チャンネル定義	202
オプション・消耗品一覧	206
オプション	206
消耗品	206
スクリーンサイズと投写距離	207
投写距離表	207
ELPLR05	207
ELPLU05	208
ELPLW07	208
ELPLM12	209
ELPLM13	210
ELPLM14	210
ELPLL09	211
ELPLL10	212

投写映像の補正範囲	213
タテヨコ補正	213
曲面投写補正	213
コーナー投写補正	215
対応解像度一覧	218
対応解像度	218
コンピューター映像（アナログRGB）	218
コンポーネントビデオ	218
DVI-D入力端子、HDMI入力端子、HDBaseT端子からの入力信号	218
SDI入力端子からの入力信号	219
仕様一覧	220
本機仕様	220
外形寸法図	223
用語解説	224
一般のご注意	226
表記について	226
商標と著作権について	227
IEC60950-1 A2 対応安全規格対応シンボルマーク	228
索引	230

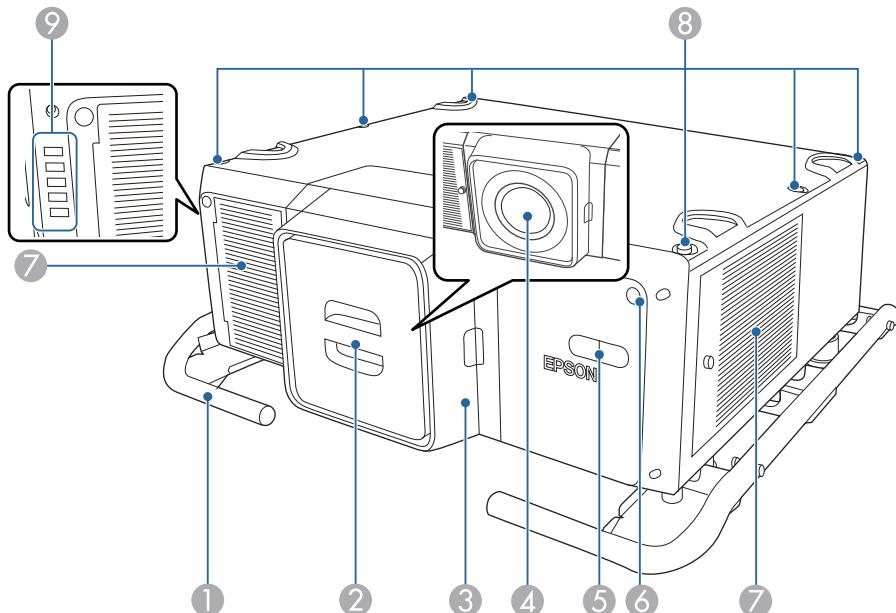
はじめに

ここでは、各部の名称について説明しています。

各部の名称と働き

本書では、断りがない限りレンズユニット(ELPLM12)が取り付けられた状態のイラストを用いて説明しています。

前面/上面



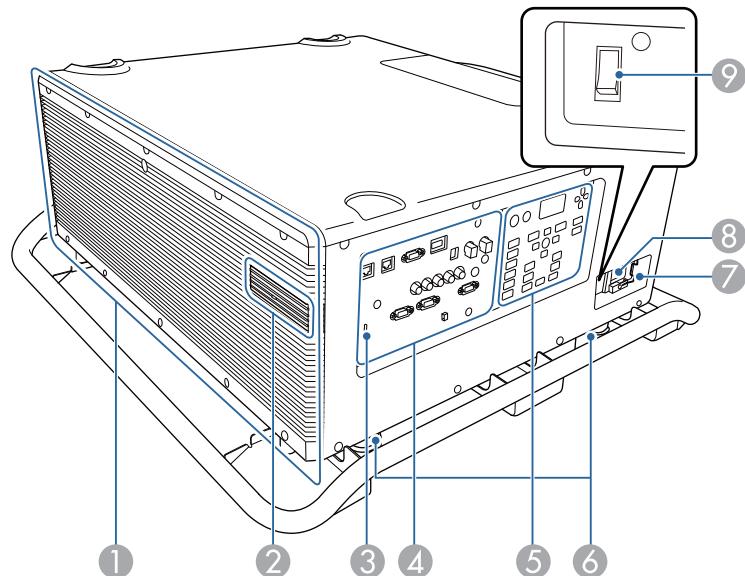
保護キャップを取り付けた状態です。

名称	働き
① ハンドル	本機を持ち運ぶときは、ハンドルの左右を持って移動してください。 ⚠ 注意 ハンドルを持つ場所によっては、ハンドルと設置面の間に指を挟むおそれがあります。
② 保護キャップ	本機を保管、輸送するときに取り付けます。

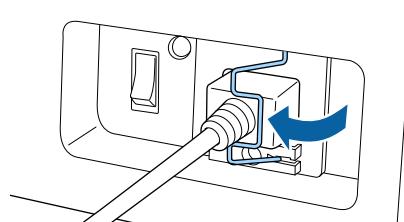
名称	働き
③ レンズ交換カバー	レンズの取り付け、取り外しを行うときに外します。 ➡ 「投写レンズユニットの取り付けと取り外し」 p.24
④ 投写レンズ	ここから映像を投写します。 ⚠ 警告 投写中はレンズをのぞかないでください。強い光で目を痛めるなどの原因となります。
⑤ 内蔵カメラ	投写映像を自動補正するときに映像を読み込むためのカメラです。 注意 強い光をカメラにあてると、光がカメラに焼きついたり故障の原因となることがあります。
⑥ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。

名称	働き
⑦ 吸気口 (エアフィルター)	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。エアフィルターは定期的に清掃してください。 ☞「エアフィルターの掃除」 p.176 ☞「エアフィルターの交換」 p.180
⑧ ハンドル固定部(6箇所)	オプション品のハンドルを取り付けます。 ☞「オプション」 p.206 お客様が用意した設置用の金具を取り付けるときにも使用できます。
⑨ 状態インジケーター	本機の状態を色や点灯・点滅で示します。 ☞「インジケーターの見方」 p.148

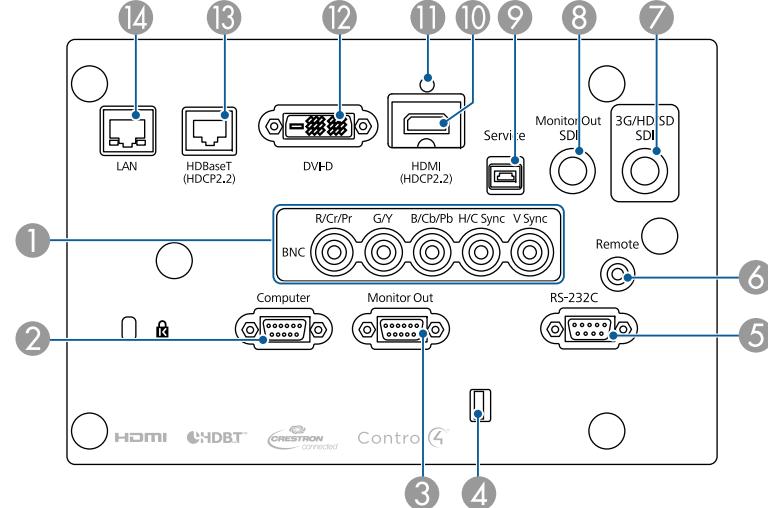
背面/側面



名称	働き
① 排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。
② 無線LANユニット用端子カバー	<p>⚠ 注意</p> <p>投写中は手や顔を排気口に近づけたり、変形など、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> オプション品の無線LANユニットを装着するときに外します。 ☞「無線LANユニットの取り付け」 p.47 一括設定機能を使用するときに外します。 ☞「一括設定機能」 p.138

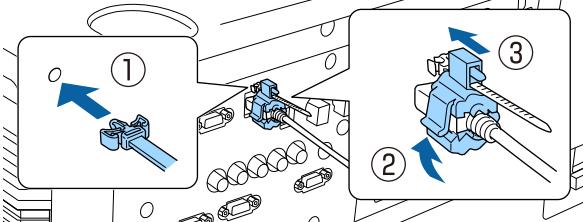
名称	働き
③ セキュリティースロット	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティースロットです。 ☞「盗難防止用ロック」p.112
④ インターフェイス	☞「インターフェイス」p.15
⑤ 操作パネル	☞「操作パネル」p.16
⑥ フット	本機から取り外して、オプション品のハンドルに取り付けられます。
⑦ ケーブルホルダー	電源コードが重さで抜けないように、電源コードに取り付けます。 
⑧ 電源端子	電源コードを接続します。
⑨ 主電源スイッチ	本機に電力を供給します。

インターフェイス



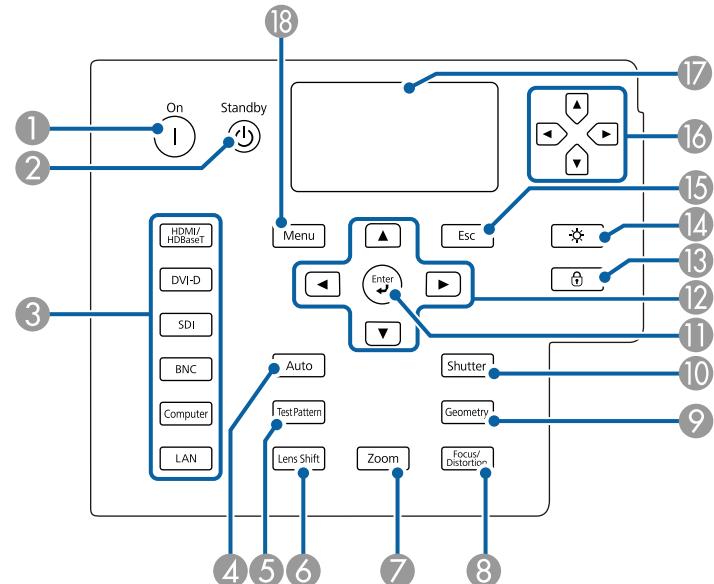
名称	働き
① BNC入力端子	コンピューターのアナログRGB信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。
② Computer入力端子	コンピューターのアナログRGB信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。
③ Monitor Out端子	外部モニターと接続し、Computer入力端子またはBNC入力端子から入力しているコンピューターのアナログRGB信号を出力します。他の端子から入力している信号やコンポーネントビデオ信号は出力できません。
④ ケーブルホルダー	ケーブル類を固定するための市販の結束バンド(ケーブルタイ)を通します。
⑤ RS-232C端子	コンピューターから本機を制御するときにRS-232Cケーブルでコンピューターと接続します。 ☞「ESC/VP21コマンド」p.195

各部の名称と働き

名称	働き
⑥ Remote端子	オプション品のワイヤードリモコンケーブルを接続し、リモコンからの信号を入力します。リモコンケーブルをこのRemote端子に差し込むと本機のリモコン受光部は機能しなくなります。 ☞「オプション」 p.206
⑦ 3G/HD/SD SDI入力端子	映像機器のSDI信号を入力します。
⑧ Monitor Out SDI出力端子	外部モニターと接続し、3G/HD/SD SDI端子から入力している映像機器のSDI信号を出力します。
⑨ Service端子	一括設定機能で使用します。制御用の端子で通常は使用しません。 ☞「一括設定機能」 p.138
⑩ HDMI入力端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。
⑪ ケーブルホルダー	HDMIケーブルが重さで抜けないように、同梱品のケーブルクランプを差し込みます。 
⑫ DVI-D入力端子	コンピューターのDVI-D信号を入力します。
⑬ HDBaseT端子	オプション品のHDBaseTトランスミッターとLANケーブルで接続します。 ☞「HDBaseTトランスミッターの接続」 p.46 ☞「オプション」 p.206 本機はArt-Netに対応しています。Art-Netを使って本機を制御するときは、[ネットワーク]メニューで[Art-Net]を[オン]に設定します。 ☞「[ネットワーク] - [その他] - [Art-Net]」 p.135

名称	働き
⑭ LAN端子	LANケーブルを接続して、ネットワークに接続します。 本機はArt-Netに対応しています。Art-Netを使って本機を制御するときは、[ネットワーク]メニューで[Art-Net]を[オン]に設定します。 ☞「[ネットワーク] - [その他] - [Art-Net]」 p.135

操作パネル



()内は本書の説明で使用している表記です。

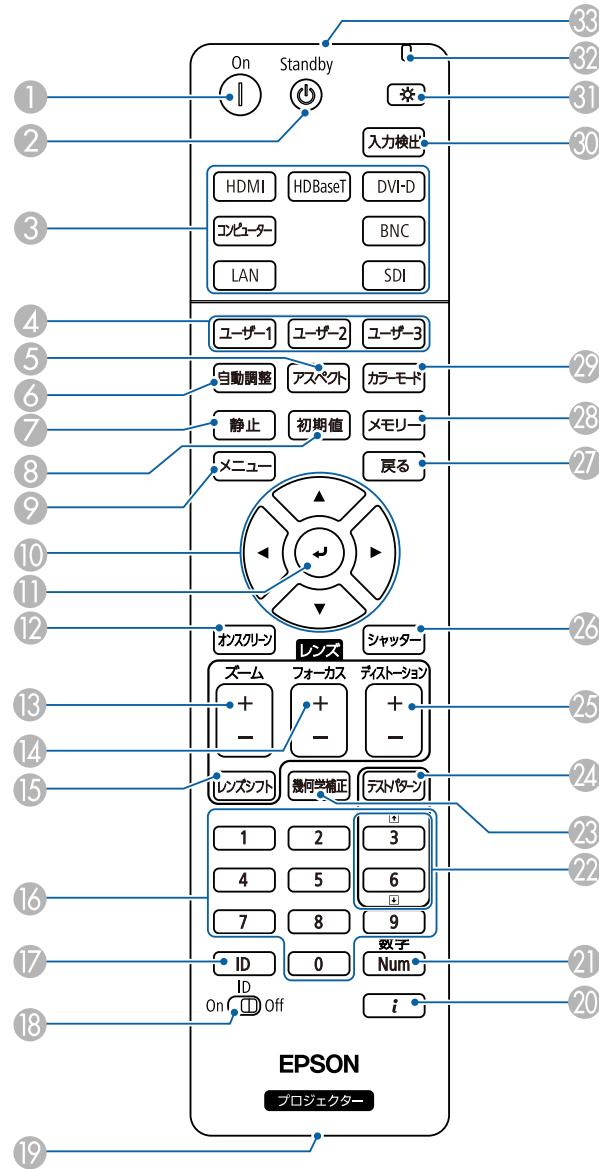
名称	働き
① 【①】ボタン	本機の電源をオンにします。
② 【②】ボタン	本機の電源をオフにします。

各部の名称と働き

名称	働き
③ 入力切り替えボタン	各入力端子からの映像に切り替えます。 ➡ 「目的の映像に切り替える」 p.53
④ 【Auto(自動調整)】ボタン	Computer入力端子またはBNC入力端子から入力しているアナログRGB信号を投写中に押すと、トラッキング・同期・表示位置を最適な状態に自動調整します。
⑤ 【Test Pattern(テストパターン)】ボタン	テストパターンを表示します。 ➡ 「テストパターンを表示する」 p.28
⑥ 【Lens Shift(レンズシフト)】ボタン	レンズシフトの調整をするときに押します。 ➡ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.29 約5秒以上押したままにすると、レンズの位置がホームポジションに戻ります。
⑦ 【Zoom(ズーム)】ボタン	ズーム調整するときに押します。 ➡ 「映像のサイズを調整する」 p.32
⑧ 【Focus/Distortion(フォーカス/ディストーション)】ボタン	フォーカス調整またはディストーション補正を行うときに押します。 ➡ 「ピントのズレを補正する」 p.33 ➡ 「ディストーション（映像のひずみ）を補正する」 p.33
⑨ 【Geometry(幾何学補正)】ボタン	映像のゆがみを補正します。 ➡ 「映像のゆがみを補正する」 p.54
⑩ 【Shutter(シャッター)】ボタン	映像を一時的に遮断/解除します。 ➡ 「映像を一時的に消す（シャッター）」 p.99
⑪ 【↔】ボタン	環境設定メニュー/ヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。 ➡ 「環境設定メニューの操作」 p.115

名称	働き
⑫ 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整します。 ➡ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.29 ➡ 「映像のサイズを調整する」 p.32 ➡ 「ピントのズレを補正する」 p.33 環境設定メニュー/ヘルプの表示中に押すと、メニュー項目や設定値の選択を行います。 ➡ 「環境設定メニューの操作」 p.115
⑬ 【⑥】ボタン	操作ボタンロック画面を表示して、操作パネルのボタンのロックを設定します。 ➡ 「操作を制限する」 p.110
⑭ 【●】ボタン	操作パネル上のボタンとステータスマニターを点灯/消灯します。
⑮ 【Esc(戻る)】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> 実行中の機能を終了します。 環境設定メニューの表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。 ➡ 「環境設定メニューの操作」 p.115
⑯ 【□】【△】【○】【×】ボタン	本機の状態を確認するステータスマニターのメニュー項目や設定値の選択を行います。
⑰ ステータスマニター	本機の状態を文字情報で表示します。 ➡ 「ステータスマニターの見方」 p.154
⑱ 【Menu(メニュー)】ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。 ➡ 「環境設定メニューの操作」 p.115

リモコン



名称	働き
①【①】ボタン	本機の電源をオンにします。
②【②】ボタン	本機の電源をオフにします。
③ 入力切り替えボタン	各入力端子からの映像に切り替えます。 ➡「目的の映像に切り替える」p.53
④【ユーザー1】ボタン 【ユーザー2】ボタン 【ユーザー3】ボタン	環境設定メニューの項目のうちよく使われる項目から任意に項目を選択して、それぞれのボタンに割り当することができます。ボタンを押すと割り当てたメニュー項目の選択/調整画面が直接表示されるのでワンタッチで設定/調整の変更が行えます。 ➡「設定メニュー」p.122
⑤【アスペクト】ボタン	押すたびに、アスペクトモードが切り替わります。 ➡「投写映像のアスペクト比を切り替える」p.70
⑥【自動調整】ボタン	Computer入力端子またはBNC入力端子から入力しているアナログRGB信号を投写中に押すと、トラッキング・同期・表示位置を最適な状態に自動調整します。
⑦【静止】ボタン	映像を一時停止/解除します。 ➡「映像を停止させる（静止）」p.100
⑧【初期値】ボタン	環境設定メニューのガイドに[初期値]：リセットと表示されているときに有効です。調整中の設定値を初期値に戻します。 ➡「環境設定メニューの操作」p.115
⑨【メニュー】ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。 ➡「環境設定メニューの操作」p.115

各部の名称と働き

名称	働き
⑩ 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> レンズシフトを調整します。 ➡「投写映像の位置調整（レンズシフト）」p.29 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値の選択を行います。 ➡「環境設定メニューの操作」p.115 オプション品のワイヤレスマウスレシーバー使用時は、ボタンを押した方向にマウスポインターが移動します。 ➡「オプション」p.206
⑪ 【↔】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。 ➡「環境設定メニューの操作」p.115 オプション品のワイヤレスマウスレシーバー使用時は、マウスの左ボタンとして機能します。 ➡「オプション」p.206
⑫ 【オンスクリーン】ボタン	環境設定メニュー画面の非表示/表示を切り替えます。
⑬ 【ズーム】ボタン	ズーム調整をするときに押します。 ➡「映像のサイズを調整する」 p.32
⑭ 【フォーカス】ボタン	フォーカス調整をするときに押します。 ➡「ピントのズレを補正する」 p.33
⑮ 【レンズシフト】ボタン	レンズシフトの調整をするときに押します。 ➡「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.29 約5秒以上押したままにすると、レンズの位置がホームポジションに移動します。
⑯ テンキーボタン	<ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します。 ➡「パスワードプロジェクトの設定方法」p.108 環境設定メニューの【ネットワーク】で数字を入力します。

名称	働き
⑰ 【ID】ボタン	<p>リモコンで操作対象のプロジェクトのIDを選択するときに、このボタンを押しながらテンキーボタンを押します。</p> <p>➡「IDの設定」p.36</p>
⑱ 【ID】スイッチ	<p>リモコンのID設定の有効(On)/無効(Off)を切り替えるスイッチです。</p> <p>➡「IDの設定」p.36</p>
⑲ リモート端子	<p>オプション品のワイヤードリモコンケーブルを接続し、リモコンからの信号を出力します。</p> <p>➡「オプション」p.206</p> <p>リモコンケーブルをこのリモート端子に差し込むとリモコン発光部は機能しなくなります。</p>
⑳ 【i】ボタン	<p>環境設定メニューの情報メニューを表示します。</p> <p>➡「情報メニュー（表示のみ）」p.136</p>
㉑ 【Num】ボタン	<p>パスワードや数字を入力するときに、このボタンを押しながらテンキーボタンを押します。</p> <p>➡「パスワードプロジェクトの設定方法」p.108</p>
㉒ 【□】【⊕】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークで接続したコンピューターの映像を投写しているときに、画像ファイルを送り戻します。 オプション品のワイヤレスマウスレシーバー使用時に、このボタンを押して投写中のPowerPointのスライドを次に送る/前に戻すことができます。
㉓ 【幾何学補正】ボタン	映像のゆがみを補正します。 ➡「映像のゆがみを補正する」 p.54
㉔ 【テストパターン】ボタン	テストパターンを表示します。 ➡「テストパターンを表示する」 p.28
㉕ 【ディストーション】ボタン	ディストーションを補正するときに押します。 ➡「ディストーション（映像のひずみ）を補正する」 p.33
㉖ 【シャッター】ボタン	映像を一時的に遮断/解除します。 ➡「映像を一時的に消す（シャッター）」 p.99

名称	働き
㉗ 【戻る】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> 実行中の機能を終了します。 環境設定メニューを表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。 ➡ 「環境設定メニューの操作」 p.115 オプション品のワイヤレスマウスレシーバー使用時は、マウスの右ボタンとして機能します。 ➡ 「オプション」 p.206
㉘ 【メモリー】ボタン	メモリー機能の操作や設定を行います。 ➡ 「メモリー機能」 p.102
㉙ 【カラーモード】ボタン	押すたびにカラーモードが切り替わります。 ➡ 「映り具合を選ぶ（カラーモードの選択）」 p.66
㉚ 【入力検出】ボタン	映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。 ➡ 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 p.52
㉛ 【※】ボタン	リモコン上のボタンが約15秒間光ります。暗がりでリモコンを操作するときに便利です。
㉜ インジケーター	リモコン信号を出力しているときに発光します。
㉝ リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

動作	設定
パスワードを使ったセキュリティー設定をする。 ➡ 「利用者を管理する（パスワードプロトコル）」 p.108	【静止】ボタンを約5秒以上押したままにします。[パスワードプロトコル]画面が表示されるので、各設定を行います。
一部のリモコンボタンの操作をロックする、ロックを解除する。 ➡ 「リモコンボタンロック」 p.111	【i】ボタンを約5秒以上押したままにします。
環境設定メニューの[リモコン受光部]の設定を初期化する。(本機のリモコン受光部をすべて有効にする。)	【メニュー】ボタンを約15秒以上押したままにします。
よく使う環境設定メニューの項目を直接表示する。	【ユーザー1】、【ユーザー2】、【ユーザー3】ボタンを押します。各ボタンに割り当てるメニュー項目は、[ユーザーボタン]で設定します。 ➡ [設定] - [ユーザーボタン] p.122 割り当てることのできるのは以下の項目です。 [光源モード]、[マルチプロジェクション]、[入力解像度]、[映像処理]、[QRコード表示]、[イメージ強調]、[フレーム補間]、[スクリーンマッチング]、[カラーキャリブレーション]、[ヘルプ]、[2画面]

便利なリモコン操作

以下の動作は、リモコンの1つのボタンを押すだけで操作できます。

動作	設定
投写映像の上下を反転する。([設置モード]の[フロント]と[フロント・天吊り]を切り替える) ➡ 「映像の向き（設置モード）を切り替える」 p.26	【シャッター】ボタンを約5秒以上押したままにします。

リモコンの電池交換

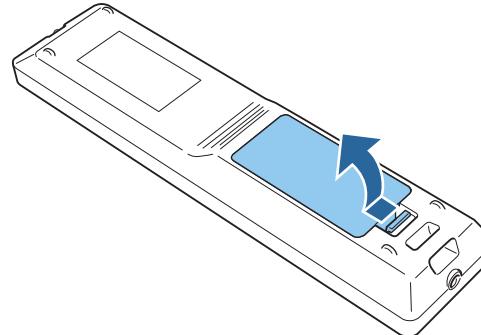
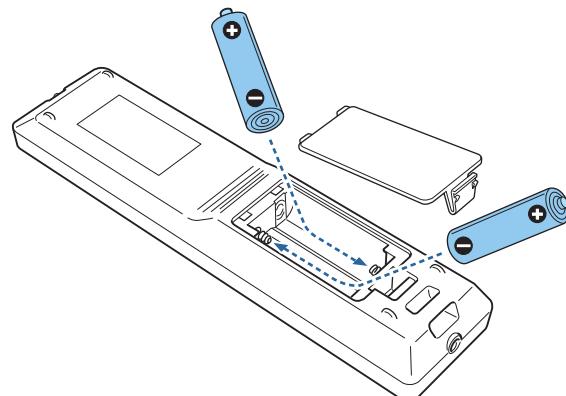
使い続けているうちに、リモコンの反応が遅くなったり、操作できなくなったりときは電池の寿命が考えられます。新しい電池と交換してください。交換用の電池は単3形アルカリあるいはマンガン乾電池2本を用意してください。単3形アルカリあるいはマンガン乾電池以外の電池は使用しないでください。

注意

電池を取り扱う前に、以下のマニュアルを必ずお読みください。
『[安全にお使いいただくために](#)』

1 電池カバーを外します。

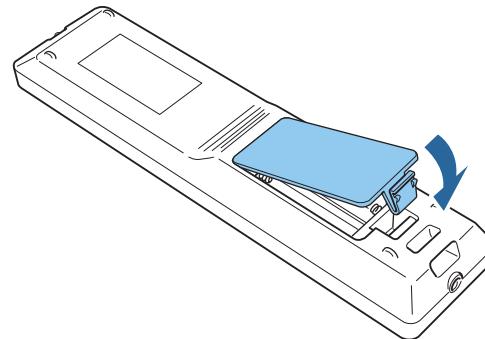
電池カバーのツメを押さえながら、上へ持ち上げます。

**2 新しい電池と交換します。****！ 注意**

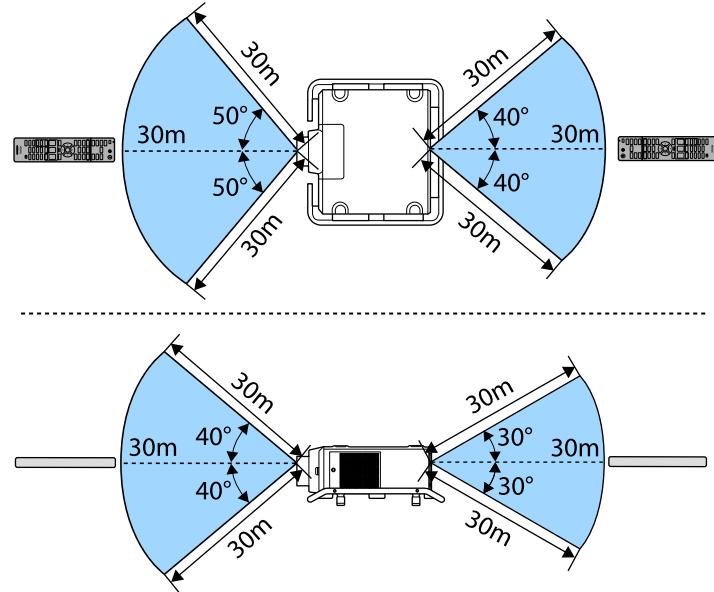
電池ホルダー内の表示を確認し、(+)(-)を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

3 電池カバーを取り付けます。

カチッと音がするまでカバーを押し込みます。

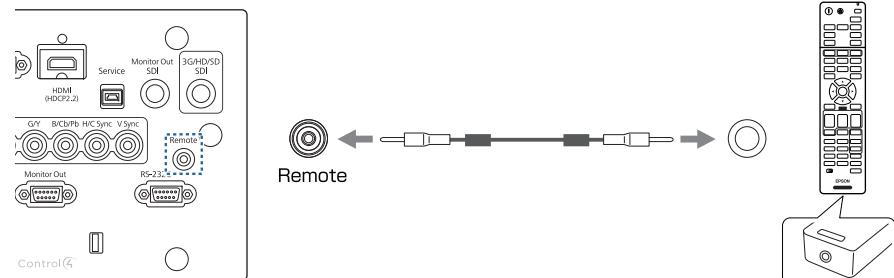


リモコンの操作可能範囲



リモコンからの操作信号の受信を制限するときは、[リモコン受光部]で設定します。

👉 [設定] - [リモコン受光部] [p.122](#)



- リモコンケーブルをRemote端子に差し込むと本機のリモコン受光部は機能しなくなります。
 - オプション品のHDBaseTトランスマッターとリモコンをケーブルで接続して、本機を制御することもできます。
- 👉 「HDBaseTトランスマッターの接続」 [p.46](#)

リモコンにケーブルを接続して使用する

同じ場所で本機を複数台使用するときや、リモコン受光部の周りに障害物があるときは、オプション品のワイヤードリモコンケーブルを使うと確実な操作ができます。

👉 「オプション」 [p.206](#)

準備

ここでは、本機の設置方法と投写機器の接続方法について説明します。

投写レンズユニットの取り付けと取り外し

取り付け方

注意

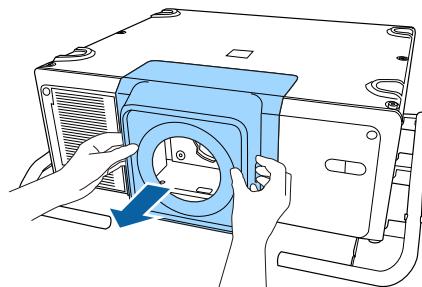
- レンズユニットを取り付ける際は、あらかじめ電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。
- 本機のレンズ挿入部を上に向けた状態でレンズユニットを装着しないでください。ホコリやゴミが入る原因となります。
- レンズ部分に手や指が触れないように作業してください。レンズ面に指紋や皮脂が付くと投写品質が劣化します。



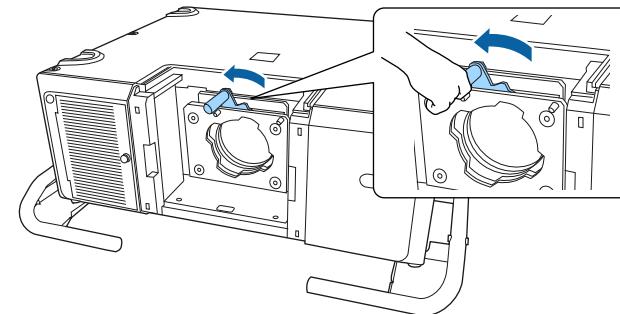
本機は以下の型番のレンズに対応しています。

ELPLR05/ELPLU05/ELPLW07/ELPLM12/ELPLM13/ELPLM14/ELPLL09/
ELPLL10

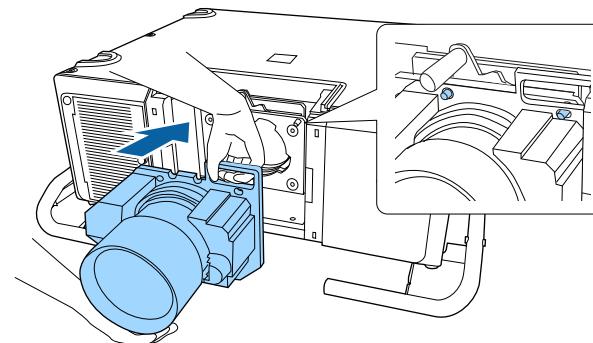
- 1 レンズ交換カバーの両側のつまみを押しながら、手前に引いて取り外します。



- 2 ロックレバーをにぎって反時計回りに回します。

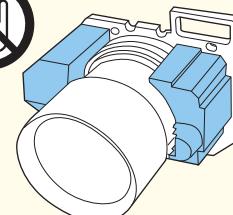


- 3 レンズユニット上部の穴(2箇所)にレンズ装着部の突起が収まるように、まっすぐ挿入します。

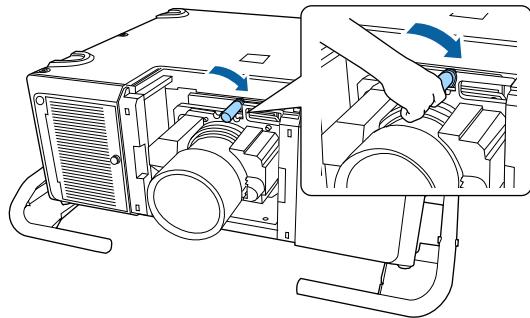


注意

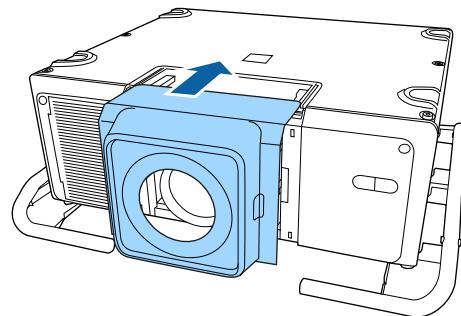
レンズユニットを取り付けるときは、下図のモーターカバー(2箇所)に触れないでください。レンズユニットが故障するおそれがあります。



- 4** レンズユニットをしっかりと支えた状態でロックレバーをにぎり、ガチャンと音がするまで時計回りに動かしてロックします。ロック後は、レンズユニットが外れないことを確認してください。



- 5** レンズ交換カバーを取り付けます。



レンズキャリブレーション

本機がレンズの位置と調整範囲を正しく取得するために、レンズユニット交換後はレンズキャリブレーションを行ってください。

前回と異なるレンズユニットを取り付けた後、本機の電源を入れるとメッセージが表示されます。

[はい]を選択し、キャリブレーションを実行してください。

レンズキャリブレーションが終了するまで最長で約3分かかります。終了するとキャリブレーションを行う前のレンズの位置に戻ります。

注意

「レンズキャリブレーションが完了しませんでした。」とメッセージが表示されたときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

『お問い合わせ先』



- 前回と同じレンズユニットを取り付けたときは、レンズキャリブレーションを実行してください。
レンズキャリブレーションは以下のいずれかの方法で実行できます。
 - リモコンの【初期値】ボタンを3秒以上押す
 - 環境設定メニュー
 - 〔拡張設定〕 - 〔動作設定〕 - 〔レンズキャリブレーション〕 [p.123](#)
- レンズキャリブレーションを行わないと、以下の機能は正しく機能しません。
 - レンズシフト
 - メモリー(レンズポジション)
 - ズーム
 - フォーカス
 - ディストーション

取り外し方

注意

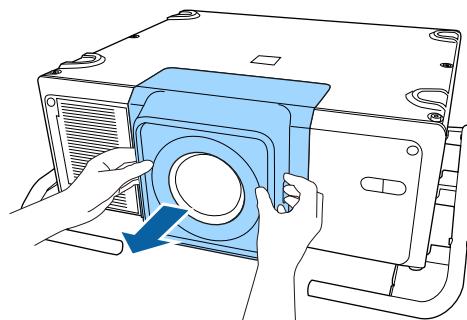
レンズユニットを交換する際は、あらかじめ電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。レンズシフトを行っているときは、レンズの位置をホームポジションに移動してからレンズユニットを交換してください。

☞ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.29

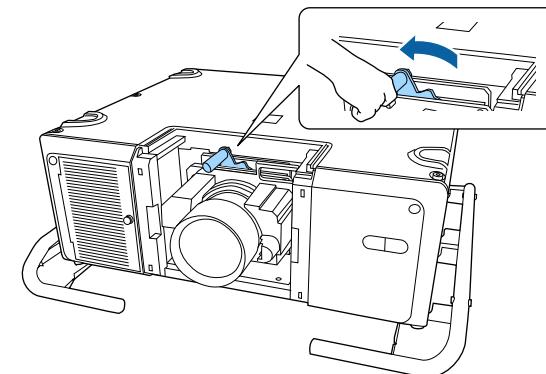


本機の光源はレーザーを使用しています。安全性を考慮し、レンズを外すと同時に光源が消灯します。再点灯するには、レンズを取り付けて【①】ボタンを押してください。

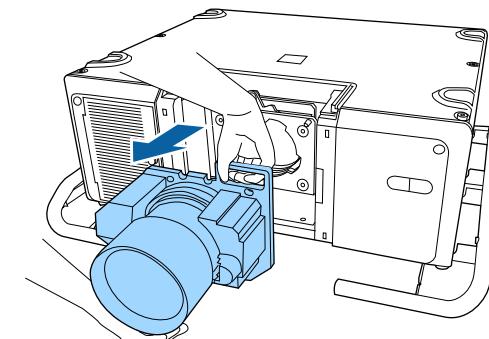
- 1 レンズ交換カバーの両側のつまみを押しながら、手前に引いて取り外します。



- 2 レンズユニットをしっかり支えた状態でロックレバーをにぎり、反時計回りに動かしてロックを外します。



- 3 レンズユニットをまっすぐ引き抜きます。



設置設定

映像の向き(設置モード)を切り替える

映像の向きは環境設定メニューの[設置モード]で切り替えます。

☞ 「拡張設定」 - 「設置モード」 p.123

フロントを基準にした場合、各設置モードの映像の向きは以下のとおりです。

フロント(初期値)



リア

フロント・天吊り



リア・天吊り



- リモコンの【シャッター】ボタンを約5秒間押し続けると、次のように設定を切り替えることができます。
フロント↔フロント・天吊り
リア↔リア・天吊り
- メニュー表示を回転させるには、環境設定メニューの【OSD回転】を設定します。
〔拡張設定〕 - 〔表示設定〕 - 〔OSD回転〕 [p.123](#)
- 本機を上下反転(天吊り)して投写するときは、本体操作パネルの【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンの操作と動作が一致するように、【方向ボタン反転】を[オン]に設定します。
〔拡張設定〕 - 〔動作設定〕 - 〔アドバンスト〕 - 〔方向ボタン反転〕 [p.123](#)

スクリーン設定

お使いのスクリーンのアスペクト比に合わせて、スクリーンタイプを設定します。

映像を表示する領域がスクリーンに合うように調整されます。



お買い上げ時の【スクリーンタイプ】の設定は[16:10]です。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

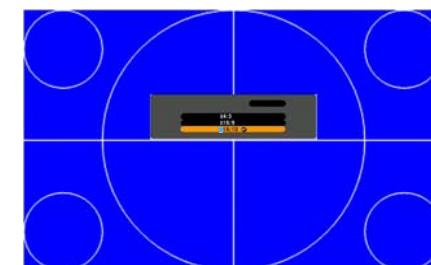
〔環境設定メニューの操作〕 [p.115](#)

- 2 【拡張設定】から【表示設定】を選択します。

- 3 【スクリーン設定】から【スクリーンタイプ】を選びます。

- 4 スクリーンのアスペクト比を選択します。

設定値に合わせて背面のテストパターンの形状が変わります。



- 5 【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。



- ・スクリーンタイプを変更したときは、投写映像のアスペクト比を調整してください。
☞「投写映像のアスペクト比を切り替える」[p.70](#)
- ・Message Broadcasting(EasyMP Monitorのプラグイン)は本機能に対応していません。

画面内の映像の位置を調整する

スクリーンタイプの設定により画面の枠と映像の間に余白が生じたときは、映像の位置を調整できます。

例：[スクリーンタイプ]が[4:3]の場合



映像を左右に移動できます。

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
☞「環境設定メニューの操作」[p.115](#)

2 【拡張設定】から【表示設定】を選択します。

3 【スクリーン設定】から【スクリーン位置】を選びます。

4 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで映像の位置を調整します。
背面のテストパターンで現在の表示位置を確認できます。



5 【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。



- [スクリーンタイプ]の設定が[16:10]の場合は[スクリーン位置]の調整はできません。

テストパターンを表示する

テストパターンを表示させると、映像機器を接続せずに投写状態を調整できます。

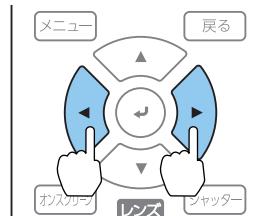
[スクリーンタイプ]の設定に合わせてテストパターンが表示されます。先に[スクリーンタイプ]を設定してください。

☞「スクリーン設定」[p.27](#)

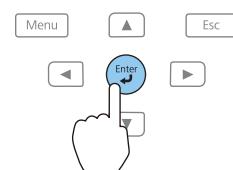
1 投写中にリモコンまたは操作パネルの【テストパターン】ボタンを押します。

- 2** リモコンの【◀】【▶】ボタンまたは操作パネルの【↔】ボタンを押してテストパターンを切り替えます。

リモコンの場合



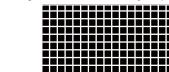
操作パネルの場合



スタンダード



クロスハッチ



カラーバーV



カラーバーH



グレースケール



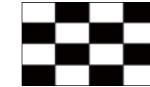
グレーバーV



グレーバーH



チェックカーパターン2



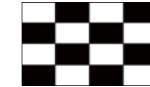
白



黒



16:9アスペクト枠



4:3アスペクト枠



16:10アスペクト枠



4:3アスペクト枠



テストパターン表示中は、レンズ操作の他に以下の映像調整を行えます。

トップメニュー名	サブメニュー名/項目
画質	カラー モード p.66 ホワイトバランス

トップメニュー名	サブメニュー名/項目
	アドバンスト <ul style="list-style-type: none"> - ガンマ※1 p.73 - RGBCMY p.72
初期化	
設定	幾何学歪み補正 p.54 明るさ設定
拡張設定	表示設定※2 カラーキャリブレーション マルチプロジェクション※3 p.81

※1 カスタムガンマ設定は除く

※2 スクリーン設定、液晶アライメント、ユニフォーミティーは除く

※3 黒レベル調整、表示倍率、ユニフォーミティー、カラー調整は除く



- ・テストパターンを表示中に設定できないメニュー項目の設定や、投写映像の細かい調整は、接続機器からの映像を投写して行ってください。
- ・映像調整中は、リモコンの【□】【□】ボタンでテストパターンを切り替えてください。
- ・環境設定メニューからもテストパターンを選択できます。
 [設定] - [テストパターン] p.122

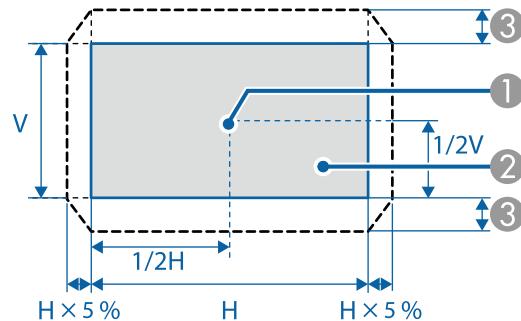
- 3** 【戻る】ボタンを押してテストパターンの表示を終了します。

投写映像の位置調整(レンズシフト)

スクリーンの正面に本機を設置できないときや、映像の位置を調整したいときは、レンズシフト機能で映像の位置を上下左右に移動できます。

レンズシフトで映像を移動できる範囲は、以下のとおりです。映像の位置を上下、左右の両方とも最大値まで移動することはできません。

ELPLR05使用時



① レンズの中心

② レンズの位置をホームポジションに移動したときの投写映像

③ 最大可動領域： $V \times 15\%$ ※

※左右方向が最大の場合は上下方向に移動できません。

ELPLU05/ELPLL09/ELPLL10使用時

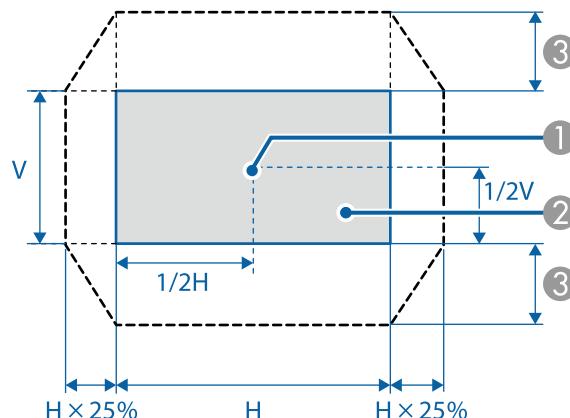
① レンズの中心

② レンズの位置をホームポジションに移動したときの投写映像

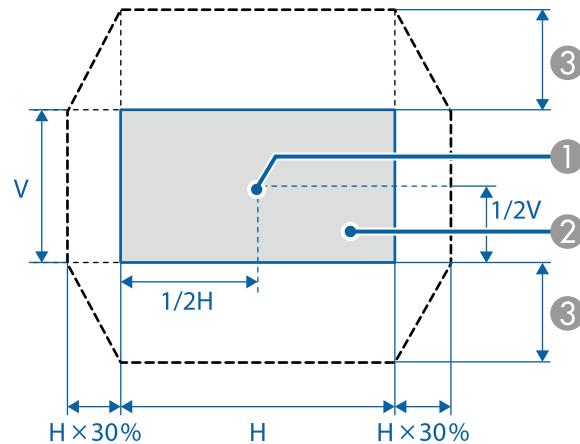
③ 最大可動領域： $V \times 55\%$ ※

※左右方向が最大の場合は上下方向に移動できません。

ELPLU05/ELPLL09/ELPLL10使用時



ELPLW07/ELPLM12/ELPLM13/ELPLM14使用時



- ① レンズの中心
 - ② レンズの位置をホームポジションに移動したときの投写映像
 - ③ 最大可動領域： $V \times 65\%$ ※
- ※スクリーンマッチング実行時は $V \times 60\%$ (ELPLM13)
 ※左右方向が最大の場合は上下方向に移動できません。



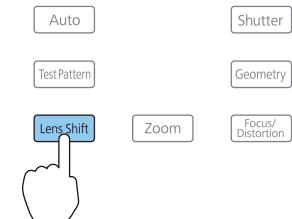
- 上下レンズシフトで画面の位置を調整するときは、画面を下から上に移動して調整し、終了してください。下に移動して終了すると、画面の位置が少し下がる場合があります。
 - プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。映像を投写後20分以上経過してからフォーカス/ズーム/レンズシフトの設定をされることをお勧めします。
 - レンズの位置をホームポジションに移動したときに、映像が最も鮮明になります。
 - リモコンまたは操作パネルの【レンズシフト】ボタンを3秒以上長押しすると、レンズの位置がホームポジションに移動します。
 - [A/V出力]を[常時]に設定すると、本機がスタンバイ状態のときもレンズの位置をホームポジションに移動できます。
- 👉 [拡張設定] - [A/V出力設定] - [A/V出力] p.123

1 リモコンまたは操作パネルの【レンズシフト】ボタンを押します。

リモコンの場合

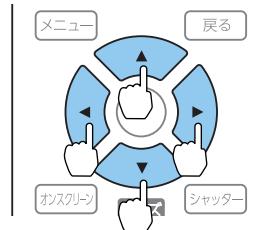


操作パネルの場合

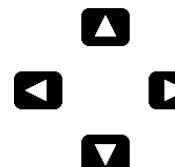
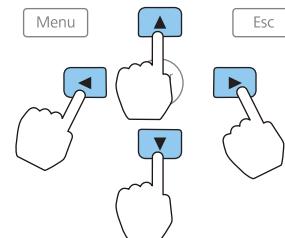


- 2 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで投写映像の位置を合わせます。

リモコンの場合



操作パネルの場合



お使いのレンズにより表示画面が異なります。

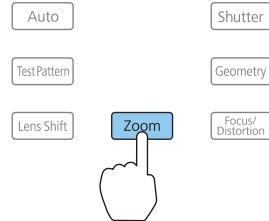
- 3 【戻る】ボタンを押して調整を終了します。

映像のサイズを調整する

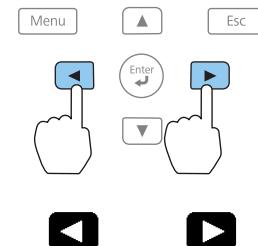


ELPLR05は対応していません。

- 1 操作パネルの【ズーム】ボタンを押します。



- 2 【◀】【▶】ボタンを押して調整します。



お使いのレンズにより表示画面が異なります。

- 3 【戻る】ボタンを押して調整を終了します。

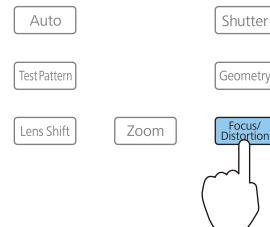


リモコンの【ズーム】ボタン【+】【-】でも映像のサイズを調整できます。

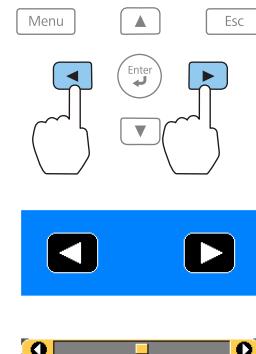
ピントのズレを補正する

1 操作パネルの【フォーカス/ディストーション】ボタンを押します。

フォーカス調整の画面が表示されるまで繰り返し押してください。



2 【◀】【▶】ボタンを押して調整します。



お使いのレンズにより表示画面が異なります。



以下のレンズをお使いのときは、ディストーション(映像のひずみ)を調整するようメッセージが表示されます。ピントを調整後、ディストーションを調整してください。

ELPLR05、ELPLU05

●「ディストーション(映像のひずみ)を補正する」 p.33

3 【戻る】ボタンを押して調整を終了します。



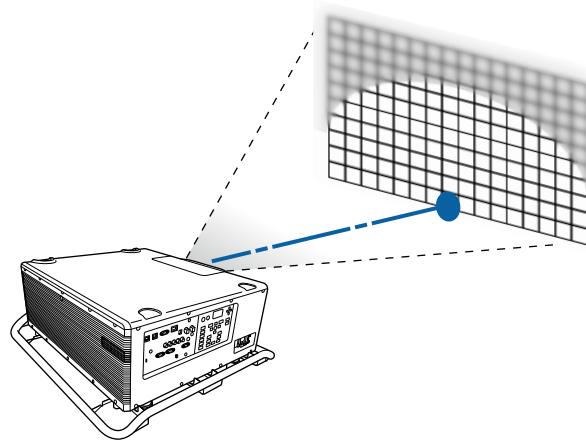
- リモコンの【フォーカス】ボタン【+】【-】でもピントのズレを補正できます。
- 明るさの異なる複数台のプロジェクターを並べて投写するときは、グレースケールのテストパターンを表示してピントのズレを補正することをお勧めします。
- フォーカス調整を行ってもピントのズレが補正されないときは、リモコンの【初期値】ボタンを3秒以上押してレンズキャリブレーションを実行してください。レンズキャリブレーションが終了してから、再度フォーカス調整を行ってください。

ディストーション(映像のひずみ)を補正する

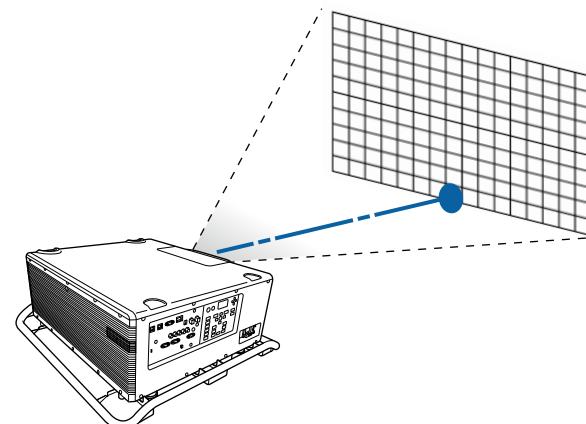
ELPLR05、ELPLU05をお使いの場合、画面の中心のピントを合わせると周囲の映像がひずみ、ピントが合わないことがあります。以下の手順でひずみを補正します。

1 操作パネルの【フォーカス/ディストーション】ボタンを押します。
フォーカス調整の画面が表示されるまで繰り返し押してください。

2 【◀】【▶】ボタンを押してレンズの中心の周りのピントを合わせます。



- 3** 再度、操作パネルの【フォーカス/ディストーション】ボタンを押します。
ディストーション調整の画面が表示されるまで繰り返し押してください。
- 4** 【◀】【▶】ボタンを押して周囲のピントを調整します。



周囲のピントを調整後に中心の周りのピントがずれた場合は、再度手順1~2を行ってください。



リモコンでも映像のひずみを調整できます。【フォーカス】ボタン【+】【-】でレンズの中心の周りのピントを合わせてから、【ディストーション】ボタン【+】【-】で周囲のピントを調整します。

レンズの調整値を登録して呼び出す

レンズシフト、ズーム、フォーカス、ディストーションで調整したレンズの位置をメモリーとして登録し、必要なときに呼び出せます。最大10件まで登録できます。



- お使いのレンズでレンズキャリブレーションを行っていない場合は、メモリーを登録するときにメッセージが表示されます。【はい】を選択してレンズキャリブレーションを実行してください。
 - メモリーを呼び出したときのレンズの位置と、メモリーを登録したときのレンズの位置は完全に一致しないことがあります。
 - メモリーを呼び出したときのレンズの位置と、メモリーを登録したときのレンズの位置のずれが大きいときは、レンズキャリブレーションを行ってください。
- ☞ [拡張設定] - [動作設定] - [レンズキャリブレーション]
[p.123](#)

- 1** 投写中にリモコンの【メモリー】ボタンを押します。



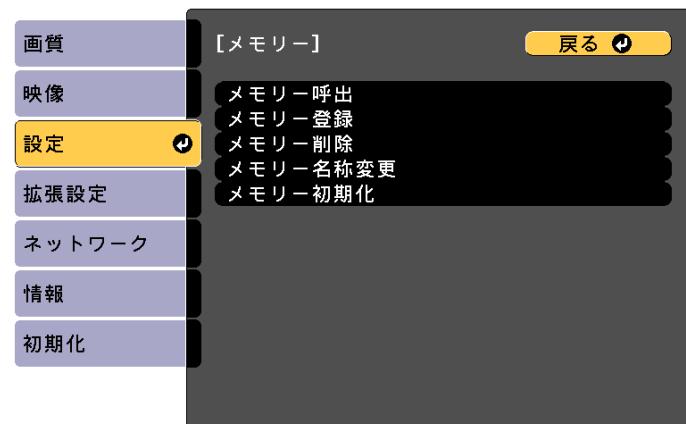
環境設定メニューからも操作できます。
☞ [設定] - [メモリー] [p.122](#)

2 [レンズポジション]を選択し、【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【①】: 決定 【メニュー】: 終了

3 目的の機能を選択し、【↔】ボタンを押します。



【戻る】/[②]: 戻る 【◆】: 選択 【メニュー】: 終了

機能	説明
[メモリー呼出]	登録したメモリーを呼び出します。メモリーネームを選択し【↔】ボタンを押すと、選択したメモリーの設定値に自動でレンズが調整されます。
[メモリー登録]	現在の設定値をメモリーに登録します。メモリーネームを選び、【↔】ボタンを押すと設定値が登録されます。
[メモリー削除]	登録したメモリーを削除します。メモリーネームを選択し、【↔】ボタンを押すとメッセージが表示されます。[はい]を選択し、【↔】ボタンを押すと選択したメモリーが削除されます。

機能	説明
[メモリー名称変更]	メモリーネームを変更します。変更するメモリーネームを選択し、[↔]ボタンを押します。ソフトキーボードでメモリーネームを入力します。 ➡「ソフトキーボードの操作」p.129 入力が終了したら[Finish]にカーソルを合わせて、[↔]ボタンを押します。
[メモリー初期化]	登録したメモリーネームと設定値を初期化します。



メモリーネームの左のマークが青色のときは登録済みです。登録済みのメモリーネームを選択したときは、上書きを確認するメッセージが表示されます。[はい]を選択すると、以前の内容を消去し、現在の設定を登録します。

IDの設定

プロジェクターとリモコンにIDを設定するとIDが一致するプロジェクターだけをリモコンで操作できるようになります。本機を複数台並べて使用するときに便利です。IDは最大30まで設定できます。



- リモコンの操作範囲内にあるプロジェクターのみ、リモコンで操作できます。
➡「リモコンの操作可能範囲」p.22
- プロジェクターIDが[オフ]、またはリモコンのIDが0のときは、IDは無効になります。
- Epson Web Controlを使うと、モバイルデバイスから特定のプロジェクターを操作できます。
➡「Webブラウザを使って設定を変更する（Epson Web Control）」p.189

プロジェクターIDを設定する

- 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
➡「環境設定メニューの操作」p.115
- 【拡張設定】から【マルチプロジェクトション】を選びます。
- 【プロジェクターID】を選び、【↔】ボタンを押します。
- 【◀】【▶】ボタンでIDを選択します。



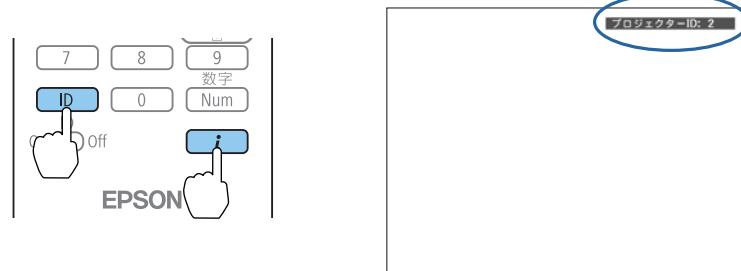
【戻る】: 戻る 【↔】: 選択

【メニュー】: 終了

- 【設定】を選び、【↔】ボタンを押します。
- 【メニュー】ボタンを押して環境設定メニューを終了します。

プロジェクターIDの確認方法

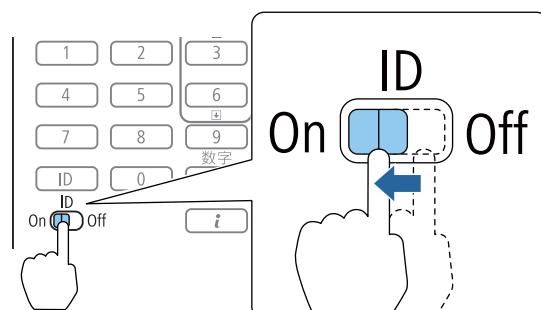
投写中に、リモコンの【ID】ボタンを押したまま【i】ボタンを押します。



ボタンを押すと、投写画面上に現在のプロジェクターIDが表示されます。表示は約3秒で消えます。

リモコンIDを設定する

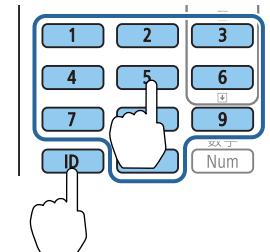
- リモコンの【ID】スイッチをOnに設定します。



- 【ID】ボタンを押したまま、操作するプロジェクターのIDと同じ数字のボタンを押します。

☞「プロジェクターIDの確認方法」 p.37

数字は2桁で入力してください(ID : 1のときは01)。



設定が終了するとリモコンから操作できるプロジェクターが限定されます。



リモコンIDの設定はリモコンに記憶されます。記憶したID設定は、リモコンの電池交換などで、リモコンからいったん電池を外しても残ります。ただし、電池を取り外した状態で長期間放置すると初期値(ID0)に戻ります。

時刻の設定

本機に時刻を設定します。設定した時刻はスケジュール機能で使用します。

☞「スケジュール機能」 p.104



- ・本機を購入後初めて電源をオンにしたとき、「時刻を設定しますか？」とメッセージが表示されます。[はい]を選択したときは手順4の画面が表示されます。
- ・[パスワードプロテクト]の[スケジュール保護]を[オン]にしていると、日付や時刻に関する設定の変更はできません。[スケジュール保護]を[オフ]にしてから設定を変更してください。
- ➡ 「利用者を管理する（パスワードプロテクト）」 p.108

- 1** 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
➡ 「環境設定メニューの操作」 p.115
- 2** [拡張設定]から[動作設定]を選択します。
- 3** [日付&時刻]を選択し【↔】ボタンを押します。
- 4** 日付や時刻に関する設定をします。

時刻や日付の入力はソフトキーボードで行います。

➡ 「ソフトキーボードの操作」 p.129



日付&時刻

サブメニュー	機能
日付	今日の日付を設定します
時刻	現在の時刻を設定します。

サブメニュー	機能
時差(UTC)	協定世界時からの時差を設定します。 (日本国内 : +9:00)
設定	[日付&時刻]の設定内容を反映します。

夏時間設定

サブメニュー	機能
夏時間	夏時間有効にする([オン])/しない([オフ])を設定します。[夏時間調整(分)]では、標準時間と夏時間の差を調整します。
夏時間開始	夏時間開始する日時を設定します。
夏時間終了	夏時間終了する日時を設定します。
設定	[夏時間設定]の設定内容を反映します。

インターネット時刻

サブメニュー	機能
インターネット時刻	[オン]に設定すると、インターネット時刻サーバーへ接続し、時刻を自動的に更新します。
インターネット時刻サーバー	インターネット時刻サーバーのIPアドレスを入力します。
設定	[インターネット時刻]の設定内容を反映します。



設定を変更したときは、必ず[設定]を選択し【↔】ボタンを押してください。

- ➡ 【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。

その他の設定

基本動作に関する設定

目的	設定方法
主電源スイッチのオン/オフまたはプロジェクターの電源プラグの抜き差しによって、投写を開始/終了したい。	<ul style="list-style-type: none"> [ダイレクトパワーオン]を[オン]に設定すると、本機に電力が供給されたときに投写を開始できます。(初期値:[オフ]) ● [拡張設定] - [動作設定] - [ダイレクトパワーオン] p.123 本機はダイレクトシャットダウン機能に対応していますので、電源ブレーカーで直接電源を切ることができます。
本機の電源をオン/オフしたときの「ピッ、ピッ」という確認音を消したい。	[確認音]を[オフ]に設定します。(初期値:[オン]) ● [拡張設定] - [動作設定] - [アドバンスト]- [確認音] p.123
【↓】ボタンを1回押すだけで、電源をオフにしたい。	[スタンバイ確認]を[オフ]に設定します。(初期値:[オン]) ● [拡張設定] - [表示設定] - [スタンバイ確認] p.123

表示に関する設定

目的	設定方法
メニューの表示位置を変更したい。	[メニュー表示位置]で変更します。 ● [拡張設定] - [表示設定] - [メニュー表示位置] p.123
メニューの表示方向を変更したい。	[OSD回転]で変更します。 ● [拡張設定] - [表示設定] - [OSD回転] p.123
メニューやメッセージ、警告などを画面に表示させたくない。	リモコンの【オンスクリーン】ボタンを押すたびに、メニューやメッセージなどの非表示/表示が切り替わります。非表示中は環境設定メニューを操作できません(カラーモードまたは入力ソースの切り替えを除く)。
入力ソースを切り替えたときのメッセージを投写画面に表示させないようにしたい。	[メッセージ表示]を[オフ]に設定します。(初期値:[オン]) ● [拡張設定] - [表示設定] - [メッセージ表示] p.123 警告状態はインジケーターの表示で確認することができます。 ● 「インジケーターの見方」 p.148 操作や動作に関するダイアログや、レーザー警告、Message Broadcastingの終了、プロジェクターIDは表示されます。
映像の表示遅延を低減したい。	[映像処理]を[速い1]または[速い2]に設定します。 ● [映像] - [アドバンスト]- [映像処理] p.120

目的	設定方法
投写中の映像の設定を登録して保存したい。	<p>[メモリー]を設定します。 ☛「メモリー機能」p.102</p> <p>登録できる内容は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none">・[メモリー]：環境設定メニューの一部の設定値・[レンズポジション]：レンズシフト、ズーム、フォーカス、ディストーションの調整値・[幾何学歪み補正]：幾何学歪み補正の調整値
背景に表示する画面を変更したい。	<p>[表示設定]から変更します。青、黒、ロゴから選択できます。ロゴが登録されていないときは、EPSONロゴが表示されます。</p> <p>[背景表示]：映像信号が入力されていないときの画面表示を設定します。(初期値：[青])</p> <p>☛ [拡張設定] - [表示設定] - [背景表示] p.123</p> <p>[スタートアップスクリーン]：本機の電源をオンにしたときに、ユーザーのロゴを表示する([オン])、表示しない([オフ])を設定します。(初期値：[オン])</p> <p>☛ [拡張設定] - [表示設定] - [スタートアップスクリーン] p.123</p>

接続する機器により、端子名称、位置や向きが異なります。

コンピューターの接続

コンピューターの映像を投写するには、以下の方法で接続します。

① 市販のコンピューターケーブルを使用するとき

コンピューターのディスプレイ出力端子と本機のComputer入力端子を接続します。

② 市販の5BNCディスプレイケーブルを使用するとき

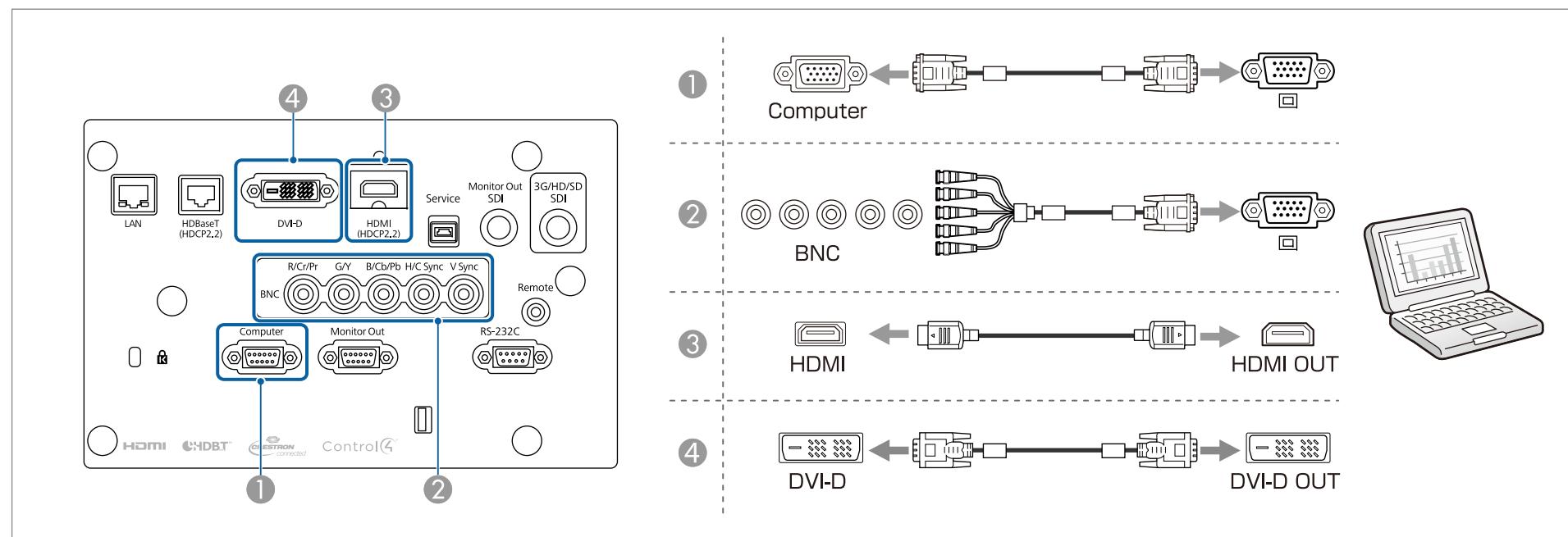
コンピューターのディスプレイ出力端子と本機のBNC入力端子を接続します。

③ 市販のHDMIケーブルを使用するとき

コンピューターのHDMI端子と本機のHDMI入力端子を接続します。

④ 市販のDVI-Dケーブルを使用するとき

コンピューターのDVI-D端子と本機のDVI-D入力端子を接続します。



映像機器の接続

ビデオ映像を投写するには、以下の方法で接続します。

① 市販のコンポーネントビデオケーブル(D-sub/コンポーネント変換)を使用するとき

映像機器のコンポーネント出力端子と本機のComputer入力端子を接続します。

② 市販のコンポーネントビデオケーブル(RCA)とBNC/RCAアダプターを使用するとき

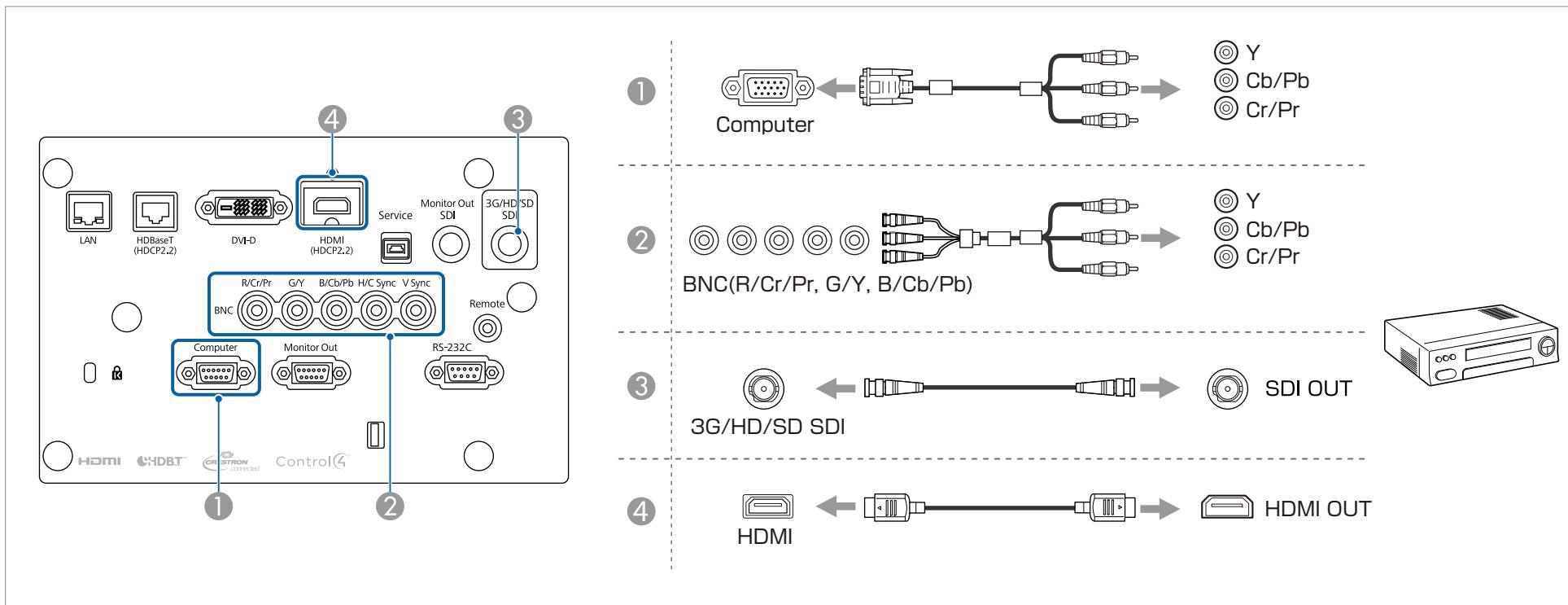
映像機器のコンポーネント出力端子と本機のBNC入力端子(R/Cr/Pr, G/Y, B/Cb/Pb)を接続します。

③ 市販のBNCビデオケーブルを使用するとき(SDI入力)

映像機器のSDI端子と本機のSDI入力端子を接続します。

④ 市販のHDMIケーブルを使用するとき

映像機器のHDMI端子と本機のHDMI入力端子を接続します。



注意

- 接続機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。
- プラグの向きや形状が異なった状態で無理に押し込まないでください。機器の破損や故障の原因になります。

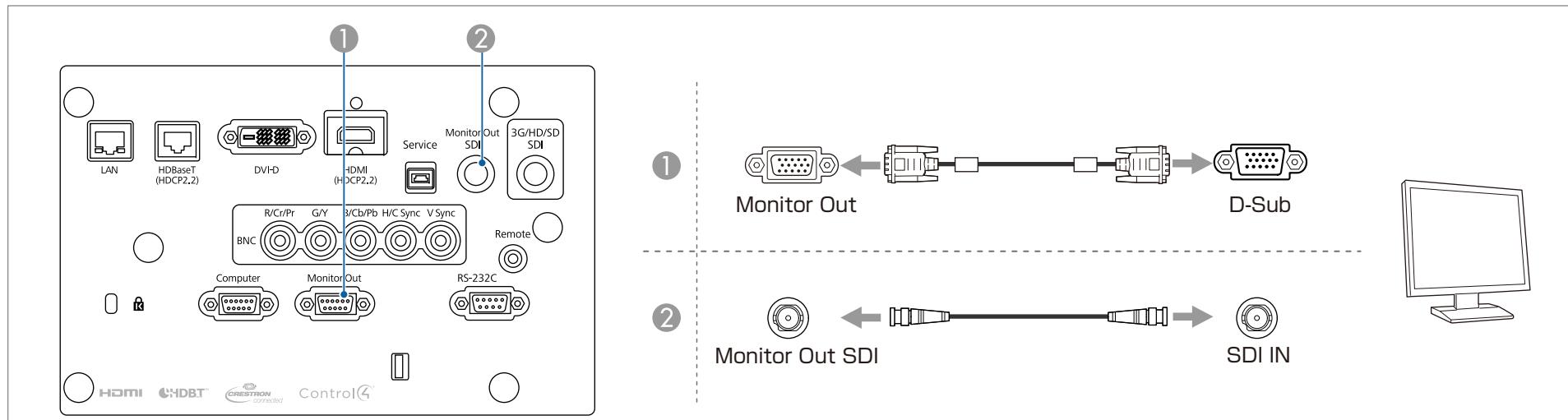


接続する機器が特有の端子形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。

外部モニターの接続

映像を外部モニターに出力できます。

- Computer入力端子またはBNC入力端子に接続している機器の映像を出力したいとき**
外部モニターのD-Sub端子と本機のMonitor Out端子を接続します。
- 3G/HD/SD SDI入力端子に接続している機器の映像を出力したいとき**
外部モニターのSDI OUT端子と本機のMonitor Out SDI端子を接続します。



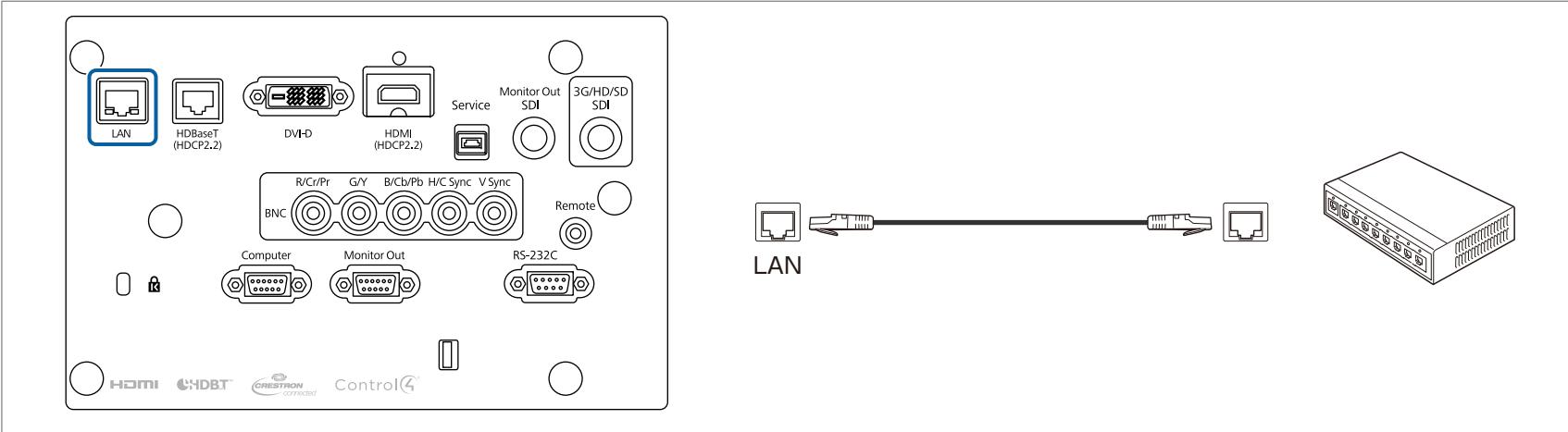


- 本機がスタンバイ状態のときに映像を出力するには、以下の設定をします。
 - [A/V出力]を[常時]に設定する。
 - ☛ [拡張設定] - [A/V出力設定] - [A/V出力] [p.123](#)
 - [待機モード]を[通信オン]に設定する。
 - ☛ [拡張設定] - [待機モード] [p.123](#)
- Monitor Out端子に接続している外部モニターに出力できる信号は、Computer入力端子またはBNC入力端子から入力されているアナログRGB信号です。[モニター出力]でどちらの信号を出力するかを設定できます。
 - ☛ [拡張設定] - [A/V出力設定] - [モニター出力] [p.123](#)

LANケーブルの接続

市販の100BASE-TXまたは10BASE-TタイプのLANケーブルで、ネットワークハブなどのLAN端子と本機のLAN端子を接続します。

コンピューターとプロジェクターをネットワークで接続して映像を投写したり、プロジェクターの状態を確認したりできます。

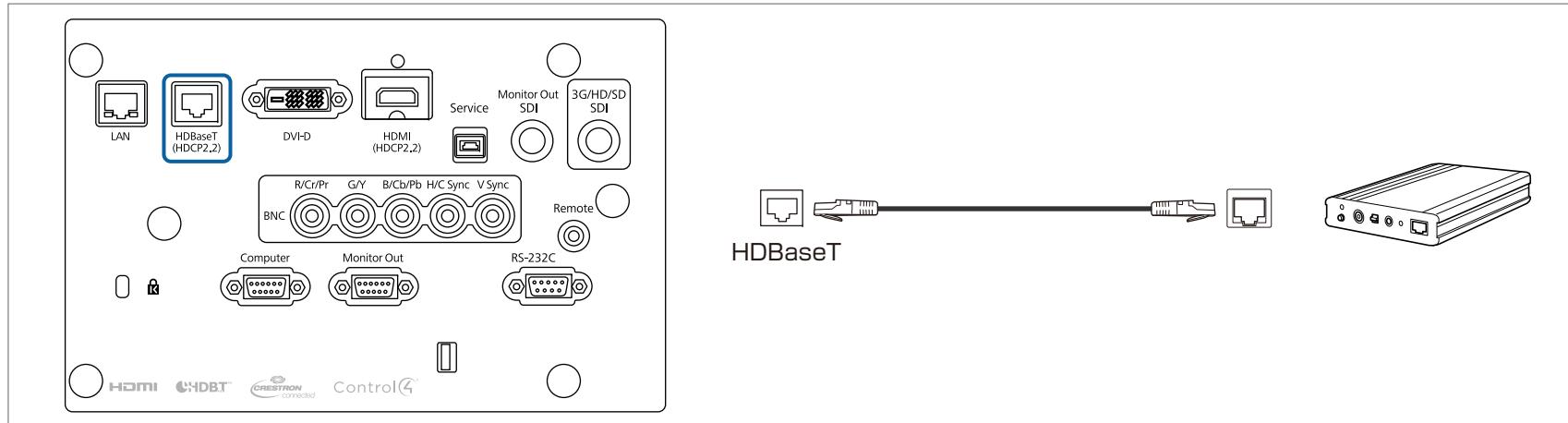


誤作動防止のために、LANケーブルはカテゴリー5以上のシールド付きをお使いください。

HDBaseTトランスミッターの接続

市販の100BASE-TXタイプのLANケーブルで、オプション品のHDBaseTトランスミッターを接続します。

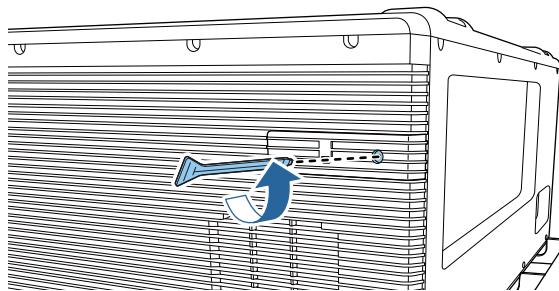
👉 「オプション」 [p.206](#)



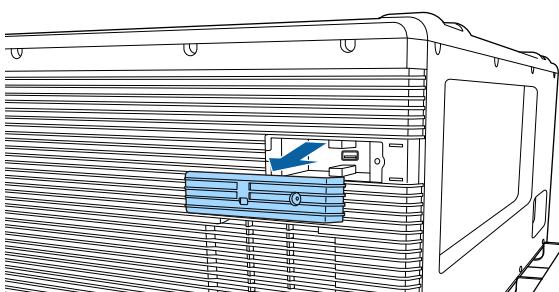
- HDBaseTトランスミッターに添付の取扱説明書をよくお読みください。
- LANケーブルはHDBaseT Alliance推奨のカテゴリー6以上のSTPケーブル(ストレート)をお使いください。ただし、すべての入出力機器および環境において、動作を保証するものではありません。
- LANケーブルを抜き差しするときは、本機とHDBaseTトランスミッターの電源をオフにしてください。
- HDBaseT端子からEthernet通信やシリアル通信、有線リモコン制御をするときは、環境設定メニューの[制御通信]を[オン]にします。
👉 [拡張設定] - [HDBaseT設定] - [制御通信] [p.123](#)
[制御通信]を[オン]にすると、本機のLAN端子、RS-232C端子、Remote端子は無効になりますのでご注意ください。
- Extron社製のXTPトランスミッターまたはスイッチャーを使用するときは、本機のHDBaseT端子に接続します。[Extron XTP]を[オン]に設定してください([待機モード]、[制御通信]も自動的に[オン]に設定されます)。
👉 [拡張設定] - [HDBaseT設定] - [Extron XTP] [p.123](#)

無線LANユニットの取り付け

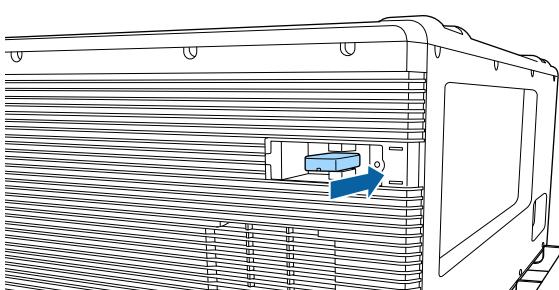
- 1 無線LANユニット用端子カバーのネジを外します。



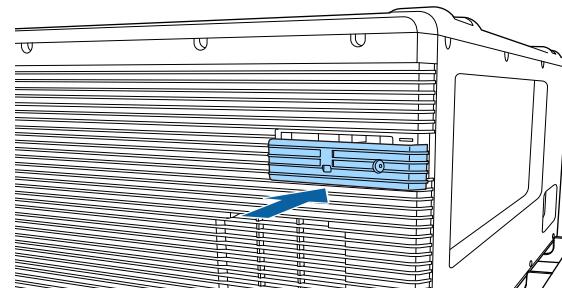
- 2 無線LANユニット用端子カバーを外します。



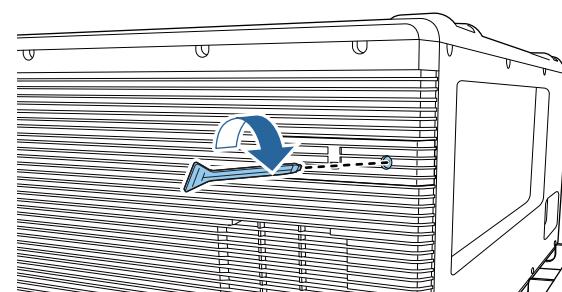
- 3 無線LANユニットを取り付けます。



- 4 無線LANユニット用端子カバーを取り付けます。



- 5 無線LANユニット用端子カバーをネジで固定します。



無線LAN接続の設定は、環境設定メニューの[無線LAN]メニューから行えます。

☞ [ネットワーク] - [ネットワーク設定画面へ] - [無線LAN] [p.130](#)

基本的な使い方

ここでは、映像の投写方法と映像補正方法について説明しています。

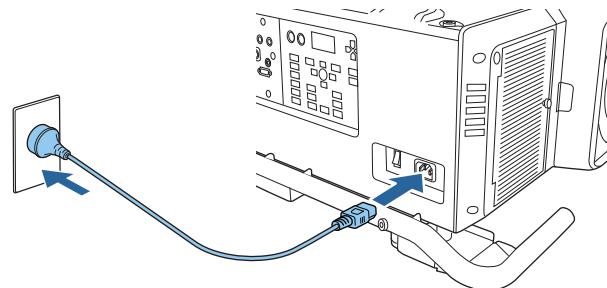
プロジェクターの電源を入れる前に、使用するコンピューターまたはビデオ機器を本機に接続してください。

☛ 「接続する」 p.41

注意

プロジェクターに電力を供給する建物の配線に、13Aから20Aの遮断器を取り付けてください。遮断器を取り付けた配線はプロジェクター専用とし、他の機器を接続しないでください。

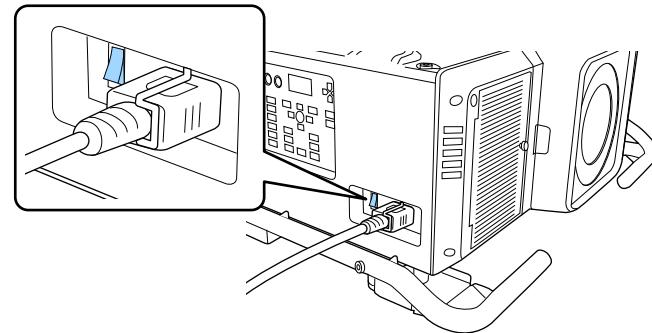
1 本機とコンセントを電源コードで接続します。



警告

- 電源プラグは3芯です。3芯アース付きのコンセントに接続してください。
- 同梱の電源コードは、100V用と200V用の2種類あります。お使いの環境に応じて、使用する電源コードは異なります。電源コードの取り扱いは専門業者にご依頼ください。

2 本機の背面にある主電源スイッチをオンにして、本機に電力を供給します。



本機の電源インジケーターが青色に点灯します(スタンバイ状態)。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

3 操作パネルまたはリモコンの【①】ボタンを押して、本機の電源を入れます。

確認音が鳴り、ステータスインジケーターが青色に点滅します(ウォームアップ状態)。ウォームアップが終わると、ステータスインジケーターが青色に点灯します。

映像が投写されないときは、以下を試してください。

- 接続されているコンピューターまたはビデオ機器の電源を入れます。
- ノート型コンピューターを使用するときは、コンピューターの画面出力を切り替えます。
- DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- リモコンの【入力検出】ボタンを押して入力ソースを検出します。
- リモコンで、投写したい入力ソースに対応するボタンを押します。

⚠ 警告

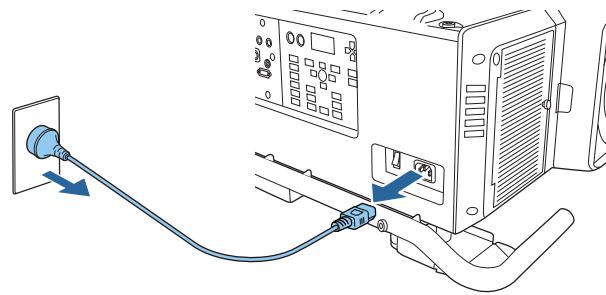
- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特に子様の行動にご注意ください。
- 投写中に本などで投写光をさえぎらないでください。投写光を長時間さえぎると投写光の当たる部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因となります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機の故障の原因となることがあります。投写を中断する場合はシャッター機能を使うか本機の電源を切ってください。



- [拡張設定]メニューの[ダイレクトパワーオン]が[オン]に設定されていると、本機に電力が供給されたときに自動で電源が入ります。停電復旧時などにコンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると、本機の電源がオンになりますのでご注意ください。
☞ [拡張設定]-[動作設定]-[ダイレクトパワーオン] [p.123](#)
- [オートパワーオン]で選択した入力ソースからの映像信号が入力されると、自動で電源が入ります。
☞ [拡張設定] - [動作設定] - [オートパワーオン] [p.123](#)

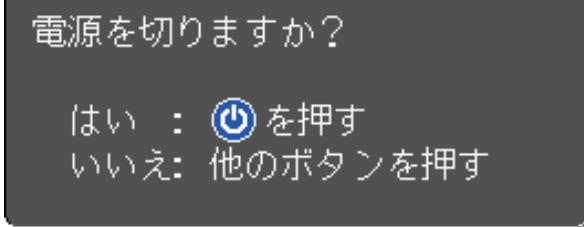


- 本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、環境設定メニューの設定、環境条件、および使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、投写時間の経過にしたがって低下します。
 - 本機はダイレクトシャットダウン機能に対応しているため、電源ブレーカーで直接電源を切ることができます。
 - 24時間以上連続して使用する場合、または定期的にダイレクトシャットダウンを使用する場合は、スケジュール機能で[光源キャリブレーション]を設定し、定期的に光源の補正をしてください。
- ☞「スケジュール機能」 p.104



1 操作パネルまたはリモコンの【○】ボタンを押します。

シャットダウン確認画面が表示されます。



2 再度【○】ボタンを押します。(電源を切らないときは、他のボタンを押します。)

確認音が2回鳴った後、投写映像が消え、ステータスインジケーターが消灯します。

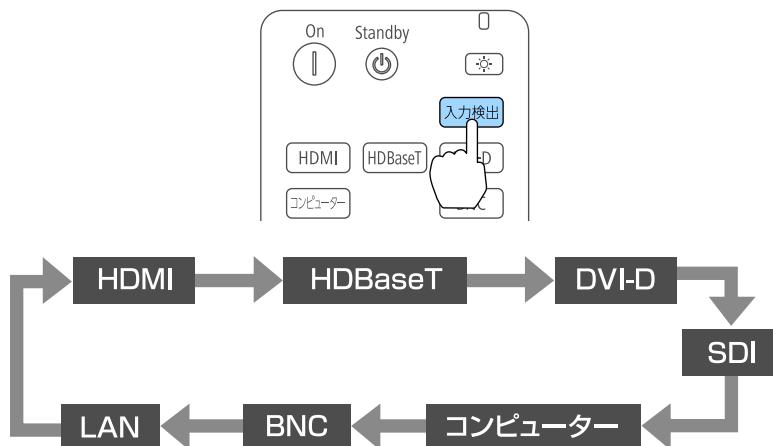
3 本機の背面にある主電源スイッチをオフにします。

電源インジケーターが消灯します。

4 電源コードを抜きます。

入力信号を自動検出して切り替える(入力検出)

リモコンの【入力検出】ボタンを押して、映像信号が入力されている入力端子の映像を投写します。



複数の機器を接続しているときは、目的の映像が投写されるまで【入力検出】ボタンを繰り返し押します。

ビデオ機器を接続しているときは、再生状態にしてから操作を開始してください。



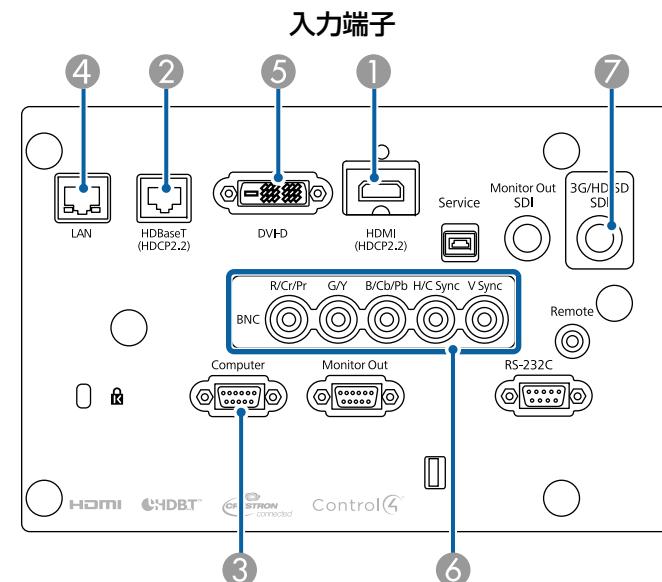
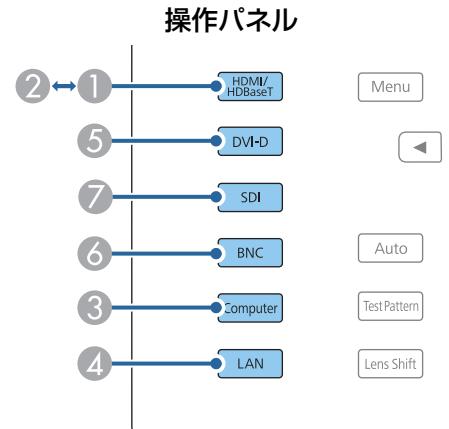
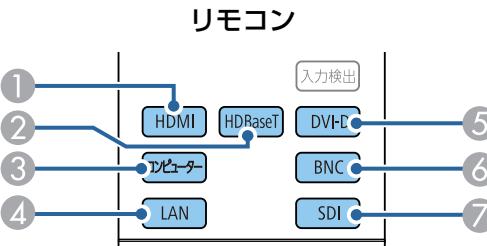
- 本機を起動したときに、前回と同じ入力端子からの映像を投写するよう設定できます。
- 【拡張設定】 - 【動作設定】 - 【起動時入力検出】 [p.123](#)
- 映像信号がなにも入力されていないときは、以下の画面が表示されます。



目的の映像に切り替える

リモコンまたは操作パネルのボタンを押すと、目的の映像に直接切り替えることができます。

各ボタンに対応する入力端子は以下のとおりです。

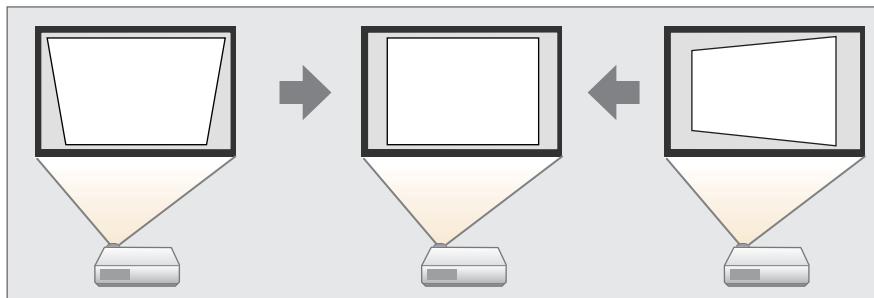


④ ネットワークで接続しているコンピューターの映像に切り替わります。

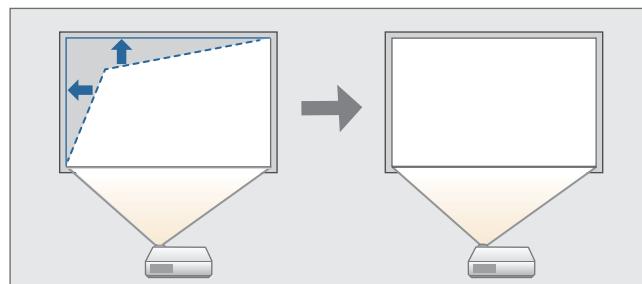
映像のゆがみを補正する

投写映像のゆがみを補正するには、以下の方法があります。

- タテヨコ補正
タテ方向とヨコ方向の台形ゆがみを個別に補正します。
☞ 「タテヨコ補正」 p.55



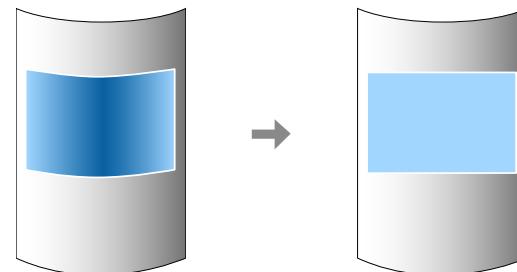
- Quick Corner
4つのコーナーを個別に補正します。
☞ 「Quick Corner」 p.56



• 曲面投写補正

曲面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正したり、伸び縮みを調整したりします。

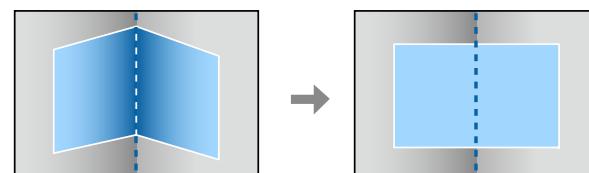
☞ 「曲面投写補正」 p.57



• コーナー投写補正

四角い柱や部屋の隅の壁など、直角の面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正したり、伸び縮みを調整します。

☞ 「コーナー投写補正」 p.61



• ポイント補正

部分的に発生するわずかなゆがみを補正したり、本機を複数台並べて投写するときに映像の重なり合う部分の位置を調整します。

☞ 「ポイント補正」 p.64





- リモコンまたは操作パネルの【幾何学補正】ボタンを押すと、選択している補正方法を直接行えます。
- 投写位置を再調整するときなどに、補正状態を一時的に解除したいときは、【幾何学歪み補正】を【オフ】に設定します。【オフ】にしても、補正值は保存されています。
- 👉「[設定] - [幾何学歪み補正]」[p.122](#)
- 【幾何学歪み補正】の【メモリー】で幾何学歪み補正の設定値を登録し、必要な時に呼び出すことができます。
- 👉「メモリー機能」[p.102](#)

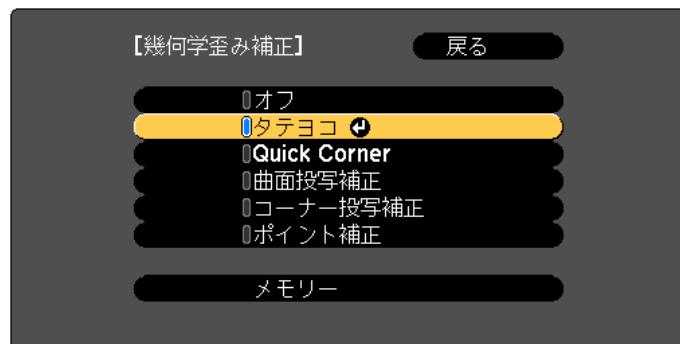
タテヨコ補正

タテ方向とヨコ方向の台形ゆがみを個別に補正します。

映像の補正範囲は以下で確認できます。

👉「タテヨコ補正」[p.213](#)

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【設定】から【幾何学歪み補正】を選択します。
- 3 【タテヨコ】を選択し【↔】ボタンを押します。

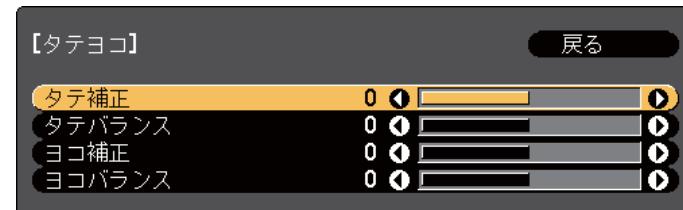


【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【●】: 決定 【メニュー】: 終了

「補正方法が変更されます。画面の形状が大きく変わることがあります。」と表示されたときは、【↔】ボタンを押します。

4

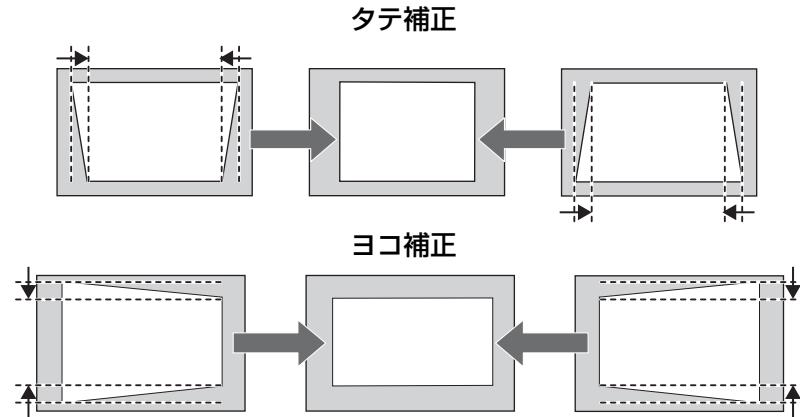
【▲】【▼】ボタンで補正方法を選び、【◀】【▶】ボタンで補正します。



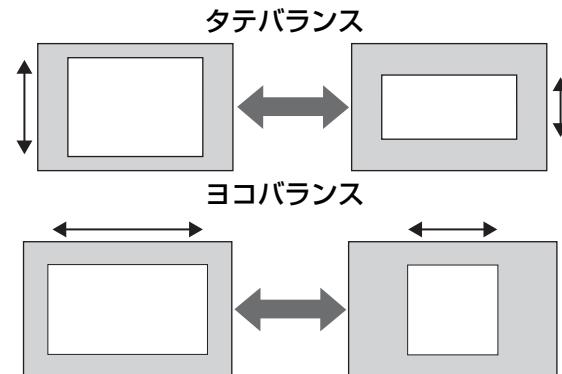
【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【◀】: 調整
【初期値】: リセット 【メニュー】: 終了

【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【●】: 決定 【メニュー】: 終了

[タテ補正]と[ヨコ補正]で、台形にゆがんだ映像を補正します。



映像のアスペクトが崩れたときは、[タテバランス]と[ヨコバランス]で映像のバランスを調整します。



台形ゆがみを補正すると、投写映像のサイズが小さくなります。

5 補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。



他の補正方法と組み合わせて使うことはできません。

Quick Corner

スクリーンに合わせて投写映像の4つのコーナーを個別に補正します。

- 1** 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2** 【設定】から【幾何学歪み補正】を選択します。
- 3** 【Quick Corner】を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定 【メニュー】: 終了

「補正方法が変更されます。画面の形状が大きく変わることがあります。」と表示されたときは、もう一度【↔】ボタンを押します。

4 補正するコーナーを【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで選択して、【↔】ボタンを押します。



【◀/▶】:選択
【●】:決定
【戻る】:戻る(2秒間押下で初期化/切替)

 【戻る】ボタンを約2秒間押し続けると、初期化実行確認画面が表示されます。
Quick Cornerで補正した結果を初期化する場合は【はい】を選択してください。

5 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンでコーナーの位置を補正します。

【↔】ボタンを押すと、手順4の補正するエリアを選択する画面が表示されます。

補正中に「これ以上調整できません。」と表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したことを示しています。



【◀/▶】:調整
【戻る】/[●]:戻る

6 手順4と5を繰り返して補正が必要なコーナーすべてを補正します。

7 補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。

曲面投写補正

曲面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正したり、伸び縮みを調整します。

レンズの位置をホームポジションに移動した状態で、スクリーンに正対して投写してください。

☞ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.29



- 同じ半径の円弧の面に投写してください。
 - 補正量が大きいと、ピントが均一にならない場合があります。
 - [4Kエンハンスメント]が有効のときはメッセージが表示されます。[はい]を選択し、[4Kエンハンスメント]を無効にしてください。
- 👉 [画質] - [イメージ強調] - [4Kエンハンスメント] [p.118](#)

映像の補正範囲は以下で確認できます。

👉 「曲面投写補正」 [p.213](#)

- 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 【設定】から【幾何学歪み補正】を選択します。
- 【曲面投写補正】を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定 【メニュー】: 終了

「補正方法が変更されます。画面の形状が大きく変わることがあります。」と表示されたときは、【↔】ボタンを押します。

- 【曲面投写補正】を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定 【メニュー】: 終了

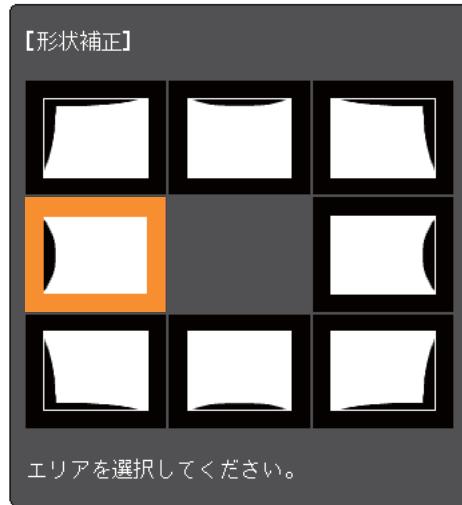
- 【形状補正】を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定 【メニュー】: 終了

- 【曲面投写補正】を選択し【↔】ボタンを押します。

- 6 補正する箇所を【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで選択して【➡】ボタンを押します。



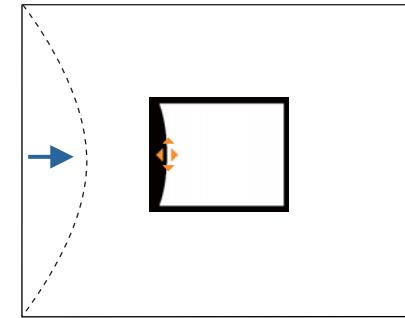
頂点を選択すると、隣接する2つの辺を調整できます。



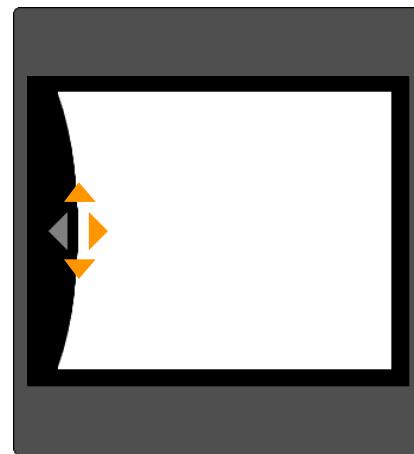
【戻る】ボタンを約2秒間押し続けると、初期化実行確認画面が表示されます。

曲面投写補正で補正した結果を初期化する場合は、【はい】を選択してください。

- 7 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで辺の位置を補正します。



補正中に以下の画面が表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したことを示しています。



- 8 【戻る】ボタンを押して、前の画面に戻ります。

- 9 手順6~8を繰り返して、補正が必要な箇所すべてを補正します。
映像が伸縮しているときは、次の手順へ進んでリニアリティーを調整します。

- 10** 【戻る】ボタンを押して、手順5の画面に戻ります。【水平リニアリティ】または【垂直リニアリティ】を選択し【↔】ボタンを押します。



左右方向の伸縮を補正する場合は【水平リニアリティ】、上下方向の伸縮を補正する場合は、【垂直リニアリティ】を選択します。

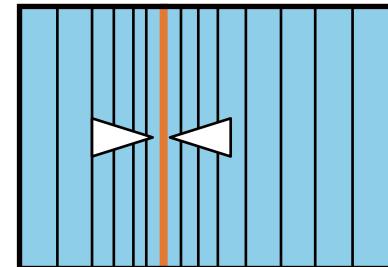
- 11** 補正の基準線を選択し、【↔】ボタンを押します。

【水平リニアリティ】選択時は【◀】【▶】ボタン、【垂直リニアリティ】選択時は【▲】【▼】ボタンで選択し、【↔】を押します。
選択された基準線はオレンジと白の点滅で表示されます。

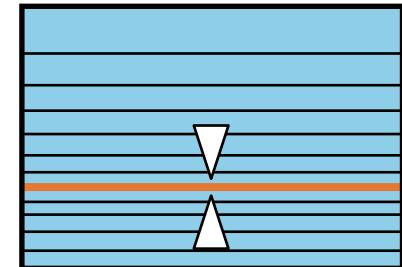
- 12** 伸縮補正をします。
線と線の間が均等になるように補正します。

【◀】ボタンを押したとき

【水平リニアリティ】選択時

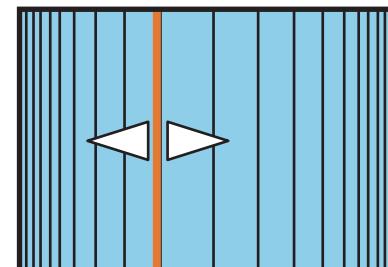


【垂直リニアリティ】選択時

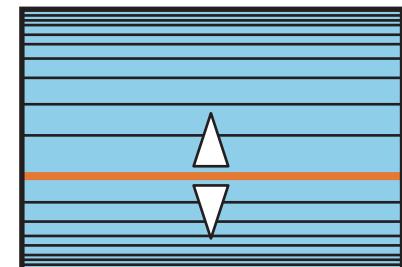


【▶】ボタンを押したとき

【水平リニアリティ】選択時



【垂直リニアリティ】選択時



- 13** 補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。



補正した結果を微調整できます。[Quick Corner]で映像の傾きを調整し、[ポイント補正]で微調整します。手順4の画面で[Quick Corner]または[ポイント補正]を選択してください。

☞「Quick Corner」 p.56

☞「ポイント補正」 p.64

コーナー投写補正

四角い柱や部屋の隅の壁など、直角の面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正したり、伸び縮みを調整します。

レンズの位置をホームポジションに移動した状態で、スクリーンに正対して投写してください。

☛ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.29



- ・直角の面に対して投写してください。
- ・補正量が大きいと、ピントが均一にならない場合があります。
- ・[4Kエンハンスメント]が有効のときはメッセージが表示されます。[はい]を選択し、[4Kエンハンスメント]を無効にしてください。
- ☛ [画質] - [イメージ強調] - [4Kエンハンスメント] p.118

映像の補正範囲は以下で確認できます。

☛ 「コーナー投写補正」 p.215

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【設定】から【幾何学歪み補正】を選択します。
- 3 【コーナー投写補正】を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【⊕】: 決定 【メニュー】: 終了

「補正方法が変更されます。画面の形状が大きく変わることがあります。」と表示されたときは、もう一度【↔】ボタンを押します。

- 4 【コーナー投写補正】を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【⊕】: 決定 【メニュー】: 終了

- 5 【コーナータイプ】を選択し【↔】ボタンを押します。

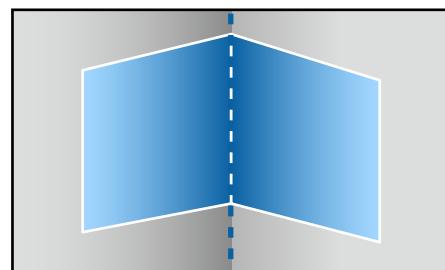


【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【⊕】: 決定 【メニュー】: 終了

- 6 投写する場所に合わせて、[水平コーナー]または[垂直コーナー]を選択し【↔】ボタンを押します。

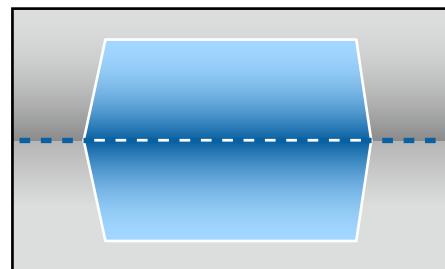
面と面が横に並んでいる場合：

[水平コーナー]を選択します。



面と面が縦に並んでいる場合：

[垂直コーナー]を選択します。

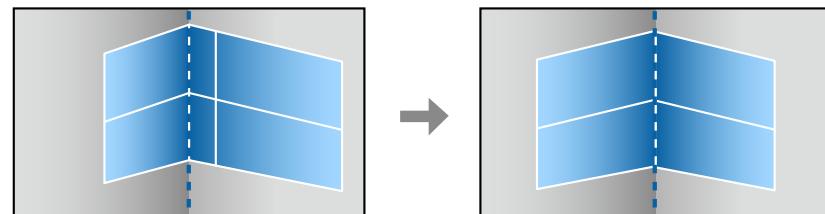


以降、[水平コーナー]で補正するときを例に説明します。

- 7 【戻る】ボタンを押し、手順5の画面に戻ります。[形状補正]を選択し【↔】ボタンを押します。

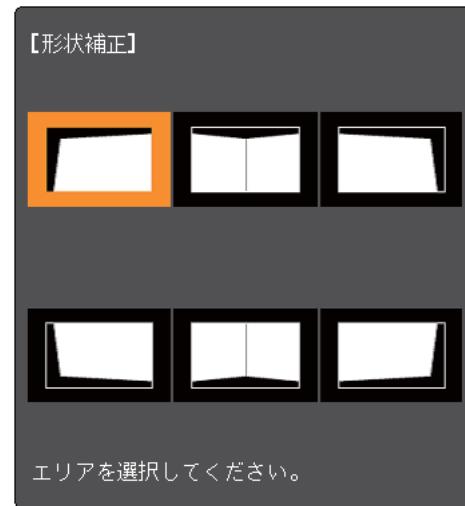
- 8 調整用の画面の中央の線と、コーナー(2つの面が接する場所)の線が合うように、プロジェクターの位置やレンズシフトを調整します。

☞ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.29



【↔】ボタンを押すたびに、画像や格子を表示/非表示できます。

- 9 補正する箇所を【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで選択して【↔】ボタンを押します。

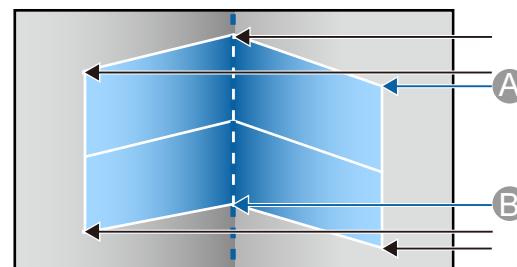


補正のポイント

[水平コーナー]選択時：

上部の補正は、一番低い点(Ⓐの矢印が指している点)を基準にして補正します。

下部の補正は一番高い点(Ⓑの矢印が指している点)を基準にして補正します。



[垂直コーナー]選択時：

左辺、右辺ともに画面中央の垂直線に一番近い点を基準にします。



【戻る】ボタンを約2秒間押し続けると、初期化実行確認画面が表示されます。

[コーナー投写補正]で補正した結果を初期化する場合は[はい]を選択してください。

- 10 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで形状を補正します。

補正中に「これ以上調整できません。」と表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したことを示しています。

- 11 手順9と10を繰り返して、補正が必要な箇所すべてを補正します。
映像が伸縮しているときは、次の手順へ進んでリニアリティーを調整します。

- 12 【戻る】ボタンを押し、手順4の画面に戻ります。[リニアリティー]を選択し【↔】ボタンを押します。

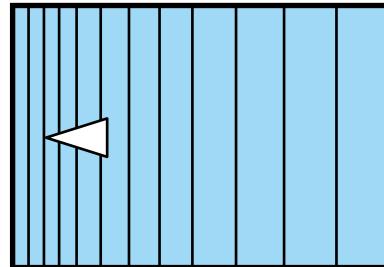


13 【◀】【▶】ボタンで伸縮補正をします。

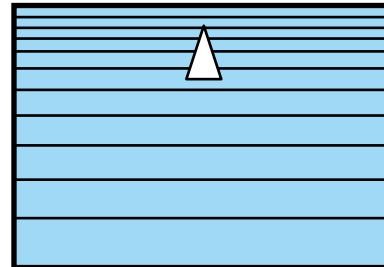
線と線の間が均等になるように補正します。

【◀】ボタンを押したとき

[水平コーナー]選択時

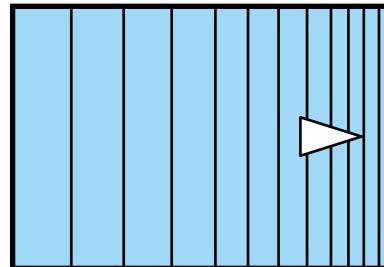


[垂直コーナー]選択時

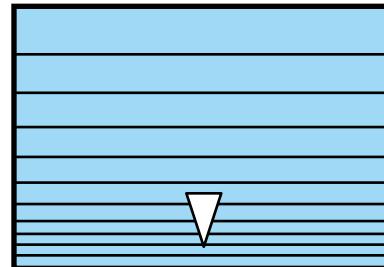


【▶】ボタンを押したとき

[水平コーナー]選択時



[垂直コーナー]選択時



14 補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。



補正した結果を微調整できます。[Quick Corner]で映像の傾きを調整し、[ポイント補正]で微調整します。手順4の画面で[Quick Corner]または[ポイント補正]を選択してください。

☞ 「Quick Corner」 p.56

☞ 「ポイント補正」 p.64

ポイント補正

投写画像を格子で区切り、格子の交点を上下左右に移動させることで投写画面のゆがみを補正します。

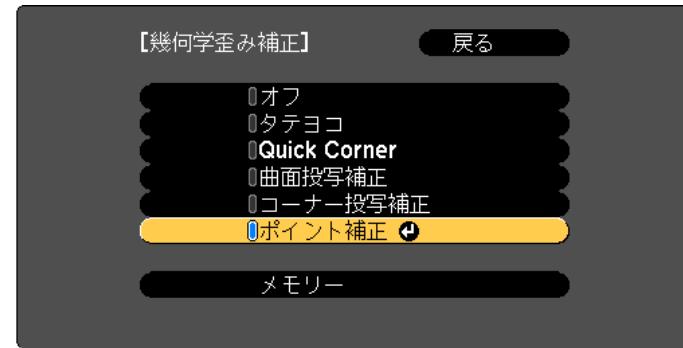


- 各方向にそれぞれ0.5画素ずつ、最大32画素まで補正できます。
 - [4Kエンハンスメント]が有効のときはメッセージが表示されます。[はい]を選択し、[4Kエンハンスメント]を無効にしてください。
- ☞ [画質] - [イメージ強調] - [4Kエンハンスメント] p.118

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 【設定】から【幾何学歪み補正】を選択します。

3 【ポイント補正】を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【●】: 決定

【メニュー】: 終了

「補正方法が変更されます。画面の形状が大きく変わることがあります。」と表示されたときは、もう一度【↔】ボタンを押します。

4 【ポイント補正】を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定 【メニュー】: 終了

- 5** [ポイント補正]を選択し【↔】ボタンを押します。

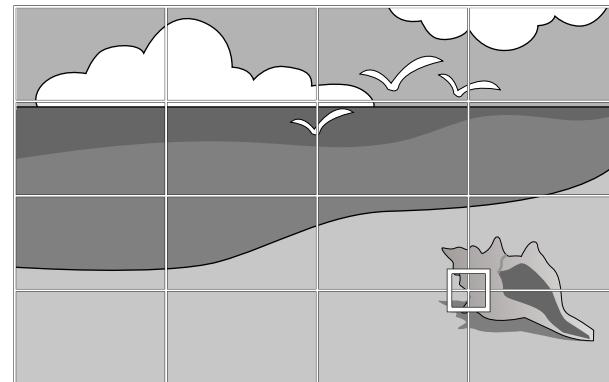


【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定 【メニュー】: 終了

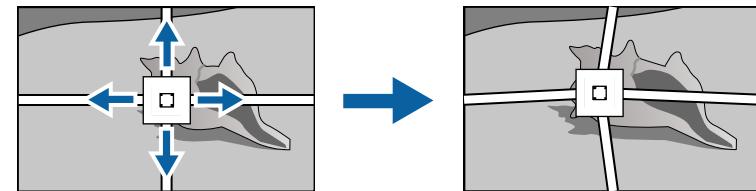
ポイント補正	ポイント数 ([3x3]、[5x5]、[9x9]、[17x17])を選択し、ポイント補正を行います。
パターン色	補正時に表示する格子の色を選択します。
初期化	[ポイント補正]の補正值、設定値をすべて初期値に戻します。

- 6** ポイントの数([3x3]、[5x5]、[9x9]、[17x17])を選択し【↔】ボタンを押します。

- 7** 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンでガイドを補正したいポイントに合わせ、【↔】ボタンを押します。



- 8** 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンでゆがみを補正します。



続けて他のポイントを修正する場合は、【戻る】ボタンを押して前の画面に戻り、手順7、8を行います。



【↔】ボタンを押すたびに、画像や格子を表示/非表示できます。

- 9** 補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。



補正した結果を微調整できます。手順4の画面で【Quick Corner】を選択し、映像の傾きを調整します。

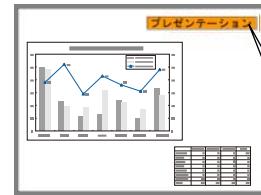
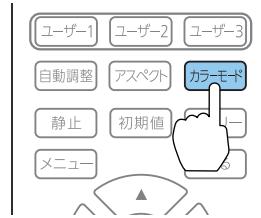
☛ 「Quick Corner」 p.56

映り具合を選ぶ(カラー モードの選択)

投写時の環境に応じて次の設定から選択するだけで、簡単に最適な画質で投写できます。モードによって投写の明るさが変わります。

モード名	使い方
ダイナミック	最も明るいモードです。明るさを優先したい場合に適しています。
プレゼンテーション	映像を明るく鮮やかに投写したい場合に適しています。
シネマ	映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
sRGB	映像の色を忠実に再現したい場合に適しています。
DICOM SIM	エックス線写真などの医用画像を投写するのに適しています。ただし、本機は医療機器ではありませんので、医療診断の用途ではご利用いただけません。
マルチプロジェクション	複数のプロジェクターを利用して投写するのに適しています。

リモコンの【カラー モード】ボタンを押すたびに画面上にカラー モード名が表示され、カラー モードが切り替わります。



☛ プレゼンテーション



カラー モードは環境設定メニューからも設定できます。

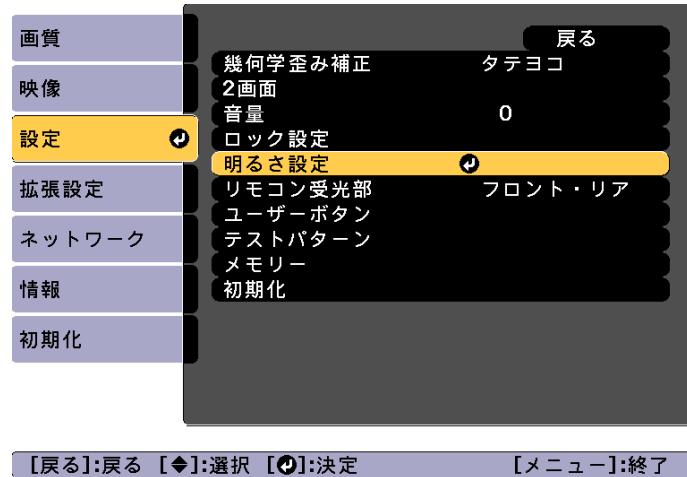
☛ 「画質】-[カラー モード】 p.118

明るさを設定する

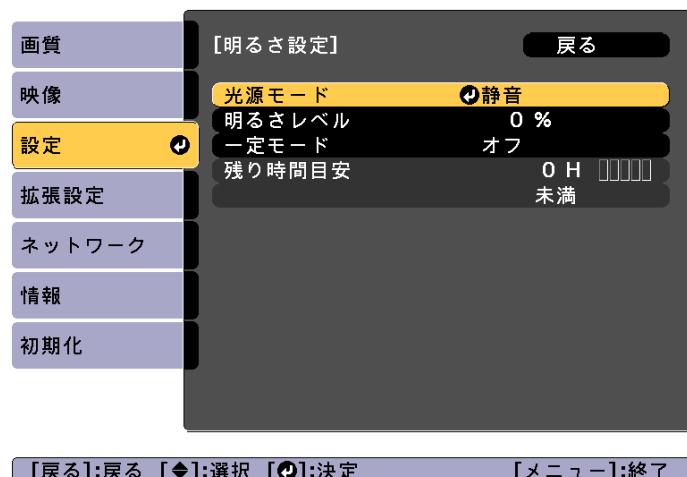
光源の明るさを設定します。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【設定】から【明るさ設定】を選択します。

投写映像を調整する



3 [光源モード]を選択し【↔】ボタンを押します。



4 設定したい項目を選択し【↔】ボタンを押します。

[ノーマル]：明るさを落としたくないときに選択します。使用時間の目安は約20,000時間です。

[静音]：ファンの音が気になるときに選択します。明るさレベルは約70%になります。使用時間の目安は約20,000時間です。

[ロング]：光源の寿命を延ばしたいときに選択します。明るさレベルは約70%になります。使用時間の目安は約30,000時間です。

[カスタム]：[明るさレベル]を手動で設定するときに選択します。[カスタム]を選択したときは、[一定モード]が選択可能になります。

5 [光源モード]を[カスタム]にしたときは、[明るさレベル]を選択し【↑】【↓】ボタンで明るさを設定します。

6 明るさを一定に保ちたいときは、[一定モード]を選択し[オン]にします。



- [一定モード]を[オン]にすると、[光源モード]と[明るさレベル]の変更ができなくなります。変更したい場合は[一定モード]を[オフ]にしてください。
- [一定モード]を[オフ]にすると、そのときの光源状態に応じて[明るさレベル]の値が変わります。
- [明るさレベル]の数値には誤差があります。
- 24時間以上連続して使用する場合、または定期的にダイレクトシャットダウンを使用する場合は、スケジュール機能で[光源キャリブレーション]を設定してください。設定しないと、明るさの一定モード機能が動作しません。

☞ 「スケジュール機能」 p.104

残り時間目安の見方

[一定モード]を[オン]にしたときは、残り時間目安が表示されます。残り時間目安は明るさを一定に保つことができる時間の目安です。



表示レベル	実際の残り時間
■■■■■	10,000時間以上
■■■■■■	8,000~9,999時間
■■■■■■■	6,000~7,999時間
■■■■■■■■	4,000~5,999時間
■■■■■■■■■	2,000~3,999時間
■■■■■■■■■■	0~1,999時間



[残り時間目安]には、実際の残り時間の下位桁を切り捨てた数値が表示されます。

明るさレベルと使用時間の関係

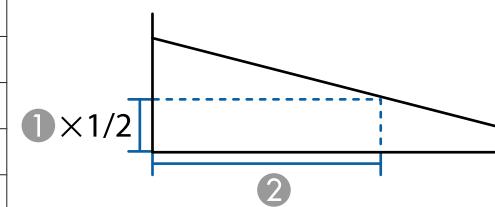
明るさレベルと使用時間との関係は次の通りです。

利用したい使用時間や投写画面の明るさに応じて設定してください。

一定モードがオフの場合

①：明るさレベル

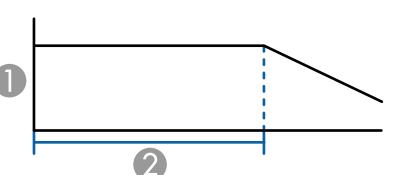
②：使用目安時間(光源の明るさが半減するまでの目安時間)

①	②	イメージ図
100%	20,000時間	
90%	36,000時間	
80%	41,000時間	
70%	43,000時間	
60%	46,000時間	
50%	57,000時間	
40%	75,000時間	
30%	103,000時間	

一定モードがオンの場合

①：明るさレベル

②：一定目安時間(光源の明るさを一定に保つことができる目安時間)

①	②	イメージ図
90%	7,000時間	
80%	15,000時間	
70%	25,000時間	
60%	35,000時間	
50%	47,000時間	

①	②	イメージ図
40%	66,000時間	
30%	95,000時間	



- 使用条件や使用環境によって、使用時間の目安に達しない場合があります。
- 目安時間は[明るさレベル]や[一定モード]の設定を変更せずに使用し続けた場合の目安であり、保証期間ではありません。
- 使用時間が20,000時間を超えた場合は、本機内部の部品交換が必要となる場合があります。
- [一定モード]が[オン]のときに、一定目安時間を超えて使用した場合、[一定モード]を[オフ]にしても[明るさレベル]の設定を高くすることはできません。

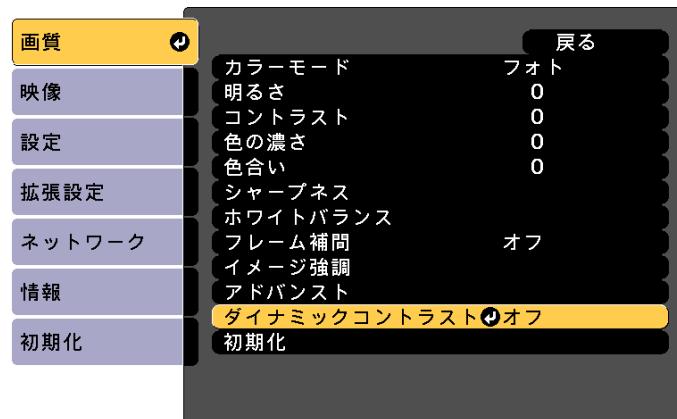
投写映像の光量を設定する

表示される映像の明るさに合わせて、光量を自動的に設定することで、奥行きと深みのある画像が楽しめます。



[カラー モード]が[ダイナミック]、[シネマ]のいずれかに設定されているときのみ、[ダイナミックコントラスト]の設定ができます。

- 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 【画質】から【ダイナミックコントラスト】を選択して【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定

【メニュー】: 終了

- [標準]または[高速]を選択し【↔】ボタンを押します。設定値はカラー モードごとに保存されます。
- 【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。

投写映像のアスペクト比を切り替える

入力信号の種類、縦横比、解像度に合わせて、投写映像のアスペクト比[▶]を切り替えます。

スクリーンタイプの設定により、選択できるアスペクトモードは異なります。

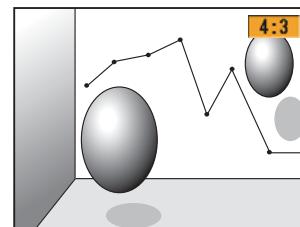


アスペクト比を切り替える前に、[スクリーンタイプ]を設定してください。

☞ 「スクリーン設定」 p.27

切り替え方法

リモコンの【アスペクト】ボタンを押すたびに画面上にアスペクトモード名が表示され、アスペクト比が切り替わります。



アスペクトモード	説明
オート	入力した信号の情報に基づき適切なアスペクト比で投写します。
ノーマル	入力した映像のアスペクト比のまま投写します。
4:3	4:3のアスペクト比で投写します。
16:9	16:9のアスペクト比で投写します。
フル	画面いっぱいに投写します。

アスペクトモード	説明
Hズーム	入力した映像のアスペクト比のまま横方向が画面いっぱいになるように投写します。画面からはみ出した分は投写されません。
Vズーム	入力した映像のアスペクト比のまま縦方向が画面いっぱいになるように投写します。画面からはみ出した分は投写されません。
リアル	入力した映像の解像度のまま画面の中央に投写します。画面からはみ出した分は投写されません。



- アスペクト比は環境設定メニューからも設定できます。
☞ [映像]-[アスペクト] p.120
- コンピューターの映像が欠けてすべてが投写できないときは、お使いのコンピューターの解像度に合わせて環境設定メニューの[入力解像度]を[ワイド]または[ノーマル]に設定してください。
☞ [映像] - [入力解像度] p.120

アスペクトモードは以下の表のように切り替わります。

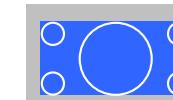
また、表内の画面図で次の色は表示されない領域を表します。

黒：スクリーンタイプの設定により映像が表示されない領域。

グレー：アスペクトモードの設定により映像が表示されない領域。

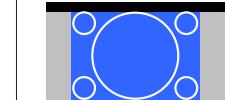
スクリーンタイプの設定：16:10

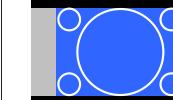
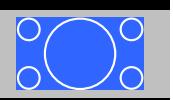
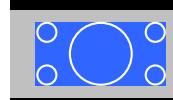
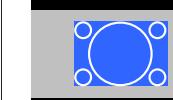
	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
オート/ノーマル			

	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
16:9			
フル			
Hズーム			
Vズーム			
リアル*			

* 入力信号の解像度によっては、イメージと異なる場合があります。

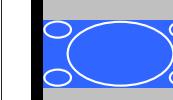
スクリーンタイプの設定：16:9

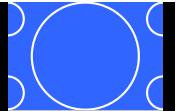
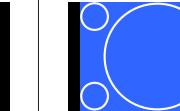
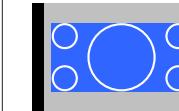
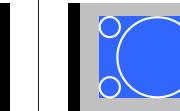
	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
オート/ノーマル			
フル			

	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
Hズーム			
Vズーム			
リアル*			

* 入力信号の解像度によっては、イメージと異なる場合があります。

スクリーンタイプの設定：4:3

	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
オート/ノーマル			
4:3			
16:9			
Hズーム			

	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
Vズーム			
リアル*			

* コンピューター映像と、HDMI入力端子/HDBaseT端子からの映像のみ。入力信号の解像度によっては、イメージと異なる場合があります。

画質を調整する

色相・彩度・明度の調整

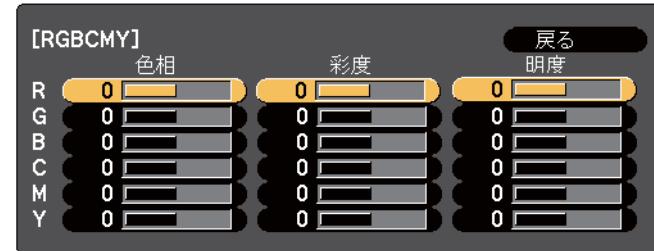
R(赤)、G(緑)、B(青)、C(シアン)、M(マゼンタ)、Y(イエロー)の6軸の[色相]([色み]) [彩度]([鮮やかさ]) [明度]([明るさ])をお好みに合わせて調整できます。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【画質】から【アドバンスト】を選択し【↔】ボタンを押します。



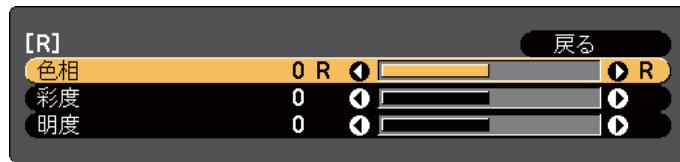
【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【●】: 決定 【メニュー】: 終了

- 3 【RGBCMY】を選択し【↔】ボタンを押します。
- 4 【▲】【▼】ボタンで調整する色を選択し【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【●】: 決定 【メニュー】: 終了

- 5 【▲】【▼】ボタンで調整する項目を選択し、【◀】【▶】ボタンで調整します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【◀▶】: 調整
 【初期値】: リセット 【○】: 切替

【◀▶】ボタンを押すたびに調整用の画面を切り替えられます。

6 補正を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。

ガンマの調整

接続する機器の違いにより生じる、中間調の明るさの違いを調整します。

設定方法は次の3つの方法があります。

- 補正值を選んで調整する
- 映像を見ながら調整する
- ガンマ調整グラフで調整する



静止画を投写して調整してください。動画では正しく調整できません。

補正值を選んで調整する

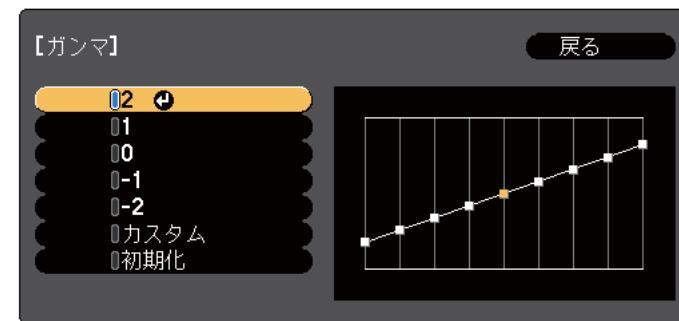
- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【画質】から【アドバンスト】を選択し【◀▶】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定
 【メニュー】: 終了

3 【ガンマ】を選択し【◀▶】ボタンを押します。

4 【▲】【▼】ボタンで補正值を選択し、【◀▶】ボタンで決定します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定
 【メニュー】: 終了

数値が大きいほど、映像の暗い部分が明るくなり、明るい部分は色の濃淡が小さくなります。
 数値を小さくすると、映像全体の明るさを抑えてメリハリのある映像になります。

[画質]メニューの[カラー モード]で**DICOM SIM**を選択したときは、投写サイズに応じた補正值を選択します。

- 投写サイズが150インチ以下：より小さい数値を選択します。
- 投写サイズが150インチ以上：より大きい数値を選択します。

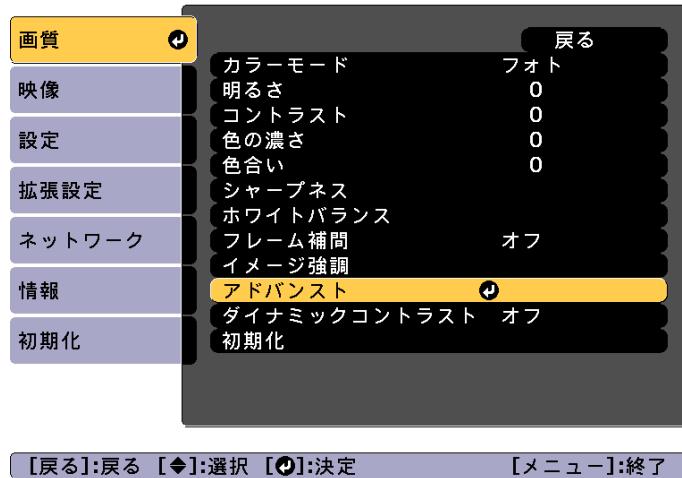


お使いの設置環境やスクリーンの仕様によっては、医用画像を正しく再現できない場合があります。

映像を見ながら調整する

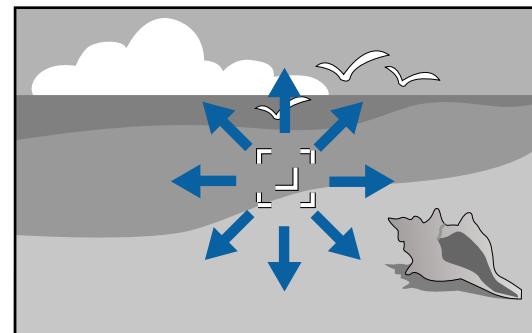
明るさを調整したい画像上のポイントを選択して、選択した階調のみを調整します。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 [画質]から[アドバンスト]を選択し【↔】ボタンを押します。

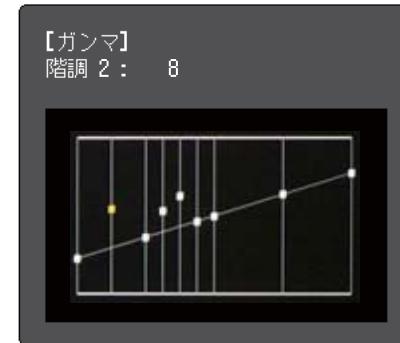


- 3 [ガンマ]を選択し【↔】ボタンを押します。

- 4 [カスタム]を選択して、【↔】ボタンで決定します。
- 5 [映像から調整する]を選択して、【↔】ボタンで決定します。
- 6 投写映像に表示されるカーソルを明るさを変更したい場所に移動させ、【↔】ボタンを押します。
【↔】を押すと、映像が点滅し調整対象の階調部分を確認できます。



- 7 【▲】【▼】ボタンで調整し、【↔】ボタンで決定します。



- 8** [調整を継続しますか?]と表示されますので、[はい]または[いいえ]を選択します。

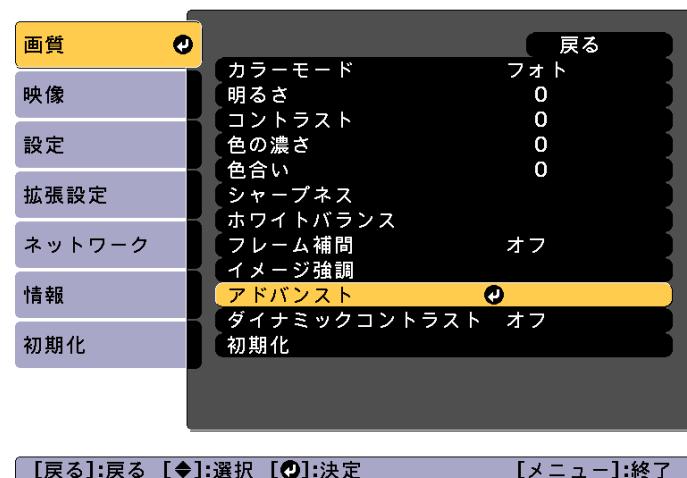
他の場所も調整するときは[はい]を選択し、手順6から行います。

ガンマ調整グラフで調整する

グラフ上の階調ポイントを選択して、調整します。

- 1** 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

- 2** 【画質】から【アドバンスト】を選択し【↔】ボタンを押します。



- 3** 【ガンマ】を選択し【↔】ボタンを押します。

- 4** 【カスタム】を選択して、【↔】ボタンで決定します。

- 5** 【グラフから調整する】を選択して、【↔】ボタンで決定します。

- 6** 【◀】【▶】ボタンで変更したい階調を選択して、【▲】【▼】ボタンで調整します。変更が終了したら【↔】ボタンで決定します。

【◀】【▶】ボタンで変更したい階調を選択すると、映像が点滅し調整対象の階調部分を確認できます。

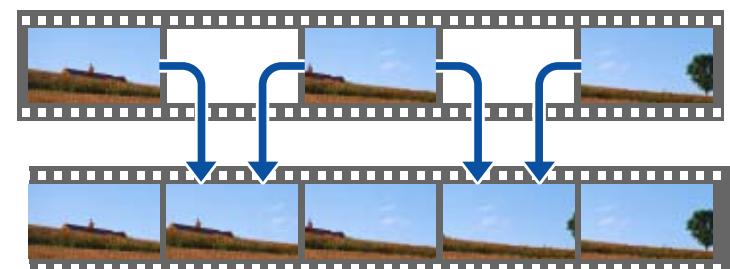


- 7** [調整を継続しますか?]と表示されますので、[はい]または[いいえ]を選択します。

他の階調も調整するときは[はい]を選択し、手順6から行います。

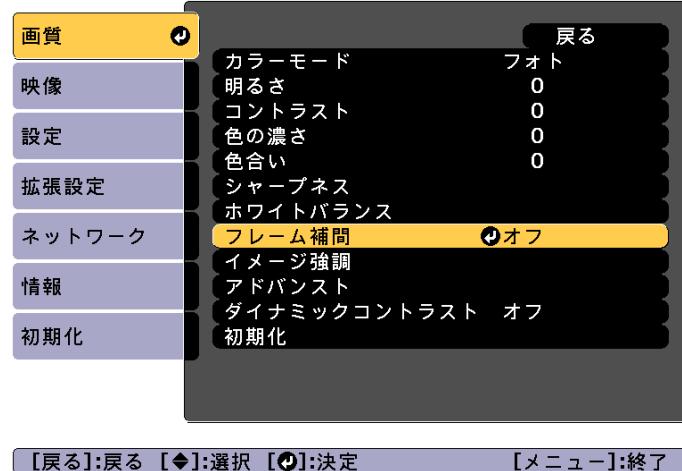
フレーム補間

前後のコマから中間のコマを自動生成し補間することで、滑らかな映像にします。速い動きのある映像など、コマ飛びのような動きのぎこちなさが解消されます。



1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 【画質】から【フレーム補間】を選択し【↔】ボタンを押します。



3 【弱】、【標準】、【強】から補間の加減を選択します。

設定変更後、ノイズなどが気になるときは、【オフ】に設定してください。



4 【メニュー】ボタンを押して、設定を終了します。

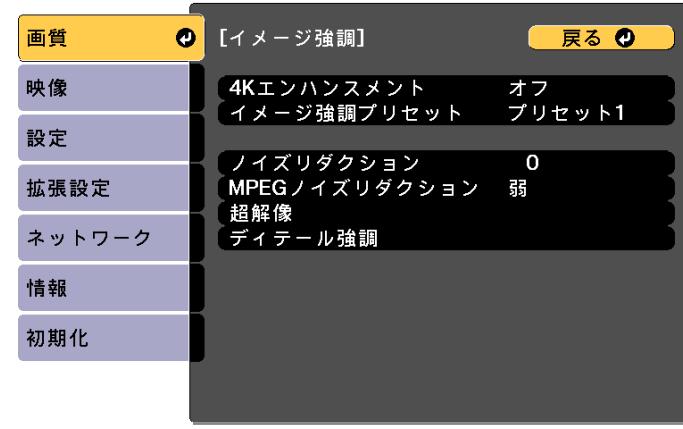
映像の解像感を調整する(イメージ強調)

[イメージ強調]で映像の解像感を調整すると、質感や素材感のあるくっきりとした映像を表現できます。

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 【画質】から【イメージ強調】を選択し【↔】ボタンを押します。

以下の画面が表示されます。



4Kエンハンスメント

4Kエンハンスメントは、1画素を0.5画素ずつ斜めにシフトさせることで解像度を2倍にして投写する機能です。

高解像度の映像信号を精細に投写します。

1 [イメージ強調]から[4Kエンハンスメント]を選択し【↔】ボタンを押します。

2 次のいずれかを選択し【↔】ボタンを押します。

- 【オフ】：4Kエンハンスメントは機能しません。本機のパネル解像度を超える信号が入力されたときは、本機のパネル解像度に合わせて映像を表示します。
- 【Full HD】：1080i/1080p/WUXGA以上 の解像度の信号が入力されたときに、4Kエンハンスメントが機能します。
- 【WUXGA+】：WUXGAを超える解像度の信号が入力されたときに、4Kエンハンスメントが機能します。高解像度の動画を投写するときは【イメージ強調プリセット】と合わせて使うと高精細な映像を投写できます。



- 複数台のプロジェクターを並べて投写するときは、それぞれの映像を一定にするために【オフ】にしてください。
- コンピューターなどのプレゼンテーション資料を投写するときは、【オフ】が適しています。【オフ】にすると、4Kエンハンスメントが機能する前の状態に戻ります。
- 【Full HD】または【WUXGA+】にすると、以下の機能の補正値は無効になります。
表示倍率、曲面投写補正、ポイント補正、コーナー投写補正

3 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

イメージ強調プリセット

あらかじめ用意された5つのプリセット値から投写映像に合わせて最適なものを選択します。

プリセット値には以下の項目の設定値が登録されています。

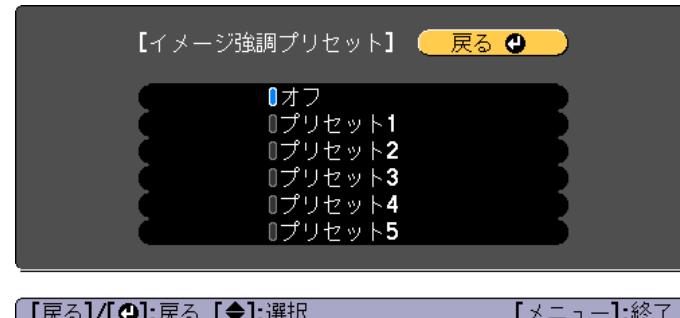
【ノイズリダクション】、【MPEGノイズリダクション】、【超解像】、【ディテール強調】

1 【イメージ強調】から【イメージ強調プリセット】を選択し【↔】ボタンを押します。

2 次のいずれかを選択し【↔】ボタンを押します。

【プリセット1】～【プリセット5】：あらかじめ登録されている設定値が映像に反映されます。

【オフ】：プリセットを使用しないときに選択します。



- 【プリセット1】～【プリセット5】を選択してから、それぞれの設定値を個別に微調整できます。調整後の設定値は上書きされます。
- 調整後の設定値は、【4Kエンハンスメント】が有効のときと無効のときとで別々に上書きされます。

3 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

ノイズリダクション

プログレッシブ信号やプログレッシブ変換されたインターレース信号入力時に、映像のざらつきを抑えソフトな画質にします。



- 以下の場合はノイズリダクションを設定できません。
- ・[映像処理]を[速い2]に設定しているとき
 - ・[4Kエンハンスメント]が有効のとき
 - ・WUXGAを超える解像度の信号が入力されているとき

1 [イメージ強調]から[ノイズリダクション]を選択し【↔】ボタンを押します。

2 【◀】【▶】ボタンで調整します。



【戻る】/[◀]/[▶]:戻る 【◆】:選択 【メニュー】:終了

3 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

MPEGノイズリダクション

MPEG動画を投写したときに輪郭に生じる点状のノイズやブロック状のノイズを抑えます。



- 以下の場合はMPEGノイズリダクションを設定できません。
- ・[4Kエンハンスメント]が有効のとき
 - ・WUXGAを超える解像度の信号が入力されているとき

1 [イメージ強調]から[MPEGノイズリダクション]を選択し【↔】ボタンを押します。

2 [弱]、[標準]、[強]からノイズを抑えるレベルを選択し、【↔】ボタンを押します。

[オフ]を選択すると[MPEGノイズリダクション]は機能しません。



【戻る】/[◀]/[▶]:戻る 【◆】:選択 【メニュー】:終了

3 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

超解像

映像信号の解像度を拡大して投写した際に発生するエッジ部分などのボケを低減し、よりハッキリとした映像で表示します。

1 [イメージ強調]から[超解像]を選択し【↔】ボタンを押します。

投写映像を調整する

- 2 【▲】【▼】ボタンで調整する項目を選択し、【◀】【▶】ボタンで調整します。

[高域]：+側に設定すると、髪の毛や衣服の模様などの細かい部分が強調されます。

[低域]：+側に設定すると、被写体全体の輪郭や背景などの粗い部分が強調され、くっきりとした映像になります。



映像によっては色の境目にハイライトが目立つ場合があります。気になるときは、設定値を小さく設定してください。

- 3 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

- 3 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

ディテール強調

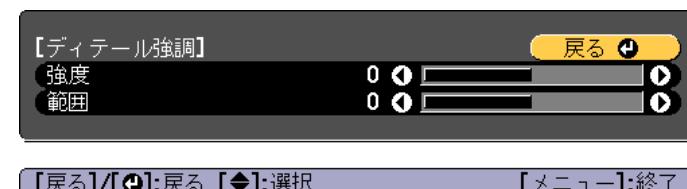
映像の細部の明暗差を強調し、質感や素材感を際立たせます。

- 1 [イメージ強調]から[ディテール強調]を選択し【↔】ボタンを押します。

- 2 【▲】【▼】ボタンで調整する項目を選択し、【◀】【▶】ボタンで調整します。

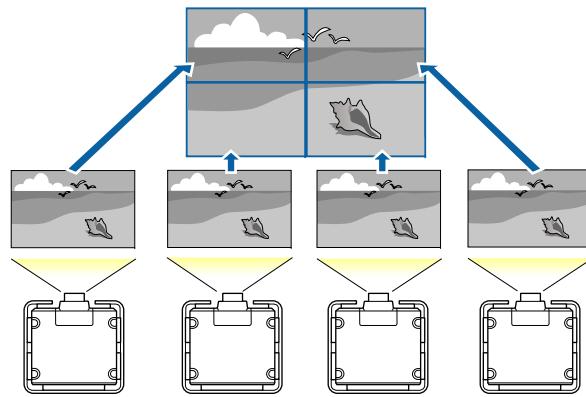
[強度]：値が大きいほど、明暗差がより強調されます。

[範囲]：値が大きいほど、広い範囲にディテール強調がかかります。



便利な機能

ここでは、マルチプロジェクション機能、2画面投写機能、メモリー機能、スケジュール機能、セキュリティー機能について説明しています。



最大で9台のプロジェクターを設置して、1つの大きな映像やワイドな映像を投写できます。

プロジェクター間の明るさや色合いの個体差を調整したり、つなぎ目を目立たなくできます。



- [4Kエンハンスメント]を[オフ]に設定してください。
- プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しませんので、フォーカス/ズーム/レンズシフトの設定は、映像を投写し始めてから20分以上たってから行うことをお勧めします。
- [幾何学歪み補正]の補正值が大きいと、投写映像を重ねたときに、映像の位置を合わせるのが困難になります。
- テストパターンを表示させると、映像機器を接続せずに投写状態を調整できます。
👉「テストパターンを表示する」[p.28](#)
- 拡大・縮小などの処理を加えずにそのまま表示できるドットバイドットの画像を使うと補正作業を簡単に行えます。

調整手順

オンラインで自動で調整する

基準となる1台のプロジェクター(マスタープロジェクター)を使って、投写するすべてのプロジェクターの配置(タイリング)と映像の調整(スクリーンマッチング)を自動で行います。

事前準備

- (1) ネットワークに接続する
 - すべてのプロジェクターとネットワークハブをLANケーブルで接続する。
 - すべてのプロジェクターの[DHCP]が[オン]になっている、またはIPアドレスが割り振られていることを確認する。
👉「ネットワーク」-[ネットワーク設定画面へ]-[有線LAN]-[IP設定][p.133](#)
- (2) マスタープロジェクターとリモコンにIDを設定する
👉「プロジェクターIDを設定する」[p.36](#)
- (3) [スリープモード]を[オフ]にする
👉「拡張設定」-[動作設定]-[スリープモード][p.123](#)

投写映像を個別に調整する

- (1) 映像のアスペクト比やサイズを揃える
 - 👉「スクリーン設定」[p.27](#)
 - 👉「投写映像のアスペクト比を切り替える」[p.70](#)
 - 👉「映像のサイズを調整する」[p.32](#)
- (2) 映像の向きと位置を調整する
 - 👉「設置設定」[p.26](#)
 - 👉「投写映像の位置調整（レンズシフト）」[p.29](#)

- (3) 映像のピントやゆがみを微調整する
 - ☛「ピントのズレを補正する」[p.33](#)
 - ☛「ポイント補正」[p.64](#)

複数の投写映像を組み合わせる

- (1) 映像の配置を設定する
 - ☛「タイリングを自動で構成する」[p.83](#)
- (2) 映像のつなぎ目を補正する
 - ☛「エッジブレンディング」[p.85](#)
 - ☛「黒レベル調整」[p.87](#)
- (3) 映像の明るさと色合いを統一する
 - ☛「スクリーンマッチング」[p.90](#)
- (4) 映像を切り出して1つの大きな映像にする
 - ☛「映像を切り出して表示する」[p.93](#)

オフラインで手動で調整する

投写するすべてのプロジェクターの映像を手動で調整します。

事前準備

すべてのプロジェクターとリモコンにIDを設定する。
☛「プロジェクターIDを設定する」[p.36](#)

投写映像を個別に調整する

- (1) 映像のアスペクト比やサイズを揃える
 - ☛「スクリーン設定」[p.27](#)
 - ☛「投写映像のアスペクト比を切り替える」[p.70](#)
 - ☛「映像のサイズを調整する」[p.32](#)

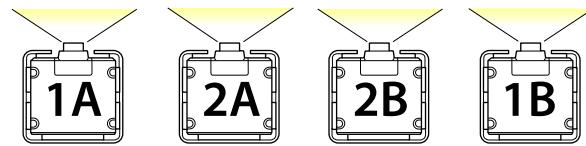
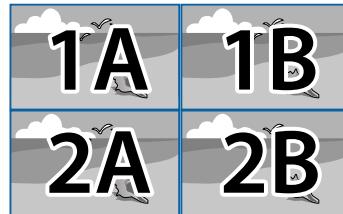
- (2) 映像の向きと位置を調整する
 - ☛「設置設定」[p.26](#)
 - ☛「投写映像の位置調整（レンズシフト）」[p.29](#)
- (3) 映像のピントやゆがみを微調整する
 - ☛「ピントのズレを補正する」[p.33](#)
 - ☛「ポイント補正」[p.64](#)

複数の投写映像を組み合わせる

- (1) 映像の配置を設定する
 - ☛「タイリングを手動で構成する」[p.84](#)
- (2) 映像のつなぎ目を補正する
 - ☛「エッジブレンディング」[p.85](#)
 - ☛「黒レベル調整」[p.87](#)
- (3) 映像の明るさと色合いを統一する
 - ☛「カラーマッチング」[p.92](#)
- (4) 映像を切り出して1つの大きな映像にする
 - ☛「映像を切り出して表示する」[p.93](#)

タイリング

複数台のプロジェクターを並べて投写しているときに、各プロジェクターの配置を設定します。



タイミングを実行する前に、投写映像を矩形になるように配置してください。また、映像のサイズとフォーカスを調整してください。

- ☛ 「映像のサイズを調整する」 p.32
- ☛ 「ピントのズレを補正する」 p.33

タイミングを自動で構成する

使用するプロジェクターの配置を自動で設定します。マスタープロジェクターのみを操作して設定できます。

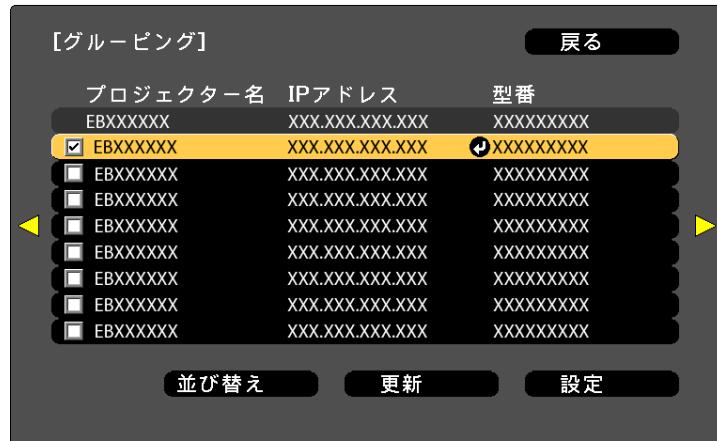


本体前面の内蔵カメラを使用して配置設定を行います。カメラや投写映像を遮らないでください。

- 1** 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2** 【拡張設定】から【マルチプロジェクション】を選び【↔】ボタンを押します。
- 3** 【グルーピング】を選び【↔】ボタンを押します。

4

タイミングを構成するプロジェクターを選び【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定 【メニュー】: 終了

- (1) 使用するすべてのプロジェクターにチェックを入れます。
一覧を更新するときは【更新】を選択します。順番を並び替えるときは【並び替え】を選択します。
- (2) 【設定】を選び【↔】ボタンを押します。

5

【タイミング】を選び【↔】ボタンを押します。

6

【タイミング】を選択します。【オート】を選択し、【戻る】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【○】: 決定 【メニュー】: 終了

7 [配置設定] を選び【↔】ボタンを押します。

映像が自動で配置されます。

「配置設定されたプロジェクターにIDを割り付けます。よろしいですか？」とメッセージが表示されたら[はい]を選択します。
設定が完了したら、以下の画面が表示されます。



 映像がうまく配置されなかったときは、手順6で[マニュアル]を選択し、以下の手順で手動で配置してください。

- (1) [画面構成]で[タテ台数]と[ヨコ台数]を設定します。
- (2) [設定]を選び【↔】ボタンを押します。
- (3) [配置設定]で配置するプロジェクターを選択し、【↔】ボタンを押します。
- (4) 配置する位置を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (5) (3)(4)を繰り返し、すべてのプロジェクターの配置を設定します。
- (6) [設定]を選び【↔】ボタンを押します。

8 映像信号を入力し映像を表示します。

☞ 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 p.52
タイリングが完了したら、投写映像の位置ずれや色合いを調整します。
☞ 「投写映像を個別に調整する」 p.81



- タイリング完了後は、プロジェクターのIPアドレスやプロジェクター名を変更しないでください。投写映像の自動調整ができなくなります。
- タイリング完了後は、1つのリモコンで各プロジェクターの設定ができます。設定するプロジェクターのプロジェクターIDをリモコンで選択してください。プロジェクターIDは[タイリング]-[配置情報]で確認できます。
☞ 「リモコンIDを設定する」 p.37

タイリングを手動で構成する

使用するプロジェクターの映像を、それぞれのプロジェクターで手動で配置します。

1 投写中に[メニュー]ボタンを押します。

2 [拡張設定]から[マルチプロジェクト機能]を選び【↔】ボタンを押します。

3 [タイリング]を選び【↔】ボタンを押します。

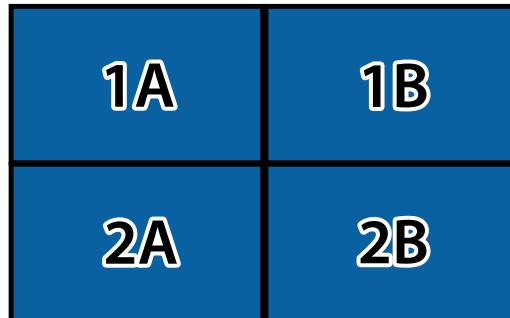
4 [画面構成]を選び【↔】ボタンを押します。

- (1) [タテ台数]、[ヨコ台数]でプロジェクターの台数を設定します。
- (2) [設定]を選び【↔】ボタンを押します。

5 タイリングを構成する各プロジェクターで手順1から手順4を行います。

6 [配置設定] を選び【↔】ボタンを押します。

- (1) [タテ順番]、[ヨコ順番]で投写位置を設定します。
 [タテ順番]：上端の画面から下の画面へ向かって[1]、[2]、[3]の順に配置します。
 [ヨコ順番]：左端の画面から右の画面へ向かって[A]、[B]、[C]の順に配置します。



- (2) [設定] を選び【↔】ボタンを押します。

7 各プロジェクターで手順6を行います。

8 映像信号を入力し映像を表示します。

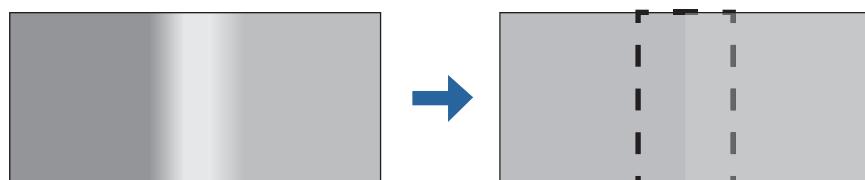
☛ 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 p.52

タイミングが完了したら、投写映像の位置ずれや色合いを調整します。

☛ 「投写映像を個別に調整する」 p.81

エッジブレンディング

映像のつなぎ目を目立たなくします。



補正の精度を高めるために、エッジブレンディングを実行する前に、リモコンの【カラー モード】ボタンを押して【カラー モード】を【マルチプロジェクション】に設定してください。

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 【拡張設定】から【マルチプロジェクション】を選びます。

3 【エッジブレンディング】を選び、【↔】ボタンを押します。

以下の画面が表示されます。



【戻る】/[◀]:戻る

【メニュー】:終了

サブメニュー	機能
エッジブレンディング	[オン]に設定すると、本機のエッジブレンディング機能が有効になります。マルチスクリーンで投写しないときは、[オフ]に設定します。

サブメニュー	機能
エッジ位置(上)/エッジ位置(下)/エッジ位置(右)/エッジ位置(左)	[ブレンディング] : [オン]に設定すると、設定中の方向に対してエッジブレンディング機能が有効になり、ブレンド範囲にグラデーションをかけます。 [ブレンド開始位置] : ブレンディングの開始位置を赤線で表示し、1画素単位で調整します。 [ブレンド範囲] : グラデーションをかける範囲を調整します。1画素単位での調整が可能です。範囲の最大はプロジェクターの解像度の45%です。
ブレンド曲線	グラデーションのかけ方を3通りの中から選択できます。
マーカー	[オン]に設定すると、エッジブレンディングの設定範囲にマーカーが表示されます。
パターン表示	[オン]に設定すると、エッジブレンディングの設定範囲の位置を合わせるためのパターンが表示されます。
マーカー色	マーカーの色の組み合わせを3つおりの中から選択できます。

4 エッジブレンディングを有効にします。

- (1) [エッジブレンディング]を選び、【➡】ボタンを押します。
- (2) [オン]を選び、【➡】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押します。

5 [マーカー]を[オン]にします。

- (1) [マーカー]を選び、【➡】ボタンを押します。
- (2) [オン]を選び、【➡】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押します。



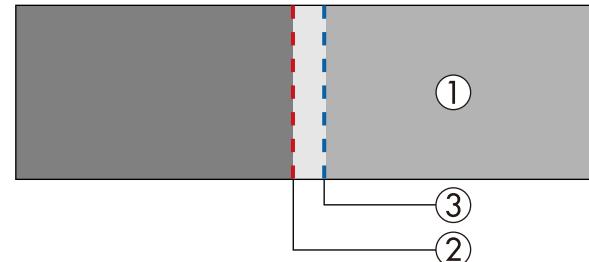
マーカーが見えにくいときは、[マーカー色]で色を変更できます。

6 [パターン表示]を[オン]にします。

- (1) [パターン表示]を選び、【➡】ボタンを押します。
- (2) [オン]を選び、【➡】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押します。

7 映像が重なり合っている箇所に合わせて、エッジ位置を設定します。

ここでは、下図①の画面を設定する場合を例に説明します。



上図①では、投写映像の左側が重なり合うので、[エッジ位置(左)]を調整します。

- (1) [エッジ位置(左)]を選び、【➡】ボタンを押します。
- (2) [ブレンディング]を選び、【➡】ボタンを押します。
- (3) [オン]を選び、【➡】ボタンを押します。
- (4) 【戻る】ボタンを押します。
- (5) [ブレンド開始位置]でブレンディングの開始位置を映像の端②に合わせます。
- (6) 【戻る】ボタンを押します。

- (7) [ブレンド範囲]でグラデーションをかける範囲③を調整します。
映像の重なり合う範囲とマーカーの位置が等しくなる値が最適になります。
- (8) 【戻る】ボタンを押します。

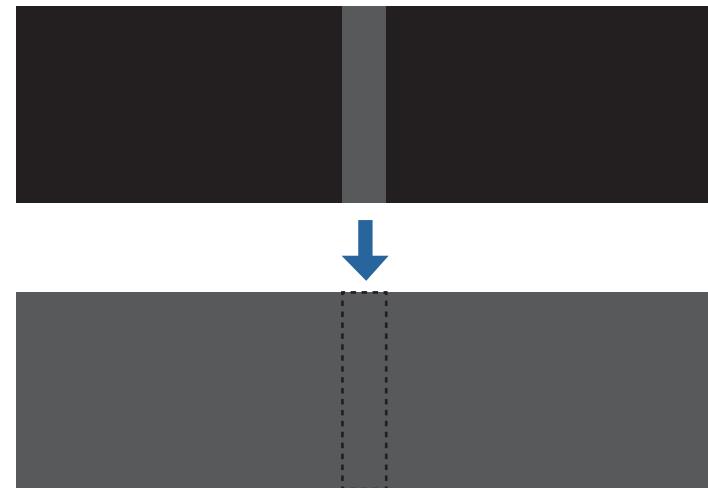
8 [ブレンド曲線]を設定します。

- (1) [ブレンド曲線]を選び、【↔】ボタンを押します。
- (2) グラデーションのかけ方を[1]～[3]から選び、【↔】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押します。

9 設定が終わったら、[マーカー]と[パターン表示]を[オフ]にして終了します。

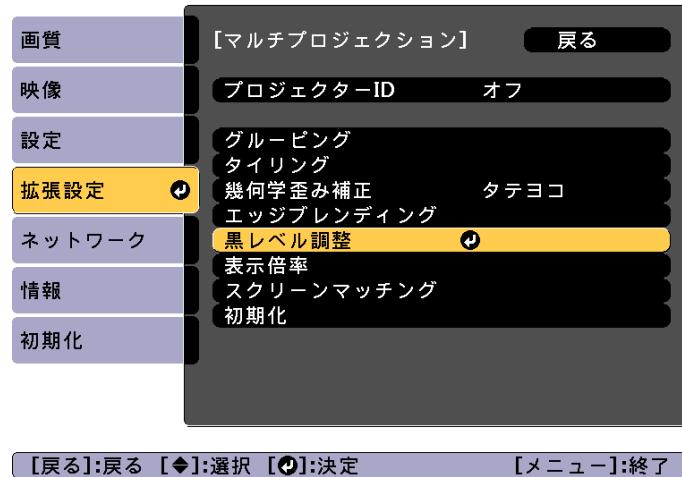
黒レベル調整

黒色を表示したときに、映像が重なった箇所だけ明るく目立つ場合があります。黒レベル調整は、映像が重なっていない箇所の明るさや色合いを、重なった箇所に合わせ、目立たなくする機能です。

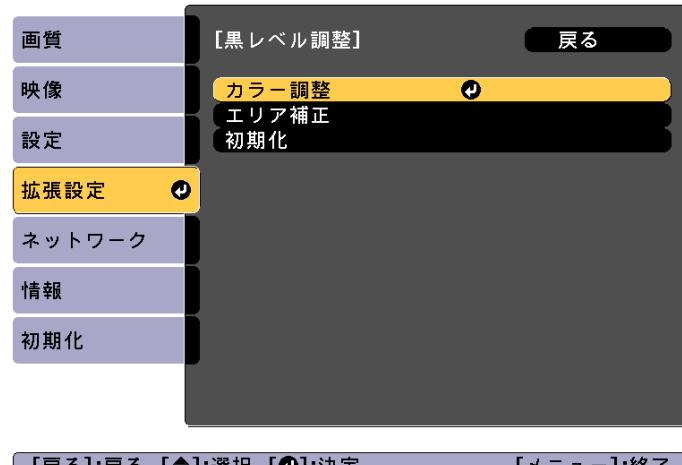


- テストパターン表示中は、黒レベル調整はできません。
- [幾何学歪み補正]の補正值が大きいときは、正しく調整できない場合があります。
- 黒レベル調整を行っても、映像が重なり合っている箇所やその他の箇所で、明るさや色合いが異なる場合があります。
- [エッジ位置(上)]/[エッジ位置(下)]/[エッジ位置(右)]/[エッジ位置(左)]の設定を変更すると、黒レベル調整の調整値は初期値に戻ります。
☞ 「エッジブレンディング」 p.85
- スクリーンマッチングの自動調整を開始すると、カラー調整の設定が自動で補正されます。
☞ 「複数のプロジェクターの明るさや色合いを自動で補正する」 p.91

- 1** [マルチプロジェクト機能]から[黒レベル調整]を選び、【↔】ボタンを押します。

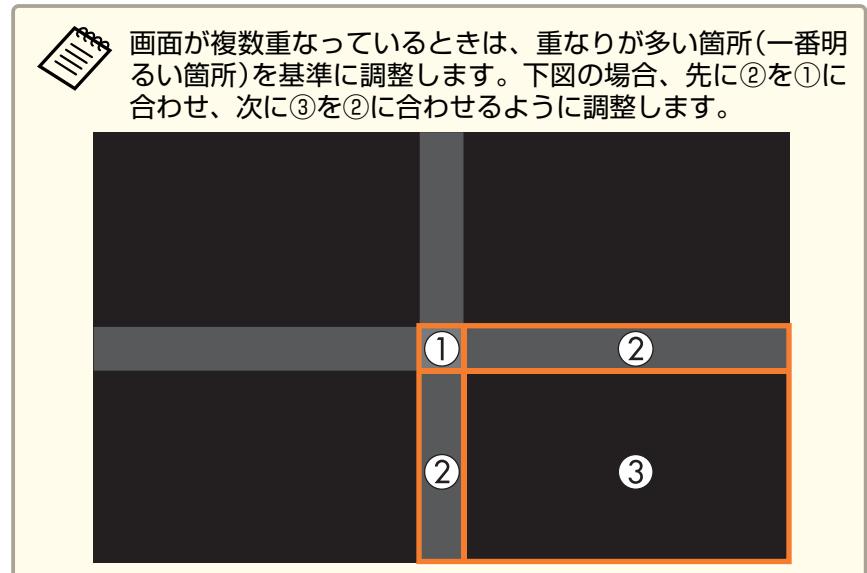


- 2** [カラー調整]を選び、【↔】ボタンを押します。



[エッジ位置(上)]/[エッジ位置(下)]/[エッジ位置(右)]/[エッジ位置(左)]の設定に合わせて領域が表示されます。

- 3** 調整する箇所を選び、【↔】ボタンを押します。
選択している箇所はオレンジ色で表示されます。



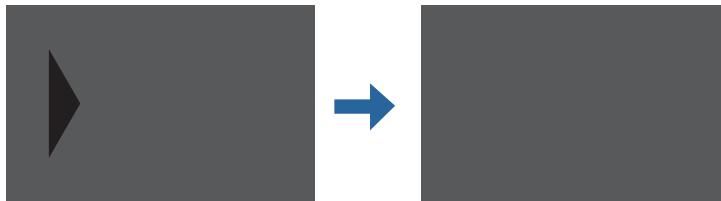
- 4** 黒の色合いや明るさを調整します。



- 5** 手順3,4を繰り返して、必要な箇所をすべて調整します。
- 6** 調整を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。

エリア補正

黒レベル調整後、色合いが同じにならない箇所がある場合は、[エリア補正]で個別に調整します。



- [黒レベル調整]から[エリア補正]を選び、[↔]ボタンを押します。



- [調整開始]を選び、[↔]ボタンを押します。



映像が重なっている箇所を示す境界線が表示されます。
境界線は[エッジ位置(上)]/[エッジ位置(下)]/[エッジ位置(右)]/
[エッジ位置(左)]の設定に合わせて表示されます。

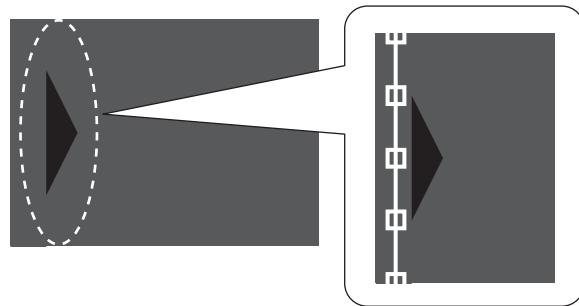
- [▲][▼][◀][▶]ボタンで調整する箇所の境界線を選択します。

選択している線はオレンジ色で表示されます。



- [↔]ボタンを押して決定します。

調整する範囲を設定するポイントが表示されます。
1つの辺に表示されるポイントの数は手順8の画面の[ポイント]で
変更できます。



続けて他のポイントを移動する場合は、【戻る】ボタンを押して手順12に戻り、手順12、13を行います。

他の境界線を調整するときは、手順9の境界線を選択する画面が表示されるまで【戻る】ボタンを押します。



【黒レベル調整】を初期値に戻すときは、【戻る】ボタンを押して手順7の画面に戻り、【初期化】を選んで【↔】ボタンを押します。

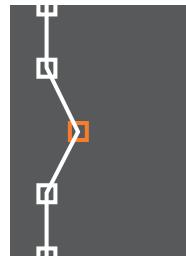
- 5 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで境界線の位置を調整し、【↔】ボタンを押します。

- 6 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで移動するポイントを選択し、【↔】ボタンを押します。

選択しているポイントはオレンジ色で表示されます。



- 7 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンでポイントを移動します。



- 8 調整を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。

スクリーンマッチング

複数のプロジェクターの色合いや明るさを補正します。

プロジェクターがネットワークにつながっているときは、一番暗いプロジェクターを基準にして、複数のプロジェクターの色合いや明るさを自動調整します。

プロジェクターがネットワークにつながっていないときや、自動調整がうまくいかないときは、すべてのプロジェクターの色合いや明るさを手動で調整します。



- スクリーンマッチングは、プロジェクターの電源オンまたはシャッター解除から20分以上たってから行なうことをお勧めします。
- 補正の精度を高めるために、映像投写時の部屋の明るさよりも明るさを落として補正することをお勧めします。
- 補正を開始する前に、マスタープロジェクターで以下を行ってください。
 - リモコンの【カラーモード】ボタンを押して、【カラーモード】を【マルチプロジェクション】に設定する。
 - リモコンの【シャッター】ボタンを押して、シャッターを解除する。
 - 必要に応じて、画質メニューの以下の項目を調整する。
明るさ、コントラスト、色の濃さ、色合い、ホワイトバランス、アドバンスト
 ➔ 「画質メニュー」 p.118
 - 投写映像の明るさを設定する。
 - ➔ 「明るさを設定する」 p.66
- 光源の経時変化によりプロジェクターごとの明るさのばらつきが大きくなったときは、再度スクリーンマッチングを行なってください。
- スケジュール機能を使うと、設定した周期で自動的に色合いや明るさのばらつきを補正できます。
 ➔ 「スケジュール機能」 p.104
- スクリーンマッチングがうまくいかないときは以下をご覧ください。
 ➔ 「自動補正がうまくできない」 p.169

自動調整機能の動作条件

スクリーンマッチングの自動調整機能は以下の条件を満たすときに有効です。

- スクリーンの表面にそりやゆがみがなく、平らである
- 拡散型のホワイトマットスクリーンを使用している
- 投写サイズが100インチから300インチである

- タイリング後の投写映像が矩形になっている
- すべての投写映像が隙間なく並んでいる(または映像の一部が重なっている)
- 本機が投写面に対して平行に設置されている
- エッジブレンディングでのブレンド幅が15~45%である



- 以下のレンズを使用しているときは、自動調整が機能しません。
ELPLR05、ELPLL09、ELPLL10
- 自動調整後、一部のレンズでレンズシフトの調整がうまくいかない場合があります。
 ➔ 「投写映像の位置調整（レンズシフト）」 p.29

複数のプロジェクターの明るさや色合いを自動で補正する

配置した映像の明るさや色合いを、一番暗いプロジェクターに合わせて自動で補正します。

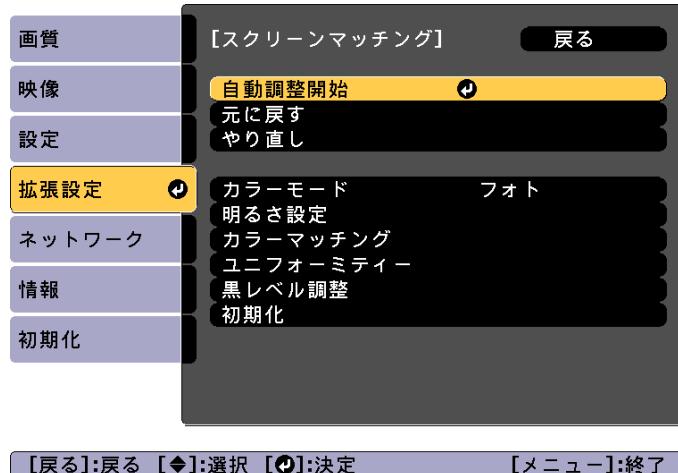


- 自動調整を開始する前に以下を確認してください。
 - プロジェクターがネットワークにつながっていること
 - プロジェクターの【配置設定】が設定済みであること
 - すべてのプロジェクターの【明るさレベル】が最大値であること
 ➔ 【設定】 - 【明るさ設定】 - 【光源モード】、【明るさレベル】 p.122
- 本体前面の内蔵カメラを使用して自動調整を行います。カメラや投写映像を遮らないでください。
- 自動調整にかかる時間はプロジェクターの配置と台数によって異なり、最大で約17分かかります。
- 明るさ設定、黒レベル調整([カラー調整]のみ)の設定を自動で補正します。
- 自動調整後、ユニフォーミティーとカラーマッチングは初期値に戻ります。

マルチプロジェクト機能

- 1** [マルチプロジェクト]から[スクリーンマッチング]を選び、
【↔】ボタンを押します。

- 2** [自動調整開始]を選び、【↔】ボタンを押します。



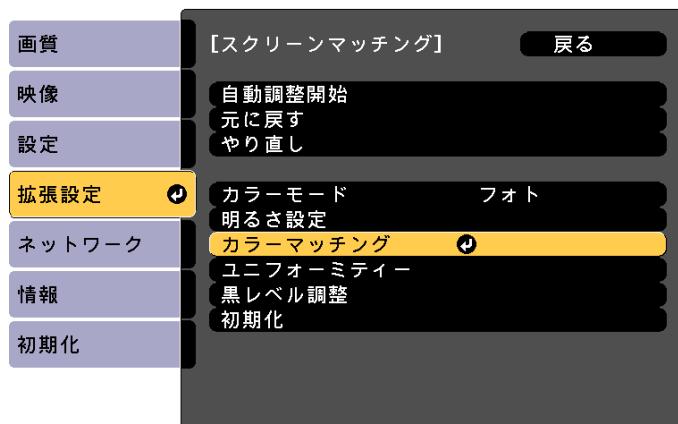
調整パターンが表示され、補正が開始されます。補正前の投写映像が表示されたら終了です。

- エラーが出た場合は以下をご覧ください。
「自動補正がうまくできない」 p.169
- 自動調整開始前の状態に戻すときは「元に戻す」を選択してください。「元に戻す」を選択した後で「やり直し」を選択すると、自動調整後の状態に戻ります。
- [スクリーンマッチング]を初期値に戻すときは、「初期化」を選択してください。

プロジェクターがネットワークにつながっていないときや、自動調整後にさらに手動で調整したいときは、すべてのプロジェクターで次の手順を実施してください。

- 1** [マルチプロジェクト]から[スクリーンマッチング]を選び、
【↔】ボタンを押します。

- 2** [カラーマッチング]を選び、【↔】ボタンを押します。



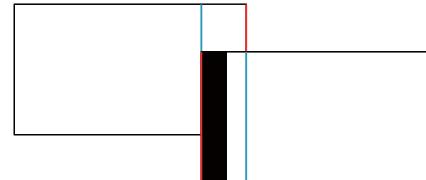
カラーマッチング

全白から全黒の間で階調ごとに色味と明るさを調整します。

以下の画面が表示されます。



映像の端を確認しやすいように、重なった範囲の半分が黒表示になります。



調整レベル：白 - グレー - 黒まで8つのレベルがあります。それぞれのレベルに対して調整を行います。

赤、緑、青：各色の色味を調整します。

明るさ：明るさを調整します。



【↔】を押すたびに、投写映像/調整用画面が切り替わります。

3 [調整レベル]を選択し、【◀】【▶】ボタンで調整レベルを設定します。

4 [赤][緑][青]のいずれかを選択し、【◀】【▶】ボタンで色味を調整します。

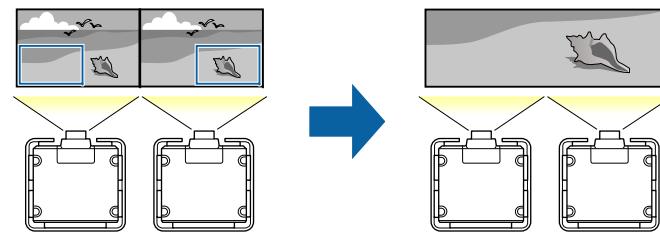
5 [明るさ]を選択し、【◀】【▶】ボタンで明るさを調整します。

6 手順3に戻り、それぞれのレベルで調整を行います。

7 【戻る】ボタンを押して、前の画面に戻ります。

映像を切り出して表示する

投写中の映像を部分的に切り出して表示します。他のプロジェクターの投写映像と合わせて、1つの大きな映像を作ります。



1 映像を投写し、【メニュー】ボタンを押します。

2 [拡張設定]から[マルチプロジェクション]を選びます。



表示倍率は、[映像]の[表示倍率]からも設定できます。

3 [表示倍率]を選び【↔】ボタンを押します。

4 [表示倍率]を有効にします。

(1) [表示倍率]を選択し、【↔】ボタンを押します。

- (2) [オート]、[マニュアル]のいずれかを選び、【↔】ボタンを押します。
[オート]：エッジブレンディングとタイリングの調整値に合わせて、自動で切り出し範囲を調整します。手順6以降の作業は不要です。
[マニュアル]：切り出し範囲を手動で調整します。
- (3) 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。



切り出し範囲の自動調整がうまくいかないときは、アスペクトを調整して再度[オート]を選択してください。

➡ 「投写映像のアスペクト比を切り替える」 p.70

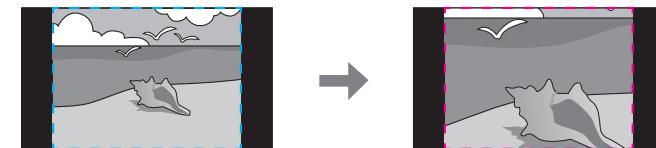
5 [表示倍率モード]を設定します。

- (1) [表示倍率モード]を選択し、【↔】ボタンを押します。

- (2) [ズーム表示]、[フル表示]のいずれかを選び、【↔】ボタンを押します。

[ズーム表示]：現在表示している映像のサイズを基準にして調整します。

拡大

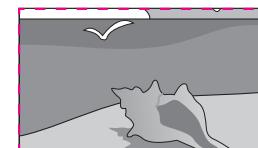


移動

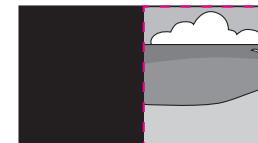


[フル表示]：プロジェクターのパネルサイズ(映像を表示できる最大領域)を基準にして調整します。

拡大



移動



- (3) 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

6 表示倍率を調整します。

【▲】【▼】ボタンで調整方法を選択し、【◀】【▶】ボタンで調整します。

[-] [+] : 垂直方向、水平方向同時に映像を拡大/縮小します。

[タテ倍率] : 垂直方向に映像を拡大/縮小します。

[ヨコ倍率] : 水平方向に映像を拡大/縮小します。

7 切り出し範囲を調整します。

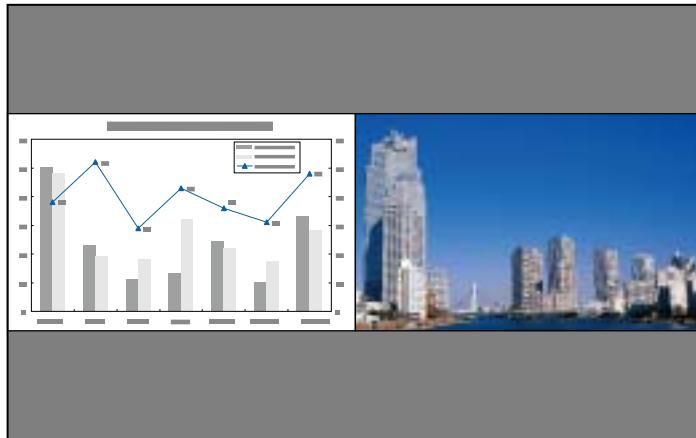
- (1) [切り出し調整]を選択し、【➡】ボタンを押します。
[切り出し範囲]を選択すると、本機が投写する画像の範囲と座標を表示します。
- (2) 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで映像をスクロールします。
画面を見ながら、それぞれの映像の座標やサイズを調整します。
- (3) 【メニュー】ボタンを押して終了します。



[切り出し範囲]から、映像全体に対する切り出し後の表示範囲を確認できます。

2種類の映像を同時に投写する(2画面)

2つの入力ソースからの映像を、1つのスクリーンの左右に同時に投写できます。



2画面で投写できる入力ソース

2画面で投写できる入力ソースの組み合わせは以下の通りです。

左画面 ソース	右画面ソース						
	HDMI	HDBas eT	DVI-D	SDI	コン ピュー ター	BNC	LAN
HDMI	-	✓	✓	✓	✓	✓	✓
HDBaseT	✓	-	✓	✓	✓	✓	✓
DVI-D	✓	✓	-	✓	✓	✓	✓
SDI	✓	✓	✓	-	-	-	-
コン ピュー ター	✓	✓	✓	-	-	-	-
BNC	✓	✓	✓	-	-	-	-
LAN	✓	✓	✓	-	-	-	-

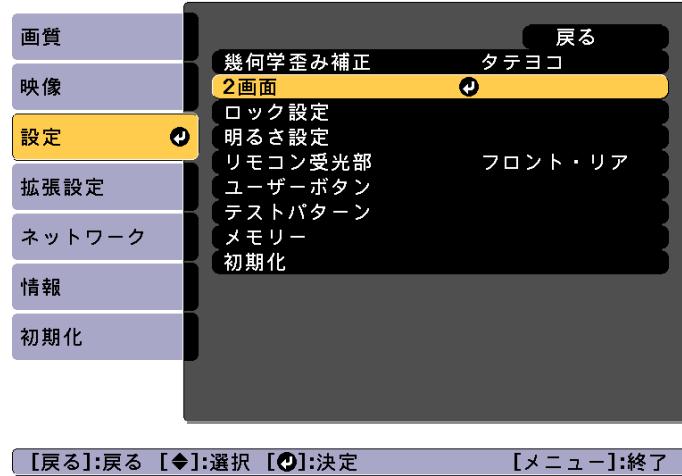


- WUXGAを超える信号には対応していません。
 - [4Kエンハンスメント]が有効のときはメッセージが表示されます。[はい]を選択し、[4Kエンハンスメント]を無効にしてください。
- ☞ [画質] - [イメージ強調] - [4Kエンハンスメント] [p.118](#)

操作方法

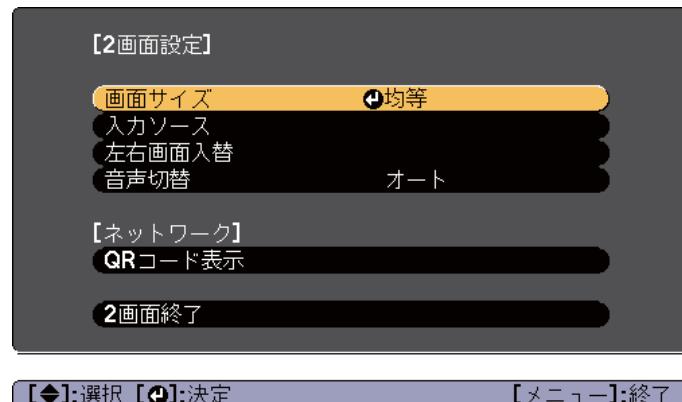
2画面で投写する

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【設定】から【2画面】を選択します。



投写している入力ソースの映像が左画面に投写されます。

- 3** 【メニュー】ボタンを押します。
2画面設定画面が表示されます。



- 4** [入力ソース]を選択して【↔】ボタンを押します。

- 5** [左画面]、[右画面]でそれぞれ投写する入力ソースを選択します。



- 以下の方針でも同様の操作を行えます。
- ☞ 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 p.52
 - ☞ 「目的の映像に切り替える」 p.53

- 6** [実行]を選択して【↔】ボタンを押します。
2画面で投写中に各画面の入力ソースを切り替えるときは、手順2から始めます。

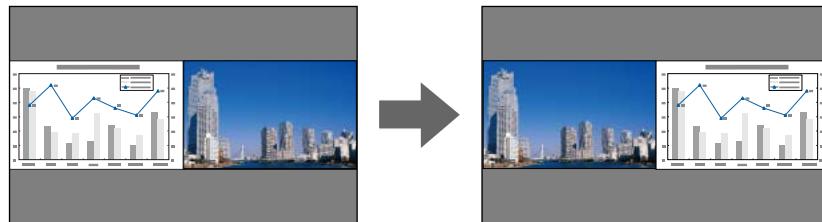
左画面/右画面を入れ替える

投写映像を左右で入れ替えるときは、以下の操作を行います。

- 1** 2画面で投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 [左右画面入替]を選択して【↔】ボタンを押します。

投写映像の左右が入れ替わります。



左画面/右画面の画面サイズを切り替える

1 2画面で投写中に【メニュー】ボタンを押します。

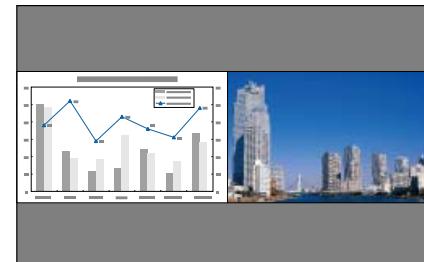
2 【画面サイズ】を選択して【↔】ボタンを押します。

3 表示したい画面サイズを選択して【↔】ボタンを押します。

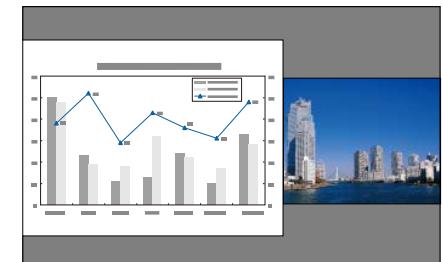


画面サイズ設定後の投写イメージは以下のとおりです。

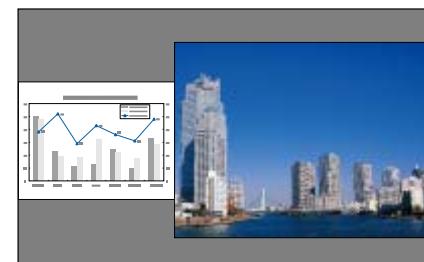
[均等]



[左拡大]



[右拡大]



- ・左画面、右画面の両方を同時に拡大することはできません。
- ・片方の画面を拡大したときは、もう片方の画面は縮小されます。
- ・入力している映像信号によっては、[均等]に設定しても左右の画面が同じサイズに見えない場合があります。

2画面を終了する

2画面を終了するときは、以下のいずれかの操作を行います。

- ・【戻る】ボタンを押す。
- ・2画面設定画面で[2画面終了]を選択する。  p.96

2画面で投写中の制限事項

操作に関する制限事項

2画面で投写中は、以下の操作はできません。

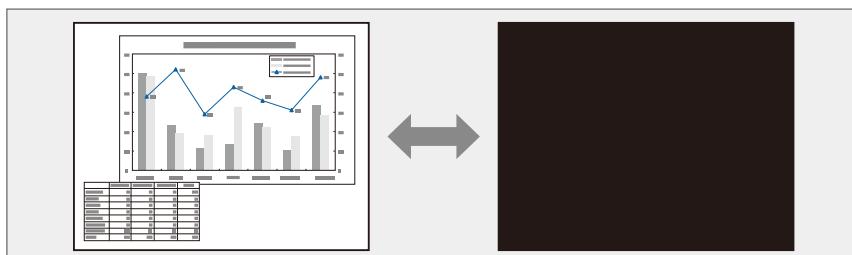
- ・環境設定メニューの設定
- ・アスペクトモードの切り替え
- ・リモコンの【ユーザー1】ボタン、【ユーザー2】ボタン、【ユーザー3】ボタンでの操作
- ・ヘルプを表示できるのは、映像信号が入力されていないとき、または異常・警告通知が表示されたときのみです。
- ・ユーザー口ゴは表示されません。

映像に関する制限事項

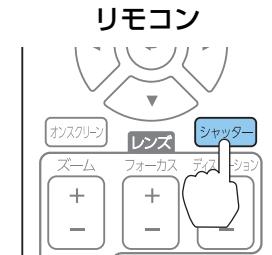
- ・右画面の映像には、[画質]メニューの初期値が適用されます。ただし、[カラー モード]、[色温度]、[超解像]は、左画面で投写している映像の設定値が適用されます。
- ・[ダイナミックコントラスト]、[フレーム補間]は機能しません。

映像を一時的に消す(シャッター)

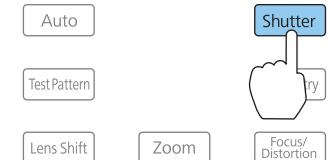
スクリーンの映像を消して聴衆を話に集中させたいときや、ファイルの切り替え操作などを見せたくないときに使います。



【シャッター】ボタンを押すたびにシャッターが実行/解除されます。



操作パネル



- ・映像を遮断/解除時にフェードアウト/フェードインさせたいときは、[フェードアウト]、[フェードイン]で、お好みの秒数を設定してください。
 - [拡張設定] - [動作設定] - [シャッター設定] - [フェードアウト]、[フェードイン] [p.123](#)
- ・シャッターを実行してから何も操作しない状態が約2時間続くと、自動的に電源がオフになります。電源をオフにしたくないときは、[シャッタータイマー]を[オフ]に設定します。
 - [拡張設定] - [動作設定] - [シャッター設定] - [シャッタータイマー] [p.123](#)
- ・環境設定メニューの[シャッター解除]を[シャッター]に設定すると、シャッターを実行したまま以下の操作ができます。
 - リモコンの入力切り替えボタンで入力ソースを切り替える。
 - 通信コマンドを使ってコンピューターから本機を制御する。
 - [拡張設定] - [動作設定] - [シャッター設定] - [シャッター解除] [p.123](#)

【シャッター】ボタンを押す、またはシャッターをオフにするコマンドを送信したときのみシャッターが解除されます。
- ・動画の場合は、シャッターの中も映像は再生されていますので、遮断したときの場面からは再開できません。

映像を停止させる(静止)

静止を実行したときの画面が投写されたままになりますので、動画の一場面を静止画で投写できます。また、ファイル切り替えの前に静止を実行すれば、操作内容を投写せずに操作できます。

リモコンの【静止】ボタンを押すたびに静止が実行/解除されます。



- 動画の場合は、停止している間も映像は進んでいますので、静止したときの場面からは再開できません。
- 環境設定メニュー・ヘルプを表示中に【静止】ボタンを押すと、表示中のメニュー・ヘルプは消去されます。

ユーザーロゴの登録

現在表示している映像をユーザーロゴとして登録します。



ユーザーロゴは一度登録すると、初期設定状態には戻せません。

- 1 ユーザーロゴとして登録したい映像を投写し、【メニュー】ボタンを押します。

☞ 「環境設定メニューの操作」 p.115

- 2 【拡張設定】から【ユーザーロゴ】を選択します。



- [パスワードプロテクト]で【ユーザーロゴ保護】を[オン]に設定しているときは、メッセージが表示され操作することはできません。【ユーザーロゴ保護】を[オフ]にしてから操作してください。
- ☞ 「利用者を管理する（パスワードプロテクト）」 p.108
- 幾何学歪み補正またはアスペクトを行っているときに【ユーザーロゴ】を選択すると、実行している機能は一時的に解除されます。

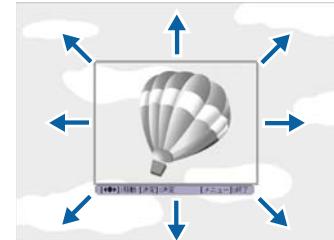
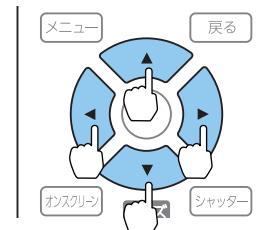
- 3 「現在投写されている映像の一部をユーザーロゴとして使いますか？」と表示されるので、[はい]を選択します。



【↔】ボタンを押すと、映像信号の実際の解像度に切り替わるため、信号によっては画面サイズが変わることがあります。

- 4 登録する映像と選択枠が表示されるので、ユーザーロゴとして使う位置を選択します。

プロジェクターの操作パネルでも同様の操作を行えます。



登録できるサイズは400x300ドットです。

5 【↔】ボタンを押すと「この映像を使用しますか？」と表示されるので、[はい]を選択します。

6 表示倍率設定画面で倍率を選択します。

7 「この映像を保存しますか？」とメッセージが表示されるので、[はい]を選択します。

映像が保存されます。保存が終了すると「ユーザークロゴの設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。



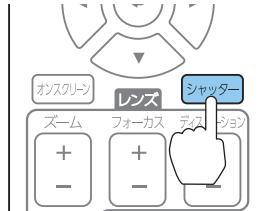
ユーザークロゴの登録を実行すると、先に登録されているユーザークロゴは消去されます。

メモリー機能

表示している映像の設定値や幾何学歪み補正の補正值をメモリーとして登録し、必要なときに呼び出せます。

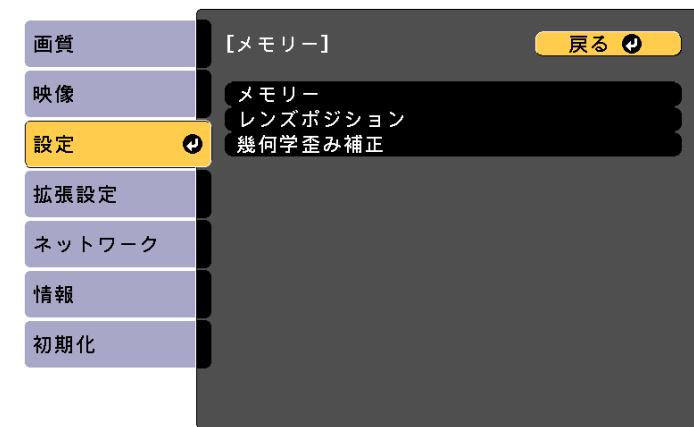
メモリーの登録／呼び出し／削除／初期化

- 1 投写中にリモコンの【メモリー】ボタンを押します。



環境設定メニューからも操作できます。
👉 [設定]-[メモリー] p.122

- 2 メモリーの種類を選択し、【↔】ボタンを押します。



【戻る】/[⌚]:戻る [◆]:選択

【メニュー】:終了

[メモリー]：以下のメニュー項目の設定値が登録されます。10件まで登録できます。

トップメニュー	サブメニュー
画質	すべての設定項目
映像	表示倍率
設定	明るさ設定
拡張設定	エッジブレンディング 黒レベル調整 カラーマッチング

[レンズポジション]：レンズシフト、ズーム、フォーカス、ディストーションで調整したレンズの位置が登録されます。10件まで登録できます。

👉 「レンズの調整値を登録して呼び出す」 p.34

[幾何学歪み補正]：幾何学歪み補正の補正值が登録されます。3件まで登録できます。

- 3 目的の機能を選択し、【↔】ボタンを押します。



機能	説明
[メモリー呼出]	登録したメモリーを呼び出します。メモリーネームを選択し【↔】ボタンを押すと、表示中の映像の設定値が選択したメモリーの設定値に変更されます。
[メモリー登録]	現在の設定値をメモリーに登録します。メモリーネームを選び、【↔】ボタンを押すと設定値が登録されます。
[メモリー削除]	登録したメモリーを削除します。メモリーネームを選択し、【↔】ボタンを押すとメッセージが表示されます。[はい]を選択し、【↔】ボタンを押すと選択したメモリーが削除されます。

機能	説明
[メモリー名称変更]	メモリーネームを変更します。変更するメモリーネームを選択し、【↔】ボタンを押します。ソフトキーボードでメモリーネームを入力します。 ☞「ソフトキーボードの操作」 p.129 入力が終了したら[Finish]にカーソルを合わせて、【↔】ボタンを押します。
[メモリー初期化]	登録したメモリーの名称と設定値を初期化します。[メモリー]、[レンズポジション]、[幾何学歪み補正]で登録したすべてのメモリーを初期化するときは、[メモリー全初期化]から行います。 ☞ [初期化] - [メモリー全初期化] p.137



メモリーネームの左のマークが青色のときは登録済みです。登録済みのメモリーネームを選択したときは、上書きを確認するメッセージが表示されます。[はい]を選択すると、以前の内容を消去し、現在の設定を登録します。

特定の日、あるいは毎週の決まった時間に電源のオン/オフを行ったり、入力ソースを切り替えるなど、スケジュールに登録したイベントを自動的に実行することができます。

[スケジュール]のイベントは30個まで、[拡張スケジュール]のイベントは1個まで登録できます。

イベントを登録する

イベントを設定する

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

☞「環境設定メニューの操作」[p.115](#)

2 [拡張設定]から[スケジュール設定画面へ]を選択します。

3 [スケジュール]または[拡張スケジュール]から[新規追加]を選択します。



4 スケジュールの内容を設定します。

サブメニュー名	機能
イベント設定	<p>イベント実行時のプロジェクターの動作を設定します。特にイベント実行時の動作を指定しない項目は[変更しない]を選択します。以下の項目の動作を設定できます。</p> <p>[スケジュール]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電源 • 入力ソース • 光源モード • シャッター • 光源キャリブレーション <p>[拡張スケジュール]</p> <ul style="list-style-type: none"> • カラーキャリブレーション • スクリーンマッチング
日付/時刻設定	<p>イベントを実行する日付や曜日、時刻を設定します。日付や時刻の入力はソフトキーボードで行います。</p> <p>☞「ソフトキーボードの操作」p.129</p>

5 [保存]を選択し、[↔]ボタンを押します。

引き続きイベントを登録するときは手順3から手順5を行います。

6 [設定完了]を選択し、[はい]を選択して、登録を終了します。



- 24時間以上連続して使用する場合や定期的にダイレクトシャットダウンを使用する場合は、光源キャリブレーションが自動的に実施されません。使用時間100時間を目安に実施されるように、[光源キャリブレーション]を設定してください。
- スケジュールイベントと拡張スケジュールイベントが競合するスケジュールは登録できません。
- 以下の時間内には他のイベントを設定できません。
 - ・カラーキャリブレーションイベントを実行する前後の5分間
 - ・スクリーンマッチングイベントを実行する前の5分間と後の30分間

イベントを確認する

スケジュールイベントの確認方法を説明します。

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【拡張設定】から【スケジュール設定画面へ】 выбぎます。

イベントが登録されている時刻にはインジケーターが点灯します。



- (水色) : 単発のイベント
- (橙) : 定期のイベント
- (緑) : 通信監視のオン/オフ
- (グレー) : 無効のイベント

- 3** 【◀】【▶】ボタンで目的の日付にカーソルを合わせます。
その日に登録されているイベントの詳細が表示されます。



■ (青)：有効のイベント

■ (グレー)：無効のイベント

⌚ : 定期のイベント

イベントを編集する

- 1** 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
👉 「環境設定メニューの操作」 p.115
- 2** [拡張設定]から[スケジュール設定画面へ]を選択します。
- 3** 【◀】【▶】ボタンで編集するイベントが登録されている日付にカーソルを合わせます。



- 4** 編集するイベントにカーソルを合わせ、【戻る】ボタンを押します。



- 5** イベントを編集します。

サブメニュー名	機能
有効/無効	選択したイベントを有効または無効にします。

サブメニュー名	機能
編集	選択したイベントの内容を編集します。[保存]を選択し、【➡】ボタンを押して編集を終了します。
削除	選択したイベントを削除します。
新規追加	イベントを新規に登録します。[保存]を選択し、【➡】ボタンを押して登録を終了します。

- 6 [設定完了]を選択し、[はい]を選択して、編集を終了します。



登録されているイベントをすべて削除するには[スケジュール初期化]を選択して[はい]を選択します。[設定完了]を選択し、[はい]を選択するとイベントが削除されます。

本機には、次の充実したセキュリティ機能が備わっています。

- パスワードプロテクト

本機を使用する人を制限・管理できます。

- 操作ボタンロック/リモコンボタンロック

本機の設定を無断で変更されたり、いたずらされるのを防止できます。

☞ 「操作を制限する」 [p.110](#)

- 盗難防止用ロック

本機には機器そのものを持ち出されないように、盗難防止の機構が備わっています。

☞ 「盗難防止用ロック」 [p.112](#)

利用者を管理する(パスワードプロテクト)

パスワードプロテクト機能を有効にすると、電源を入れてもパスワードを知らない人は投写できません。さらに、電源を入れたときに表示される社名ロゴ等を変更できなくなります。この結果、本機を持ち出しても使用できないため、盗難等の防止につながります。ご購入時は、パスワードプロテクト機能は無効になっています。

パスワードプロテクトの種類

本機のパスワードプロテクトは利用シーンに応じて次の4種類の設定ができます。

- [電源投入時]

[電源投入時]を[オン]にすると、電源コードで本機とコンセントを接続後、最初に電源を入れたとき(ダイレクトパワーONも同様)に、事前に設定してあるパスワードの入力が要求されます。正しいパスワードを入力しないと、投写は開始しません。

- [ユーザー口ゴ保護]

せっかくプロジェクターの所有者を明示するためにユーザー口ゴを登録していても、口ゴ表示を変更されることは意味がありません。[ユーザー口ゴ保護]を[オン]にすると、ユーザー口ゴに関する次の設定変更を禁止できます。

- ユーザー口ゴのキャプチャー

- [表示設定]の[背景表示]、[スタートアップスクリーン]の設定

☞ [拡張設定]-[表示設定] [p.123](#)

- [ネットワーク保護]

[ネットワーク保護]を[オン]にすると、[ネットワーク]の設定変更を禁止できます。

☞ 「ネットワークメニュー」 [p.127](#)

- [スケジュール保護]

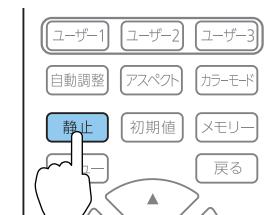
[スケジュール保護]を[オン]にすると、本機のシステム時刻やスケジュール設定の変更を禁止できます。

パスワードプロテクトの設定方法

パスワードプロテクトの設定は、下記の手順で行います。

1 投写中にリモコンの【静止】ボタンを約5秒間押し続けます。

パスワードプロテクト設定メニューが表示されます。

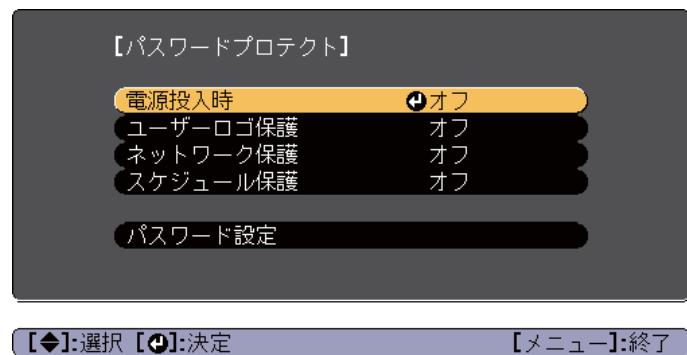




すでにパスワードプロテクトが有効になっていると、パスワードの入力が要求されます。
パスワードを正しく入力するとパスワードプロテクト設定メニューが表示されます。

☞ 「パスワードの認証」 p.109

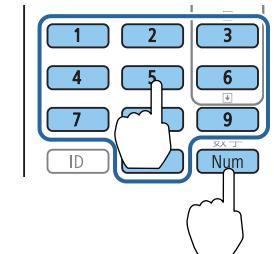
- 2** 設定したいパスワードプロテクトの種類を選択し、【↔】ボタンを押します。



- 3** 【オン】を選択し、【↔】ボタンを押します。
【戻る】ボタンを押して、手順2の画面に戻ります。

- 4** パスワードを設定します。

- (1) 【パスワード設定】を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (2) 「パスワードを変更しますか?」と表示されるので、【はい】を選択し、【↔】ボタンを押します。初期設定でパスワードは「0000」に設定されています。必ず任意のパスワードに変更してください。【いいえ】を選択すると、手順2の画面に戻ります。
- (3) 【Num】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンで4桁の数字を入力します。入力したパスワードは「****」と表示されます。4桁目を入力すると、確認画面に切り替わります。

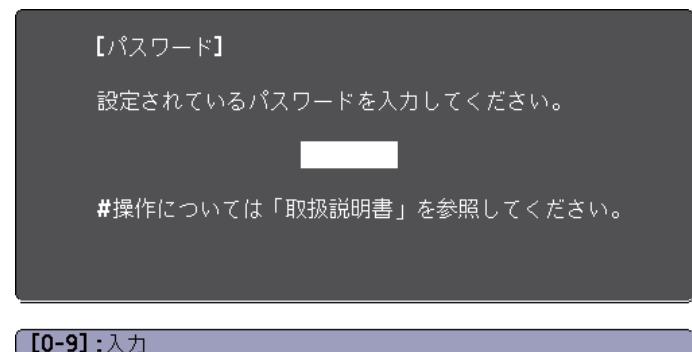


- (4)** 入力したパスワードを再度入力します。
「パスワード設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。
間違えてパスワードを入力した場合は、メッセージが表示されますのでパスワード設定をやり直してください。

パスワードの認証

パスワードの入力画面が表示されたら、設定してあるパスワードをリモコンで入力します。

【Num】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押してパスワードを入力します。



正しいパスワードを入力すると、一時的にパスワードプロテクトが解除されます。

注意

- ・パスワードに関してお問い合わせいただいた際は、お客様のお名前や連絡先などを聞きし、お客様から返送いただいた『お客様情報+正式保証書発行カード』と照合して本人様であることを確認させていただきます。同梱の『お客様情報+正式保証書発行カード』に必要事項を記入して、必ず返送してください。
- ・間違ったパスワードを続けて3回入力した場合は、「プロジェクターの動作を停止します。」と、メッセージが約5分間表示され、本機がスタンバイ状態になります。この場合は、電源プラグを抜いて差し直し、本機の電源を入れます。パスワードの入力を求める画面が表示されますので、パスワードを正しく入力してください。
- ・万一、パスワードを忘れてしまったときは、画面に表示されている問い合わせコード：xxxxxの番号を控えて、プロジェクターインフォメーションセンターにご連絡いただき、その指示に従ってください。
☞ 『お問い合わせ先』
- ・上記の操作を繰り返し、間違ったパスワードを続けて30回入力した場合は、次のメッセージが表示されパスワード入力もできなくなります。「プロジェクターの動作を停止します。各修理窓口へ修理を依頼してください。」
☞ 『お問い合わせ先』

操作を制限する

本機には、次の3種類の操作制限機能が装備されています。

- ・操作ボタンロック
イベントやショーなどで投写中に本機を操作できないようにしたり、学校などで操作できるボタンを制限したいときに便利な機能です。
- ・レンズロック
本機を設置後に誤って操作することができないように、リモコンのレンズ操作用のボタンを操作できなくする機能です。

- ・リモコンボタンロック

リモコンを誤って操作することができないように、リモコンの基本操作に必要になる主要なボタン以外の操作をできなくする機能です。

操作ボタンロック

次のどちらかを選んで本機の操作パネルのボタンをロックできます。操作ボタンロックを行ってもリモコンからは通常どおりに操作できます。

- ・全ロック

操作パネルのボタンをすべてロックします。操作パネルからは電源のオン/オフを含めまったく操作できなくなります。

- ・操作ロック

操作パネルの【↓】ボタンを除くすべてのボタンをロックします。

- 1 投写中に操作パネルの【↑】ボタンを押して、操作ボタンロック画面を表示します。**



環境設定メニューの[操作ボタンロック]からも設定できます。

☞ [設定]-[ロック設定]-[操作ボタンロック] p.122

- 2 目的に応じて、[全ロック]または[操作ロック]を選択します。**



③ 確認のメッセージが表示されるので、[はい]を選びます。

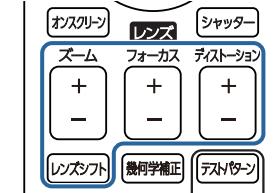
設定に従い、操作パネルのボタンがロックされます。



- 操作パネルのボタンロックを解除するには、次の2通りの方法があります。
- リモコンを使って、環境設定メニューの[操作ボタンロック]で[オフ]を選びます。
👉 [設定]-[ロック設定]-[操作ボタンロック] [p.122](#)
 - 操作パネルの[◀]ボタンを約7秒間押し続けると、メッセージが表示され、ロックが解除されます。

レンズロック

リモコンの以下のレンズ操作用ボタンをロックできます。

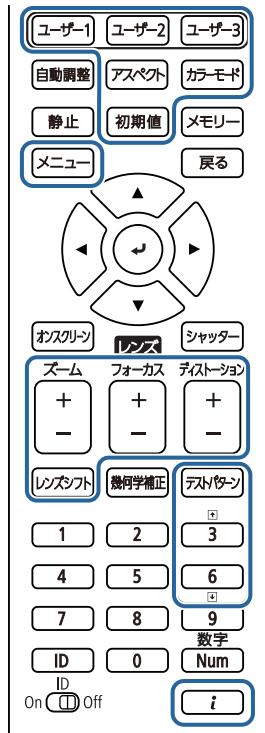


環境設定メニューの[レンズロック]を[オン]に設定してください。

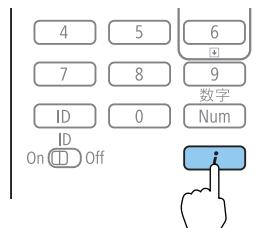
👉 [設定]-[ロック設定]-[レンズロック] [p.122](#)

リモコンボタンロック

リモコンの以下のボタンをロックできます。



【i】ボタンを約5秒間押し続けるたびにロック/解除されます。



リモコンボタンロックが設定されていても、以下の操作は可能です。

- リモコン受光部の設定の初期化
- リモコンボタンロックの解除

盗難防止用ロック

本機には機器そのものを持ち出されないように、次の機構が備わっています。

- セキュリティースロット

Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティースロットです。

マイクロセーバーセキュリティシステムについての詳細は、以下をご覧ください。

☞ <http://www.kensington.com/>

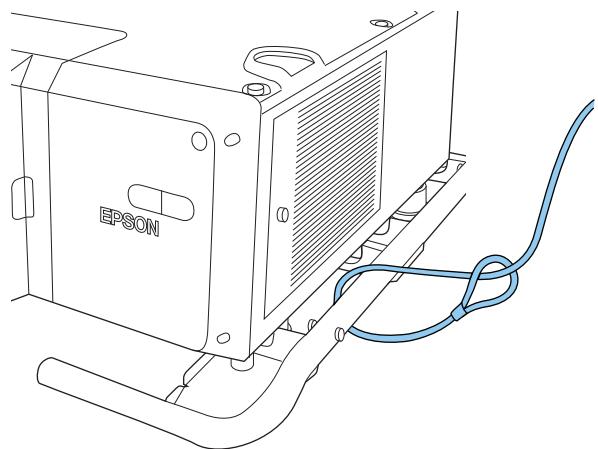
- ハンドル

市販の盗難防止用ワイヤーロックなどを通して、机や柱などに固定できます。

ワイヤーロックの取り付け方

盗難防止用ワイヤーロックのワイヤーを通してします。

ワイヤーロックの施錠方法は、ワイヤーロックに添付の取扱説明書をご覧ください。



環境設定メニュー

ここでは、環境設定メニューの機能と操作方法について説明しています。

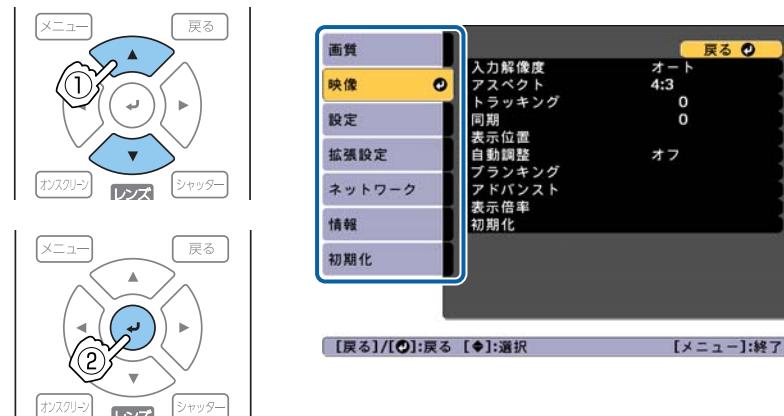
環境設定メニューの操作方法を説明します。

リモコンで操作を行ったときを例に説明していますが、操作パネルでも同様の操作を行えます。使用できるボタンと操作はメニューの下に表示されるガイドでご確認ください。

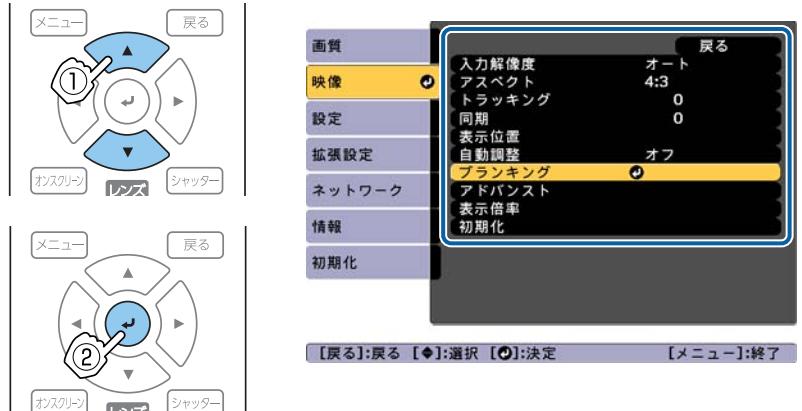
1 環境設定メニュー画面を表示します。



2 トップメニュー項目を選択します。



3 サブメニュー項目を選択します。



4 設定を変更します。



ガイドに【初期値】:リセットと表示されているときは、リモコンの【初期値】ボタンを押すと調整中の設定値が初期値に戻ります。

5 【メニュー】ボタンを押して、設定を終了します。

環境設定メニュー一覧

お使いの機種、現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
画質メニュー  p.118	カラーモード	ダイナミック、プレゼンテーション、シネマ、sRGB、DICOM SIM、マルチプロジェクト
	明るさ	0~100
	コントラスト	0~100
	色の濃さ	0~100
	色合い	0~100
	シャープネス	スタンダード、高域強調、低域強調
	ホワイトバランス	色温度、G-M補正、カスタム
	フレーム補間	オフ、弱、標準、強
	イメージ強調	4Kエンハンスメント、イメージ強調プリセット、ノイズリダクション、MPEGノイズリダクション、超解像、ディテール強調
	アドバンスト	ガンマ、RGBCMY、プログレッシブ変換
映像メニュー  p.120	ダイナミックコントラスト	オフ、標準、高速
	入力解像度	オート、ワイド、ノーマル、マニュアル
	アスペクト	オート、ノーマル、4:3、16:9、フル、Hズーム、Vズーム、リアル
	トラッキング	-

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
環境設定メニュー  p.122	同期	0~31
	表示位置	-128~127
	自動調整	オン、オフ
	オーバースキャン	オート、オフ、4%、8%
	ランキング	上、下、左、右
	アドバンスト	ビデオレベル、入力信号方式、映像処理
	表示倍率	表示倍率、表示倍率モード、タテ倍率、ヨコ倍率、切り出し調整、切り出し範囲
	幾何学歪み補正	オフ、タテヨコ、Quick Corner、曲面投写補正、コーナー投写補正、ポイント補正、メモリー
	2画面	-
	ロック設定	操作ボタンロック、レンズロック
設定メニュー	明るさ設定	光源モード、明るさレベル、一定モード、残り時間目安
	リモコン受光部	フロント・リア、フロント、リア、オフ
	ユーザーボタン	ユーザーボタン1、ユーザーボタン2、ユーザーボタン3
	テストパターン	スタンダード、クロスハッチ、カラーバーV、カラーバーH、グレースケール、グレーバーV、グレーバーH、チェックカーパターン1、チェックカーパターン2、白、黒、アスペクト枠
	メモリー	メモリー、レンズポジション、幾何学歪み補正

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
拡張設定メニュー  p.123	表示設定	メニュー表示位置、メッセージ表示位置、メッセージ表示、背景表示、スタートアップスクリーン、スタンバイ確認、エアフィルター清掃通知、スクリーン設定、液晶アライメント、ユニフォーミティ、OSD回転
	ユーザー口ゴ	-
	設置モード	フロント、フロント・天吊り、リア、リア・天吊り
	動作設定	ダイレクトパワーオン、スリープモード、スリープモード時間、高地モード、起動時入力検出、オートパワーオン、シャッターフィルター設定、アドバンスト、日付&時刻、レンズキャリブレーション
	A/V出力設定	A/V出力、モニター出力
	待機モード	通信オン、通信オフ
	HDBaseT設定	制御通信、Extron XTP
	カラーキャリブレーション	自動調整開始、元に戻す、やり直し、ユニフォーミティ
	マルチプロジェクション	プロジェクターID、グループング、タイリング、幾何学歪み補正、エッジブレンディング、黒レベル調整、表示倍率、スクリーンマッチング
	スケジュール設定画面へ	-
言語	27言語	

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
情報メニュー  p.136	プロジェクト情報	累積使用時間、使用時間、入力ソース、入力信号、入力解像度、リフレッシュレート、同期情報、ステータス、シリアル番号、レンズタイプ、Event ID、HDBaseT信号レベル
	光源情報	光源使用時間、残り時間目安
	バージョン	Main、Video2、Status Monitor
	ステータス情報	Status Information、Source、Signal Information、Network Wired、Network Wireless、Maintenance、Version
	初期化メニュー  p.137	メモリー全初期化
	全初期化	-

ネットワークメニュー

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
基本設定メニュー  p.129	プロジェクター名	-
	PJLinkパスワード	-
	Remoteパスワード	-
	Web制御パスワード	-
	プロジェクターキーワード	オン、オフ
	LAN情報表示	テキストとQRコード、テキスト
無線LANメニュー  p.130	接続モード	かんたんモード、マニュアルモード
	アクセスポイント検索	-
	SSID	-

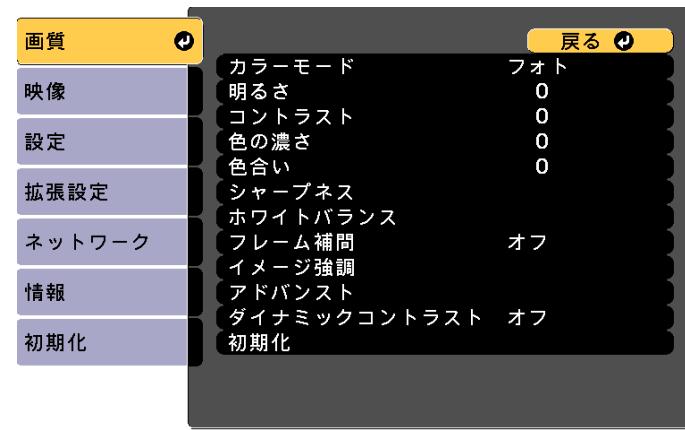
トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
セキュリティ	セキュリティ	なし、WPA2-PSK、WPA/WPA2-PSK
	パスフレーズ	-
	チャンネル設定	1ch、6ch、11ch
	IP設定	DHCP、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス
	SSID表示	オン、オフ
	IPアドレス表示	オン、オフ
有線 LAN メニュー  p.133	IP設定	DHCP、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス
	IPアドレス表示	オン、オフ
通知メニュー  p.135	メール通知機能	オン、オフ
	SMTPサーバー	-
	ポート番号	-
	差出人	-
	宛先1設定、宛先2設定、宛先3設定	メールアドレス、ノーザンダム、システム異常、レーザー異常、内部高温異常、エアフィルター異常、レーザー警告、高温警告、エアフィルター警告、シネマフィルター警告、エアフィルター清掃通知
	SNMP	オン、オフ
	トラップIPアドレス1、トラップIPアドレス2	-
	コミュニティ名	-

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
 p.135	優先ゲートウェイ	有線LAN、無線LAN
	AMX Device Discovery	オン、オフ
	Crestron RoomView	オン、オフ
	Control4 SDDP	オン、オフ
	Art-Net	Art-Net、Net、Sub-Net、Universe、開始チャンネル
	Message Broadcasting	オン、オフ

画質メニュー

現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。設定した内容はカラー mode ごとに保持されます。

 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 p.52



[戻る]/[◀]:戻る [◆]:選択

[メニュー]:終了

サブメニュー	機能
カラー モード	使用シーンに応じて、画質を選択できます。 ☞ 「映り具合を選ぶ（カラー モードの選択）」 p.66
明るさ	映像の明るさを調整します。
コントラスト	映像の明暗の差を調整します。
色の濃さ	映像の色の濃さを調整します。
色合い	映像の色合いを調整します。
シャープネス	[スタンダード]：映像のシャープ感を調整します。 [高域強調]：+側に設定すると、髪の毛や衣服の模様などの細かい部分が強調されます。 [低域強調]：+側に設定すると、被写体全体の輪郭や背景などの粗い部分が強調され、くっきりとした映像になります。
ホワイトバランス	映像全体の色合いを調整します。 [色温度]：映像全体の色合いを調整します。[カラー モード]を[sRGB]、[DICOM SIM]に設定しているときは3200K、5000K～10000Kの11段階で、[カラー モード]を[sRGB]、[DICOM SIM]以外に設定しているときは0～10の範囲で調整することができます。高い値を選択すると青みがかった映像になり、低い値を選択すると赤みを帯びた映像になります。 [G-M補正]：-側に設定すると赤みを帯びた色調になり、+側に設定すると緑がかった色調になります。 [カスタム]：R(赤)、G(緑)、B(青)ごとにオフセットとゲインを調整します。
フレーム補間 ※1、2、3、4、5、6	映像と映像の間に中間画像を生成し、動きの速い動画を滑らかに再生することができます。

サブメニュー	機能
イメージ強調	映像の解像感を調整します。 ☞ 「映像の解像感を調整する（イメージ強調）」 p.76 [4Kエンハンスメント]：解像度を2倍にして投写します。 [イメージ強調プリセット]：あらかじめ用意された5つのプリセット値から、投写映像に合わせて最適なものを選択します。 [ノイズリダクション]※1、2、6：プログレッシブ映像のざらつきを抑えます。 [MPEGノイズリダクション]※1、2：MPEG動画を投写したときに輪郭に生じる点状のノイズやブロック状のノイズを抑えます。 [超解像]：映像信号の解像度を拡大して投写した際に発生するエッジ部分などのボケを低減し、よりハッキリとした映像で表示します。 [ディテール強調]：映像の細部の明暗差を強調します。
アドバンスト	以下の項目を選んで調整できます。 [ガンマ]：補正值を選んだり、映像やグラフを見ながら映像の発色を調整します。 [RGBCMY]：R(赤)、G(緑)、B(青)、C(シアン)、M(マゼンタ)、Y(イエロー)ごとに色相、彩度、明度を調整します。 [プログレッシブ変換]※6、8：インターレース信号をプログレッシブ信号に変換します。(IP変換) 動きの大きい映像には[オフ]、一般的のビデオ映像には[ビデオ]、映画フィルムやCG、アニメーション映像には[フィルム/オート]が適しています。
ダイナミックコントラスト ※7	[標準]または[高速]にすると、映像に合わせて最適な光量に調整します。映像のシーン変化に対してより早く光量を調整するときは[高速]を選択してください。

サブメニュー	機能
初期化	[画質]メニューの調整値を初期値に戻します。全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。  「初期化メニュー」 p.137

※1 WUXGAを超える信号入力時は設定不可

※2 4Kエンハンスメントが有効のときは設定不可

※3 [エッジブレンディング]が[オン]のときは設定不可

※4 [表示倍率]が有効のときは設定不可

※5 [映像処理]が[速い1]のときは設定不可

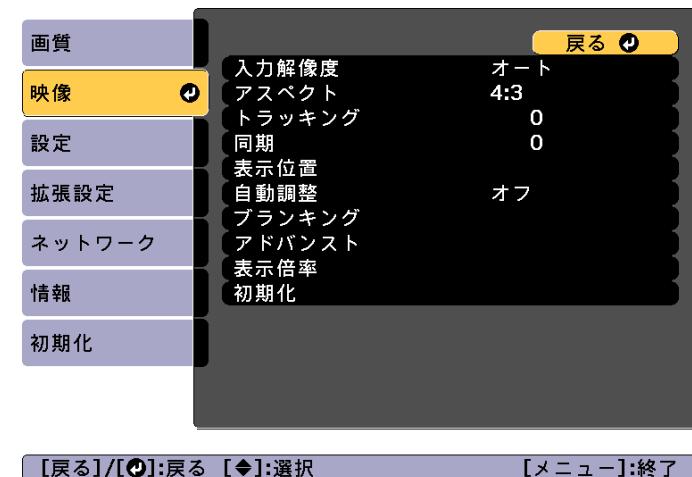
※6 [映像処理]が[速い2]のときは設定不可

※7 [カラー モード]を[ダイナミック]、[シネマ]に設定しているときのみ設定可能

※8 480i、576i、1080i信号入力時のみ設定可能

映像メニュー

現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。設定した内容は映像信号ごとに保持されます。

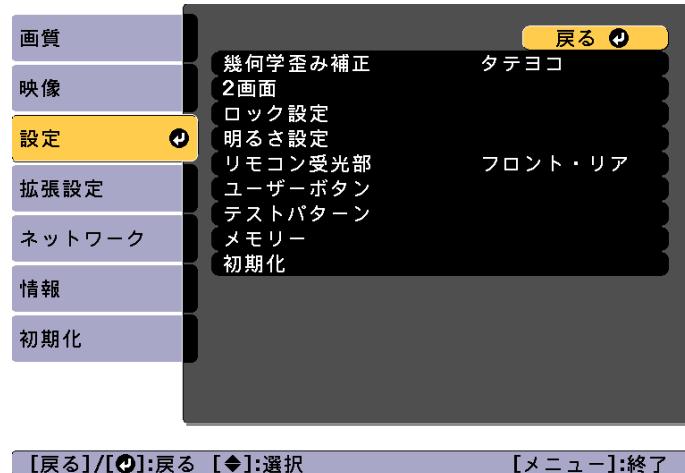


サブメニュー	機能
入力解像度	(コンピューターのアナログRGB信号入力時のみ有効) [オート]にすると、入力信号の解像度を自動で判別します。[オート]に設定していて投写映像が欠けるときは、接続しているコンピューターに合わせてワイド画面は[ワイド]に、4:3や5:4画面は[ノーマル]に設定してください。[マニュアル]にすると、特定の入力解像度に設定できます。接続するコンピューターが固定のときに適しています。
アスペクト	映像のアスペクト比  を設定します。  「投写映像のアスペクト比を切り替える」 p.70
トラッキング	(コンピューターのアナログRGB信号入力時のみ有効) 映像に縦の縞模様が出るときに調整します。
同期	(コンピューターのアナログRGB信号入力時のみ有効) 映像にちらつき、ぼやけ、横ノイズが出るときに調整します。
表示位置	映像の一部が欠けているときに表示位置を上下左右に移動し映像がすべて投写されるように調整します。

サブメニュー	機能
自動調整	(コンピューターのアナログRGB信号入力時のみ有効) [オン]にすると、入力信号が切り替わったときに、トラッキング・同期・表示位置を最適な状態に自動調整します。
オーバースキャン	出画率(投写する映像の範囲)を変更します。トリミングする範囲の設定を、[4%]、[8%]のいずれかに変更できます。[オート]に設定したときは、入力信号に応じて自動的に調整されます。
ブランкиング	設定した領域の映像を非表示にします。【◀】【▶】ボタンで領域を調整します。[上]、[下]、[左]、[右]を組み合わせて調整できます。
アドバンスト	以下の項目を選んで設定できます。 [ビデオレベル]：HDMI入力端子、DVI-D入力端子、HDBaseT端子、SDI入力端子からの入力信号のビデオレベルを選択します。映像の黒浮きや白飛びが気になるときは、[拡張]に設定します。 [入力信号方式]：Computer入力端子、BNC入力端子からの入力信号を選択します。[オート]にすると、接続機器に応じて自動的に入力信号を設定します。[オート]に設定していて、色が正しく表示されないとときは、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。 [映像処理]：映像処理の設定を切り替えます。 • [きれい]：[フレーム補間]が[オン]のときはフレーム補間が機能します。 • [速い1]：映像の画質を落とさず、表示速度を速くします。（[プログレッシブ変換]が[ビデオ]または[フィルム/オート]に設定されている場合のみ有効） • [速い2]：映像の表示速度を[速い1]より速くします。
表示倍率	本機を複数台使用してひとつの映像を投写するときに、それぞれのプロジェクターで表示する映像の範囲を調整します。  「映像を切り出して表示する」 p.93

サブメニュー	機能
初期化	[映像]メニューのうち、[入力信号方式]を除くすべての調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。  「初期化メニュー」 p.137

設定メニュー

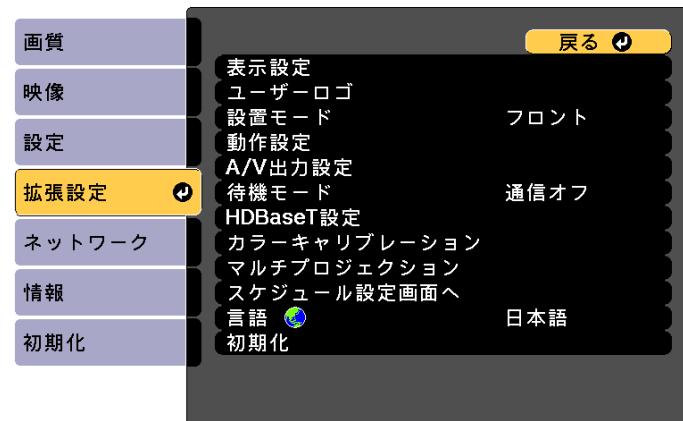


サブメニュー	機能
幾何学歪み補正	<p>ゆがんだ画面を補正します。</p> <p>☞ 「映像のゆがみを補正する」 p.54</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[オフ]：幾何学歪み補正で補正された状態を一時的に解除します。 ・[タテヨコ]：[タテ補正]、[タテバランス]、[ヨコ補正]、[ヨコバランス]を調整して縦・横方向のゆがみを補正します。 ・[Quick Corner]：投写映像の4つの角を選んで補正します。 ・[曲面投写補正]：曲面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正します。 ・[コーナー投写補正]：直角の面に投写したときに発生する映像のゆがみを補正します。 ・[ポイント補正]：投写画像を格子で区切り、選択した格子の交点を上下左右に移動させることで投写画面のゆがみを補正することができます。 ・[メモリー]：幾何学歪み補正の調整値を登録し、必要な時に呼び出します。 <p>☞ 「メモリー機能」 p.102</p>
2画面	2画面で投写します。 ☞ 「2種類の映像を同時に投写する（2画面）」 p.96
ロック設定	<p>[操作ボタンロック]：本機操作パネルの操作制限を設定します。</p> <p>☞ 「操作ボタンロック」 p.110</p> <p>[レンズロック]：[オン]に設定すると、リモコンの【レンズシフト】、【ズーム】、【フォーカス】ボタンの操作が無効になります。</p> <p>☞ 「レンズロック」 p.111</p>

サブメニュー	機能
明るさ設定	<p>[光源モード]：光源の明るさを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[ノーマル]：明るさを落としたくないときに選択します。使用時間の目安は約20,000時間です。 ・[静音]：ファンの音が気になるときに選択します。明るさレベルは約70%になります。使用時間の目安は20,000時間です。 ・[ロング]：光源の寿命を延ばしたいときに選択します。明るさレベルは約70%になります。使用時間の目安は約30,000時間です。 ・[カスタム]：明るさレベルを30~100%の範囲で設定します。 <p>[明るさレベル]：([光源モード]が[カスタム]のときのみ設定可)光源の明るさを設定します。</p> <p>[一定モード]：([光源モード]が[カスタム]のときのみ設定可)[オン]にすると、[明るさレベル]で設定した光源の明るさを一定に保ちます。[一定モード]が[オン]のときは、[光源モード]と[明るさレベル]の変更ができないくなります。</p> <p>☞「明るさを設定する」p.66</p> <p>[残り時間目安]：[一定モード]が[オン]のときに、明るさを一定に保つことができる残り時間を表示します。</p> <p>☞「残り時間目安の見方」p.68</p>
リモコン受光部	リモコンからの操作信号の受信を制限します。 [オフ]に設定すると、リモコンからの操作ができなくなります。リモコンから操作したいときは、リモコンの【メニュー】ボタンを15秒以上押して、設定を初期値に戻してください。
ユーザーボタン	リモコンの【ユーザー1】ボタン、【ユーザー2】ボタン、【ユーザー3】ボタンにそれぞれ割り当てる環境設定メニューの項目を選択します。割り当てることのできるのは以下の項目です。 [光源モード]、[マルチプロジェクション]、[入力解像度]、[映像処理]、[QRコード表示]、[イメージ強調]、[フレーム補間]、[スクリーンマッチング]、[カラーキャリプレーション]、[ヘルプ]、[2画面]

サブメニュー	機能
テストパターン	本機を設置する際に、機器を接続せずに投写状態を調整できるようにテストパターンを表示します。 ☞「テストパターンを表示する」 p.28
メモリー	メモリー機能に関する操作や設定を行います。 ☞「メモリー機能」 p.102
初期化	[設定]メニューのうち[ユーザーボタン]、[メモリー]を除くすべての調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。 ☞「初期化メニュー」 p.137

拡張設定メニュー



[戻る]/[◀]:戻る [◆]:選択 [メニュー]:終了

サブメニュー	機能
表示設定	<p>本機の表示に関する設定を行います。</p> <p>[メニュー表示位置]：投写画面でメニューを表示する位置を設定します。</p> <p>[メッセージ表示位置]：投写画面でメッセージを表示する位置を設定します。</p> <p>[メッセージ表示]：[オフ]に設定すると、次の表示がされなくなります。</p> <p>入力ソースやカラー モード、アスペクトを切り替えたときの項目名の表示、映像信号が入力されていないときなどのメッセージの表示、高温警告などの警告表示。</p> <p>[背景表示]※：映像信号が入力されていないときなどの画面の状態を[黒]、[青]、[ロゴ]のいずれかで設定します。</p> <p>[スタートアップスクリーン]※：[オン]にすると、投写開始時に[ユーザーロゴ]を表示します。</p> <p>[スタンバイ確認]：[オフ]に設定すると、[待機]ボタンを1回押すだけで電源がオフになります。</p> <p>[エアフィルター清掃通知]：エアフィルターの清掃通知をする([オン])/しない([オフ])を設定します。[オン]に設定していると、エアフィルターの詰まりを感知した場合にメッセージを表示します。</p> <p>[スクリーン設定]：(ネットワークで接続したコンピューターの映像を投写中は設定不可。)お使いのスクリーンに合わせて画面のアスペクト比や位置を設定します。</p> <p>☞「スクリーン設定」 p.27</p> <p>[液晶アライメント]：画面の色ずれ(赤・青)を補正します。</p> <p>☞「液晶アライメント」 p.184</p> <p>[ユニフォーミティ]：画面全体の色味のバランスを調整します。</p> <p>☞「ユニフォーミティ」 p.185</p> <p>[OSD回転]：メニューの表示方向を90°回転させます。</p>
ユーザーロゴ ※	背景表示、シャッター時などに表示するユーザーロゴを変更します。

サブメニュー	機能
設置モード	<p>本機の設置状態に合わせて次の中から設定します。</p> <p>[フロント]、[フロント・天吊り]、[リア]、[リア・天吊り]</p> <p>【シャッター】ボタンを約5秒間押し続けると、天吊りの設定を次のように切り替えることができます。</p> <p>[フロント]↔[フロント・天吊り] [リア]↔[リア・天吊り]</p>

サブメニュー	機能
動作設定	<p>[ダイレクトパワーオン] : [オン]にすると、電力を供給するだけで本機の電源が入ります。</p> <p>停電復旧時などに、コンセントに電源プラグが差し込まれて主電源スイッチがオンの状態になっていると、本機の電源がオンになりますので注意してください。</p> <p>[スリープモード] : [オン]に設定すると、映像信号が未入力のまま、なにも操作しないときに自動で電源を切ります。</p> <p>[スリープモード時間] : [スリープモード]を[オン]に設定したときに、自動で電源を切るまでの時間を1~30分の範囲で設定します。</p> <p>[高地モード] : 標高約1,500m以上でお使いの場合は[オン]にします。</p> <p>[起動時入力検出] : [オン]にすると、現在の入力ソースからの映像信号がないときに、自動的に他の入力ソースからの入力信号を検出して映像を投写します。</p> <p>[オートパワーオン] : [コンピューター]または[BNC]に設定すると、本機がスタンバイ状態でもComputer入力端子またはBNC入力端子から映像を受信したときに本機の電源が入ります。</p> <p>[シャッター設定] : シャッターに関する設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [フェードイン] : 映像を表示するときにフェードインさせる秒数を指定します。 • [フェードアウト] : 映像を消すときにフェードアウトさせる秒数を指定します。 • [シャッタータイマー] : [オン]に設定すると、シャッターを実行してから何も操作しない状態が約2時間続くと、自動的に本機の電源が切れます。 • [シャッター解除] : [シャッター]に設定すると、[シャッター]ボタンを押したとき(またはシャッターをオフにするコマンドを送信したとき)のみシャッターが解除されます。 • [すべて]に設定すると、本機を操作をしたときにシャッターが解除されます。

サブメニュー	機能
	<p>☞ 「映像を一時的に消す（シャッター）」 p.99</p> <p>[アドバンスト] : 以下の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [BNC同期終端] : BNC入力端子からの信号の終端処理を設定します。通常は[オフ]で使用します。スイッチャーなど、アナログ(75Ω) 終端が必要なときは[オン]に設定します。 • [確認音] : [オン]に設定すると、本機の電源のオン/オフ時や、クールダウンの終了時を音でお知らせします。 • [インジケーター表示] : [オフ]に設定すると、異常/警告以外は、本機のインジケーターを消灯します。 • [ワントッチオフ] : [有効]に設定すると、電源オフ後、約3秒でスタンバイ状態になります。電源オフ後、すぐに電源をオンにすると、しばらくコマンド通信が途絶える場合があります。コマンド通信を安定させるには、[無効]に設定してください。[無効]に設定した場合、電源オフ後、約75秒でスタンバイ状態になります。 • [方向ボタン反転] : 天吊り使用時は、[オン]に設定します。 • [HDMI DDCバッファー] : HDMI延長ケーブルを使用して接続した機器からの映像が正しく表示されないときは、[オン]にすると改善される場合があります。 • [DVI-D DDCバッファー] : DVI延長ケーブルを使用して接続した機器からの映像が正しく表示されないときは、[オン]にすると改善される場合があります。 • [電源電圧監視] : [オン]に設定すると、電源ボタンを押す以外の方法(ダイレクトシャットダウンを含む)で本機の電源がオフになった場合に、次に電源を入れたときに電源電圧警告ダイアログが表示されます。定期的にダイレクトシャットダウンを使用する場合は[オフ]に設定してください。 <p>[日付&時刻] : 本機のシステム時刻に関する設定を行います。</p> <p>☞ 「時刻の設定」 p.37</p> <p>[レンズキャリブレーション] : 本機に装着されたレンズの情報を取得します。</p>

サブメニュー	機能
A/V出力設定	<p>[A/V出力]：本機がスタンバイ状態のときも、外部機器に映像を出力するときは[常時]に設定します。</p> <p>[モニター出力]：本機がスタンバイ状態のときに、Monitor Out端子に接続された外部モニターへ出力する映像ソースを選択します。[オート]に設定すると、本機の電源をオフにしたときに選択している入力ソースに応じて、Computer入力端子またはBNC入力端子からのアナログRGB信号が出力されます。</p>
待機モード	<p>[通信オン]に設定すると、本機がスタンバイ状態のときでも以下の操作が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本機をネットワーク監視・制御する。 映像を外部機器に出力する。（[A/V出力]が[常時]のときのみ） HDBaseT端子からの通信を有効にする。（[制御通信]が[オン]のときのみ。） <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;">  本機を無線LAN経由で監視・制御するときは、[接続モード]を[マニュアルモード]に設定してください。  [ネットワーク] - [無線LAN] - [接続モード] p.130 </div>

サブメニュー	機能
HDBaseT設定	<p>[制御通信]：（[Extron XTP]が[オン]のときは設定不可。）[オン]にすると、HDBaseT端子からのEthernet通信、シリアル通信、有線リモコン制御が有効になります。</p> <p>[Extron XTP]：Extron社製のXTPトランスマッターまたはスイッチャーを本機のHDBaseT端子に接続して使用するときは[オン]に設定します。XTPシステムについて詳しくはExtron社のWebページを参照してください。 http://www.extron.jp/</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;">  • [制御通信]または[Extron XTP]を[オン]にすると、[待機モード]が自動的に[通信オン]に設定されます。 • [制御通信]または[Extron XTP]が[オン]のときは、本機のLAN端子、RS-232端子、Remote端子は無効になります。 • [Extron XTP]が[オン]のときは、スタンバイ状態でもファンが回転することがありますか異常ではありません。 </div>
カラーキャリブレーション	<p>[自動調整開始]：画面全体の色味の変化を自動で補正します。</p> <p> 「カラーキャリブレーション」 p.183</p> <p>[元に戻す]：自動調整開始前の画質に戻します。</p> <p>[やり直し]：[元に戻す]を選択した後に[やり直し]を選択すると、自動調整後の状態に戻ります。</p> <p>[ユニフォーミティー]：画面全体の色味のバランスを調整します。</p> <p> 「ユニフォーミティー」 p.185</p> <p>[初期化]：[カラーキャリブレーション]の調整値を初期値に戻します。</p>

サブメニュー	機能
マルチプロジェクション	<p>本機を2台以上並べて使用するときの設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「マルチプロジェクション機能」 p.81 <p>[プロジェクターID]：1～30までのIDを設定します。[オフ]はIDを設定していない状態です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「IDの設定」 p.36 <p>[グルーピング]：本機を複数台使用して1つの映像を投写するときに、使用するプロジェクターを選択します。</p> <p>[タイリング]：映像の分割数と、各映像の投写位置を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「タイリング」 p.82 <p>[幾何学歪み補正]：映像のゆがみを補正します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「映像のゆがみを補正する」 p.54 <p>[エッジブレンディング]：各映像のつなぎ目を補正し、目立たなくします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「エッジブレンディング」 p.85 <p>[黒レベル調整]：映像が重なっている箇所と重なっていない箇所の明るさや色合いの差を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「黒レベル調整」 p.87 <p>[表示倍率]：本機を複数台使用して1つの映像を投写するときに、それぞれのプロジェクターで表示する映像の範囲を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「映像を切り出して表示する」 p.93 <p>[スクリーンマッチング]：各映像の色合いや明るさを補正します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「スクリーンマッチング」 p.90 <p>[初期化]：[マルチプロジェクション]メニューの調整値を初期値に戻します。</p>
スケジュール設定画面へ	プロジェクターが決まった時刻に特定の動作をするスケジュールを設定します。
言語	メッセージやメニューに表示する言語を設定します。

サブメニュー	機能
初期化	<p>[拡張設定]メニューの調整値を初期値に戻します。ただし、以下の項目を除きます。</p> <p>[スクリーンタイプ]、[スクリーン位置]、[設置モード]、[高地モード]、[起動時入力検出]、[シャッター解除]、[方向ボタン反転]、[日付&時刻]、[レンズキャリブレーション]、[A/V出力]、[モニター出力]、[待機モード]、[制御通信]、[Extron XTP]、[プロジェクターID]、[カラーキャリブレーション]、[グルーピング]、[スクリーンマッチング]、[カラーマッチング]、[言語]</p> <p>全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「初期化メニュー」 p.137

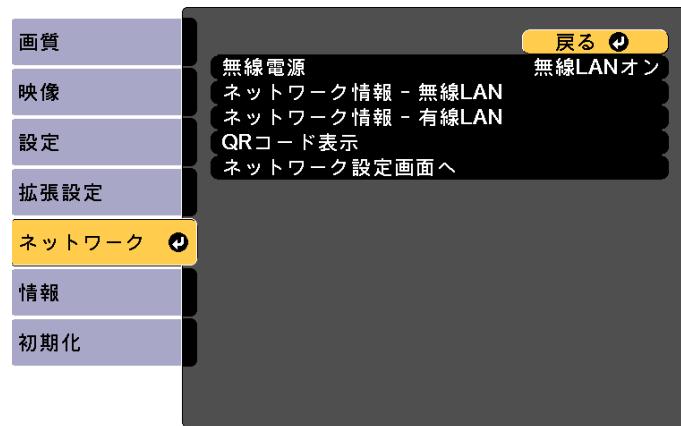
※ [パスワードプロテクト]の[ユーザー口頭保護]を[オン]にしていると、ユーザー口頭に関する設定の変更はできません。[ユーザー口頭保護]を[オフ]にしてから設定を変更してください。

- ☛ 「利用者を管理する（パスワードプロテクト）」 p.108

ネットワークメニュー

[パスワードプロテクト]の[ネットワーク保護]を[オン]に設定していると、メッセージが表示されネットワークの設定を変更することはできません。[ネットワーク保護]を[オフ]にしてからネットワークの設定を行ってください。

☛ 「パスワードプロテクトの設定方法」 p.108



【戻る】/[●]:戻る 【◆]:選択

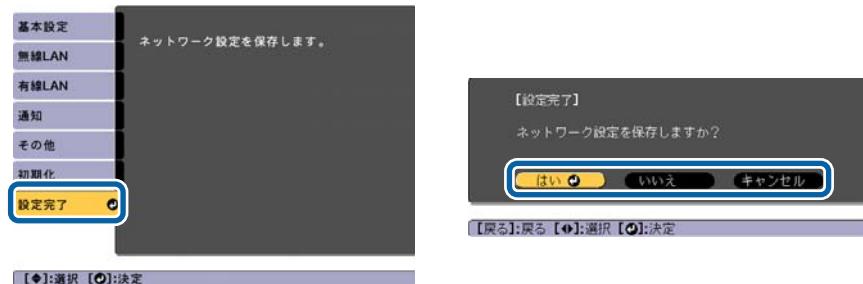
【メニュー】:終了

サブメニュー	機能
ネットワーク情報 - 有線LAN	以下のネットワーク設定状況を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト名 DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス MACアドレス
QRコード表示	QRコードを表示します。
ネットワーク設定画面へ	以下の項目についてネットワークの設定を行います。 <ul style="list-style-type: none"> 基本設定 無線LAN 有線LAN 通知 その他 初期化

ネットワークメニュー操作上のご注意

トップメニュー やサブメニューの選択、選択した項目を変更する操作は環境設定メニューと同様に行います。

ただし、終了する際には必ず[設定完了]メニューを選択して、[はい]、[いいえ]、[キャンセル]のいずれかを選択します。[はい]または[いいえ]を選択すると、環境設定メニューに戻ります。



[はい]： 設定を保存してネットワークメニューを終了します。

[いいえ]： 設定を保存しないでネットワークメニューを終了します。

[キャンセル]： ネットワークメニューを続けます。

サブメニュー	機能
無線電源	本機とコンピューターを無線LANで接続するときは[無線LANオン]に設定します。無線LANで接続しないときは、[オフ]に設定しておくと他人からの不正なアクセス等を防ぐことができます。
ネットワーク情報 - 無線LAN	以下のネットワーク設定状況を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 接続モード 無線LAN方式 アンテナレベル プロジェクト名 SSID DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス MACアドレス 地域コード

ソフトキーボードの操作

ネットワークメニューでは英数字を入力して設定する項目があります。その際には以下のようなソフトキーボードが表示されます。【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで目的のキーにカーソルを移動し、【↔】ボタンを押して入力します。数字は、リモコンの【Num】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押して入力することもできます。入力後キーボードの【Finish】を選択すると入力が確定します。キーボードの【Cancel】を選択すると入力は取り消されます。



- 【CAPS】キーを選択して【↔】ボタンを押すたびに、アルファベットキーの大文字/小文字が切り替わります。
- 【SYM1/2】キーを選択して【↔】ボタンを押すたびに、枠で囲った部分の記号キーが切り替わります。

入力できる文字の種類は以下のとおりです。

数字	0123456789
アルファベット	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
記号	!"#\$%&'()*+,-./;:<=>?@[¥]^_`{ }~

基本設定メニュー



【戻る】/[✖]:戻る 【◆]:選択

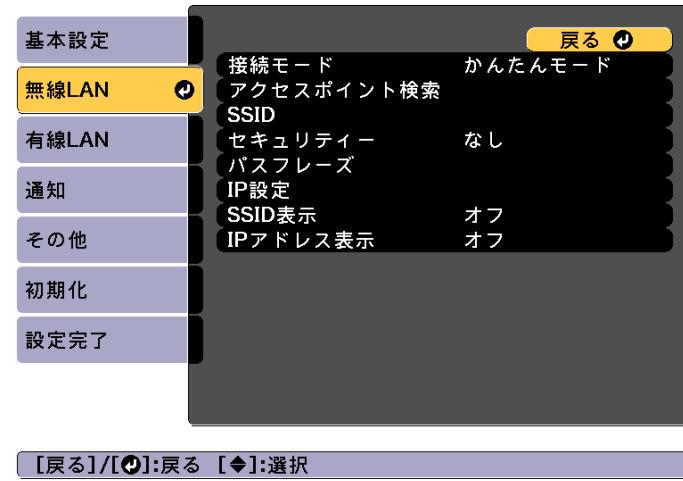
サブメニュー	機能
プロジェクター名	添付のアプリケーションソフトEasyMP Multi PC Projection 使用時に表示される本機の名称です。 変更するときは、半角英数字16文字以内で入力します。（*:半角英数字、＠以外の記号とスペースは使用不可。）
PJLink パスワード	PJLink対応アプリケーションソフトを使って本機にアクセスするときの認証用パスワードを設定します。 半角英数字で最大32文字まで入力できます。（＠以外の記号とスペースは使用不可。） ☞「PJLinkについて」 p.197
Remoteパスワード	Epson Web ControlのRemoteを使用するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字で最大8文字まで入力できます。（*:スペースは使用不可。）デフォルトのユーザー名は「EPSONREMOTE」、デフォルトのパスワードは「guest」です。 ☞「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」 p.189

サブメニュー	機能
Web 制御 パスワード	Epson Web ControlのWeb制御で本機を設定・制御するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字8文字以内で入力します(*:スペースは使用不可)。デフォルトのユーザー名は「EPSONWEB」、デフォルトのパスワードは「admin」です。 ☞「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」p.189
プロジェクター キーワード	[オン]に設定していると、本機とコンピューターをネットワークで接続しようとしたとき、キーワードの入力が求められます。これにより他のコンピューターからの接続でプレゼンテーションが妨害されるのを防ぐことができます。 通常は[オン]に設定してお使いください。 ☞『EasyMP Multi PC Projection操作ガイド』
LAN情報表示	本機のネットワーク情報の表示形式を設定します。QRコードを表示させると、Epson iProjectionでQRコードを読み取るだけでネットワーク接続ができるようになります。初期値は、[テキストとQRコード]に設定されています。

無線LANメニュー

本機とコンピューターを無線LANで接続するときは、無線LANユニット(ELPAP10)を本機に取り付けてください。

☞「無線LANユニットの取り付け」p.47



【戻る】/[✖]:戻る 【◆]:選択

サブメニュー	機能
接続モード	本機とコンピューターを無線LANで接続するときの接続モードを設定します。 [かんたんモード]：スマートフォンやタブレット端末、コンピューターと無線で直接接続できます。 [マニュアルモード]：無線LANアクセスポイント経由でスマートフォンやタブレット端末、コンピューターと接続できます。インフラストラクチャーモードで接続が構成されます。
アクセスポイント検索	接続モードを[マニュアルモード]に設定しているときは、周囲のアクセスポイントを検索し、その中から接続するSSIDを指定できます。アクセスポイントの設定によっては一覧に表示されない場合があります。 ☞「アクセスポイント検索画面」p.132
SSID	SSIDを入力します。本機が参加する無線LANシステムでSSIDが定められているときは、そのSSIDを入力します。半角英数字で最大32文字まで入力できます。

サブメニュー	機能
セキュリティー	無線LANの設定に合わせてセキュリティーの種類を選択します。 セキュリティーの設定については、ネットワーク管理者の指示に従ってください。
パスフレーズ	[セキュリティー]で[WPA2-PSK]または[WPA/WPA2-PSK]を選択したときは、ネットワークに接続するためのパスフレーズを入力します。 半角英数字で8文字以上、63文字まで入力できます。 環境設定メニューで入力できる文字数は32文字です。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。 ☞「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」 p.189 接続モードが[かんたんモード]に設定されているときは、初期状態でパスフレーズが設定されています。
チャンネル設定	かんたんモードで接続するときに使用するチャンネルを選択できます。他の電波の干渉を受けるときは、別のチャンネルに設定してください。

サブメニュー	機能
IP設定	(接続モードを[マニュアルモード]に設定しているときのみ設定可能)ネットワークの設定を行います。 [DHCP]：[オン]にすると、DHCP [▶] を使用してネットワークを設定します。ここで[オン]に設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。 [IPアドレス]：本機に割り当てるIPアドレス [▶] を入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字) [サブネットマスク]：本機のサブネットマスク [▶] を入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255 [ゲートウェイアドレス]：本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレス [▶] は使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
SSID表示	LAN待機画面上にSSIDを表示させないときは、[オフ]に設定します。
IPアドレス表示	LAN待機画面上にIPアドレスを表示させないときは、[オフ]に設定します。

セキュリティーの種類

オプションの無線LANユニットを装着してマニュアルモードでお使いの際は、必ずセキュリティーの設定を行うことをお勧めします。

WPAは無線ネットワークのセキュリティー強度を向上するための暗号化規格です。本機は暗号化方式TKIPとAESに対応しています。

WPAは、ユーザー認証機能も備えています。WPAの認証方式には、認証サーバーを使う方法と、認証サーバーは使わずコンピューターとアクセスポイントの間で認証を行う方法があります。本機は、認証サーバーを使わない認証方法に対応しています。

 設定の作業は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従って行ってください。

アクセスポイント検索画面

検出されたアクセスポイントが一覧で表示されます。



サブメニュー	機能
	セキュリティーが設定されているアクセスポイントを表します。 セキュリティーが設定されていないアクセスポイントを選択すると、無線LANメニューに移行します。 セキュリティーが設定されているアクセスポイントを選択すると、セキュリティーメニューに移行します。アクセスポイントのセキュリティー設定に応じて、設定するセキュリティーの種類を選択してください。

サブメニュー	機能
更新	アクセスポイントを再検出します。
	すでに設定済みのアクセスポイントを表します。

有線LANメニュー



[戻る]/[✖]:戻る [◆]:選択

サブメニュー	機能
IP設定	<p>以下のアドレスに関する設定を行います。</p> <p>[DHCP] : [オン]にすると、DHCP[▶]を使用してネットワークを設定します。ここで[オン]に設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。</p> <p>[IPアドレス] : 本機に割り当てるIPアドレス[▶]を入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字)</p> <p>[サブネットマスク] : 本機のサブネットマスク[▶]を入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255</p> <p>[ゲートウェイアドレス] : 本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレス[▶]は使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字)</p>
IPアドレス表示	LAN待機画面上にIPアドレスを表示させないときは、[オフ]に設定します。

通知メニュー

プロジェクターが異常／警告状態になったときに、ここで通知先を設定すると電子メールで通知されます。

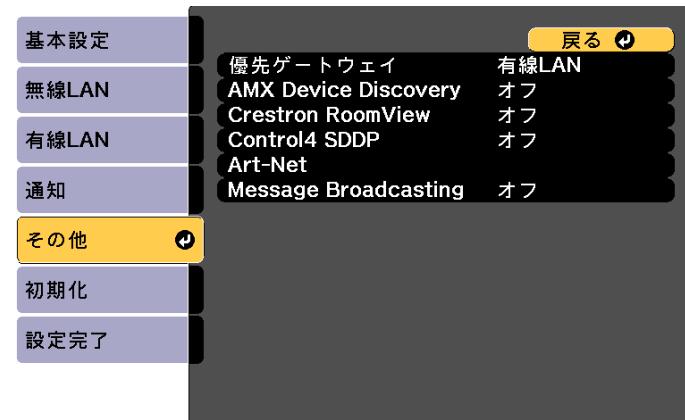
◀ 「異常通知メールの見方」 p.194



サブメニュー	機能
SNMP	[オン]にすると、 SNMP を使用して本機の監視をします。本機を監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者が行ってください。初期値は[オフ]に設定されています。
トラップIPアドレス1/トラップIPアドレス2	SNMPのトラップ通知先のIPアドレスを2つまで登録できます。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字)
コミュニティ名	SNMPのコミュニティ名を設定します。半角英数字で最大32文字まで入力できます。（@以外の記号とスペースは使用不可。）

サブメニュー	機能
メール通知機能	[オン]にすると、プロジェクトが異常/警告状態になったときに、設定した宛先にメールで通知します。
SMTPサーバー	本機が使うSMTPサーバーのIPアドレス ▶ を入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字)
ポート番号	SMTPサーバーのポート番号を入力します。初期値は25です。1~65535までの有効な数値を入力できます。
差出人	送信者のメールアドレスを入力します。
宛先1設定/宛先2設定/宛先3設定	通知メールの送信先のメールアドレスと、通知する内容を設定します。送信先は最大3件まで登録できます。メールアドレスは最大32文字まで入力できます。（"(),;,<>[¥]スペースは使用不可。）

その他メニュー



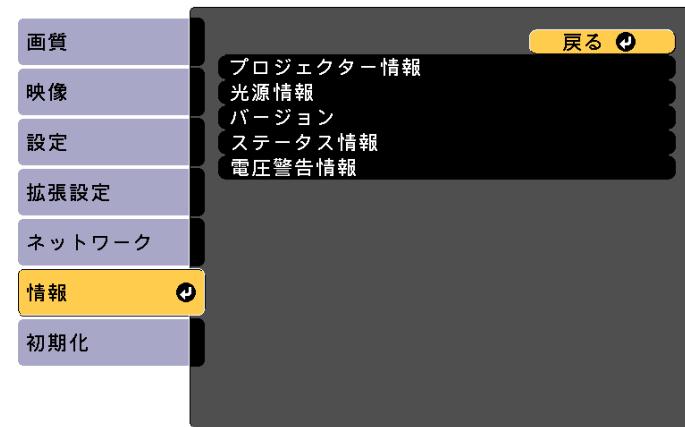
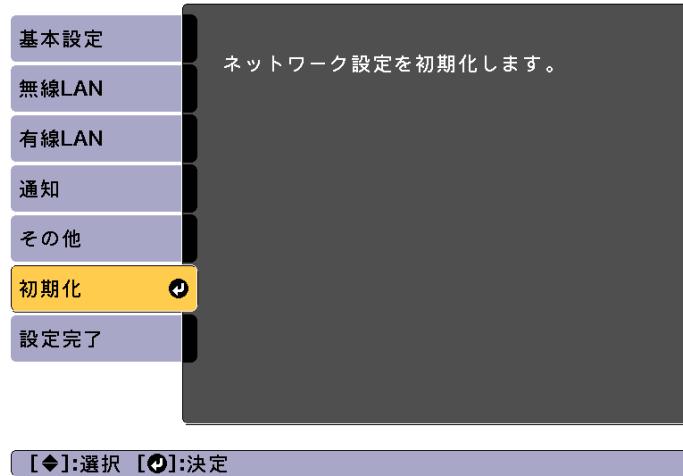
[戻る]/[✖]:戻る [◆]:選択

サブメニュー	機能
優先ゲートウェイ	優先ゲートウェイを[有線]/[無線]のどちらにするか選択します。
AMX Device Discovery	AMX Device Discovery [▶] による本機の検出を有効にしたいときは[オン]に設定します。AMX社のコントローラーやAMX Device Discoveryで制御する環境に接続していないときは、[オフ]に設定してください。
Crestron RoomView	Crestron RoomView [®] を使用して、ネットワーク経由で本機の監視・制御を行うときのみ[オン]に設定します。通常は[オフ]に設定してください。 ☞「Crestron RoomView [®] について」 p.197 設定の変更は、本機を再起動したときに有効になります。 [オン]に設定したときは、以下の機能はご利用になれません。 <ul style="list-style-type: none"> • Epson Web Control • Message Broadcasting (EasyMP Monitorのプラグイン)
Control4 SDDP	Control4 [®] Simple Device Discovery Protocol (SDDP) [▶] による機器情報の取得を有効にしたいときは[オン]に設定します。

サブメニュー	機能
Art-Net	[Art-Net] : Art-Netを使ってプロジェクターを制御するときは[オン]に設定します。 ☞「Art-Netについて」 p.202 [Net]/[Sub-Net]/[Universe] : プロジェクターのNet/Sub-Net/Universeを設定します。 [開始チャンネル] : Art-Netを処理する開始チャンネルを設定します。 ☞「チャンネル定義」 p.202
Message Broadcasting	Message Broadcasting機能の有効、無効を切り替えます。 ソフトウェアおよび取扱説明書は、以下のWebサイトよりダウンロードしてください。 http://www.epson.jp/download/

初期化メニュー

ネットワークの設定をすべて初期化します。



サブメニュー	機能
ネットワーク設定を初期化します。	ネットワーク設定をすべて初期化するときは[はい]を選択します。

情報メニュー(表示のみ)

投写している映像信号や本機の状態を確認できます。現在投写している入力ソースにより表示される項目が異なります。

サブメニュー	機能
プロジェクタ情報	累積使用時間※
	使用時間
	入力ソース
	入力信号
	入力解像度
	リフレッシュレート
	同期情報
	ステータス

サブメニュー	機能
光源情報	シリアル番号 本機のシリアル番号を表示します。
	レンズタイプ お使いのレンズの型番を表示します。
	Event ID ネットワークを介して本機とコンピューターを接続しているときにトラブルが生じると、トラブルの内容が番号(Event ID)で表示されます。Event IDの見方は、次を参照してください。 ☞「Event IDについて」 p.174
	HDBaseT信号レベル HDBaseT端子からの信号品質の情報を表示しています。
	光源使用時間 光源モード別に光源の使用時間を表示します。
残り時間目安	[一定モード]が[オン]のときに、明るさを一定に保つことができる時間の目安を表示します。
バージョン	Main Video2 Status Monitor 本機のソフトウェアのバージョンを表示します。
ステータス情報	本機の状態を表示します。 ☞「ステータスモニターの見方」 p.154
電圧警告情報	電源電圧についての警告を表示します。

※ 累積使用時間が0~10時間までは「0H」と表示されます。10時間以上は「10H」、「11H」と1時間単位で表示されます。

初期化メニュー



サブメニュー	機能
メモリー全初期化	[メモリー]、[レンズポジション]、[幾何学歪み補正]で登録したすべての名称と設定値を初期化します。 ☞「メモリー機能」 p.102
全初期化	環境設定メニューの全項目を初期設定に戻します。 [入力信号方式]、[メモリー]、[ユーザーロゴ]、[ネットワーク]メニューの全項目、[言語]、[日付&時刻]、[液晶アライメント]、[ユニフォーミティ]、[レンズキャリブレーション]、[カラーキャリブレーション]、[グルーピング]、[スクリーンマッチング]、[カラーマッチング]は初期値に戻りません。

1台のプロジェクターで設定した環境設定メニューの内容を、他の複数のプロジェクターに一括で設定できます（一括設定機能）。一括設定機能は同じ型番のプロジェクター間でのみ使用できます。

以下のいずれかの方法で設定します。

- USBメモリーを使って設定する。
- コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する。
- EasyMP Network Updaterを経由して設定する。

本書では、USBメモリーを使う方法とUSBケーブルを使う方法を説明します。



- 以下の内容は一括設定機能では反映されません。
 - ネットワークメニューの設定(通知メニュー、その他メニューを除く)
 - 情報メニューのステータス、光源情報
- 投写画面の調整を行う前に一括設定を行ってください。一括設定機能では、幾何学歪み補正などの投写画面の調整値も反映されます。投写画面の調整後に一括設定を行うと、調整した投写画面が変わってしまうことがあります。
- 一括設定機能を使うと、登録してあるユーザーロゴも他のプロジェクターに反映されます。機密情報などをユーザーロゴとして登録しないでください。

⚠ 注意

一括設定は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因で一括設定に失敗したときは、修理費用が有償となることがあります。

USBメモリーを使って設定する

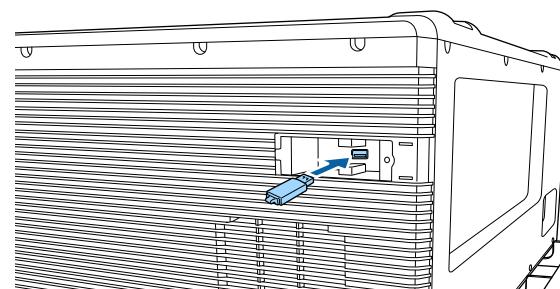
USBメモリーを使って一括設定する方法を説明します。



- FAT形式でフォーマットしたUSBメモリーを使用してください。
- セキュリティー機能が付いているUSBメモリーでは、一括設定機能が利用できません。セキュリティー機能の付いていないUSBメモリーをお使いください。
- USBカードリーダーやUSBハードディスクでは、一括設定機能は利用できません。

設定値をUSBメモリーに保存する

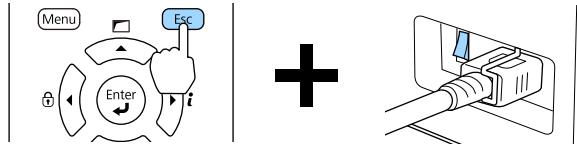
- 1 プロジェクターに電源コードを接続した状態で主電源スイッチをオフにして、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。
- 2 USBメモリーをプロジェクターの無線LANユニット用端子に接続します。
☞ 「無線LANユニットの取り付け」 p.47



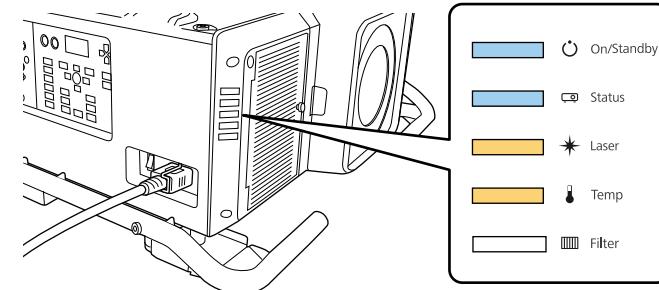


- USBメモリーは、プロジェクターに直接接続してください。USBハブを介してUSBメモリーを接続すると、設定値が正常に保存されないことがあります。
- 空のUSBメモリーを接続してください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定値が正しく保存できないことがあります。
- USBメモリー内に他のプロジェクターの一括設定ファイルを保存しているときは、ファイルを削除するかファイル名を変更してください。一括設定機能では、一括設定ファイルの上書きはできません。
- 一括設定したファイルのファイル名はPJCONFDATA.binです。ファイル名を変更するときはPJCONFDATAの後ろに任意の文字列を追加してください。他のファイル名に変更すると、プロジェクターが正しく認識できないことがあります。
- 2バイト以上の文字は、ファイル名に使えません。

③【戻る】ボタンを押したまま、主電源スイッチをオンにします。



プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、【戻る】ボタンを離してください。



電源	Status	Laser	Temp
青点灯	青点灯	橙点灯	橙点灯

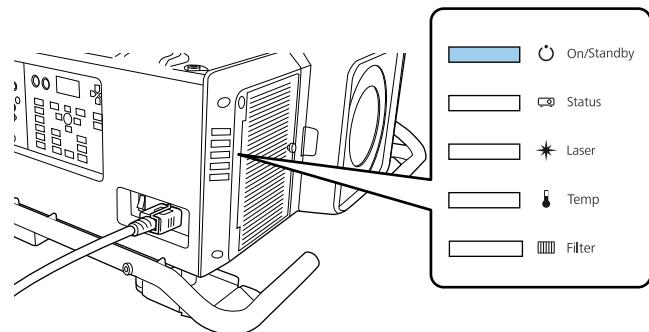
インジケーターが点滅に変わると、一括設定ファイルの書き込みが始まります。



注意

- ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜いたり主電源スイッチをオフにしたりしないでください。電力が供給されなくなると、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。
- ファイルの書き込み中は、プロジェクターからUSBメモリーを抜かないでください。USBメモリーを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

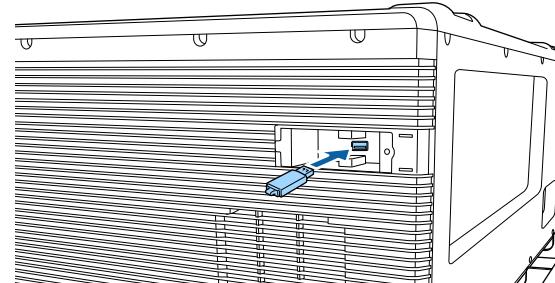


電源
青点灯

プロジェクターがスタンバイ状態になったら、USBメモリーを抜きます。

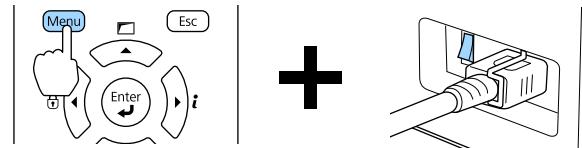
保存した設定値を他のプロジェクターに反映する

- 1 プロジェクターに電源コードを接続した状態で主電源スイッチをオフにして、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。
- 2 設定値が保存されているUSBメモリーを、プロジェクターの無線LANユニット用端子に接続します。

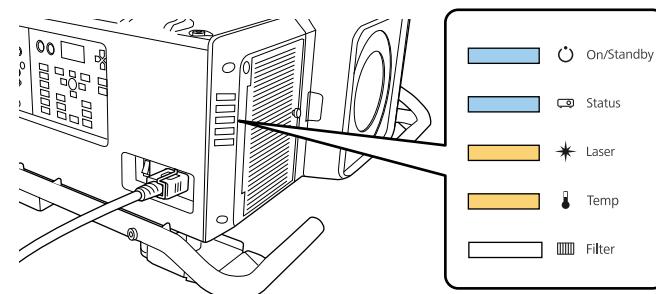


- USBメモリー内に一括設定ファイルが1～3種類あるとき、同じ型番のプロジェクターのファイルを反映します。同じ型番のプロジェクターのファイルが2つ以上あるときは、設定値が正常に反映できないことがあります。
- USBメモリー内に4種類以上の一括設定ファイルがあるとき、設定値が正常に反映できないことがあります。
- USBメモリーには一括設定ファイル以外のデータを入れないでください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定値が正しく反映できないことがあります。

- 3** 【メニュー】ボタンを押したまま、主電源スイッチをオンにします。



プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、【メニュー】ボタンを離します。

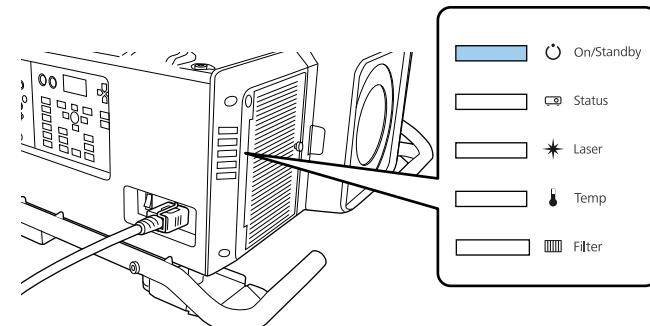


電源
青 点灯
Status
青 点灯
Laser
橙 点灯
Temp
橙 点灯
Filter

インジケーターは、約75秒点灯します。

すべてのインジケーターが点滅に変わると、設定値の書き込みが始まります。

- 4** 書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。



電源
青 点灯

プロジェクターがスタンバイ状態になったら、USBメモリーを抜きます。

⚠ 注意

- 設定値の書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜いたり主電源スイッチをオフにしたりしないでください。電力が供給されなくなると、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。
- 設定値の書き込み中は、プロジェクターからUSBメモリーを抜かないでください。USBメモリーを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する

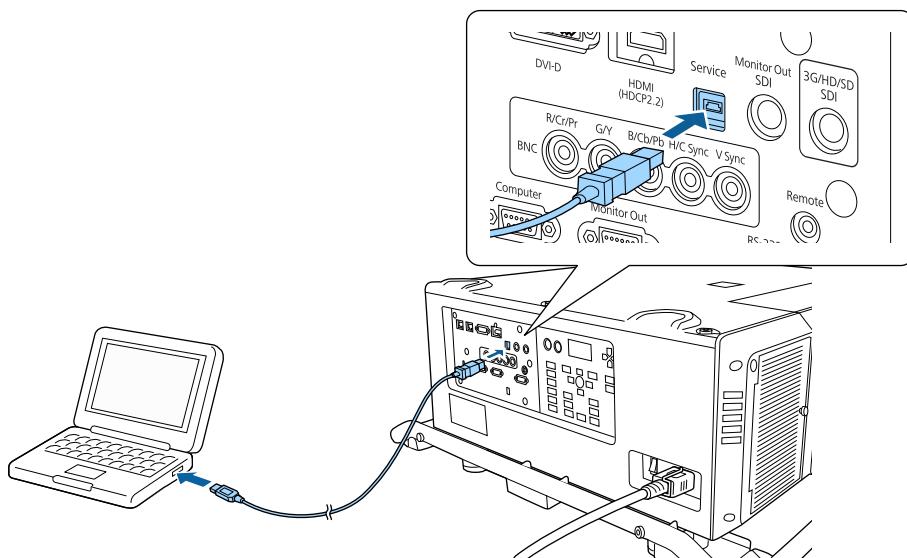


一括設定機能の対応OSは以下の通りです。

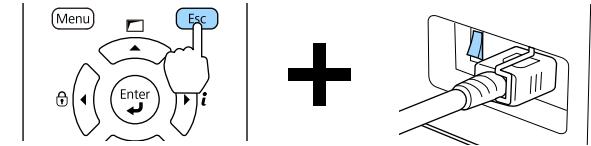
- Windows Vista以降
- Mac OS X 10.5.3以降

設定値をコンピューターに保存する

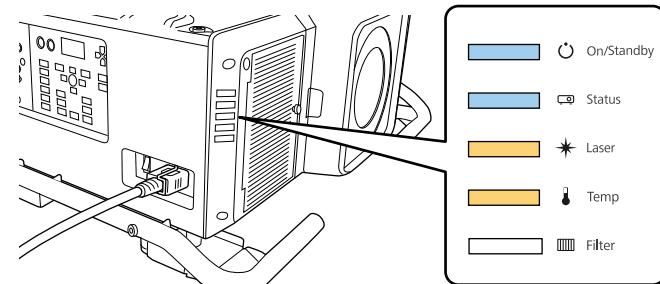
- 1 プロジェクターに電源コードを接続した状態で主電源スイッチをオフにして、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。
- 2 コンピューターのUSB端子とプロジェクターのService端子をUSBケーブルで接続します。



- 3 【戻る】ボタンを押したまま、主電源スイッチをオンにします。



プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、
【戻る】ボタンを離してください。



電源	Status	Laser	Temp
青 点灯	青 点灯	橙 点灯	橙 点灯

コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

- 4** リムーバブルディスクを開き、一括設定ファイル(PJCONFDATA.bin)をコンピューターに保存します。



一括設定ファイルのファイル名を変更するときはPJCONFDATAの後ろに任意の文字列を追加してください。他のファイル名に変更すると、正しく認識できないことがあります。

- 5** コンピューター上で「USBデバイスの取り外し」を行ってから、USBケーブルを抜きます。

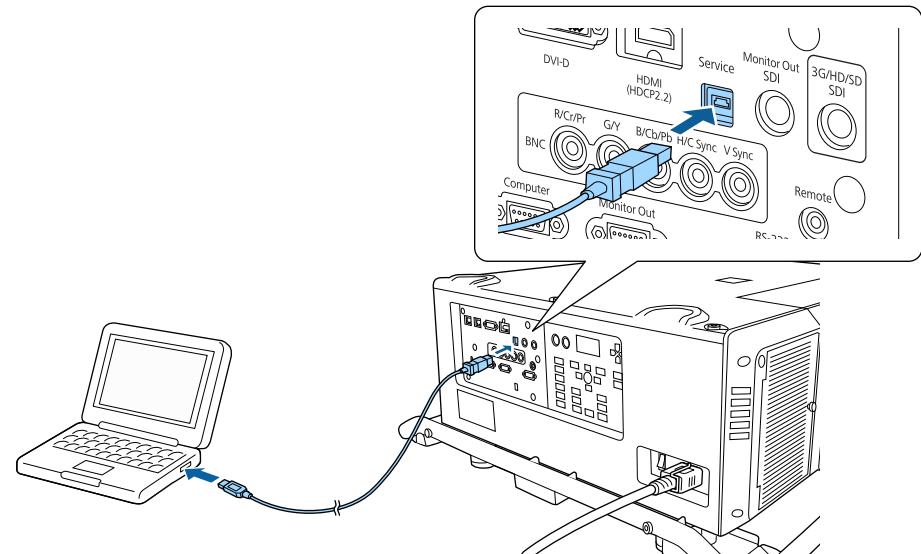


OS Xをお使いの場合は、「"EPSON_PJ"の取り出し」を行ってください。

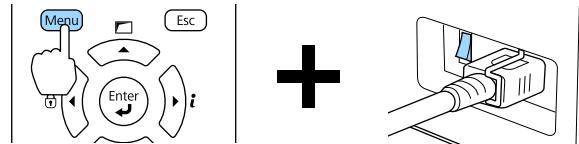
プロジェクターがスタンバイ状態になります。

保存した設定値を他のプロジェクターに反映する

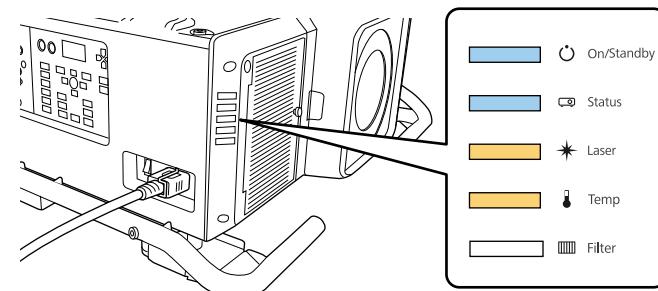
- 1** プロジェクターに電源コードを接続した状態で主電源スイッチをオフにして、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。
- 2** コンピューターのUSB端子とプロジェクターのService端子をUSBケーブルで接続します。



- 3** 【メニュー】ボタンを押したまま、主電源スイッチをオンにします。



プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、【メニュー】ボタンを離します。



電源 Status Laser Temp
青点灯 青点灯 橙点灯 橙点灯

コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

- 4** 保存した一括設定ファイル(PJCONFDATA.bin)をリムーバブルディスクの最上位フォルダーにコピーします。



リムーバブルディスク上に、一括設定ファイル以外のファイルやフォルダーをコピーしないでください。

- 5** コンピューター上で「USBデバイスの取り外し」を行ってから、USBケーブルを抜きます。



OS Xをお使いの場合は、「"EPSON_PJ"の取り出し」を行ってください。

インジケーターが点滅すると、設定値の書き込みが始まります。

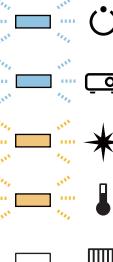
!**注意**

設定値の書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜いたり主電源スイッチをオフにしたりしないでください。電力が供給されなくなると、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

設定がうまくいかないときは

エラーが生じたときは、インジケーターでお知らせします。インジケーターの状態をご確認ください。

インジケーターの状態	対処法
 Laser : 橙 速点滅 Temp : 橙 速点滅	一括設定ファイルに異常があるか、USBメモリーが正しく接続できていない可能性があります。USBメモリーを取り外し、プロジェクターの電源コードを抜いて差し直してから、もう一度お試しください。
 電源 : 青 速点滅 Status : 青 速点滅 Laser : 橙 速点滅 Temp : 橙 速点滅	設定値の書き込みに失敗して、プロジェクターのファームウェアに異常が生じた可能性があります。ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。  『お問い合わせ先』

困ったときに

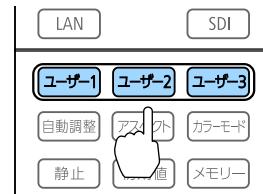
ここでは、想定されるトラブルと、その対処法などについて説明しています。

トラブル発生時の解決方法を投写映像に表示できます。質問に答えていくと適切な状態に設定することもできます。

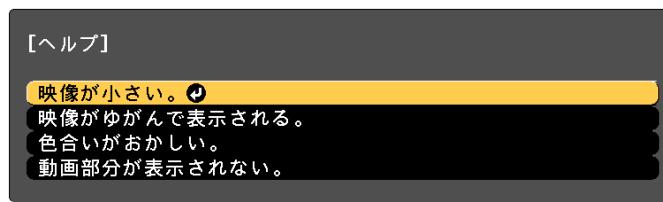
 ヘルプ画面を表示する前に、[ユーザー]ボタンに[ヘルプ]を割り当ててください。
☞ [設定] - [ユーザー]ボタン p.122

1 [ヘルプ]が割り当られた【ユーザー】ボタンを押します。

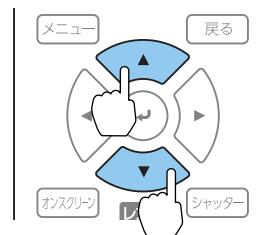
ヘルプ画面が表示されます。



2 項目を選択します。



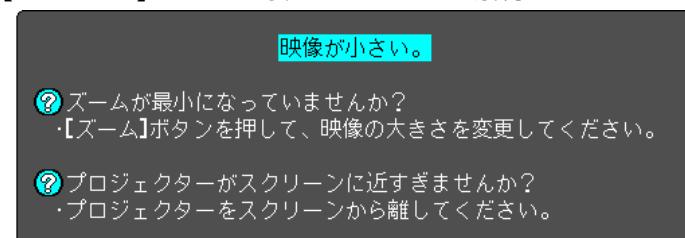
[◆]:選択 [●]:決定 [メニュー]:終了



3 項目を決定します。



以下の画面のように質問と対処法が表示されます。
【メニュー】ボタンを押すとヘルプは解除されます。



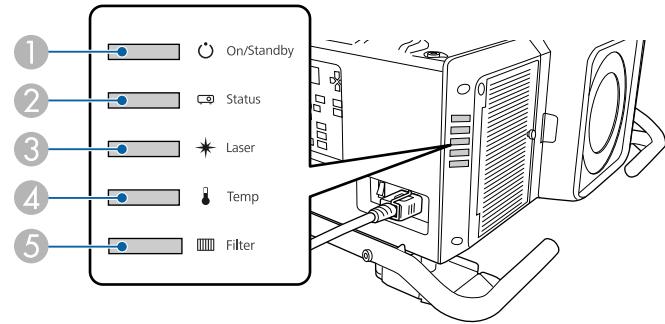
[戻る]:戻る [メニュー]:終了

 ヘルプ機能を使ってもわからないときは、以下をご覧ください。
☞ 「インジケーターの見方」 p.148

☞ 「インジケーターの見方」 p.148

インジケーターの見方

本機には、次の5種類のインジケーターがあり本機の状態をお知らせします。



① 電源インジケーター

本機の状態をお知らせします。

② Statusインジケーター

本機の状態をお知らせします。

③ Laserインジケーター

光源の状態をお知らせします。

④ Tempインジケーター

内部温度の状態をお知らせします。通常は消灯しています。

⑤ Filterインジケーター

エアフィルターの状態をお知らせします。通常は消灯しています。

通常動作時のインジケーター表示は以下のとおりです。

インジケーター					本機の状態	説明
電源	Status	Laser	Temp	Filter		
青点灯	消灯	消灯	消灯	消灯	スタンバイ状態	本機に電力が供給されている状態です。この状態でリモコンまたは操作パネルの【①】ボタンを押すと投写を開始します。 (電源コードを抜いても電源インジケーターがしばらく点灯したままになることがありますが故障ではありません)。
					ネットワーク監視状態	ネットワーク経由で、本機の監視と制御を行っている状態です([待機モード]を[通信オン]にしているとき)。 この状態のときに電源コードの抜き差しをすると、電源インジケーターが青色に点滅します。
青点灯	青点滅	状態依存	消灯	消灯	ウォームアップ状態	本機の電源を入れた直後の状態です。光源の点灯後、約30秒間ウォームアップ状態になります。 ウォームアップ中は【↓】ボタンの操作が無効になります。

インジケーターの見方

インジケーター					本機の状態	説明
電源	Status	Laser	Temp	Filter		
青点灯	青点灯	状態依存	消灯	消灯	投写中	映像を投写中の状態です。
青点灯	青点滅	消灯	消灯	消灯	クールダウン状態	電源を切った直後の状態です。この状態のときは、すべてのボタン操作が無効になります。
青点滅	消灯	消灯	消灯	消灯	ネットワーク監視準備中	ネットワーク経由で、本記の監視と制御を行う準備をしています。 ネットワーク監視準備中は全ボタン操作が無効になります。
青点灯	青点灯	青点滅	消灯	消灯	シャッター実行中	シャッター実行中の状態です。

本機にエラーが発生したときなどには、各インジケーターの色と点滅/点灯の組み合わせでエラー状態をお知らせします。

インジケーターの状態とその対処方法については、次の表を参照してください。

インジケーター					原因	処置または状態	ステータスマニターの表示
電源	Status	Laser	Temp	Filter			
○ 消灯	■ 青点滅	■ 橙点滅	○ 消灯	○ 消灯	内部異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☞『お問い合わせ先』	Internal Error
○ 消灯	■ 青点滅	○ 消灯	■ 橙点滅	○ 消灯	ファン異常 センサー異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☞『お問い合わせ先』	Fan Error Sensor Error
○ 消灯	■ 青点滅	○ 消灯	■ 橙点灯	○ 消灯	内部高温異常 (オーバーヒート)	光源が自動的に消灯し、投写できなくなります。約5分間は、そのままの状態で待ちます。約5分後、スタンバイ状態になりますので、次の2点を確認してください。 • エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認します。 • エアフィルターが目詰まりしているときは、電源プラグをコンセントから抜いてから、掃除または交換をします。 ☞「エアフィルターの掃除」 p.176 ☞「エアフィルターの交換」 p.180 上記を確認後も異常が発生するときは：ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☞『お問い合わせ先』	Temp Error
						標高1500m以上の場所でお使いのときは、[高地モード]を[オン]にしてください。 ☞[拡張設定] - [動作設定] - [高地モード] p.123	
○ 消灯	■ 青点滅	■ 橙点灯	○ 消灯	○ 消灯	レーザー異常 位相差板異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☞『お問い合わせ先』	Laser Error

インジケーター					原因	処置または状態	ステータスマニターの表示
電源	Status	Laser	Temp	Filter			
○ 消灯	-: 青点滅	○ 消灯	○ 消灯	○ 橙点灯	エアフィルター風量低下異常	次の2点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口がふさがっていないか、壁際に設置されていないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしているときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、掃除または交換をします。 <p>👉「エアフィルターの掃除」p.176 👉「エアフィルターの交換」p.180</p> <p>確認後、再び電源プラグをコンセントに接続します。</p> <p>上記を確認後も異常が発生するとき：ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>👉『お問い合わせ先』</p>	Airflow Error
○ 消灯	-: 青点滅	○ 橙点灯	○ 橙点灯	○ 消灯	レンズシフト異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 <p>👉『お問い合わせ先』</p>	Lens Error
-: 青点滅	○ 状態依存	○ 状態依存	-: 橙点滅	○ 状態依存	高温警告	異常ではありません。ただし、さらに高温になると投写を自動停止します。次の2点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口がふさがっていないか、壁際に設置されていないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしている場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、掃除または交換をします。 <p>👉「エアフィルターの掃除」p.176 👉「エアフィルターの交換」p.180</p>	Temp Warning
-: 青点滅	○ 状態依存	-: 橙点滅	○ 状態依存	○ 状態依存	レーザー警告	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 <p>👉『お問い合わせ先』</p>	Laser Warning

インジケーター					原因	処置または状態	ステータスマニターの表示
電源	Status	Laser	Temp	Filter			
					レンズ警告	サポート対象外のレンズが取り付けられています。サポート対象のレンズをお使いください。  「オプション・消耗品一覧」p.206	Lens Warning
					エアフィルター風量低下	異常ではありません。ただし、さらに風量低下の状態になると投写を自動停止します。 「エアフィルターが目詰まりしています。エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」とメッセージも表示されます。以下の2点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none">エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認します。エアフィルターが目詰まりしているときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、掃除または交換をします。「エアフィルターの掃除」p.176 「エアフィルターの交換」p.180 上記を確認後も異常が発生するとき：ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。  『お問い合わせ先』	Airflow Decline
					エアフィルター清掃通知	「エアフィルターの清掃時期です。エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」とメッセージも表示されます。 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、エアフィルターの掃除をしてください。  「エアフィルターの掃除」p.176 エアフィルター清掃通知のインジケーターとメッセージは、環境設定メニューの[エアフィルター清掃通知]を[オン]に設定しているときに表示されます。  「拡張設定」 - 「表示設定」 - 「エアフィルター清掃通知」 p.123	Cleaning Filter



- ・インジケーターは異常を示していないのに、投写映像に異常があるときは以下をご覧ください。
👉「故障かなと思ったら」[p.163](#)
- ・各インジケーターがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。
👉『お問い合わせ先』

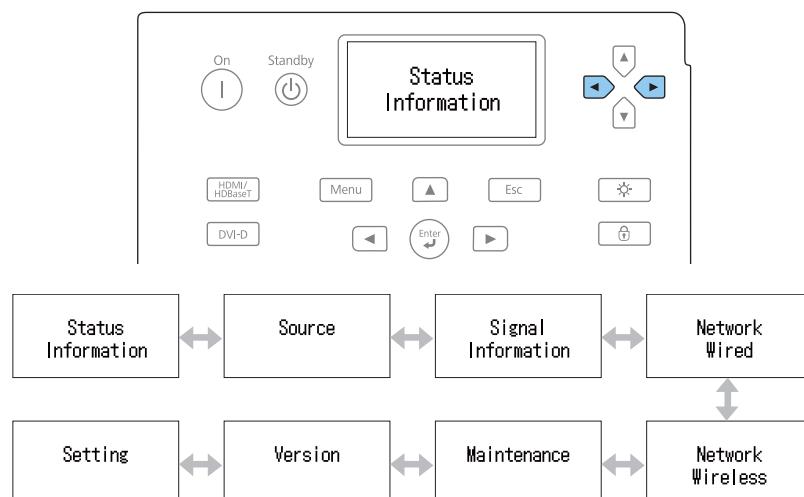
操作パネルの液晶ディスプレイで、本機の状態を表示します。また、操作パネルのボタン操作で、本機の詳細な状況やエラーの履歴などを確認できます。

-  本機がスタンバイ状態のときにステータスモニターを使用するには、以下の設定をします。
 - [待機モード]を[通信オン]に設定する。
👉 [拡張設定] - [待機モード] [p.123](#)
 - [A/V出力]を[常時]に設定する。
👉 [拡張設定] - [A/V出力設定] - [A/V出力] [p.123](#)

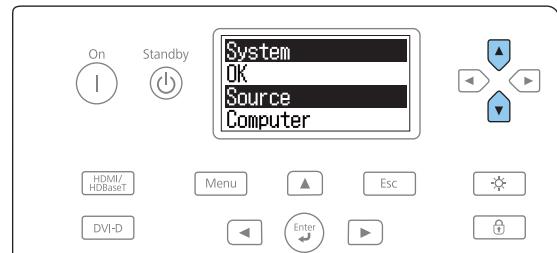
ステータスの確認手順

ステータスモニターを表示するには、操作パネルの【】ボタンを押します。

ステータスモニターの表示カテゴリーは8つに分かれており、【】【】ボタンを押すたびに下図の順番で切り替わります。



【】【】ボタンでそれぞれのカテゴリーの項目と情報を確認できます。



-  ステータスモニターは以下のときに点灯します。

- 操作パネルのいずれかのボタンを押したとき
- 異常および警告が発生したとき
- ズーム、フォーカス、レンズシフト調整したとき
- プロジェクターIDを確認したとき
👉 「プロジェクターIDの確認方法」 [p.37](#)

ステータスモニターを点灯させたくないときは、**Lighting Time**を**Off**に設定してください。

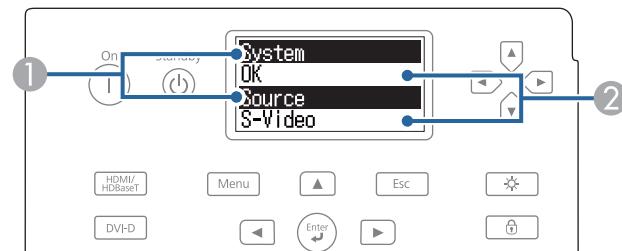
👉 「画面表示（液晶ディスプレイ）の設定」 [p.156](#)

画面の見方

通常表示

カテゴリーごとに表示される情報は以下のとおりです。

Status Information	： 本機の動作状態
Source	： 入力映像信号情報
Signal Information	： 入力デジタル映像信号情報
Network Wired	： 有線LAN設定
Network Wireless	： 無線LAN設定
Maintenance	： 本機や光源の使用時間
Version	： 本機のソフトウェアのバージョン



- | | |
|---|--------------------------------|
| ① | 項目名を表示します。
☞「表示内容の説明」 p.157 |
| ② | 項目に関する情報を表示します。 |

異常および警告発生時の表示

本機に問題が発生すると以下のように表示されます。

異常発生時

Temp
Error

警告発生時

Temp
Warning

異常が解消されるか、【↑】【↓】【□】【△】ボタンのいずれかを押すと通常表示に戻ります。

異常および警告の内容と対処方法は、以下を参照してください。
☞「インジケーターの見方」 p.148

画面表示(液晶ディスプレイ)の設定

コントラストの調整と、バックライトの点灯時間を設定します。

- 1 【□】【△】ボタンでSettingを選択します。



- 2 【▽】ボタンを押して以下の画面を表示します。



- 3 【□】【△】ボタンでコントラストを調整します。

- 4 【▽】ボタンを押して以下の画面を表示します。



- 5 【□】【△】ボタンでバックライトの点灯時間を設定します。

初期値は **30sec**(30秒)です。 **Off**(点灯させない)、**10-60sec**、
30min(30分)、**Always**(常時)から設定できます。

表示内容の説明

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Status Information	System	本機の状態を表示します。異常や警告の対処方法については、以下を参照してください。 ☞「インジケーターの見方」 p.148	
		OK	通常状態です。
		Warm-Up	ウォームアップ状態です。
		Standby	スタンバイ状態です。
		Cool Down	クールダウン状態です。
		Temp Error	内部高温異常です。
		Fan Error	ファン異常です。
		Sensor Error	センサー異常です。
		Internal Error	内部異常です。
		Airflow Error	フィルター風量低下異常です。
		Temp Warning	高温警告です。
		Intarnal Warning	内部システムに関する警告です。
		Airflow Decline	エアフィルター風量低下です。
		Clean Filter	エアフィルター清掃通知です。
		Lens Error	レンズ異常です。
		Laser Error	レーザー異常です。
		Laser Warning	レーザー警告です。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Status Information	Source	HDMI	現在投写中の機器を接続している入力ソース名を表示します。
		HDBaseT	
		DVI-D	
		SDI	
		Computer	
		BNC	
		LAN	
	On-Screen Display	On	[オンスクリーン表示]の設定を表示します。Offのときは、メニューやメッセージなど投写映像以外は一切表示されません。
		Off	
	Shutter	On	シャッターの動作状態を表示します。
		Off	
	Air Temp	—	使用環境温度を数値で表示します。
	Temp Level	—	使用環境温度のレベルを5段階で表示します。
	AC Voltage	—	[電源電圧監視]を[オン]にしているときに発生した警告やエラーを表示します。
	Laser Status	On	光源の点灯状態を表示します。
		Off	
Source	Source	HDMI	現在投写中の機器を接続している入力ソース名を表示します。
		HDBaseT	
		DVI-D	
		SDI	
		Computer	
		BNC	
		LAN	
	Resolution	—	現在投写中の映像信号の入力解像度を表示します。 No Signal : 映像信号が入力されていません。 Not Supported : 本機に対応していない映像信号が入力されています。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Source	Video Signal	—	現在投写中の映像信号のビデオ信号方式を表示します。
	Color Space	RGB	現在投写中の映像信号の色空間を表示します。
		YCbCr	
		YPbPr	
	H-Frequency	—	現在投写中の映像信号の水平周波数を表示します。
	V-Frequency	—	現在投写中の映像信号の垂直周波数を表示します。
	Sync Polarity	H:Posi / V:Posi	同期極性を表示します。
		H:Posi / V:Nega	
		H:Nega / V:Posi	
		H:Nega / V:Nega	
	Sync Mode	Composite Sync	同期種別を表示します。
		Separate Sync	
		Sync On Green	
	Detected Mode	—	現在投写中の映像信号の判別解像度を表示します。
	Video Level	Auto(Normal)	本機のビデオレベルを表示します。
		Auto(Expanded)	
		Normal	
		Expanded	



Sourceで表示される項目は、お使いの機種、現在投写している映像信号や入力ソースにより異なります。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Signal Information	5V Detection	Detected	5V信号の検出結果を表示します。
		Not Detect	
	TMDS Clock	—	現在投写中の映像信号のTMDS周波数を表示します。
	TMDS H-Frequency	—	現在投写中の映像信号の水平周波数を表示します。
	TMDS V-Frequency	—	現在投写中の映像信号の垂直周波数を表示します。
	DetChg 5CFHMP123	—	信号変化の要因を表示します。
	Stable Time	—	映像信号が確定してから現在までの時間を表示します。
	HDCP Status	Non-HDCP	HDCPの状態を表示します。
		Passed	
		Failed	
	HDCP Ver	—	HDCPのバージョンを表示します。
	AVI Info VIC	—	現在投写中の映像信号のVIC情報(AVI)を表示します。
	AVI InfoChecksum	OK	AVIのチェックサム結果を表示します。
		NG	
	Signal Mode	HDMI	信号モードを表示します。
		DVI	
	Pixel Encoding	RGB	現在投写中の映像信号の色空間情報(AVI)を表示します。
		YUV4:4:4	
		YUV4:2:2	
		YUV4:2:0	
	HDBaseT Level	—	HDBaseT端子からの信号品質の情報を表示しています。



Signal Informationで表示される項目は、お使いの機種、現在投写している映像信号や入力ソースにより異なります。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Network Wired	Projector Name	—	ネットワーク上で本機を識別するための個別の名前を表示します。
	Connection Mode	HDBaseT	LANの接続経路を表示しています。
		LAN	
	DHCP	On	DHCPの設定状態を表示します。
		Off	
	IP Display	On	IPアドレス表示の設定状態を表示します。
		Off	
Network Wireless	IP Address	—	IPアドレスを表示します。
	MAC Address	—	MACアドレスを表示します。
	Projector Name	—	ネットワーク上で本機を識別するための個別の名前を表示します。
	Connection Mode	Quick	本機とコンピューターを無線LANで接続するときの接続モードを表示します。
		Advanced	(Quick : かんたんモード、Advanced : マニュアルモード)
	SSID Display	On	SSID表示の設定状態を表示します。
		Off	
	IP Display	On	IPアドレス表示の設定状態を表示します。
		Off	
	SSID	—	SSIDを表示します。
	IP Address	—	IPアドレスを表示します。
	DHCP	On	DHCPの設定状態を表示します。
		Off	
	MAC Address	—	MACアドレスを表示します。
	Security	No	セキュリティーの設定状態を表示します。
		WPA2-PSK	
		WPA/WPA2-PSK	
	Antenna Level	LEVEL 0-5	Wi-Fiの受信状態を表示します。

カテゴリー	項目名	状態表示	説明
Maintenance	Operation Time	—	本機の累積使用時間を表示します。
	Laser Op.Time	—	光源モード(設定値)ごとのレーザー稼働時間を表示します。
Version	Serial No.	—	本機のシリアル番号を表示します。
	Main	—	本機のソフトウェアのバージョンを表示します。
	Video2	—	
	Sub	—	
	Sub2	—	
	HDBaseT	—	
	Status Monitor	—	

故障かなと思ったら

まず、下記をご覧になりどのトラブルに該当するかを確認し、参照先で詳細な内容をご覧ください。

映像に関するトラブル

• 映像が表示されない 投写を開始しない、真っ黒の映像になる、青い映像になる	 p.164
• 動画が表示されない コンピューターで再生する動画が黒くなり映像が投写されない、コンピューターで動画が再生されない。	 p.164
• 自動的に投写が消える	 p.165
• 「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される	 p.165
• 「映像信号が入力されていません。」と表示される	 p.165
• ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ	 p.166
• ノイズが入る、乱れる	 p.166
• 映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクト比が合っていない、反転している 映像の一部分しか投写されない、映像の縦横の比率が正しくない、映像の上下左右が反転している	 p.167
• 色合いが違う 全体が赤紫がかっている、緑色がかっている、モノクロになる、色がくすむ	 p.168
• 暗い	 p.168
• 自動補正がうまくできない	 p.169

投写開始時のトラブル

• 電源が入らない	 p.169
-----------	---

その他のトラブル

• リモコンで操作できない	 p.170
• Art-Netでの制御がうまくできない	 p.171

• 外部モニターに表示されない	 p.172
• メッセージやメニューの言語を変更したい	 p.172
• プロジェクターに異常が起きてもメール通知されない	 p.172
• 「時刻を保持する電池残量が低下しています。」と表示される	 p.173

映像に関するトラブル

映像が表示されない

確認	対処法
リモコンまたは操作パネルの【①】ボタンを押しましたか？	【①】ボタンを押して電源を入れます。
インジケーターがすべて消灯していませんか？	電源コードが正しく接続されていない、または電力が供給されていません。 本機に電源コードを正しく接続してください。 または、電力が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。
シャッターの状態になっていませんか？	【シャッター】ボタンを押してシャッターを解除します。 ☞「映像を一時的に消す（シャッター）」p.99
環境設定メニューの設定で間違っているものはありませんか？	全初期化してみてください。 ☞「[初期化] - [全初期化]」p.137
入力映像そのものが真っ黒になっていますか？ (コンピューター投写時のみ)	スクリーンセーバーなどで入力映像が真っ黒になっていることがあります。
Windows Media Centerを全画面表示にしていませんか？ (ネットワーク接続時のみ)	Windows Media Centerを全画面で表示すると、ネットワーク接続で投写できません。縮小画面表示にしてください。
WindowsのDirectX機能を使用するアプリケーションを表示していませんか？ (ネットワーク接続時のみ)	WindowsのDirectX機能を使用するアプリケーションは、正しく表示されない可能性があります。

動画が表示されない

確認	対処法
コンピューター映像信号が外部と液晶画面の両方に出力されていますか？ (ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ)	コンピューター側の映像信号を外部のみの出力に切り替えます。コンピューターに添付の取扱説明書、あるいはお使いのコンピューターのメーカーにお問い合わせください。
動画コンテンツが著作権保護されていますか？	著作権保護された動画コンテンツをコンピューターで再生すると、プロジェクターから投写されないことがあります。詳しくはプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

自動的に投写が消える

確認	対処法
[スリープモード]を[オン]にしていませんか？	<p>【①】ボタンを押して電源を入れます。スリープモードを働かせないときは設定を[オフ]にしてください。</p> <p>➡ [拡張設定] - [動作設定] - [スリープモード] p.123</p>

「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される

確認	対処法
映像信号の解像度やリフレッシュレートが対応するモードですか？ (コンピューター投写時のみ)	<p>コンピューターから出力されている映像信号の解像度・リフレッシュレートの変更は、コンピューターの取扱説明書などでご確認ください。</p> <p>➡ 「対応解像度一覧」 p.218</p>

「映像信号が入力されていません。」と表示される

確認	対処法
ケーブル類が正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ケーブルが断線・接触不良を起こしていないか確認します。
接続した入力端子を正しく選択していますか？	【入力検出】ボタンを押して映像を切り替えます。 ➡ 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 p.52
接続されたコンピューターやビデオ機器の電源は入っていますか？	それぞれの機器の電源を入れます。
プロジェクターに映像信号が出力されていますか？ (ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ)	<p>映像信号がコンピューターの液晶モニターや付属モニターにだけ出力されている場合は、外部にも出力するように切り替えてください。外部に映像信号を出力すると、液晶モニターや付属モニターに映像が出せないモデルもあります。</p> <p>本機やコンピューターの電源を入れた状態で接続を行うと、コンピューターの映像信号を外部に切り替えるFnキー(ファンクションキー)が働かないことがあります。本機およびコンピューターの電源を入れ直してください。</p> <p>➡ コンピューターの取扱説明書など</p>

ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ

確認	対処法
ピントは正しく調整されていますか？	映像を投写し始めてから20分以上たっていることを確認し、リモコンの【フォーカス】ボタンを押して、ピントを調整します。 ☞「ピントのズレを補正する」 p.33
投写距離は最適ですか？	投写距離の推奨範囲を外れていませんか？ 推奨範囲内で設置してください。 ☞「スクリーンサイズと投写距離」 p.207
レンズが結露していませんか？	寒い部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだり急激に暖房したときなど、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に使用する部屋に本機を設置するようにします。結露してしまったときは、電源を切ってしばらくそのまま放置してください。

ノイズが入る、乱れる

確認	対処法
ケーブル類は正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ☞「接続する」 p.41
ケーブルを延長していませんか？	ケーブルを延長するとノイズが入ることがあります。同梱のケーブルを接続して確認してください。
解像度の選択は正しいですか？ (コンピューター投写時のみ)	本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ☞「対応解像度一覧」 p.218 ☞コンピューターの取扱説明書など
同期▶・トラッキング▶は正しく調整されていますか？ (コンピューター投写時のみ)	リモコンの【自動調整】ボタンまたは操作パネルの【↔】ボタンを押して、自動調整を行います。自動調整を行っても調整しきれないときは、環境設定メニューから調整することもできます。 ☞「[映像] - [トラッキング]、[同期]」 p.120
[入力解像度]を[オート]以外に設定していますか？ (2画面投写時のみ)	環境設定メニューの[入力解像度]で設定している解像度と、投写している映像の入力解像度が異なるときは、映像が乱れことがあります。 映像が乱れるときは[入力解像度]を[オート]に設定してください。 ☞「[映像] - [入力解像度]」 p.120

映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクトが合っていない、反転している

確認	対処法
[スクリーン設定]を正しく設定していますか？	お使いのスクリーンに合わせて[スクリーン設定]を設定してください。 ➡ 「スクリーン設定」 p.27
アスペクトは正しく設定されていますか？	【アスペクト】ボタンを押して入力信号に合ったアスペクトを選択してください。 ➡ 「投写映像のアスペクト比を切り替える」 p.70
(コンピューター投写時のみ) ワイドパネルのコンピューター映像を投写していますか？	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ➡ 「映像」 - [入力解像度] p.120
[表示倍率]を有効にしていませんか？	環境設定メニューの[表示倍率]を[オフ]にしてください。 ➡ 「映像」 - [表示倍率] - [表示倍率] p.120
[ブランкиング]で表示範囲を制限していませんか？	環境設定メニューの[ブランкиング]を適切な設定にしてください。 ➡ 「映像」 - [ブランкиング] p.120
表示位置は正しく調整されていますか？	(Computer入力端子から入力しているアナログRGB信号の投写時のみ) リモコンの【自動調整】ボタンまたは操作パネルの【↔】ボタンを押して、表示位置を調整します。 表示位置は環境設定メニューからも調整できます。 ➡ 「映像」 - [表示位置] p.120
(コンピューター投写時のみ) デュアルディスプレイの設定をしていませんか？	接続しているコンピューターのコントロールパネルの[画面のプロパティ]でデュアルディスプレイの設定をしていると、コンピューター画面の映像が半分くらいしか投写されません。コンピューター画面の映像をすべて投写するときは、デュアルディスプレイの設定を解除します。 ➡ コンピューターのビデオドライバーの取扱説明書
(コンピューター投写時のみ) 解像度の選択は正しいですか？	本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ➡ 「対応解像度一覧」 p.218 ➡ コンピューターの取扱説明書など
映像の向きは正しいですか？	環境設定メニューの[設置モード]で正しく設定してください。 ➡ 「設置設定」 p.26

色合いが違う

確認	対処法
入力信号の設定が接続機器の信号と合っていますか？	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ☞ [映像] - [アドバンスト]- [入力信号方式] p.120
映像の明るさは正しく調整されていますか？	環境設定メニューの[明るさ]を調整してください。 ☞ [画質] - [明るさ] p.118
ケーブル類が正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ケーブルが断線・接触不良を起こしていないか確認します。 ☞ 「接続する」 p.41
コントラスト▶は正しく調整されていますか？	環境設定メニューの[コントラスト]を調整してください。 ☞ [画質] - [コントラスト] p.118
適切なカラー調整に設定されていますか？	環境設定メニューの[ガンマ]、[RGBCMY]を調整してください。 ☞ [画質] - [アドバンスト] p.118 ☞ 「画質を調整する」 p.72
色の濃さ、色合いは正しく調整されていますか？	環境設定メニューの[色の濃さ]、[色合い]を調整してください。 ☞ [画質] - [色の濃さ]、[色合い] p.118
部屋の明るさは適切ですか？	自動補正機能で色合わせを行ったときよりも部屋が暗いときは、投写映像の色合いが正しく表示されないことがあります。部屋の明るさを投写中よりも暗くし、再度自動補正を実施してください。 ☞ 「スクリーンマッチング」 p.90 ☞ 「カラーキャリブレーション」 p.183

暗い

確認	対処法
映像の明るさは正しく設定されていますか？	環境設定メニューから[明るさ]や[明るさ設定]の設定を確認してください。 ☞ [画質] - [明るさ] p.118 ☞ [設定] - [明るさ設定] p.122
コントラスト▶は正しく調整されていますか？	環境設定メニューから[コントラスト]を調整してください。 ☞ [画質] - [コントラスト] p.118

確認	対処法
本機を単体でお使いですか？	以下の項目を暗く設定していないかご確認ください。 👉 [拡張設定] - [マルチプロジェクション] - [スクリーンマッチング] - [明るさ設定] p.123

自動補正がうまくできない

確認	対処法
電源をオンにしてから20分以上経過していますか？	プロジェクター本体の温度が安定しないと、自動補正が正しく機能しないことがあります。自動補正機能は、電源オンまたはシャッター解除から20分後に実行してください。
内蔵カメラのカバーに汚れはありませんか？	内蔵カメラのカバーに汚れがないことを確認してください。汚れがある場合は拭いてください。
アナログ入力信号を入力していませんか？	アナログ入力信号を入力しているときは、入力映像の色や明るさが変化し、補正結果が正しく反映されないことがあります。
幾何学歪み補正で映像を補正していませんか？	幾何学歪み補正で補正された映像に対しては自動補正が正しく機能しないことがあります。[幾何学歪み補正]を[オフ]にするか、補正範囲を小さくしてください。 👉 [設定] - [幾何学歪み補正] p.122
補正環境の明るさは適切ですか？	自動補正を実行中に強いスポット光や外光が入ると、補正環境の明るさが変化し、自動補正が正しく機能しないことがあります。補正環境の明るさが均一になるようにしてください。
ブレンド幅が15~45%になっていますか？	エッジブレンディングでのブレンド幅が15%以下または45%以上のときは、スクリーンマッチングが正しく機能しないことがあります。ブレンド幅を確認してください。 👉 [拡張設定] - [マルチプロジェクション] - [エッジブレンディング] p.123

投写開始時のトラブル

電源が入らない

確認	対処法
主電源スイッチがオフになっていますか？	主電源スイッチをオンにして、本機に電力を供給します。
リモコンまたは操作パネルの【①】ボタンを押しましたか？	【①】ボタンを押して電源を入れます。

確認	対処法
インジケーターがすべて消灯していませんか？	<p>電源コードが正しく接続されていない、または電力が供給されていません。 電源コードを抜いて差し直してください。 または、電力が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。</p>
電源コードを触ると、インジケーターが点いたり消えたりしませんか？	<p>電源コードが接触不良を起こしているか、電源コードが故障している可能性があります。電源コードを差し直してください。それでも直らないときは、ご使用をやめ電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。</p> <p>☞ 「お問い合わせ先」</p>
[操作ボタンロック]が[全ロック]になっていませんか？	<p>リモコンの【①】ボタンを押します。[操作ボタンロック]を働かせないときは設定を[オフ]にしてください。</p> <p>☞ 「操作ボタンロック」 p.110</p>
リモコン受光部の設定は正しいですか？	<p>環境設定メニューの[リモコン受光部]の設定を確認してください。</p> <p>☞ [設定] - [リモコン受光部] p.122</p>
ダイレクトシャットダウンをした直後に電源コードのプラグを挿し直したりブレーカーをオンにしたりしていませんか？	<p>[ダイレクトパワーオン]を[オン]に設定しているときに左記の操作をすると電源が入らないことがあります。【①】ボタンを押して電源を入れます。</p>
リモコンの【ID】スイッチがOnになっていませんか？	<p>OnになっているとIDが一致するプロジェクターだけが操作対象になります。【ID】スイッチをOffにしてください。</p> <p>☞ 「リモコンIDを設定する」 p.37</p>

その他のトラブル

リモコンで操作できない

確認	対処法
リモコンの発光部を本機のリモコン受光部に向けて操作していますか？	<p>リモコン受光部に向かって操作してください。</p> <p>☞ 「リモコンの操作可能範囲」 p.22</p>
本機から離れすぎていませんか？	<p>操作可能距離をご確認ください。</p> <p>☞ 「リモコンの操作可能範囲」 p.22</p>
リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の強い光が当たっていますか？	<p>強い光などがリモコン受光部に当たる場所を避けて設置してください。</p>

確認	対処法
[リモコン受光部]の設定は正しいですか？	<p>環境設定メニューの[リモコン受光部]の設定を確認してください。</p> <p>👉 [設定] - [リモコン受光部] p.122</p>
乾電池が消耗していたり、乾電池の向きを間違えてセットしていませんか？	<p>新しい乾電池を正しい向きにセットします。</p> <p>👉 「リモコンの電池交換」 p.20</p>
リモコンIDはプロジェクターIDと一致していますか？	<p>操作したいプロジェクターのIDとリモコンのIDを一致させてください。IDの設定に関わらずすべてのプロジェクターをリモコンで操作できるようにするには、リモコンの【ID】スイッチをOffにします。</p> <p>👉 「IDの設定」 p.36</p>
本機のRemote端子にオプションのリモコンケーブルを接続していませんか？	<p>リモコンケーブルが差し込まれていると本機のリモコン受光部が働かなくなります。ワイヤードリモコンケーブルを使用しないときは、ワイヤードリモコンケーブルをRemote端子から取り外してください。</p>
[制御通信]または[Extron XTP]が[オン]になっていませんか？	<p>Remote端子が無効です。オプションのワイヤードリモコンケーブルをお使いになるときは、[制御通信]または[Extron XTP]を[オフ]に設定してください。</p> <p>👉 [拡張設定] - [HDBaseT設定] p.123</p>
リモコンボタンロックが設定されていませんか？	<p>リモコンボタンロックが設定されていると、基本操作に必要なボタン以外は無効になります。リモコンの【↑】ボタンを長押しして、リモコンボタンロックを解除してください。</p> <p>👉 「リモコンボタンロック」 p.111</p>

Art-Netでの制御がうまくできない

確認	対処法
Art-Netでの制御中に、リモコンや操作パネルで本機を操作していませんか？	<p>Art-Netで制御しながらリモコンや操作パネルで本機を操作すると、DMXコントローラーやアプリケーションソフトでの操作が本機にうまく反映されないことがあります。すべてのチャンネルの制御を本機に反映するときは、チャンネル13を「操作不可」に設定し、再度「操作可能」に設定してください。</p> <p>👉 「Art-Netについて」 p.202</p>

外部モニターに表示されない

確認	対処法
外部モニターを接続している端子は正しいですか？	表示したい映像を入力している端子によって、外部モニターを接続する端子が異なります。 <ul style="list-style-type: none"> 映像信号をComputer入力端子またはBNC入力端子に入力している場合は、Monitor Out端子に接続します。 映像信号を3G/HD/SD SDI入力端子に入力している場合は、Monitor Out SDI端子に接続します。
2画面で投写していますか？	外部モニターに表示できる映像は、左画面で投写しているComputer入力端子、BNC入力端子からのRGB信号のみです。  「2種類の映像を同時に投写する（2画面）」 p.96
本機がスタンバイ状態ですか？	環境設定メニューの[待機モード]、[A/V出力]、[モニター出力]が正しく設定されているか確認してください。  [拡張設定] - [待機モード]、[A/V出力設定] p.123

メッセージやメニューの言語を変更したい

確認	対処法
言語の設定を変更します。	環境設定メニューの言語で目的の言語を選択してください。  [拡張設定] - [言語] p.123

プロジェクターに異常が起きててもメール通知されない

確認	対処法
[待機モード]を[通信オン]に設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもメール通知機能を使うためには、環境設定メニューの[待機モード]を[通信オン]に設定します。  [拡張設定] - [待機モード] p.123
本機に電力が供給されていますか？	本機が設置されている地域が停電になっていたり、本機の電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。
環境設定メニューでメール通知機能が正しく設定されていますか？	異常通知のメールは環境設定メニューの[通知]の設定に従って発信されます。正しく設定されているか確認してください。  「通知メニュー」 p.133

「時刻を保持する電池残量が低下しています。」と表示される

確認	対処法
時刻を保持する内部電源の残量が低下している可能性があります。	お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。  『お問い合わせ先』

番号を確認して以下のとおり対処してください。問題が解決しない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせいただくか、次に記載の連絡先にお問い合わせください。

『お問い合わせ先』

Event ID	要因	対処法
0432 0435	ネットワークソフトウェアの起動に失敗しました。	プロジェクトを再起動してください。
0434 0482 0484 0485	ネットワークの通信状態が不安定です。	ネットワークの通信状態を確認して、しばらくしてから再接続してください。
0433	転送された画像を再生できません。	ネットワークソフトウェアを再起動してください。
0481	コンピューターから通信が切断されました。	
0483 04FE	ネットワークソフトウェアが予期せず終了しました。	ネットワークの通信状態を確認して、プロジェクトを再起動してください。
0479 04FF	プロジェクトにシステムエラーが発生しました。	プロジェクトを再起動してください。
0891	同じSSIDのアクセスポイントが見つかりません。	コンピューターやアクセスポイントとプロジェクトを同じSSIDに設定してください。
0892	WPA/WPA2の認証方式が一致しません。	無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。
0893	TKIP/AESの暗号化方式が一致しません。	 [ネットワーク]メニュー - [無線LAN]メニュー p.130
0894	不正なアクセスポイントに接続したため通信が切断されました。	ネットワーク管理者に確認して指示に従ってください。
0898	DHCPの取得に失敗しました。	DHCPサーバーが正しく動作しているか確認してください。DHCPを使用しないときは、DHCPの設定をオフにしてください。  [ネットワーク]メニュー - [無線LAN]メニュー p.130、[有線LAN]メニュー p.133
0899	その他、接続に関するエラー	プロジェクトまたはネットワークソフトウェアを再起動しても問題が解決しない場合は、次に記載の連絡先にお問い合わせください。  『お問い合わせ先』

メンテナンス

ここでは、メンテナンス方法など、本機を今後も長くお使いいただくための補足的な知識について説明しています。

本機が汚れたり、映像の映りが悪くなったら掃除をしてください。

⚠ 注意

掃除をするときは、主電源スイッチをオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。

注意

1年に1度はプロジェクター内部の掃除を行うことをお勧めします。長期間、内部の掃除を行わないと、ホコリがたまり火災や感電の原因となります。

本機の掃除

本機の汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。ケースが変質、変色することがあります。

レンズの掃除

レンズの汚れは、やわらかい布などで軽くふき取ってください。

⚠ 警告

レンズに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機内部が高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

エアフィルターの掃除

下記のメッセージが表示されたり、フィルターインジケーターが橙色に点滅するときは、エアフィルターや吸気口の掃除をしてください。

「エアフィルターの清掃時期です。エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」

「内部温度が上昇しています。吸排気口付近の障害物を取り除き、エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」

「エアフィルターが目詰まりしています。エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」

注意

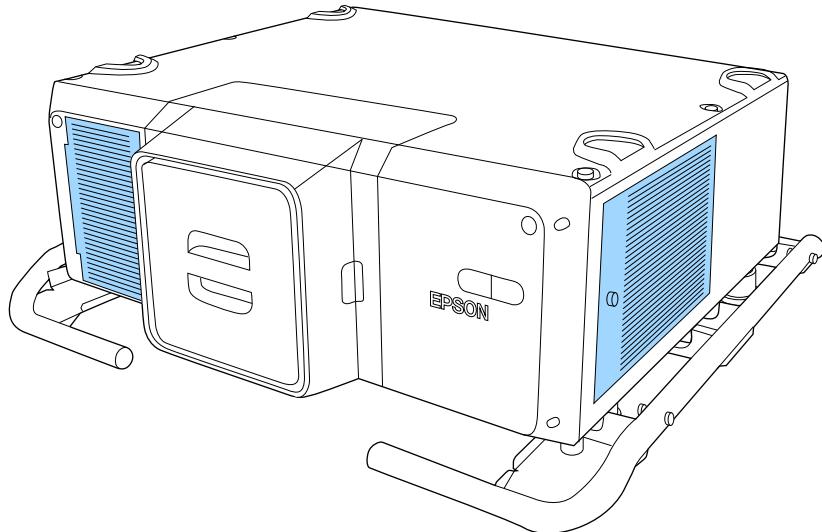
- エアフィルターにホコリがたまると、本機内部の温度が上昇して故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。
- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。
- 掃除にブラシを使用するときは、毛先の長い柔らかいものを使用し、軽くなぐるように掃除をしてください。強くこするとホコリがエアフィルター内部に入ってしまい取れなくなります。



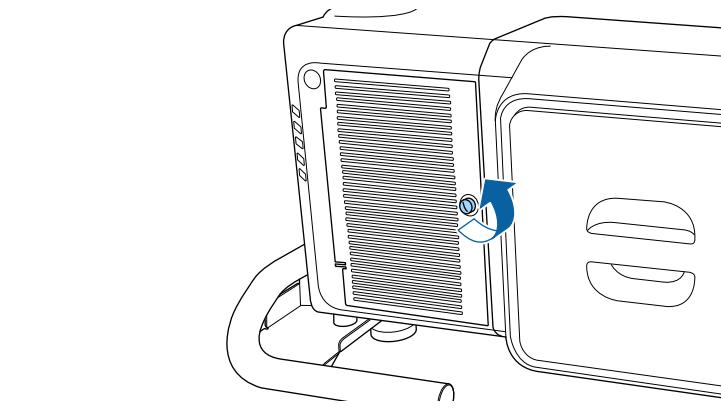
エアフィルターを天井側に向けた状態でお使いの場合は、エアフィルターが目詰まりする頻度が高くなります。

エアフィルターの清掃方法

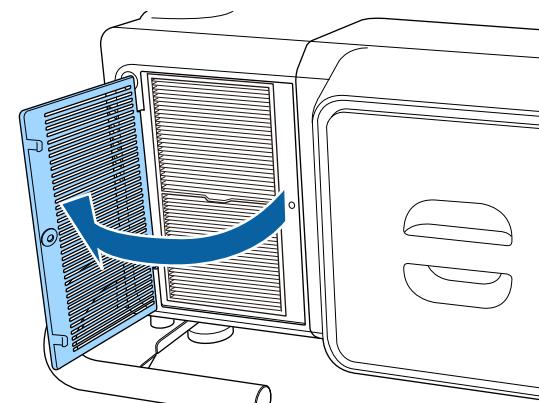
本機のエアフィルターは、前面に1枚、側面に2枚取り付けられています（下図）。本書では、前面のエアフィルターを例に清掃方法を説明します。



- 1** 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源コードを外します。
- 2** エアフィルターカバー固定ネジを外します。

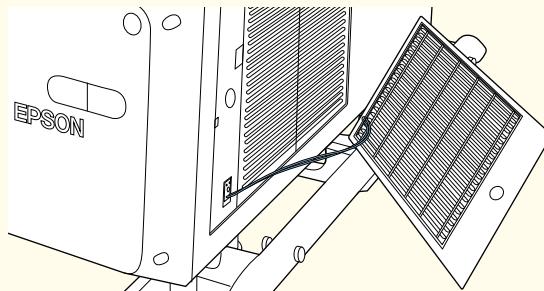


- 3** エアフィルターカバーを開けます。



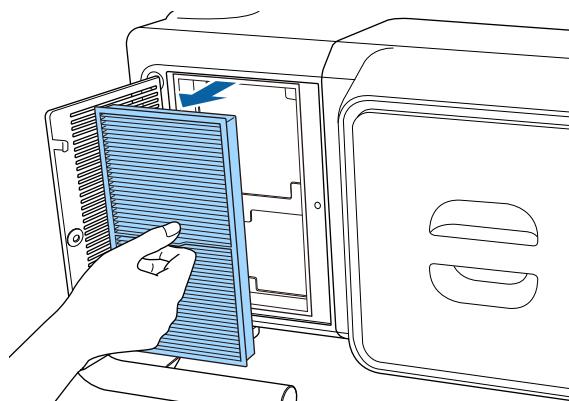


エアフィルターカバーの開き方は、前面と側面で異なります。側面のエアフィルターカバーには、落下防止用の紐が付いています。



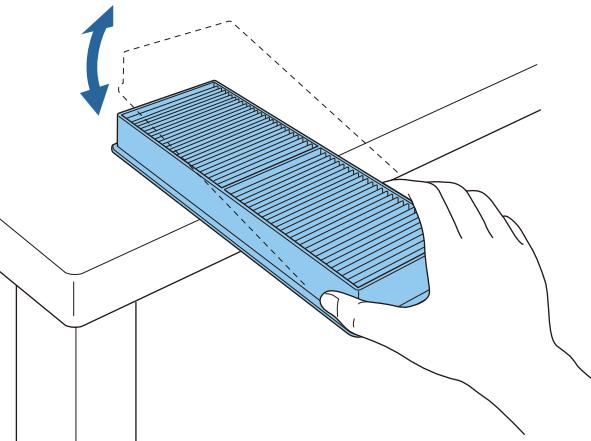
4 エアフィルターを取り外します。

エアフィルターの突起をつまみ、外側にまっすぐ引き出します。



5 エアフィルターの表側(取り出し用のツマミのある面)を下にして、4~5回たたいてホコリを落とします。

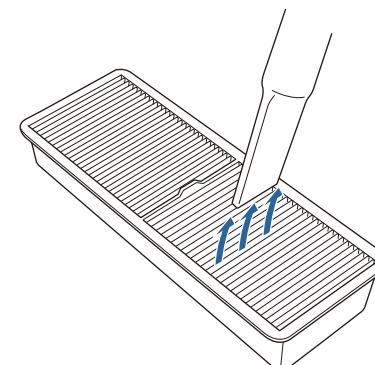
持ち替えて、手で持っていた方も同様にたたいてホコリを落とします。



注意

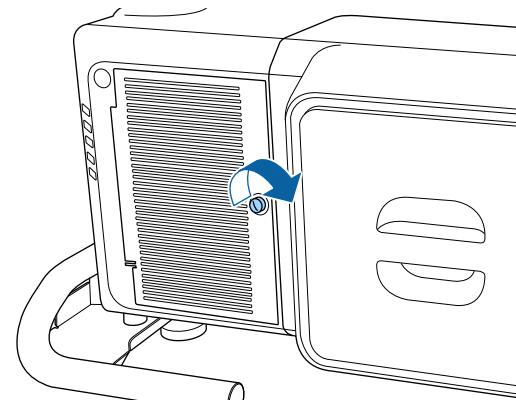
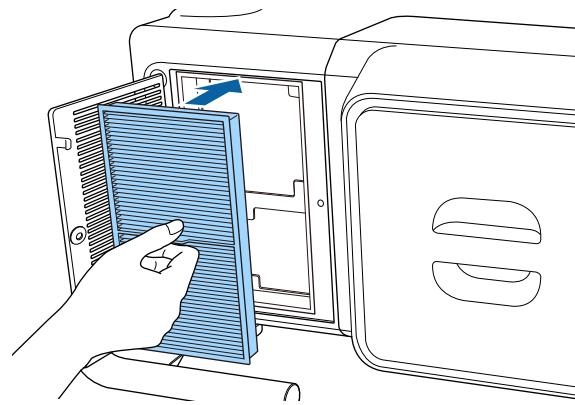
エアフィルターを強くたたきすぎると、変形したり割れたりして使用できなくなります。

6 掃除機でエアフィルターに残ったホコリを表側から吸い取ります。

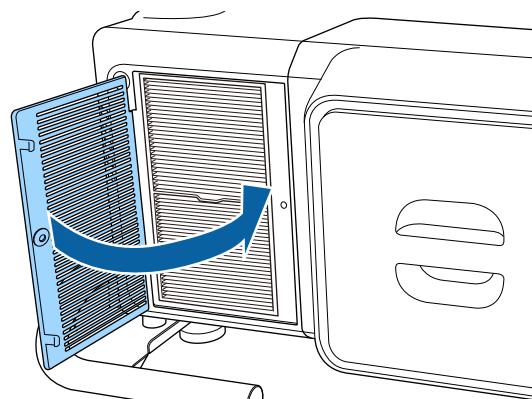


7 エアフィルターを取り付けます。

カチッと音がするまで押し込みます。



8 エアフィルターカバーを閉じます。



9 エアフィルターカバー固定ネジを取り付けます。



- 掃除をしても頻繁にメッセージが表示されるときは交換時期です。新しいエアフィルターに交換してください。
➡ 「エアフィルターの交換」 p.180
- エアフィルターの掃除は20,000時間を目安に行ってください。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除を行うことをお勧めします。
- エアフィルター清掃通知のインジケーターとメッセージは、環境設定メニューの[エアフィルター清掃通知]を[オン]に設定しているときに表示されます。
➡ [拡張設定] - [表示設定] - [エアフィルター清掃通知] p.123

ここではエアフィルターの交換方法について説明します。

エアフィルターの交換

エアフィルターの交換時期

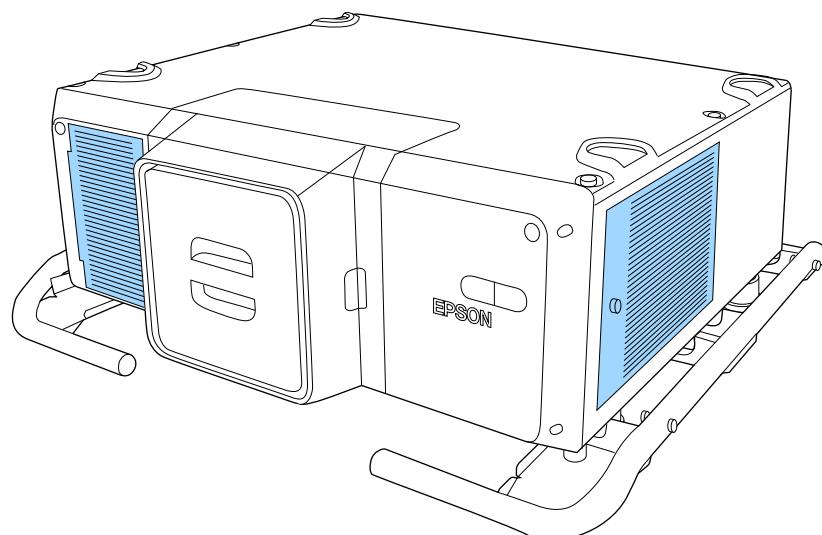
エアフィルターの掃除をしても頻繁にメッセージが表示されるときは、エアフィルターを交換してください。

注意

イベント等の演出により、スモークの中で本機を使用したときは、24時間以内にエアフィルターを交換してください。

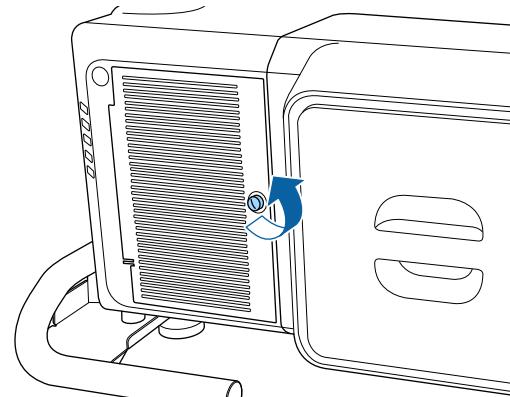
エアフィルターの交換方法

本機のエアフィルターは、前面に1枚、側面に2枚取り付けられています。本書では、前面のエアフィルターを例に交換方法を説明します。

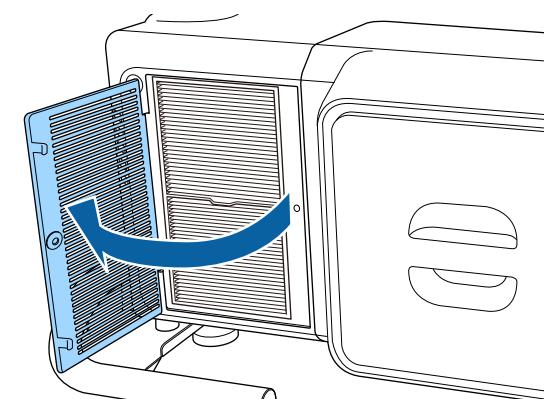


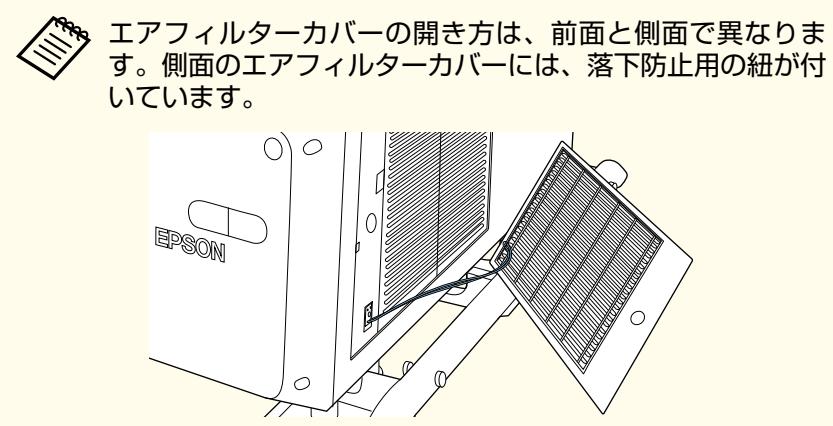
- 1 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源コードを外します。

- 2 エアフィルターカバー固定ネジを外します。

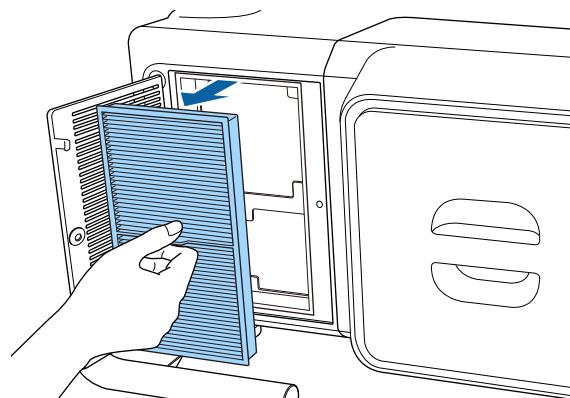


- 3 エアフィルターカバーを開けます。

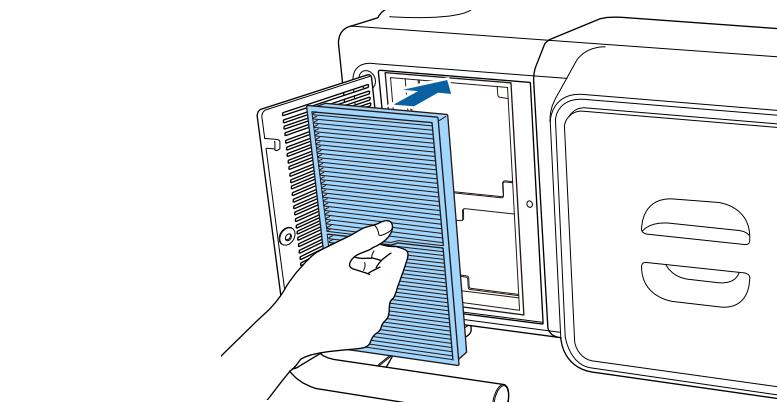
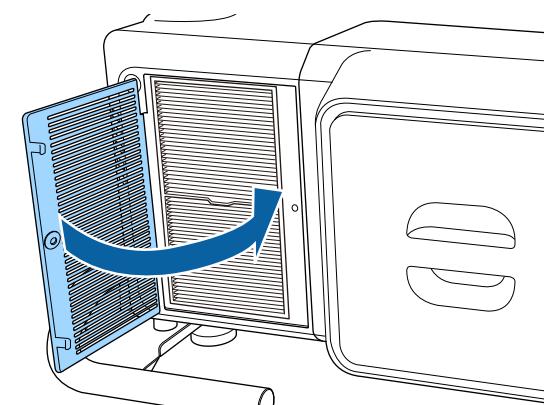


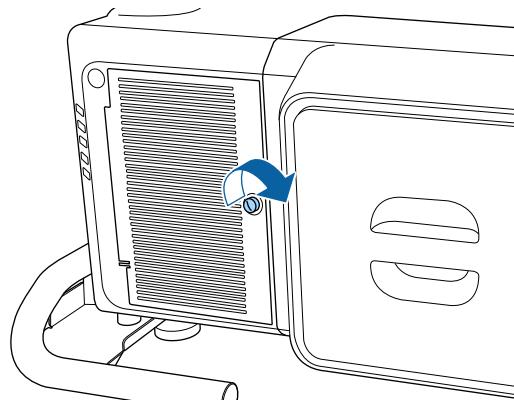
**4** エアフィルターを取り外します。

エアフィルターの突起をつまみ、まっすぐに取り出します。

**5** 新しいエアフィルターを取り付けます。

カチッと音がするまで押し込みます。

**6** エアフィルターカバーを閉じます。**7** エアフィルターカバー固定ネジを取り付けます。



使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。

枠部分の材質：ポリプロピレン
フィルター部分の材質：紙

カラーキャリブレーション

経時変化による画面全体の色味を、工場出荷時の色味を基準に自動補正します。

自動調整機能の動作条件

カラーキャリブレーションの自動調整機能は以下の条件を満たすときに有効です。

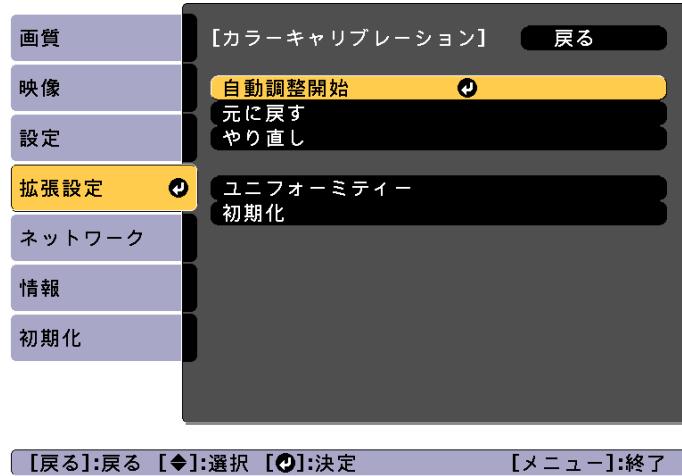
- ・スクリーンの表面にそりやゆがみがなく、平面である
- ・拡散型のホワイトマットスクリーンを使用している
- ・投写サイズが100インチから300インチである
- ・本機が投写面に対して平行に設置されている



- ・以下のレンズを使用しているときは、自動調整が機能しません。ELPLR05、ELPLL09、ELPLL10
- ・自動調整後、一部のレンズでレンズシフトの可動領域が小さくなります。
☞「投写映像の位置調整（レンズシフト）」p.29
- ・カラーキャリブレーションは、プロジェクターの電源オンまたはシャッター解除から20分以上たってから行うことをお勧めします。
- ・補正の精度を高めるために、映像投写時の部屋の明るさよりも明るさを落として補正することをお勧めします。
- ・本体前面の内蔵カメラを使用して自動調整を行います。カメラや投写映像を遮らないでください。
- ・自動調整は約1分30秒かかります。
- ・自動調整後、ユニフォーミティーとカラーマッチングは初期値に戻ります。
- ・スケジュール機能を使うと、設定した周期で自動的に画面全体の色味の変化を補正できます。
☞「スケジュール機能」p.104
- ・カラーキャリブレーションがうまくいかないときは、以下をご覧ください。
☞「自動補正がうまくできない」p.169

- 1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2 【拡張設定】から【カラーキャリブレーション】を選択します。
- 3 【自動調整開始】を選択し、【↔】ボタンを押します。

映像のメンテナンス



調整パターンが表示され、補正が開始されます。補正前の投写映像が表示されたら終了です。



- エラーが出た場合は以下をご覧ください。
→「自動補正がうまくできない」 p.169
- 自動調整開始前の状態に戻すときは[元に戻す]を選択してください。[元に戻す]を選択した後で[やり直し]を選択すると、自動調整後の状態に戻ります。
- [カラーキャリブレーション]の調整値を初期値に戻すときは、[初期化]を選択してください。

液晶アライメント

液晶パネルの画素の色ずれを調整します。水平方向、垂直方向に0.25画素ずつ、それぞれ±1画素の範囲内で調整できます。

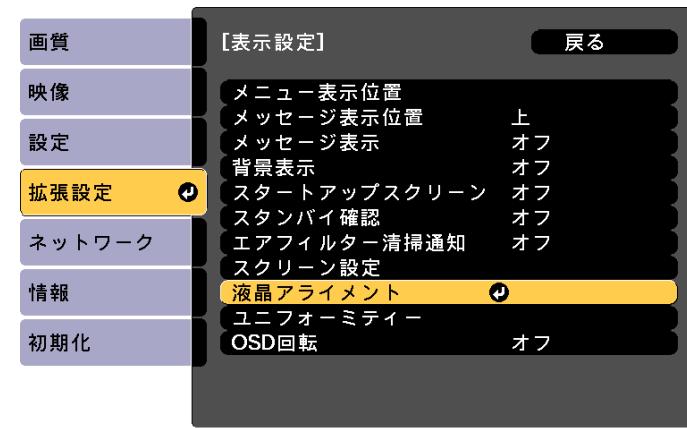


- 液晶アライメントで調整後は映像が劣化する場合があります。
- 画面からはみ出した画素分の映像は表示されません。

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

2 【拡張設定】から【表示設定】を選択します。

3 【液晶アライメント】を選択し、【↔】ボタンを押します。



4 【液晶アライメント】を有効にします。



- (1) [液晶アライメント]を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (2) [オン]を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

5 調整する色を選びます。

- (1) [調整色]を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (2) [R](赤)、[B](青)のいずれかを選択し、【↔】ボタンを押します。
- (3) 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

6 [パターン色]で調整時に表示する格子の色を選びます。

- (1) [パターン色]を選択し、【↔】ボタンを押します。
- (2) 格子の色をR(赤)、G(緑)、B(青)の組み合わせで選びます。
 [R/G/B] : R、G、Bの3色で表示します。実際の格子の色は白になります。
 [R/G] : [調整色]を[R]にしているときに選択できます。R、Gの2色で表示します。実際の格子の色は黄色になります。
 [G/B] : [調整色]を[B]にしているときに選択できます。G、Bの2色で表示します。実際の格子の色はシアンになります。

(3) 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。

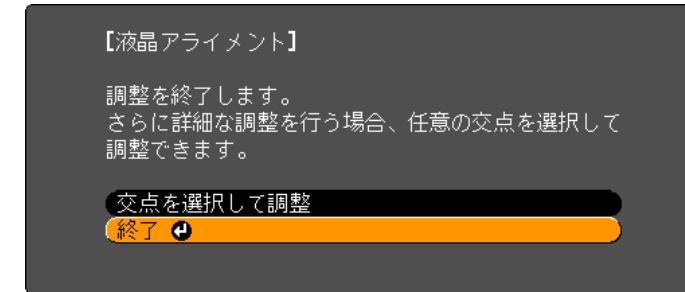
- 7** [調整開始]を選択し、【↔】ボタンを押します。メッセージが表示されるので、もう一度、【↔】ボタンを押します。

調整が始まります。調整は左上から順に4隅で行います。

 調整中は映像がゆがむ場合があります。調整を終了すると、もとに戻ります。

- 8** 【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンで調整し、【↔】ボタンを押して次の調整ポイントへ進みます。

- 9** 4隅の調整後、[終了]を選択し、【↔】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【△】: 選択 【○】: 決定 【メニュー】: 終了

4点での調整が不十分の場合は、[交点を選択して調整]を選択して調整を続けます。

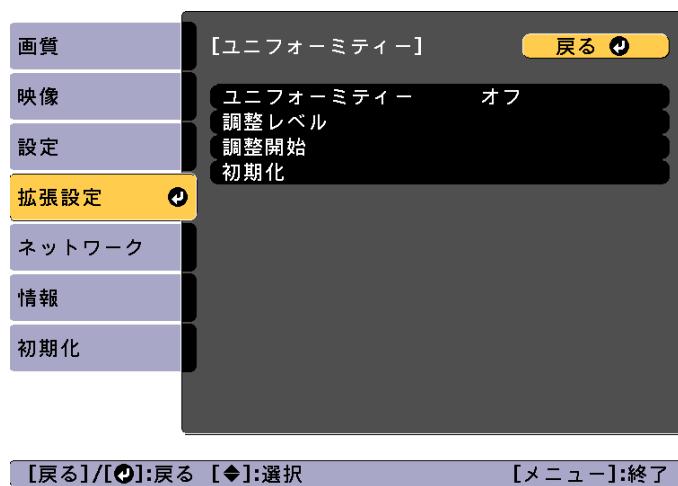
ユニフォーミティー

画面全体の色味を調整します。



ユニフォーミティーを調整後も色味が均一にならない場合があります。

- 1** 投写中に【メニュー】ボタンを押します。
- 2** 【拡張設定】から【表示設定】を選択します。
- 3** 【ユニフォーミティー】を選択し、【↔】ボタンを押します。
以下の画面が表示されます。



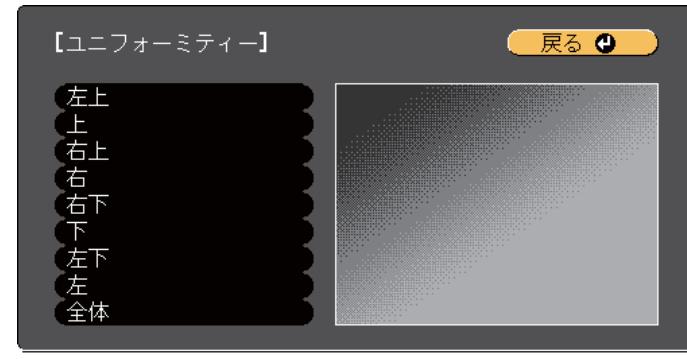
【ユニフォーミティー】：ユニフォーミティーをオン/オフします。
【調整レベル】：白 - グレー - 黒まで8つのレベルがあります。それぞれのレベルに対して調整を行います。
【調整開始】：ユニフォーミティーの調整を開始します。
【初期化】：【ユニフォーミティー】の調整値、設定値をすべて初期値に戻します。



【ユニフォーミティー】を調整中は映像がゆがむ場合があります。調整を終了すると、もとに戻ります。

- 4** 【ユニフォーミティー】を選択し、【↔】ボタンを押します。
- 5** 【オン】に設定し、【戻る】ボタンを押します。
- 6** 【調整レベル】を選択し、【↔】ボタンを押します。
- 7** 【◀】【▶】ボタンで調整レベルを設定します。
- 8** 【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ります。
- 9** 【調整開始】を選択し、【↔】ボタンを押します。
- 10** 調整する箇所を選択し、【↔】ボタンを押します。

先に周囲を調整してから、最後に画面全体を調整してください。



- 11** 【▲】【▼】ボタンで調整する色を選び、【◀】【▶】ボタンで調整します。

【◀】ボタンを押すと色味が弱くなります。【▶】ボタンを押すと色味が強くなります。



- 12 手順6に戻り、それぞれのレベルで調整を行います。
- 13 調整を終了するには、【メニュー】ボタンを押します。



付録

EasyMP Monitorについて

EasyMP Monitorを使うと、ネットワーク上の複数のエプソンプロジェクターの状態をコンピューターのモニターに表示して確認したり、コンピューターから制御したりできます。

EasyMP Monitorは以下のWebサイトからダウンロードしてください。

<http://www.epson.jp/download/>

Message Broadcastingについて

Message BroadcastingはEasyMP Monitor用のプラグインソフトです。

Message Broadcastingを使うと、ネットワーク接続されたすべてのエプソンプロジェクター、または指定したプロジェクターにメッセージ(JPEGファイル)を送信し、投写することができます。

データは手動で送信したり、EasyMP Monitorのタイマー機能を使って自動的に送信することができます。

Message Broadcastingは以下のWebサイトからダウンロードしてください。

<http://www.epson.jp/download/>

Webブラウザーを使って設定を変更する(Epson Web Control)

本機とネットワーク接続したコンピューターやモバイルデバイスのWebブラウザーから本機の設定や制御が行えます。この機能を使えば、本機と離れた場所から、設定や制御の操作ができます。また、本機を複数台並べて使用するときに、特定のプロジェクターを操作できます。

Webブラウザーは、Internet Explorer9.0以降を使用してください。OS Xをお使いの場合は、Safariを使用してください。



[待機モード]を[通信オン]に設定しておくと、本機がスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、Webブラウザーを使った設定や制御ができます。



[拡張設定] - [待機モード] p.123

Epson Web Control画面を表示する

以下の手順で、Epson Web Control画面を表示します。

お使いの機器とプロジェクターをネットワークに接続できる状態にしておきます。



ご使用のWebブラウザーで、プロキシサーバーを使用して接続するように設定されていると、Epson Web Control画面を表示できません。表示したい場合は、プロキシサーバーを使用しないで接続するように設定してください。

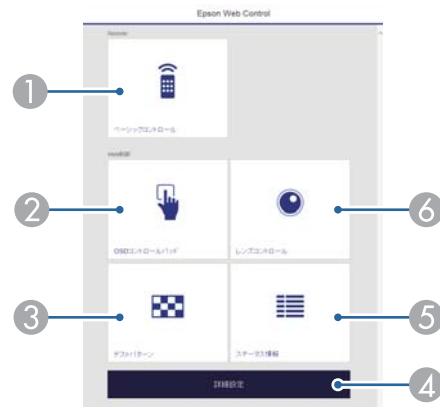
1 お使いの機器を、接続先のプロジェクターと同じネットワークに接続します。

接続方法は機器によって異なります。お使いの機器に添付の取扱説明書をご確認ください。タブレット端末をお使いのときは、Wi-Fiの設定をご確認ください。

2 お使いの機器でWebブラウザーを起動します。

3 WebブラウザーのURL入力欄に、接続先のプロジェクターのアドレスを入力して接続します。

ホーム画面が表示されます。



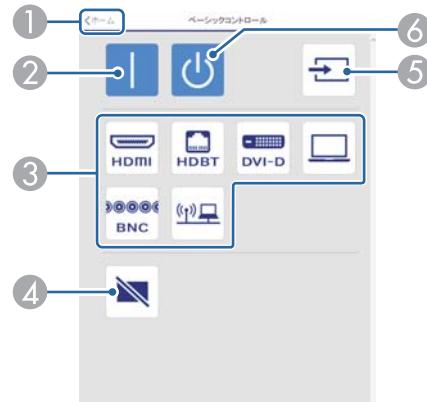
- ① ベーシックコントロール
「ベーシックコントロール画面」 p.190
- ② OSDコントロールパッド
「OSDコントロールパッド画面」 p.191
- ③ テストパターン
「テストパターン操作画面」 p.193
- ④ 詳細設定
詳細設定画面に移動します。
- ⑤ ステータス情報
「ステータス情報画面」 p.193
- ⑥ レンズコントロール
「レンズコントロール画面」 p.191



- ホーム画面から各機能を実行すると、ユーザ名とパスワードの入力を求められることがあります。ユーザ名とパスワードは次の2種類あります。
Remote : ユーザー名は「EPSONREMOTE」、デフォルトのパスワードは「guest」
Web制御 : ユーザー名は「EPSONWEB」、デフォルトのパスワードは「admin」
- ユーザー名は変更できません。パスワードの変更は、環境設定メニューのネットワークメニューから行ってください。
 [ネットワーク]-[基本設定]-[Remoteパスワード]、[Web制御パスワード] p.129
- Web制御機能では、パスワードを無効にしている場合も、ユーザー名の入力が必要です。

ベーシックコントロール画面

本機の基本操作を行います。

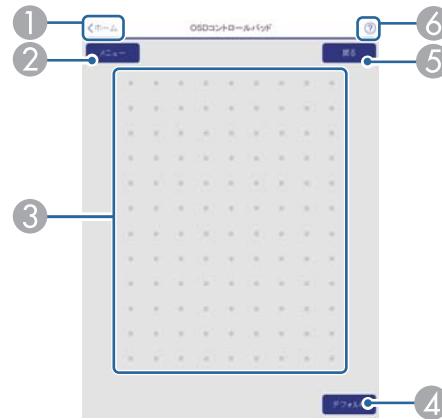


- ① ホーム画面に移動します。
- ② 本機の電源をオンにします。
- ③ 目的の映像に切り替えます。

- ④ 映像を一時的に遮断/解除します。
- ⑤ 入力信号を自動検出します。
- ⑥ 本機の電源をオフにします。

OSDコントロールパッド画面

本機の環境設定メニューを操作します。



- ① ホーム画面に移動します。
- ② 環境設定メニューを表示/終了します。
- ③ 指やマウスで環境設定メニューを操作します。
フリックして項目を選択し、タップして決定します。
- ④ 環境設定メニューのガイドに「初期値」：リセットと表示されているとき
に有効です。調整中の設定値を初期値に戻します。
- ⑤ 環境設定メニューで、一つ上の階層に戻ります。
- ⑥ OSDコントロールパッドの使い方を表示します。



Epson Web Controlで設定できない環境設定メニューの項目は以下の通りです。

- 設定メニュー - ユーザーボタン
- 拡張設定メニュー - 表示設定 - メッセージ表示位置
- 拡張設定メニュー - ユーザーロゴ
- 拡張設定メニュー - 動作設定 - アドバンスト - BNC同期終端、HDMI DDCバッファー、DVI-D DDCバッファー、レンズタイプ
- 拡張設定メニュー - 動作設定 - レンズキャリブレーション
- 拡張設定メニュー - 言語

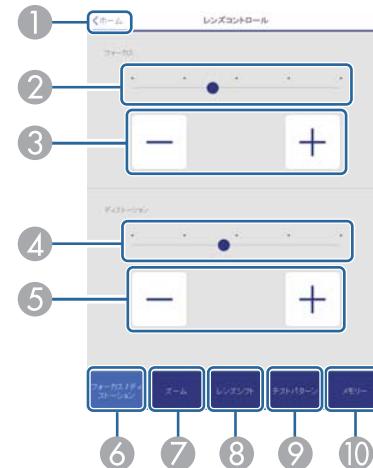
各メニューの項目の内容は本機の環境設定メニューと同じです。

 「環境設定メニュー」 p.114

レンズコントロール画面

本機のレンズを操作します。

フォーカス/ディストーション操作画面

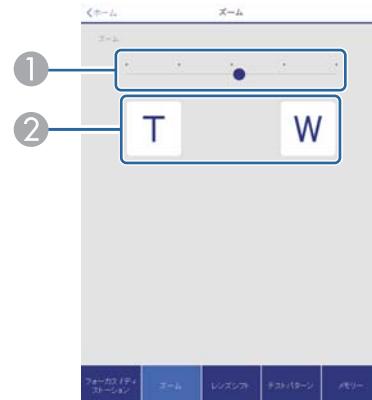


- ① ホーム画面に移動します。

- ② スライダーを動かしてフォーカスを調整します。
 - ③ ボタンを押してフォーカスを調整します。
 - ④ スライダーを動かして映像のひずみを調整します。※
 - ⑤ ボタンを押して映像のひずみを調整します。※
 - ⑥ フォーカス/ディストーション操作画面を表示します。
 - ⑦ ズーム操作画面を表示します。
 - ⑧ レンズシフト操作画面を表示します。
 - ⑨ テストパターン操作画面を表示します。
 - ⑩ メモリー操作画面を表示します。
- ※ ELPLR05、ELPLU05のみ対応しています。

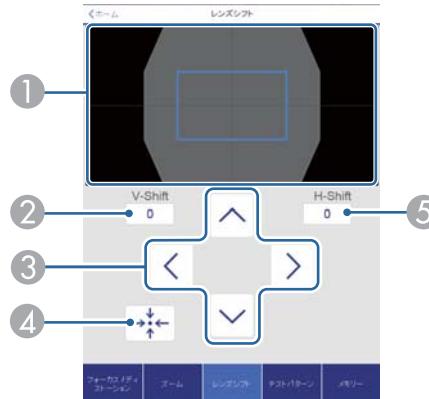
ズーム操作画面

ELPLR05には対応していません。



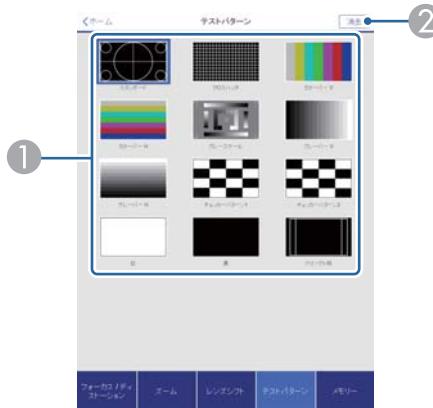
- ① スライダーを動かしてズーム調整をします。
- ② ボタンを押してズーム調整をします。

レンズシフト操作画面



- ① 映像の位置を青色の四角形で表示します。映像の位置を移動すると、移動先に赤色の四角形が表示されます。
- ② 映像の垂直位置を表示します。タップして数値を入力することで、位置を直接指定できます。
- ③ 映像の位置を上下左右に移動します。
- ④ 確認画面でOKボタンを押すと、レンズの位置をホームポジションに移動します。
- ⑤ 映像の水平位置を表示します。タップして数値を入力することで、位置を直接指定できます。

テストパターン操作画面



- ① 投写するテストパターンを選択します。
- ② テストパターンの投写を終了します。

メモリー操作画面

メモリー機能の詳細は以下をご覧ください。

☞ 「メモリー機能」 [p.102](#)

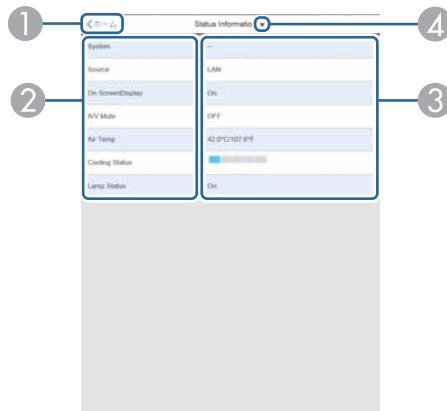


- ① メモリーを呼び出します。
- ② メモリーを登録します。
- ③ メモリーを一覧で表示します。
- ④ メモリーを削除します。
- ⑤ メモリーの名称を変更します。

ステータス情報画面

本機の状態を確認します。表示内容の詳細は以下をご覧ください。

☞ 「ステータスマニターの見方」 [p.154](#)



- ① ホーム画面に移動します。
- ② 項目名を表示します。
- ③ 各項目の状態を表示します。
- ④ 次の中からカテゴリーを選択します。

Status Information、Source、Signal Information、Network Wired、Network Wireless、Maintenance、Version、Voltage Warning Info



- 送信先(宛先)は最大3つまで登録でき、一括して送ることができます。
 - 本機に致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になった場合などは、メール送信できないことがあります。
 - [待機モード]を[通信オン]に設定しておくと、本機がスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、制御ができます。
- 👉 [拡張設定] - [待機モード] p.123

異常通知メールの見方

メール通知機能をオンに設定していて本機が異常/警告状態になったときには、次のメールが送付されます。

メール差出人：[差出人]で設定したメールアドレス

メールタイトル：EPSON Projector

1行目：異常が生じたプロジェクターのプロジェクターナン

2行目：異常が生じたプロジェクターに設定されているIPアドレス

3行目以降：異常の内容

異常の内容は、1行につづり記載されています。メッセージの示す主な内容は以下のとおりです。

- Clean Air Filter(エアフィルター清掃通知)
- Internal error(内部異常)
- Fan related error(ファン異常)
- Sensor error(センサー異常)
- Laser error(レーザー異常)
- Laser warning(レーザー警告)

メール通知機能で異常を通知する

メール通知機能の設定をしておくと、異常/警告状態になったとき、設定したメールアドレスに異常状態が電子メールで通知されます。これにより、離れた場所にいても本機の異常を知ることができます。

👉 [ネットワーク]-[通知]-[メール通知機能] p.133

- Retardation Plate Error(位相差板異常)
- Internal temperature error(内部高温異常/オーバーヒート)
- High-speed cooling in progress(高温警告)
- Low Air Flow(エアフィルター風量低下)
- Low Air Flow Error(フィルター風量低下異常)
- No-signal(ノーシグナル)

本機に映像信号が入力されていません。接続状態や、接続している機器の電源が入っているかを確認してください。

- Lens shift error(レンズシフト異常)
- No lens(レンズ未装着異常)
- Peltier Device error(冷却システム異常)

異常/警告の対処方法は、以下をご覧ください。

☞ 「インジケーターの見方」 [p.148](#)

SNMPを使って管理する

環境設定メニューで[SNMP]を[オン]に設定しておくと、異常/警告状態になったとき、設定したコンピューターに異常状態が通知されます。これにより、離れた場所で集中管理している状態でも本機の異常を知ることができます。

☞ [ネットワーク]-[通知]-[SNMP] [p.133](#)



- SNMPによる管理は、必ず、ネットワーク管理者などネットワークに詳しい人が行ってください。
- SNMP機能を使って本機を監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。
- 本機のSNMPエージェントはバージョン1(SNMPv1)に準拠しています。
- SNMPを使った管理機能は、無線LANのかんたんモードでは使用できません。
- 通知先のIPアドレスは2つまで登録できます。

ESC/VP21コマンド

ESC/VP21を使うと本機を外部機器から制御できます。

コマンドリスト

本機に電源オンのコマンドを送信すると、電源が入りウォームアップ状態になります。本機は電源オンの状態になったときにコロン ':' (3Ah)を返信します。

このように本機はコマンドを受け取ると、そのコマンドを実行後 ':' を返信し、次のコマンドを受け付けます。

異常終了のときは、エラーメッセージを出力した後に ':' を返信します。

主な内容は以下のとおりです。

項目	コマンド
電源のオン/オフ	オン PWR ON
	オフ PWR OFF

項目		コマンド	
信号切り替え	コンピューター	オート	SOURCE 1F
		RGB	SOURCE 11
		コンポーネント	SOURCE 14
	BNC	オート	SOURCE BF
		RGB	SOURCE B1
		コンポーネント	SOURCE B4
	HDMI		SOURCE 30
	LAN		SOURCE 53
	SDI		SOURCE 60
	DVI-D		SOURCE A0
シャッター機能の オン/オフ	オン	MUTE ON	
	オフ	MUTE OFF	

各コマンドの最後に、復帰(CR)コード(0Dh)を追加して送信してください。

詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

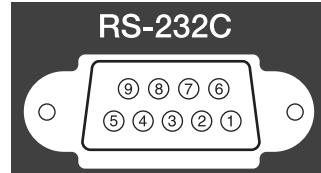
『お問い合わせ先』

ケーブル配線

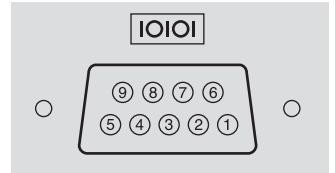
シリアル接続

- コネクター形状：D-Sub 9pin(オス)

- プロジェクター入力端子名：RS-232C
<プロジェクター側>



<コンピューター側>



<プロジェクター側> (PCシリアルケーブル)
ケーブルタイプ：
クロスケーブル

GND	5	—————	5	GND
TD	3	×××	3	TD
RD	2	×××	2	RD

<コンピューター側>

信号名	機能
GND	各信号線の接地
TD	送信データ
RD	受信データ

通信プロトコル

- ボーレート基準速度：9600bps
- データ長：8bit
- パリティー：なし
- ストップビット：1bit
- フロー制御：なし

PJLinkについて

JBMIA(社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会)によりネットワーク対応プロジェクターの制御用プロトコルの標準化が進められ、制御用標準プロトコルPJLink Class1が策定されました。

本機は、JBMIAが策定したPJLink Class1の規格に適合しています。

PJLinkを使うにはネットワーク設定が必要です。ネットワーク設定については以下をご覧ください。

☛ 「ネットワークメニュー」 [p.127](#)

PJLink Class1で定義されているコマンドのうち、以下の内容を除く全コマンドに対応しており、PJLink 規格適合性検証で適合を確認しています。

URL : <http://pjlink.jbmia.or.jp/>

• 非対応コマンド

機能		PJLinkコマンド
ミュート設定	映像ミュート設定	AVMT 11
	音声ミュート設定	AVMT 21

• PJLinkで定義している入力名と本機の入力ソースの対応

入力ソース	PJLinkコマンド
コンピューター	INPT 11
BNC	INPT 13
DVI-D	INPT 31
HDMI	INPT 32
SDI	INPT 34
LAN	INPT 52

入力ソース	PJLinkコマンド
HDBaseT	INPT 56

- 「メーク名問合せ」で表示するメーク名
EPSON
- 「機種情報問合せ」で表示する機種名
EPSON L25000U

Crestron RoomView®について

Crestron RoomView®はCrestron®社が提供する統合コントロールシステムです。ネットワークで接続された複数の機器を一括して監視・制御できます。

本機はその制御用プロトコルに対応していますので、Crestron RoomView®で構築されたシステム環境下でご利用いただけます。

Crestron RoomView®の詳細は、Crestron®社のWebページを参照してください。(英語のみの表示となります。)

<http://www.crestron.com>

Crestron RoomView®の概要は次のとおりです。

• **Webブラウザーを利用した遠隔操作**

コンピューターの画面上でリモコンと同様にプロジェクターを操作できます。

・アプリケーションソフトを利用した監視・制御

Crestron®社が提供するアプリケーションソフトCrestron RoomView® Express/Crestron RoomView® Server Editionでシステム内の機器の監視、ヘルプデスクとの通信、緊急時のメッセージ送信を行えます。詳細は以下をご覧ください。

<http://www.crestron.com/getroomview>

本書では、Webブラウザーを利用してコンピューターの画面上で本機を操作する方法を説明します。



- 文字入力に使用できるのは半角英数字と記号のみです。
- Crestron RoomView®使用中は、以下の機能はご利用になれません。
 ➡ 「Webブラウザーを使って設定を変更する（Epson Web Control）」 p.189
 Message Broadcasting(EasyMP Monitorのプラグイン)
 • [待機モード]を[通信オン]に設定しておくと、本機がスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、制御ができます。
 ➡ [拡張設定]-[待機モード] p.123

コンピューターの画面上でプロジェクターを操作する

操作画面を表示する

操作の前に以下の点をご確認ください。

- コンピューターとプロジェクターをネットワークに接続できる状態にしておきます。
- [ネットワーク]メニューの[Crestron RoomView]を[オン]に設定してください。
 ➡ [ネットワーク]-[その他]-[Crestron RoomView] p.135

- 1 コンピューターでWebブラウザーを起動します。

- 2 Webブラウザーのアドレス入力部に、プロジェクターのIPアドレスを入力して、キーボードのEnterキーを押します。
 操作画面が表示されます。

操作画面の使い方



- ① 各ボタンをクリックすると、以下の操作を行えます。

ボタン	機能
Power	電源をオン/オフします。

ボタン	機能
Shutter	映像を一時的に遮断/解除します。 ➡「映像を一時的に消す（シャッター）」 p.99

- ② クリックした入力ソースの映像に切り替わります。画面に表示されていない入力ソースは(a)、(b)をクリックして上下にスクロールすると表示されます。映像信号が入力されているソースは青色で表示されます。ソース名は任意で変更できます。
- ③ 各ボタンをクリックすると、以下の操作を行えます。画面に表示されていないボタンは(c)、(d)をクリックして左右にスクロールすると表示されます。

ボタン	機能
Freeze	映像を一時停止/解除します。 ➡「映像を停止させる（静止）」 p.100
Contrast	映像の明暗の差を調整します。
Brightness	映像の明るさを調整します。
Color	映像の色の濃さを調整します。
Sharpness	映像のシャープ感を調整します。
Zoom	[+]ボタンをクリックすると、投写サイズを変えずに映像を拡大します。[-]ボタンをクリックすると、[+]ボタンで拡大した結果を縮小します。

- ④ [▲][▼][◀][▶]ボタンをクリックするとリモコンの[▲][▼][◀][▶]ボタンと同様の操作を行えます。他のボタンをクリックすると以下の操作を行えます。

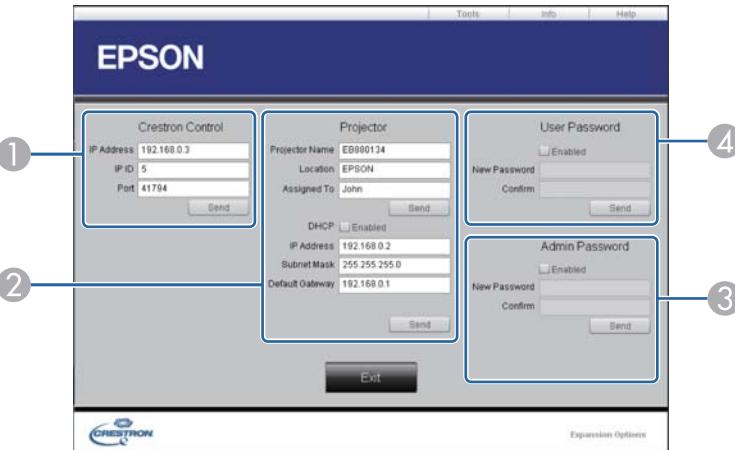
ボタン	機能
OK	リモコンの【➡】ボタンと同じ操作を行えます。 ➡「リモコン」 p.18
Menu	環境設定メニューを表示/終了します。
Auto	Computer入力端子から入力しているアナログRGB信号を投写しているときにクリックすると、トラッキング・同期・表示位置を最適な状態に自動調整します。
Search	映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。 ➡「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 p.52
Esc	リモコンの【戻る】ボタンと同じ操作を行えます。 ➡「リモコン」 p.18

- ⑤ 各タブをクリックすると以下の操作を行えます。

タブ	機能
Help	Help Desk ウィンドウが表示されます。Crestron RoomView®Expressを利用する管理者に対して、メッセージの送受信を行えます。
Info	現在接続しているプロジェクターの情報を表示します。
Tools	現在接続しているプロジェクターに対して設定の変更を行います。次項を参照してください。

Tools画面の使い方

操作画面で**Tools**タブをクリックすると以下の画面が表示されます。現在接続しているプロジェクターに対して設定の変更を行えます。



① Crestron Control

Crestron® の集中制御コントローラーに対する各設定を行います。

② Projector

以下の項目を設定できます。

項目名	機能
Projector Name	現在接続しているプロジェクターを、ネットワーク上で識別するための個別の名前を任意に入力します。(半角英数字15文字以内)
Location	現在接続しているプロジェクターの設置場所名を任意で入力します。(半角英数字記号32文字以内)
Assigned To	プロジェクターの利用者名を任意で入力します。(半角英数字記号32文字以内)
DHCP	DHCPを使用するときは、 Enabled にチェックを入れます。チェックを入れると以降のアドレスの設定はできなくなります。

項目名	機能
IP Address	現在接続しているプロジェクターに割り当てるIPアドレスを入力します。
Subnet Mask	現在接続しているプロジェクターのサブネットマスクを入力します。
Default Gateway	現在接続しているプロジェクターのゲートウェイアドレスを入力します。
Send	Projector で変更した内容を確定するときにクリックします。

③ Admin Password

Tools画面を開くときにパスワードの入力を求めるときは、**Enabled**にチェックを入れます。
以下の項目を設定できます。

項目名	機能
New Password	Tools画面を開くときに入力するパスワードを変更するときは、新しいパスワードを入力します。(半角英数字26文字以内)
Confirm	New Password で入力したパスワードを入力します。一致しないときは、エラーが表示されます。
Send	Admin Password で変更した内容を確定するときにクリックします。

④ User Password

コンピューター上で操作画面を開くときにパスワードの入力を求めるときは、**Enabled**にチェックを入れます。
以下の項目を設定できます。

項目名	機能
New Password	操作画面を開くときに入力するパスワードを変更するときは、新しいパスワードを入力します。 (半角英数字26文字以内)
Confirm	New Password で入力したパスワードを入力します。一致しないときは、エラーが表示されます。
Send	User Password で変更した内容を確定するときにクリックします。

Art-Netについて

Art-NetはTCP/IPプロトコルに基づいたイーサネット通信プロトコルです。

DMXコントローラーやアプリケーションシステムを使って本機を制御できます。

チャンネル定義

Art-Netで本機を制御するときのチャンネル定義は下記の通りです。

チャ ンネ ル	機能	動作		パラメーター	初期値	動作内容
1	光量調整(Dimming)	0% - 100%		0 - 255	0	映像の明るさを設定します。
2	シャッター制御	シャッター	閉	0 - 63	128	シャッターを有効/無効にします。
		無操作		64 - 191		
		シャッター	開	192 - 255		
3	ソース切替	無操作		0 - 7	0	指定したソースに切替えます。
		HDMI		8 - 15		
		無操作		16 - 23		
		HDBaseT		24 - 31		
		DVI-D		32 - 39		
		無操作		40 - 47		
		SDI		48 - 55		
		コンピューター		56 - 63		
		無操作		64 - 71		
		BNC		72 - 79		
		LAN		80 - 87		
		無操作		88 - 95		

チャネル	機能	動作		パラメーター	初期値	動作内容
		無操作		96 - 255		
4	レンズ位置	無操作		0 - 31	0	レンズシフトをホームポジションに移動します。
		ホームポジション移動		32 - 63		
		無操作		64 - 255		
5	水平レンズシフト	(+)-レンズ調整	移動量 大	0 - 31	128	指定した移動量に合わせて水平レンズシフトを実行します。
			移動量 中	32 - 63		
			移動量 小	64 - 95		
		無操作		96 - 159		
		(-)-レンズ調整	移動量 小	160 - 191		
			移動量 中	192 - 223		
			移動量 大	224 - 255		
		(+)-レンズ調整	移動量 大	0 - 31	128	指定した移動量に合わせて垂直レンズシフトを実行します。
			移動量 中	32 - 63		
			移動量 小	64 - 95		
		無操作		96 - 159		
		(-)-レンズ調整	移動量 小	160 - 191		
			移動量 中	192 - 223		
			移動量 大	224 - 255		
6	垂直レンズシフト	(+)-レンズ調整	移動量 大	0 - 31	128	指定した移動量に合わせて垂直レンズシフトを実行します。
			移動量 中	32 - 63		
			移動量 小	64 - 95		
		無操作		96 - 159		
		(-)-レンズ調整	移動量 小	160 - 191		
			移動量 中	192 - 223		
			移動量 大	224 - 255		
7	電動ズーム	(+)-レンズ調整	移動量 大	0 - 31	128	指定した移動量に合わせて電動ズームを実行します。
			移動量 中	32 - 63		
			移動量 小	64 - 95		
		無操作		96 - 159		
		(-)-レンズ調整	移動量 小	160 - 191		
			移動量 中	192 - 223		

チャネル	機能	動作	パラメーター	初期値	動作内容
		移動量 大	224 - 255		
8	電動フォーカス	(+)レンズ調整	移動量 大	0 - 31	指定した移動量に合わせて電動フォーカスを実行します。
			移動量 中	32 - 63	
			移動量 小	64 - 95	
		無操作		96 - 159	
		(-)レンズ調整	移動量 小	160 - 191	
			移動量 中	192 - 223	
			移動量 大	224 - 255	
		(+)レンズ調整	移動量 大	0 - 31	
			移動量 中	32 - 63	
			移動量 小	64 - 95	
9	電動ディストーション	無操作		96 - 159	指定した移動量に合わせて電動ディストーションを実行します。
		(-)レンズ調整	移動量 小	160 - 191	
			移動量 中	192 - 223	
			移動量 大	224 - 255	
		無操作		0 - 15	指定したレンズメモリー呼び出します。
		レンズメモリー1 呼出		16 - 31	
		レンズメモリー2 呼出		32 - 47	
		レンズメモリー3 呼出		48 - 63	
		レンズメモリー4 呼出		64 - 79	
		レンズメモリー5 呼出		80 - 95	
10	レンズメモリー呼出	レンズメモリー6 呼出		96 - 111	
		レンズメモリー7 呼出		112 - 127	
		レンズメモリー8 呼出		128 - 143	

チャンネル	機能	動作	パラメーター	初期値	動作内容
		レンズメモリー9呼出	144 - 159		
		レンズメモリー10呼出	160 - 175		
		無操作	176 - 255		
11	電源制御	電源オフ	0 - 63	128	電源をオン/オフします。
		無操作	64 - 191		
		電源オン	192 - 255		
12	幾何学補正	オフ	0 - 15	255	幾何学補正を実行します。 幾何学補正メモリーを呼び出します。
		タテヨコ(台形補正)	16 - 31		
		Quick Corner	32 - 47		
		ポイント補正	48 - 63		
		曲面投写補正	64 - 79		
		コーナー投写補正	80 - 95		
		幾何学補正メモリ1呼出	96 - 111		
		幾何学補正メモリ2呼出	112 - 127		
		幾何学補正メモリ3呼出	128 - 143		
		無操作	144 - 175		
		操作不可	0 - 127	0	Art-Netの操作を有効/無効にします。
		操作可能	128 - 255		



Art-Netで本機を制御しながらリモコンや操作パネルで本機を操作すると、DMXコントローラーやアプリケーションソフトでの操作が本機にうまく反映されないことがあります。すべてのチャンネルの制御を本機に反映するときは、チャンネル13を「操作不可」に設定し、再度「操作可能」に設定してください。

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。これらのオプション類は2016年7月現在のものです。予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

オプション

レンズユニット

**ELPLR05、ELPLU05、ELPLW07、ELPLM12、ELPLM13、ELPLM14、
ELPLL09、ELPLL10**

各レンズの投写距離は、以下を参照してください。

👉「スクリーンサイズと投写距離」[p.207](#)

コンピューターケーブル ELPKC02

(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用1.8m)

コンピューターケーブル ELPKC09

(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 3m)

コンピューターケーブル ELPKC10

(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 20m)

お使いのコンピューターケーブルが短いときに使う延長ケーブルです。

D端子ケーブル ELPKC22

(ミニD-Sub15pin D端子オス 3m)

ワイヤードリモコンケーブル ELPKC28

(10m、2本セット)

離れたところから確実にリモコンで操作したいときに使います。

ワイヤレスマウスレシーバー ELPST16

本機のリモコンでコンピューターのマウスポインターを操作したり、ページ送り/戻しの操作を行えます。

HDBaseTトランスマッター ELPHD01

HDMI信号や制御用信号をLANケーブル1本で長距離伝送するための、トランスマッターです。[HDBaseT](#)規格に準拠しています。(HDCP2.2には対応していません。)

無線LANユニット ELPAP10

本機とコンピューターを無線で接続して投写するときに使います。

ハンドル ELPMB49

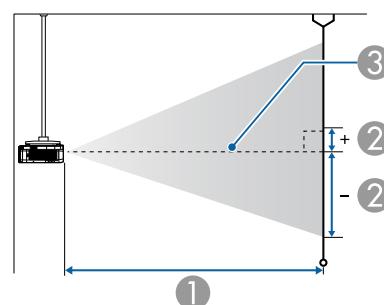
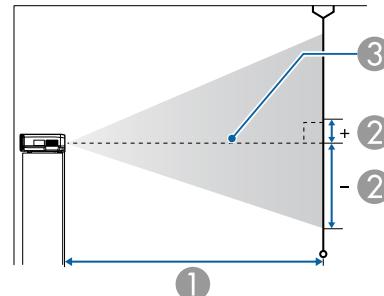
本機を持ち運ぶときや傾けて使うときに、本機に取り付けて使います。

消耗品

エアフィルター ELPAF52

使用済みエアフィルターと交換します。

投写距離表



① 投写距離

② は、レンズ中心から映像下端までの高さです。上下レンズシフトの設定により変わります。

③ レンズ中心

ELPLR05

単位：cm

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
90型	183x137	128～128	-92～-45
100型	203x152	143～143	-102～-50

4:3スクリーンサイズ	①	②
	最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
120型	244x183	174～174
150型	305x229	219～219
200型	406x305	296～296
250型	508x381	373～373
883型	1794x1346	1342～1342

16:9スクリーンサイズ	①	②
	最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	221x125	129～129
120型	266x149	157～157
150型	332x187	198～198
200型	443x249	268～268
250型	553x311	337～337
972型	2152x1210	1341～1341

16:10スクリーンサイズ	①	②
	最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	215x135	125～125
120型	258x162	152～152
150型	323x202	193～193
200型	431x269	260～260
250型	538x337	328～328

スクリーンサイズと投写距離

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
1000型	2154x1346	1342～1342	-904～-442

ELPLU05

単位：cm

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
90型	183x137	195～237	-144～+7
100型	203x152	217～264	-160～+8
120型	244x183	262～318	-192～+10
150型	305x229	329～399	-214～+12
200型	406x305	442～535	-321～+16
250型	508x381	554～670	-401～+20
883型	1794x1346	1976～2386	-1416～+70

単位：cm

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	221x125	196～239	-139～+14
120型	266x149	237～288	-166～+17
150型	332x187	298～362	-208～+21
200型	443x249	400～485	-277～+28
250型	553x311	502～608	-347～+35
972型	2152x1210	1975～2385	-1348～+137

単位：cm

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	215x135	191～232	-142～+7
120型	258x162	231～280	-170～+8
150型	323x202	290～352	-212～+11
200型	431x269	389～472	-283～+14
250型	538x337	488～591	-354～+18
1000型	2154x1346	1977～2387	-1416～+70

ELPLW07

単位：cm

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
90型	183x137	277～382	-158～+21
100型	203x152	309～425	-175～+23
120型	244x183	373～513	-211～+28
150型	305x229	469～643	-263～+35
200型	406x305	629～861	-351～+46
250型	508x381	788～1079	-439～+58
883型	1794x1346	2811～3838	-1549～+203

スクリーンサイズと投写距離

		単位：cm	
		①	②
16:9スクリーンサイズ		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	221x125	280～385	-152～+28
120型	266x149	338～464	-183～+33
150型	332x187	425～583	-229～+42
200型	443x249	570～781	-305～+56
250型	553x311	715～979	-381～+70
972型	2152x1210	2809～3836	-1481～+270

		単位：cm	
		①	②
16:10スクリーンサイズ		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	215x135	272～375	-155～+20
120型	258x162	328～452	-186～+24
150型	323x202	413～567	-232～+30
200型	431x269	554～760	-310～+41
250型	538x337	695～952	-387～+51
1000型	2154x1346	2812～3840	-1550～+203

ELPLM12

		単位：cm	
		①	②
4:3スクリーンサイズ		①	②
90型	183x137	375～509	-158～+21
100型	203x152	418～567	-175～+23
120型	244x183	504～683	-211～+28

4:3スクリーンサイズ		①	②
150型	305x229	634～857	-263～+35
200型	406x305	849～1146	-351～+46
250型	508x381	1065～1436	-439～+58
883型	1794x1346	3793～5102	-1549～+203

16:9スクリーンサイズ		①	②
100型	221x125	379～514	-152～+28
120型	266x149	457～619	-183～+33
150型	332x187	574～777	-229～+42
200型	443x249	770～1040	-305～+56
250型	553x311	965～1302	-381～+70
972型	2152x1210	3791～5099	-1481～+270

16:10スクリーンサイズ		①	②
100型	215x135	386～500	-155～+20
120型	258x162	444～602	-186～+24
150型	323x202	558～755	-232～+30
200型	431x269	749～1011	-310～+41
250型	538x337	939～1267	-387～+51
1000型	2154x1346	3794～5103	-1550～+203

スクリーンサイズと投写距離

ELPLM13

		単位：cm	
4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
90型	183x137	491～752	-158～+21
100型	203x152	548～838	-175～+23
120型	244x183	661～1009	-211～+28
150型	305x229	830～1265	-263～+35
200型	406x305	1113～1692	-351～+46
250型	508x381	1396～2118	-439～+58
883型	1794x1346	4973～7523	-1549～+203

		単位：cm	
16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	221x125	496～759	-152～+28
120型	266x149	598～914	-183～+33
150型	332x187	752～1147	-229～+42
200型	443x249	1009～1534	-305～+56
250型	553x311	1265～1922	-381～+70
972型	2152x1210	4970～7519	-1481～+270

		単位：cm	
16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	215x135	482～738	-155～+20

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
120型	258x162	582～889	-186～+24
150型	323x202	731～1115	-232～+30
200型	431x269	981～1492	-310～+41
250型	538x337	1231～1869	-387～+51
1000型	2154x1346	4975～7526	-1550～+203

ELPLM14

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
90型	183x137	749～1121	-158～+21
100型	203x152	832～1245	-175～+23
120型	244x183	998～1494	-211～+28
150型	305x229	1248～1868	-263～+35
200型	406x305	1664～2491	-351～+46
250型	508x381	2080～3113	-439～+58
883型	1794x1346	7347～10996	-1549～+203

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	221x125	755～1131	-152～+28
120型	266x149	907～1357	-183～+33

スクリーンサイズと投写距離

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
150型	332x187	1133～1696	-229～+42
200型	443x249	1511～2261	-305～+56
250型	553x311	1889～2826	-381～+70
972型	2152x1210	7343～10989	-1481～+270

単位：cm

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	215x135	735～1100	-155～+20
120型	258x162	882～1320	-186～+24
150型	323x202	1103～1650	-232～+30
200型	431x269	1470～2200	-310～+41
250型	538x337	1838～2750	-387～+51
1000型	2154x1346	7350～11000	-1550～+203

単位：cm

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
90型	183x137	1073～1602	-144～+7
100型	203x152	1187～1776	-160～+8
120型	244x183	1416～2122	-192～+10
150型	305x229	1759～2642	-241～+12

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
200型	406x305	2330～3508	-321～+16
250型	508x381	2902～4373	-401～+20
883型	1794x1346	10139～15337	-1416～+70

単位：cm

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	221x125	1082～1616	-139～+14
120型	266x149	1289～1931	-166～+17
150型	332x187	1601～2402	-208～+21
200型	443x249	2120～3188	-277～+28
250型	553x311	2639～3975	-347～+35
972型	2152x1210	10133～15327	-1348～+137

単位：cm

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	215x135	1054～1574	-142～+7
120型	258x162	1256～1879	-170～+8
150型	323x202	1559～2338	-212～+11
200型	431x269	2064～3103	-283～+14
250型	538x337	2569～3868	-354～+18
1000型	2154x1346	10142～15342	-1416～+70

ELPLL09

スクリーンサイズと投写距離

ELPLL10

		単位：cm	
4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
90型	183x137	1561～2326	-144～+7
100型	203x152	1727～2577	-160～+8
120型	244x183	2058～3079	-192～+10
150型	305x229	2555～3831	-241～+12
200型	406x305	3383～5085	-321～+16
250型	508x381	4211～6339	-401～+20
883型	1794x1346	14695～22217	-1416～+70

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
120型	258x162	1826～2727	-170～+8
150型	323x202	2265～3392	-212～+11
200型	431x269	2997～4500	-283～+14
250型	538x337	3728～5608	-354～+18
1000型	2154x1346	14701～22225	-1416～+70

		単位：cm	
16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	221x125	1574～2346	-139～+14
120型	266x149	1875～2801	-166～+17
150型	332x187	2326～3485	-208～+21
200型	443x249	3078～4623	-277～+28
250型	553x311	3830～5762	-347～+35
972型	2152x1210	14687～22204	-1348～+137

		単位：cm	
16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～ 最長(テレ)	上下レンズシフト 最上～最下
100型	215x135	1533～2284	-142～+7

タテヨコ補正

☛ 「タテヨコ補正」 p.55

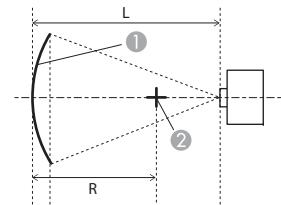
レンズ種類	垂直方向	水平方向
ELPLR05	-35°～35°	-30°～30°
ELPLU05	-39°～39°	-30°～30°
ELPLW07	-42°～42°	-30°～30°
ELPLM12	-45°～45°	-30°～30°
ELPLM13	-45°～45°	-30°～30°
ELPLM14	-45°～45°	-30°～30°
ELPLL09	-45°～45°	-30°～30°
ELPLL10	-45°～45°	-30°～30°

曲面投写補正

☛ 「曲面投写補正」 p.57

表内の数値は、図中のR/Lの最小値です。（ズーム最大で投写したときの、およその値です。）

水平曲面(凹面)

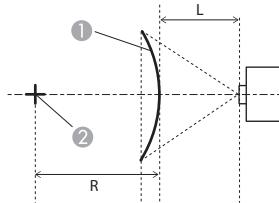


真上から見た図

- ① スクリーン
- ② 曲面を描く円の中心
- L 投写距離
- R 曲面を描く円の半径

レンズ種類	上下レンズシフト：ホームポジション	上下レンズシフト：最上
	横から見た図	横から見た図
ELPLR05	0.47	0.47
ELPLU05	0.38	0.39
ELPLW07	0.31	0.32
ELPLM12	0.25	0.26
ELPLM13	0.20	0.21
ELPLM14	0.15	0.15
ELPLL09	0.11	0.11
ELPLL10	0.08	0.08

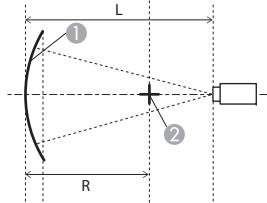
水平曲面(凸面)



真上から見た図

- ① スクリーン
 ② 曲面を描く円の中心
 L 投写距離
 R 曲面を描く円の半径

垂直曲面(凹面)



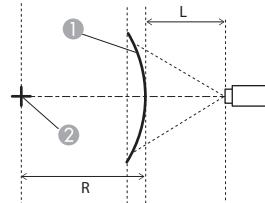
横から見た図

- ① スクリーン
 ② 曲面を描く円の中心
 L 投写距離
 R 曲面を描く円の半径

レンズ種類	上下レンズシフト：ホームポジション	上下レンズシフト：最上
	横から見た図	横から見た図
ELPLR05	2.63	2.64
ELPLU05	1.24	1.28
ELPLW07	0.71	0.75
ELPLM12	0.45	0.48
ELPLM13	0.32	0.33
ELPLM14	0.19	0.20
ELPLL09	0.14	0.14
ELPLL10	0.10	0.10

レンズ種類	上下レンズシフト：ホームポジション	上下レンズシフト：最上
	横から見た図	横から見た図
ELPLR05	0.38	0.39
ELPLU05	0.30	0.37
ELPLW07	0.23	0.28
ELPLM12	0.18	0.21
ELPLM13	0.14	0.16
ELPLM14	0.11	0.11
ELPLL09	0.08	0.09
ELPLL10	0.07	0.07

垂直曲面(凸面)



- ① スクリーン
 ② 曲面を描く円の中心
 L 投写距離
 R 曲面を描く円の半径

横から見た図

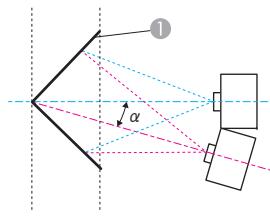
レンズ種類	上下レンズシフト：ホームポジション	上下レンズシフト：最上
ELPLR05	1.24	1.26
ELPLU05	0.63	0.73
ELPLW07	0.37	0.44
ELPLM12	0.24	0.29
ELPLM13	0.17	0.20
ELPLM14	0.12	0.13
ELPLL09	0.09	0.09
ELPLL10	0.06	0.07

コーナー投写補正

☞ 「コーナー投写補正」 p.61

図中の α は本機を移動できる最大角度です。詳細な数値は下表をご覧ください。(ズーム最大で投写したときの、およその値です。)

凹面水平コーナーの補正(角を中心線にして左右対称になるよう補正)

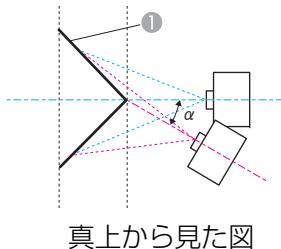


- ① スクリーン
 α 本機の移動可能角度

真上から見た図

レンズ種類	上下レンズシフト：ホームポジション	上下レンズシフト：最上
ELPLR05	28°	24°
ELPLU05	32°	19°
ELPLW07	32°	22°
ELPLM12	31°	26°
ELPLM13	31°	30°
ELPLM14	30°	29°
ELPLL09	29°	29°
ELPLL10	28°	28°

凸面水平コーナーの補正(角を中心線にして左右対称になるよう補正)

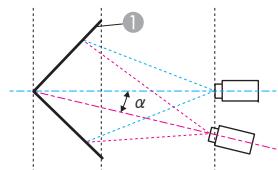


① スクリーン

α 本機の移動可能角度

真上から見た図

凹面垂直コーナーの補正(角を中心線にして上下対称になるよう補正)



① スクリーン

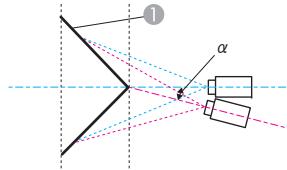
α 本機の移動可能角度

横から見た図

レンズ種類	上下レンズシフト：ホームポジション	上下レンズシフト：最上
	横から見た図	横から見た図
ELPLR05	-	-
ELPLU05	7°	6°
ELPLW07	13°	12°
ELPLM12	17°	16°
ELPLM13	19°	19°
ELPLM14	23°	23°
ELPLL09	24°	24°
ELPLL10	26°	26°

レンズ種類	上下レンズシフト：ホームポジション	上下レンズシフト：最上
	横から見た図	横から見た図
ELPLR05	33°	24°
ELPLU05	32°	11°
ELPLW07	31°	13°
ELPLM12	28°	14°
ELPLM13	26°	15°
ELPLM14	24°	18°
ELPLL09	23°	20°
ELPLL10	23°	21°

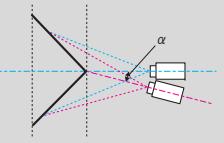
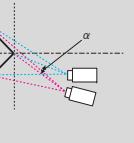
凸面垂直コーナーの補正(角を中心線にして上下対称になるよう補正)



① スクリーン

α 本機の移動可能角度

横から見た図

レンズ種類	上下レンズシフト： ホームポジション	上下レンズシフト：最 上
	 横から見た図	 横から見た図
ELPLR05	8°	2°
ELPLU05	15°	-
ELPLW07	18°	3°
ELPLM12	21°	9°
ELPLM13	22°	13°
ELPLM14	22°	16°
ELPLL09	22°	19°
ELPLL10	22°	20°

対応解像度

プロジェクターのパネル解像度より大きな解像度の信号を入力したときは、画質が劣化する場合があります。

コンピューター映像(アナログRGB)

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60/72/75/85	640x480
SVGA	60/72/75/85	800x600
XGA	60/70/75/85	1024x768
WXGA	60	1280x768
	60	1366x768
	60/75/85	1280x800
WXGA+	60/75/85	1440x900
WXGA++	60	1600x900
SXGA	70/75/85	1152x864
	60/75/85	1280x1024
	60/75/85	1280x960
SXGA+	60/75	1400x1050
WSXGA+※1	60	1680x1050
UXGA	60	1600x1200
WUXGA※2	60	1920x1200

※1 環境設定メニューの[入力解像度]で[ワイド]を選択しているときに限り対応します。

※2 VESA CVT-RB (Reduced Blanking) 信号のみ対応。

上記以外の信号が入力された場合でも、映像を投写できることがあります。ただし、この場合、機能が制限されることがあります。

コンポーネントビデオ

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
SDTV(480i)	60	720x480
SDTV(576i)	50	720x576
SDTV(480p)	60	720x480
SDTV(576p)	50	720x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080
HDTV(1080p)	50/60	1920x1080

DVI-D入力端子、HDMI入力端子、HDBaseT端子からの入力信号

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60	640x480
SVGA	60	800x600
XGA	60	1024x768
WXGA	60	1280x800
	60	1366x768
WXGA+	60	1440x900
WXGA++	60	1600x900
WSXGA+	60	1680x1050
SXGA	60	1280x960
	60	1280x1024
SXGA+	60	1400x1050
UXGA	60	1600x1200
WUXGA※1	60	1920x1200
QXGA※2	60	2048x1536

対応解像度一覧

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
WQHD※2	60	2560x1440
WQXGA※1、2	60	2560x1600
SDTV(480i/480p)	60	720x480
SDTV(576i/576p)	50	720x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080
HDTV(1080p)	24/30/50/60	1920x1080
4Kx2K※2	24/25/30	3840x2160
4Kx2K※2※3	50/60	3840x2160
4Kx2K(SMPTE)※2	24	4096x2160
4Kx2K(SMPTE)※2※3	50/60	4096x2160

※1 VESA CVT-RB (Reduced Blanking) 信号のみ対応。

※2 HDMI、HDBaseT入力のみ対応。

※3 YPbPr 4:2:0信号のみ対応。

SDI入力端子からの入力信号

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)	モード	色差信号	ビット数	レベル
SDTV(480i)	59.94	720x480	SD-SDI	YPbPr 4:2:2	10ビット	-
SDTV(576i)	50	720x576				
HDTV(720p)	50/59.94/60	1280x720	HD-SDI			A
HDTV(1080i)	50/59.94/60	1920x1080				
HDTV(1080p)	23.98/24/2 5/29.97/30	1920x1080	3G-SDI	RGB 4:4:4		
HDTV(1080p)	50/59.94/60	1920x1080				
HDTV(1080p)	23.98/24/2 5/29.97/30	1920x1080				
HDTV(1080i)	50/59.94/60	1920x1080				

本機仕様

商品名	EB-L25000U	
外形サイズ	幅790x高さ299x奥行き710mm(突起部含まず)	
液晶パネルサイズ	1.43型ワイド	
表示方式	ポリシリコンTFT アクティブマトリクス	
画素数	2,304,000個 WUXGA(横1920x縦1200 ドット)x3	
フォーカス調整	電動	
ズーム調整	電動(1-1.35x)※1	
レンズシフト	電動(上下方向最大約65%、左右方向最大約30%)※2	
光源	レーザーダイオード	
光源出力	1,670W	
波長	450-460nm	
光源寿命※3	約20,000時間(光源モード：ノーマル、静音) 約30,000時間(光源モード：ロング)	
電源	200-240V AC±10% 50/60Hz 12.3A	
消費電力	200-240V	定格消費電力：2,160W 待機時消費電力(通信オン)：2.5W 待機時消費電力(通信オフ)：0.39W
動作高度	標高 0~3,048m	
動作温度範囲	0~+50°C※4(標高0m~1,500m、結露しないこと) 0~+45°C※4(標高1,501m~3,048m、結露しないこと)	
保存温度範囲	-10~+60°C(結露しないこと)	

質量	約66kg(ハンドル含まず)
----	----------------

※1 ELPLM12を装着しているときの仕様です。

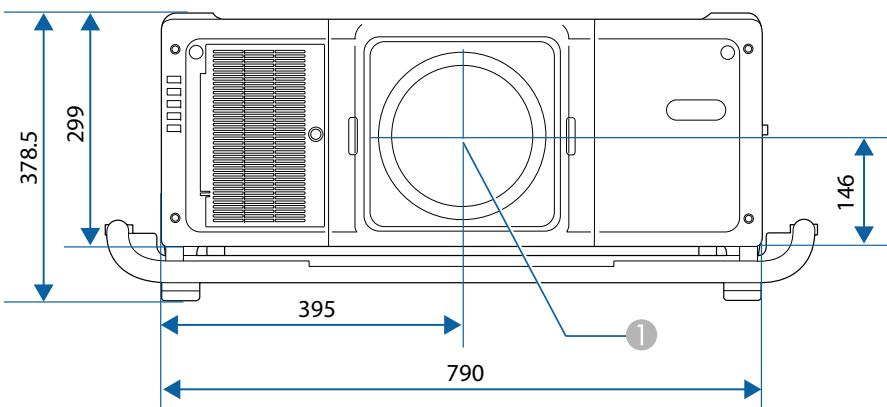
※2 ELPLU05/ELPLL09/ELPLL10は上下方向最大約55%、左右方向最大約25%、ELPLR05は上下方向最大約15%、左右方向最大約5%

※3 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。

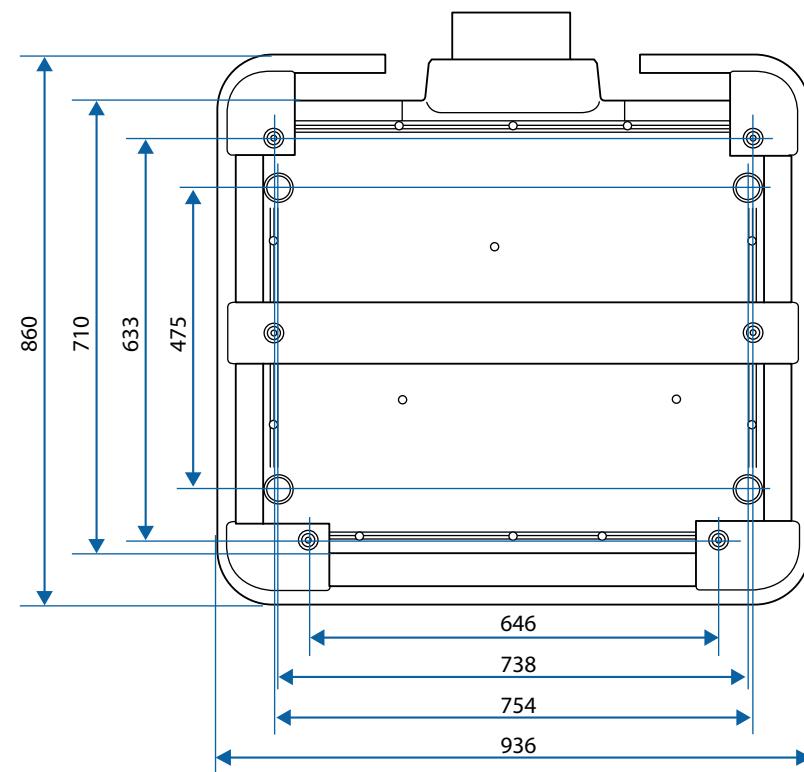
※4 使用する環境の温度が高くなったときは、徐々に光源の明るさを落とします。

(標高0~1,500mでは約40°C、標高1,501m~3,048mでは約35°Cを目安としますが、使用環境等によって異なります。)

動作温度範囲を超えると、本機の電源が自動的にオフになることがあります。



① レンズ中心



単位：mm

本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。 詳細は市販の書籍などでご確認ください。

AMX Device Discovery	AMX Device Discoveryとは、AMX社のコントロールシステムとその対象機器の構成を容易にする、AMX社の提唱する技術です。エプソンでは、その技術のプロトコルを導入して、そのプロトコル機能を有効(ON)にできる設定を用意しました。 詳細に関しては、AMX社のWebサイトを参照してください。 URL : http://www.amx.com/
Control4 Simple Device Discovery Protocol (SDDP)	Control4 SDDPとは、Control4社の制御機器からプロジェクトの機器情報を取得する、Control4社の提唱する技術です。エプソンでは、その技術のプロトコルを導入して、そのプロトコル機能を有効(ON)にできる設定を用意しました。 詳細に関しては、Control4社のWebサイトを参照してください。 URL : http://www.control4.com/
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略で、ネットワークに接続する機器に、IPアドレス▶を自動的に割り当てるプロトコルのことです。
DICOM	Digital Imaging and Communications in Medicineの略称です。医用画像の画像規格および通信プロトコルを定義した世界標準規格です。
HDBaseT	HDBaseT Alliance で策定された家電製品向けの接続規格です。無圧縮のHD動画や音声、100BASE-TXイーサーネット、などのさまざまな制御信号をLANケーブルで通信できます。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略でDVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。HDCP2.2は4Kコンテンツの著作権保護規格です。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 • 垂直解像度720p、1080i以上(pはプログレッシブ▶走査、iはインターレース▶走査) • 画面のアスペクト比▶は16:9
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピューターを識別するための数字のことです。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTV▶の条件を満たさない標準テレビ放送のことです。
SNMP	Simple Network Management Protocolの略で、TCP/IPネットワークにおいてルーターやコンピューター、端末などネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピューターのオペレーティングシステム(OS)やインターネットで簡単に扱うために規定された色空間に関する国際標準です。接続している機器にsRGBモードがある場合、本機と接続機器の両方ともsRGBに設定します。
アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。横：縦の比率が16：9の、HDTVなどの画面をワイド画面といいます。SDTVや、一般的なコンピューターのディスプレイのアスペクト比は4：3です。
インターレース	1つの画面を作り出す情報を上から下へ1つ飛ばしに伝送します。1フレームの表示が1ラインおきとなるため、ちらつき(フリッカー)が出やすくなります。

インフラストラクチャー モード	無線LANの通信方式の一つで、各機器がアクセスポイントを経由して通信を行います。
ゲートウェイアドレス	サブネットマスク▶によって分割したネットワーク(サブネット)を超えて通信するためのサーバー(ルーター)のことです。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がハッキリ見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
コンポーネントビデオ	映像信号を、輝度信号(Y)や青色差信号(CbまたはPb)と赤色差信号(CrまたはPr)に分離して伝送する方式です。
サブネットマスク	IPアドレスから、分割したネットワーク(サブネット)のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。
同期	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の位相(山のずれ)を合わせることを同期を合わせるといいます。同期が合っていないと映像にちらつき、ぼやけ、横方向のノイズが出ます。
トラッキング	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数に本機の周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の周波数(山の数)を合わせることをトラッキングを合わせるといいます。トラッキングが合っていないと映像に幅広の縦の縞模様が出ます。
トラップIPアドレス	SNMPで異常を通知する場合の、通知先のコンピューターのIPアドレス▶のことです。
プログレッシブ	1つの画面を作り出す情報を一度で映し出して1フレーム分の映像を表示します。そのため走査線の本数が同じでもインターレースと比べて時間あたりの情報量が2倍になるためちらつきが少ない映像になります。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ(Hz)で表します。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源コードは販売国のお仕様に基づき同梱されています。本機を販売国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

表記について

Microsoft® Windows® 2000 operating system
Microsoft® Windows® XP operating system
Microsoft® Windows Vista® operating system
Microsoft® Windows® 7 operating system
Microsoft® Windows® 8 operating system
Microsoft® Windows® 8.1 operating system
Microsoft® Windows® 10 operating system

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Windows 2000」、「Windows XP」、「Windows Vista」、「Windows 7」、「Windows 8」、「Windows 8.1」、「Windows 10」と表記しています。また、これらを総称する場合はWindows、複数のWindowsを併記する場合はWindows 2000/XP/Vista/7/8/8.1/10のように、Windowsの表記を省略することができます。

Mac OS X 10.3.x
Mac OS X 10.4.x
Mac OS X 10.5.x
Mac OS X 10.6.x
OS X 10.7.x
OS X 10.8.x
OS X 10.9.x
OS X 10.10.x
OS X 10.11.x

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Mac OS X 10.3.x」、「Mac OS X 10.4.x」、「Mac OS X 10.5.x」、「Mac OS X 10.6.x」、「OS X 10.7.x」、「OS X 10.8.x」、「OS X 10.9.x」、「OS X 10.10.x」、「OS X 10.11.x」と表記しています。またこれらを総称する場合は「OS X」と表記します。

Extron® and XTP® are registered trademarks of Extron Electronics.
HDBaseT™ and the HDBaseT Alliance logo are trademarks of the HDBaseT Alliance.
なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

©SEIKO EPSON CORPORATION 2016. All rights reserved.

商標と著作権について

「EPSON」はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。「EXCEED YOURVISION」、「ELPLP」はセイコーエプソン株式会社の登録商標または商標です。

Mac、Mac OS、OS Xは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista、PowerPoint、Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

HDMIとHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing LLCの商標、または登録商標です。  HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

PJLinkは、日本、米国、その他の国や地域における商標または登録商標です。

WPA™、WPA2™はWi-Fi Allianceの登録商標です。

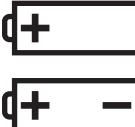
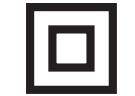
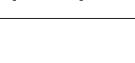
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

CrestronおよびCrestron RoomViewは、Crestron Electronics, Inc.の登録商標です。

Art-Net™ Designed by and Copyright Artistic Licence Holdings Ltd.

製品上に以下のシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	意味
①		IEC60417 No.5007	電源 ON 電源への接続を示す。
②	○	IEC60417 No.5008	電源 OFF 電源からの切り離しを示す。
③	○□	IEC60417 No.5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
④	!	ISO7000 No.0434B IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
⑤	高温	IEC60417 No.5041	注意(高温) 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
⑥	感電危険	IEC60417 No.6042 ISO3864-B3.6	注意(感電危険) 感電(電撃)の危険性がある機器・装置であることを示す。
⑦	屋内	IEC60417 No.5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。
⑧	△○□	IEC60417 No.5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラス及びマイナス電極の接続を示す。
⑨	电池	IEC60417 No.5001B	電池(一般) 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	意味
⑩		IEC60417 No.5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内の向きを示す。
⑪		IEC60417 No.5019	保護接地 障害発生時の電撃(感電)保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⑫		IEC60417 No.5017	アース No.11の使用が明示的に要請されない場合の接地(アース)端子であることを示す。
⑬		IEC60417 No.5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。
⑭		IEC60417 No.5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
⑮		IEC60417 No.5172	クラス II 機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラス II 機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
⑯		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
⑰		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
⑲		---	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
⑳		---	プロジェクターの上に物を置いてはならないことを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	意味
⑯		ISO3864 IEC60825-1	注意(レーザー放射) 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
⑰		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
⑱		---	照明用LED点灯中のレンズ覗きこみ禁止を示す。
⑲		IEC60417 No.5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
⑳		ISO3864 IEC60417 No.5057	注意(可動部品) 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。

数字・アルファベット

- 2画面 122
 2画面設定 97
 A/V出力設定 126
 AMX Device Discovery 135
 Art-Net 135, 202
 Auto 17
 BNC同期終端 125
 BNC入力端子 15
 Computer入力端子 15
 Control4 SDDP 135
 Crestron RoomView 135, 197
 DHCP 131, 133
 DICOM SIM 66
 EasyMP Monitor 189
 Epson Web Control 189
 Esc 17
 ESC/VP21 195
 Event ID 137
 Extron XTP 126
 Filterインジケーター 148
 Focus 17
 Geometry 17
 HDBaseT信号品質 137
 HDBaseT設定 126
 HDBaseT端子 16
 HDMI入力端子 16
 IPアドレス 131, 133
 Lens Shift 17
 Menu 17
 Message Broadcasting 135, 189
 Monitor Out端子 15
 PJLink 197

- PJLink/パスワード 129
 Quick Corner 122
 Remote端子 16
 RoomView 198
 RS-232C端子 15
 Shutter 17
 SMTPサーバー 134
 SNMP 195
 sRGB 66
 Test Pattern 17
 Zoom 17

ア

- 明るさ 119
 アクセスポイント検索 132
 アスペクト 70, 120
 一括設定機能 138
 色合い 119
 色の濃さ 119
 インジケーター 148
 Web制御パスワード 130
 Webブラウザー 189
 エアフィルター・吸気口の掃除 176
 エアフィルター清掃通知 124
 エアフィルターの交換時期 180
 エアフィルターの交換方法 180
 映像メニュー 120
 液晶アライメント 124
 エッジブレンディング 85, 127
 オーバースキャン 121
 オーバーヒート 150
 オプション品 206

カ

- 解像度 218
 拡張設定メニュー 123
 確認音 125
 各部の名称と働き 13
 画質調整メニュー 118
 画面サイズ 98
 カラー調整 119
 カラーモード 66, 119
 環境設定メニュー 115
 幾何学歪み補正 122
 基本設定メニュー 129
 黒レベル調整 127
 ゲートウェイアドレス 131, 133
 言語 127
 高地モード 125
 コーナー投写補正 61
 コントラスト 119

サ

- サブネットマスク 131, 133
 左右画面入替 98
 自動調整 121
 シネマ 66
 シャープネス 119
 シャッター 99
 仕様一覧 220
 状態インジケーター 14
 情報メニュー 136
 消耗品 206
 初期化メニュー 137
 シリアル番号 137
 スクリーンサイズ 207

スクリーン設定 27, 124
 スケジュール 104
 スケジュール設定画面へ 127
 スタートアップスクリーン 124
 ステータス 136
 ステータスモニター 17, 154
 静止 100
 設置条件 26
 設置設定 26
 設置モード 124
 設定メニュー 122
 全初期化 137
 全ロック 110
 操作パネル 16
 掃除 176
 ソフトキーボード 129

タ

対応解像度 218
 待機モード 126
 ダイナミック 66
 ダイナミックコントラスト 119
 ダイレクトパワーオン 125
 タテヨコ補正 122
 通知メールアドレス1/2/3 134
 テストパターン 28, 123
 電源端子 15
 電源投入時 108
 電池の交換方法 20
 天吊り 124
 問い合わせコード 110
 同期 120
 同期情報 136

動作温度範囲 220
 動作設定 125
 投写距離 207
 投写レンズ 24
 トランкиング 120
 トランップIPアドレス1/2 134

ナ

入力解像度 120, 136
 入力切り替え 17
 入力検出 52
 入力信号 136
 入力ソース 97, 136
 ネットワーク情報 128
 ネットワーク設定画面 128
 ネットワークメニュー 127

ハ

排気口 14
 背景表示 124
 パスワードプロジェクト 108
 日付&時刻 125
 表示位置 120
 表示設定 124
 表示倍率 121, 127
 フット 15
 プрезентーション 66
 プロジェクター 49, 51
 プロジェクターID 36
 プロジェクターキーワード 130
 プロジェクターナー名 129
 フロント 124
 ヘルプ機能 147

ポート番号 134
 保存温度範囲 220
 ホワイトバランス 119
 本機の掃除 176

マ

マルチプロジェクション 66, 127
 マルチプロジェクション機能 81
 無線LANメニュー 130
 メール通知機能 134, 194
 メールの見方 194
 メッセージ表示 124
 メニュー 115
 メモリー 123
 メモリー初期化 137

ヤ

ユーザーボタン 123
 ユーザーロゴ 100
 ユーザーロゴ保護 108
 有線LANメニュー 133
 優先ゲートウェイ 135
 ユニフォーミティー 124, 126

ラ

リア 124
 リフレッシュレート 136
 リモコン 18
 リモコンID 37
 リモコン受光部 13
 リモコンボタンロック 111
 レンズ交換カバー 24
 レンズシフト 29

レンズ操作ロック 111